

福岡県立大学中期計画に関わる  
自己点検・評価報告書

平成 23 年 6 月  
公立大学法人福岡県立大学

# 目次

I. 大学の概要、組織図

II. 全体的な状況

III. 項目別の自己点検・評価

1 教育

2 研究

3 社会貢献

4 業務運営

5 財務

6 評価

7 情報公開

8 項目別予算・決算

IV. 教育・研究・社会貢献活動

V. 学生による授業評価

## 法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律名	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。</p> <p>また、大学の運営については、公的資金を基盤にしていることを念頭に置き、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を定め、主体的、自律的な大学運営に取り組むことが必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教 育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。 ・特色ある教育の展開、教員の教育能力の向上、優秀な学生の確保・育成、就職支援の充実</li> <li>2 研 究:大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。</li> <li>3 社会貢献:大学が保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。</li> <li>4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。</li> <li>5 財 務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</li> <li>6 評 価:評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。</li> <li>7 情報公開:情報公開を積極的に推進する。</li> </ol>
法人の業務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福岡県立大学を設置し、これを運営する。</li> <li>2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。</li> <li>3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。</li> <li>4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。</li> <li>5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。</li> <li>6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。</li> </ol>

2. 組織・人員情報			
(1)役員			
役員の定数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。 また、役員の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。			
役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	名和田 新	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和41年 3月 九州大学医学部卒業 昭和48年 4月 九州大学医学部附属病院助手 昭和51年 3月 医学博士 昭和63年 1月 九州大学医学部第三内科教授 平成11年 4月 九州大学大学院医学系研究科病態制御内科学教授 平成14年 4月 九州大学医学部附属病院長 平成15年10月 九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院長 平成17年 4月 九州大学大学院医学研究院特任教授 九州大学名誉教授 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学 理事長
副理事長	田 中 豊 司	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和52年4月 福岡銀行入社 平成18年6月 福岡銀行 地域金融部長(執行役員) 平成19年6月 福岡銀行 筑豊地区本部長(執行役員) 平成20年4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	武 田 清 一	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和43年5月 福岡県採用 平成 4年4月 財政課理財係長 平成 8年4月 出納・総務課長補佐 平成15年4月 教育庁財務課長 平成18年4月 私学振興課長 平成20年4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	麻 生 泰	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和50年 5月 麻生セメント(株)監査役 昭和52年 6月 麻生セメント(株)専務取締役 昭和54年12月 麻生セメント(株)取締役社長 昭和56年 4月 (社)経済団体連合会理事 昭和59年 4月 (社)セメント協会副会長 平成 2年 4月 (社)経済団体連合会評議員 平成 4年 6月 麻生商事(株)取締役会長 平成 8年12月 飯塚商工会議所会頭 平成11年 1月 慶應義塾監事 平成13年 8月 新・麻生セメント(株)代表取締役社長 平成16年 6月 麻生ラファージュセメント(株)代表取締役社長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成22年 6月 (株)麻生 代表取締役会長

理事(学外)	芳 賀 晟 壽	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成 5年 2月 NHK九州地方番組審議会委員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長
理事(学内)	鬼 崎 信 好	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和52年 7月 西九州大学家政学部講師 昭和56年10月 西九州大学家政学部助教授 昭和61年 4月 中村学園大学家政学部助教授 平成 元年 4月 福岡県社会保育短期大学助教授 平成 4年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学人間社会学部教授 平成20年 4月 " 兼人間社会学部長
理事(学内)	安 酸 史 子	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和53年 4月 自衛隊中央病院 病棟看護師 昭和62年 4月 順天堂大学病院浦安分院 病棟看護師 平成 2年 4月 東京女子医科大学看護短期大学助手 平成 5年 4月 岡山県立大学保健福祉学部助教授 平成10年 4月 " 教授 平成12年 4月 岡山大学医学部保健学科教授 平成15年 4月 福岡県立大学看護学部教授兼看護学部長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学看護学部教授 兼看護学部長
監事	小 宮 学	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和60年4月 弁護士開業 平成18年4月 公立大学法人福岡県立大学監事 平成20年9月 小宮法律事務所
監事	本 田 征 洋	H22年4月1日～H24年3月31日	昭和44年9月 昭和監査法人入所 昭和53年7月 監査法人中央会計事務所入所 昭和54年4月 公認会計士・税理士本田征洋事務所開業 平成18年4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員								
			H18	H19	H20	H21	H22	H23
教員数	常勤(正規)		110人	104人	106人	105人	109人	
	内訳	教授	30人	29人	28人	31人	30人	
		助教授	33人	—	—	—	—	
		准教授	—	30人	31人	30人	31人	
		講師	15人	14人	16人	16人	19人	
		助教	—	—	—	6人	12人	
		助手	32人	31人	31人	22人	17人	
	非常勤講師		42人	94人	87人	65人	105人	
	合計		152人	198人	193人	170人	214人	
教員数増減の主な理由								
常勤(正規)教員の増は、退職教員の欠員補充によるものです。 非常勤講師数の増は、大学院看護学研究科において前年度は「がん看護専門看護師コース」の入学者がいなかったことにより、非常勤講師が担当する科目を開講しなかったが、平成22年度は入学者が入ったことにより、非常勤講師が担当する科目を開講したこと、及び平成22年度から精神専門看護師コースを新設したことにより非常勤講師が担当する科目を開講したことによるものです。								

(3)職員								
			H18	H19	H20	H21	H22	H23
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	
	正規職員	県派遣	23人	23人	21人	21人	20人	
		プロパー	0人	0人	0人	0人	0人	
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	
		計	23人	23人	21人	21人	20人	
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時		3人	5人	6人	7人	8人	
	合計		27人	29人	28人	29人	29人	
職員数増減の主な理由								
県派遣職員の1人減は、 <b>労務職員(用務員)の定年退職を不補充としたことによるものです。</b> 非常勤職員の1人増は、教員免許状更新講習の事務に必要な非常勤職員を任用したことによるものです。								

(4)大学の組織構成												
別紙のとおり												
3. 学生に関する情報												
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率	定員充足率の推移 (%)							
				(b)/(a) × 100	H18	H19	H20	H21	H22	H23		
人間社会学部	計	630人	737人	117%	115	114	115	117	117			
内訳	人間社会学部	600人	698人	116%	115	115	116	117	116			
	公共社会学科	200人	231人	116%	114	112	113	113	116			
	社会福祉学科	200人	231人	116%	117	118	120	119	116			
	人間形成学科	200人	236人	118%	115	114	117	119	118			
	大学院 人間社会学研究科	30人	39人	130%	113	97	97	110	130			
看護学部	計	384人	393人	102%	98	96	99	102	102			
内訳	看護学部	360人	373人	104%	98	100	99	102	104			
	看護学科	360人	373人	104%	98	100	99	102	104			
	大学院 看護学研究科	24人	20人	83%	—	42	92	108	83			
※大学院は、平成18年11月認可、平成19年4月開設												
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由												
看護学部の定員充足率が100%を超えている理由は、一般入試の入学辞退者が見込みを下回ったこと及び、留年者によるものです。 大学院看護学研究科の定員充足率が90%を下回っている理由は、入学志願者が少なかったことによるものです。												

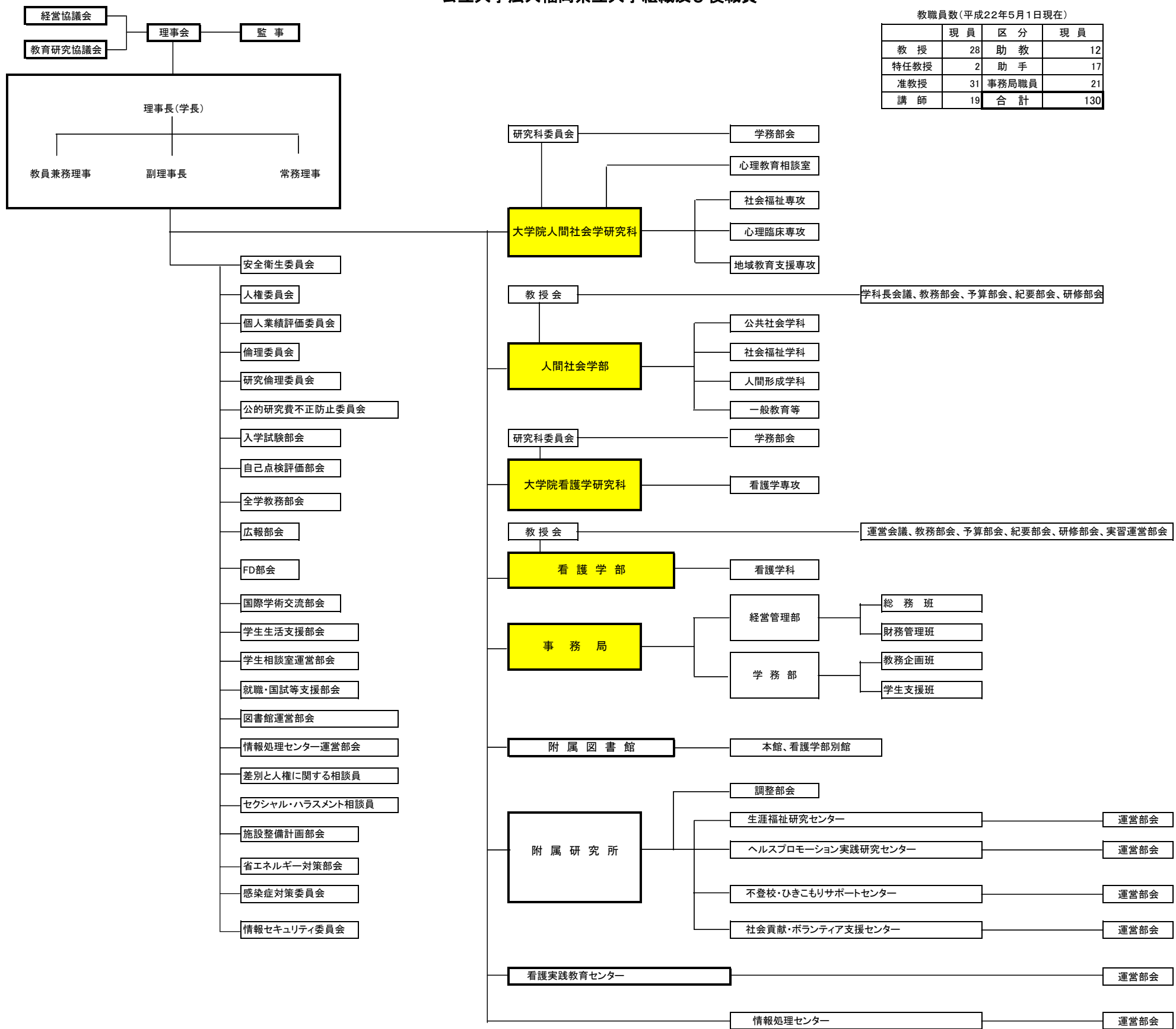


4. 審議機関情報				
(1)経営協議会				
区分	氏名	任期	現職	
理事長	名 和 田 新	H22年4月1日～H24年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長	
副理事長	田 中 豊 司	H22年4月1日～H24年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長	
学外委員	秋 吉 一 明	H22年4月1日～H24年3月31日	秋吉整形外科医院 院長	
	井 浦 順 二	H22年4月1日～H24年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長	
	伊 藤 信 勝	H22年4月1日～H24年3月31日	田川市長	
	北 原 守	H22年4月1日～H24年3月31日	社会福祉法人北九州市手をつなぐ 育成会 理事長	
	齋 藤 明	H22年4月1日～H24年3月31日	独立行政法人大学入試センター 監事	
	佐 渡 文 夫	H22年4月1日～H24年3月31日	田川商工会議所 会頭	
	本 村 道 生	H22年4月1日～H24年3月31日	コゲツ産業株式会社 代表取締役社長	
吉 村 恭 幸	H22年4月1日～H24年3月31日	(財)福岡県社会保険医療協会 会長		
(2)教育研究協議会				
区分	氏名	任期	現職	
学長(理事長)	名 和 田 新	H22年4月1日～H24年3月31日	理事長	
学部長	森 山 沾 一	H22年4月1日～H24年3月31日	人間社会学部長	
	佐 藤 香 代	H22年4月1日～H24年3月31日	看護学部長	
学内組織の長	古 橋 啓 介	H22年4月1日～H24年3月31日	附属図書館長	
	松 浦 賢 長	H22年4月1日～H24年3月31日	附属研究所長	
	久 永 明	H22年4月1日～H24年3月31日	生涯福祉研究センター長	
	尾 形 由紀子	H22年4月1日～H24年3月31日	ヘルスプロモーション実践研究センター長	
	門 田 光 司	H22年4月1日～H24年3月31日	不登校・ひきこもりサポートセンター長	
	小 松 啓 子	H22年4月1日～H24年3月31日	社会貢献・ボランティア支援センター長	
	田 中 哲 也	H22年4月1日～H24年3月31日	情報処理センター長	

※教員数・職員数・学生数は、平成22年5月1日現在である。



公立大学法人福岡県立大学組織及び役職員



教職員数(平成22年5月1日現在)

	現 員	区 分	現 員
教 授	28	助 教	12
特任教授	2	助 手	17
准教授	31	事務局職員	21
講 師	19	合 計	130

## 項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 1 教育	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部との連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の個人業績評価制度と任期制を導入し、教育能力の向上と教育活動の活性化を図る。個人業績の評価は授業活動を中心として行い、その結果を人事や給与に反映させ、教員の職務へのインセンティブの付与を図る。</p> <p>(3) 優秀な学生の確保・育成 大学が求める優秀な学生を確保するため、高校訪問、出前講義、オープンキャンパスなどの広報活動を充実させ、高校生等に福岡県立大学の魅力を広く伝える。また、特待生制度の導入、入試方法の見直し、厳格な成績評価の実施などにより、優秀な学生を選抜し、育成する。 シラバスに、各科目の到達目標と成績評価基準を明確に示して学生の目標設定を容易にし、学生の学習意欲を高め、自主的な学習を促す。</p> <p>(4) 就職支援の充実 就職を希望する学生を支援するため、独自に企画したインターンシップの実施をはじめ、就職先開拓や求人情報の提供など、教職員が一体となって就職支援の充実を図る。 また、在学生だけでなく、卒後の未就職者に対しても支援を実施する。</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等
項目	実施事項	平成22年度計画	中期 年度	
<b>1 教養教育の充実</b>  公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。	<b>1【カリキュラムと科目内容の検討・改編】</b> 専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養という視点から、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。  <b>○達成目標</b> ・改善した授業科目数 :全教養科目 ・学生の成績:良以上80% ・学生による授業評価:4以上75% ・個人業績評価(授業活動) :B評価以上75%	<b>1-1【平成22年度計画】</b> <b>○教養教育におけるカリキュラム科目内容の検討・改編</b> ・基礎科目・教養教育における導入教育の必要性や新科目開設について検討するために、新入学生の高等学校における履修状況に関する学生の実態把握調査を継続する。  ・各学部・学科の専門教育科目の履修モデルに合わせた教養教育履修モデルの検討を行う。  <b>○数値目標</b> ・学生の成績:良(C)以上80% ・学生による授業評価:3以上75%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上75%	1	<b>【平成22年度の実施状況】</b> <b>○教養教育におけるカリキュラム科目内容の検討・改編</b> ・基礎科目・教養教育における導入教育の必要性や新科目開設について検討するために、新入学生の高等学校における履修状況に関する学生の実態把握調査を行い、集計、分析した。 ・教員から教養教育に関する要望や意見についてのアンケート調査を行い、教員の意見を集約、検討した。  ・各学部・学科の専門教育科目の履修モデルに合わせた教養教育履修モデルの検討を行った。  <b>○目標実績</b> ・学生の成績:良(C)以上89.5% ・学生による授業評価:3以上78.2%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上68.0%
		<b>1-2【平成22年度計画】</b> <b>○専門的職業人育成のための新コースの開設を検討</b> ・どのような「スキルアップゼミ」を開設するかを検討する。  <b>○達成目標</b> ・スキルアップゼミ開設コース:4コース	1	<b>【平成22年度の実施状況】</b> <b>○専門的職業人育成のための新コースの開設を検討</b> ・新コース「脱世間知らず」(10人)を開設するとともに、「不況に負けない就活入門」(15人)、「ビジネスロジカルトレーニング」(9人)、「ディベート入門」(3人)を開講した。  <b>○目標実績</b> ・スキルアップゼミ4コース開設

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
	2【教養演習の改善】 従来の教養演習を見直し、課題発見・解決能力、理論的思考力、自己表現能力をさらに高めるために授業内容と授業方法の継続的改善を行う。  ○達成目標 ・学生の成績：良以上80% ・学生による授業評価：4以上75% ・個人業績評価(授業活動)：B評価以上75%	2-1【平成22年度計画】 ○共通テキストの改善 ・教養演習の目的、内容、方法を明確化し授業開始前全学教養演習担当者会議において周知徹底し、中間会議において指導上の情報・意見交換等FD活動を行う。  ・共通のオリエンテーション授業を通し、受講学生に対し、教養演習の目的(大学での学習に必要なスキルや知識の習得)とそのための学習内容、方法を周知する。  ・学生編集委員会の環境を整備し、学生が使用しやすい教養演習テキストとなるよう改訂する。  ・学生の意見を次年度の教養演習に反映させるために、教養演習及び教養演習テキストのアンケート調査を実施する。  ○数値目標 ・学生の成績：良(C)以上80% ・学生による授業評価：3以上75%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動)：B評価以上75%			1	【平成22年度の実施状況】 ○共通テキストの改善 ・教養演習の目的、内容、方法を明確化し授業開始前全学教養演習担当者会議において周知徹底し、中間会議において指導上の情報・意見交換等FD活動を行った。  ・共通のオリエンテーション授業を通し、受講学生に対し、教養演習の目的(大学での学習に必要なスキルや知識の習得)とそのための学習内容、方法を周知した。  ・学生編集委員会の環境を整備し、学生が使用しやすい教養演習テキストとなるよう改訂した。  ・学生の意見を次年度の教養演習に反映させるために、教養演習及び教養演習テキストのアンケート調査を実施し、集計、分析した。  ○目標実績 ・学生の成績：良(C)以上99.6% ・学生による授業評価：3以上89.0%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動)：B評価以上86.4 %

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
2 専門教育の充実  専門教育は、本学の特色を活かし、社会福祉学、社会学、心理学、教育学、看護学といった専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 社会学科では地域社会における社会現象を実践的・理論的な視点から分析し、地域問題を創造的に改革できる人材を育成する。 社会福祉学科では、保健・看護・心理の基礎的知識を備えた社会福祉士、精神保健福祉士の専門職養成を図る。 人間形成学科では、生涯発達の視点から、心身の発達・成長と教育に関する理論を理解し、実践的に役立てることの出来る人材の育成を目指す。  看護学部では、健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる保健師・助産師・看護師・養護教諭の育成を目指す。 高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。	1【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 専門教育充実の視点から、カリキュラムと科目内容を検討と改編を行う。  ○達成目標 ・改善科目数:全専門科目 ・学生の成績:良以上80% ・学生による授業評価:4以上75% ・個人業績評価(授業活動):B評価以上75%	1-1【平成22年度計画】 【人間社会学部】 ○人間社会学部の再編・改組等のための検討部会の設置 人間社会学部設置20周年(平成23年度)を機に人間社会学部の学科等の実績等の点検を行い、学部の今後の発展のためのたたき台のとりまとめの部会を設置する。 ・理事長がメンバー(40歳代、50歳代を中心)を指名する。 ・平成22年度末には中間報告書を作成し、次期中期計画に位置づけることができるようにする。 ・検討の柱立ては、学部・学科(一般教育等を含む。)の再編、新学部の設置、カリキュラム改編、教員配置等とする。  ○公共社会学科の整備と充実(1-2年生) 平成21年度から改編したカリキュラム「地域社会ネットワークコース」と「アジア国際共生コース」の2コース制及び学生のキャリア形成支援を図るための5つのキャリア支援プログラムの充実を図る。  ・公共社会学科2コース制の整備・充実(地域社会ネットワークコースの整備・充実) ・学生への履修モデルの提示 ・体験型学習の実施と地域社会研究ゼミの充実(アジア国際共生コースの整備) ・学生への履修モデルの提示 ・体験型学習の実施と国際共生研究ゼミの充実 ・公共社会学科5つのキャリア支援プログラムの整備・充実 ・社会調査士資格取得支援プログラム ・情報処理関係資格取得支援プログラム ・教員免許取得支援プログラム ・公務員受験支援プログラム ・ビジネス・スキル習得支援プログラム  ○社会福祉学科の教育課程の充実 ・新カリキュラムに基づく社会福祉士、精神福祉士養成の教育内容の充実 ・精神保健福祉士の受講生の増加を図り、もって社会福祉人材の資質の向上に努める。 ○GPA評価の結果に基づき学生指導を行う。 ・各学科内の教員でGPA評価結果を共有し、学生指導に活用する。  ○達成目標 各学科において ・学生の成績: GPA評価C以上(従来の良以上)80% ・学生による授業評価:3以上75%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上75%		1	【平成22年度の実施状況】  ○人間社会学部将来構想委員会を設置し、11回の審議により将来構想をまとめた。教授会、各学科等でも検討し、12月教授会に学部長提案で検討可決し、理事長に提出した。 ・理事長は40、50代を中心にメンバーを指名した。 ・12月8日の教授会で現行人間社会学部の教員配置・予算の範囲内で報告書を取りまとめて理事長に提出した。  ○公共社会学科の整備と充実は、計画どおりに行われた。 ・公共社会学科学生研究室前に掲示板を作り、地域社会ネットワークコース、アジア国際共生コースのそれぞれに年度初めに掲示を行った。 ・掲示物以外でも年度初めのオリエンテーション、パンフレット等で各学年に履修モデルを提示した。 ・地域社会ネットワークコースでは、学生実行委員会を作り、RKB毎日放送局・博多区内施設などを訪問して体験型学習を実施した。 ・アジア国際共生コースでも学生実行委員会を作り、中国領事館、ジャイカ(JICA:国際協力機構)などを訪問して体験型学習を実施した。 ・五つのキャリア支援プログラムは教員を担当制として各プログラムごとに指導体制を充実させた。 社会調査士資格取得支援プログラムでは、社会調査士資格取得に必要なカリキュラムの充実を図り、関連科目の連携を充実させた 情報処理関係資格取得支援プログラムでは、上級情報処理士資格科目を前倒しで実施し、3、4年生の資格取得を可能にするとともに学生に対する個別相談を実施した。 教員免許取得支援プログラムでは、毎月取得希望者との懇談会(教職者の現状、教職の活かし方など)を持ち、個別指導を行った。 公務員受験支援プログラムでは、毎月1回支援プログラム(公務員の種類、学習計画など)を供与し、指導にあたった。 ビジネス・スキル習得支援プログラムでは、RKB毎日放送総務部職員の講演会、PCスキル講座、アサーショントレーニングなどを行った。 これら取組の結果、進路未定者(その他)がH18年以降、9人→7人→1人→1人→2人と減少した。  ○社会福祉学科 ・新カリキュラムを学部教務部会でも検討・協議し全学部的に受講できるように変更した。その結果、福祉関係の受講枠が拡大した。 ・精神保健福祉士の受講生は大学の勧奨により増加し、13人合格(対前年度5人増)となった。国家試験結果も前年度同様、合格率100%を達成できた。 ・社会福祉士の国家試験結果については、合格率83%(対前年度比8.4ポイント増)を達成した(現役44人合格(対前年度比±0))。現役50名以上受験大学では現役者合格率において全国1位となった。  ○GPA評価結果は学科ごとに配布し、学科会議で検討して成績不振の学生には担任・ゼミ教員が指導した。  ○目標実績 各学科において ・学生の成績: GPA評価C以上(従来の良以上)89.0% ・学生による授業評価:3以上80.1%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上96.0%	

中期計画			ウエイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		平成22年度計画	中期 年度	
			1-2 【平成22年度計画】 【看護学部】 ○平成21年度7月保健師助産師看護師法の一部改正(平成22年4月施行)を受け、新カリキュラムの策定検討。  ○達成目標 ・学生の成績:良以上90% ・学生による授業評価:3以上80%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上75%	1	【平成22年度の実施状況】 ○平成21年度7月保健師助産師看護師法の一部改正(平成22年4月施行)を受け、新カリキュラム(案)を策定した。 ・将来構想プロジェクトチームを発足し、月1～2回会議を行った。 ・本学の独自性を出すため、北京中医薬大学の教員2名を招き、「東洋看護技術演習」を行った(学部・助産課程及び糖尿病看護認定看護師コース)。  ○目標実績 ・学生の成績:良以上81.7% ・学生による授業評価:3以上88.7% ・個人業績評価(授業活動):B評価以上 96.2 %
			1-3 【平成22年度計画】 【情報処理センター】 ○平成22年5月より、e-ラーニングシステムの本格的導入を行う。 ・平成22年4月に、コース開設の準備を行う。 ・平成22年4月に、学生向け及び教員向けの利用手引書を作成する。  ○達成目標 ・e-ラーニングシステムのコースを開設する(初年度:30コース) ・e-ラーニングシステムの利用方法について、講習会を開催する(2回/年)		【平成22年度の実施状況】 ○平成22年5月より、e-ラーニングシステムの本格的導入を行った。 ・平成22年4月に、コース開設の準備を行った。 ・平成22年5月に、教員向けの利用手引書を作成した。 ・平成22年5月に、教員を対象としたe-ラーニングシステムの講習会を行った。 ・平成22年11、12月、23年1月、3月に、教員・学生に使用し易いよう改訂した新プログラムに基づくe-ラーニング講習会を行った。 ・平成22年度にe-ラーニングコースを33コース開設した。  ○目標実績 ・e-ラーニングシステムで33コースを開設した。 ・e-ラーニングシステム講習会を5回開催した。

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
	2【経験型実習の導入】 (看護学部、人間社会学部社会福祉学科) 地域の保健・福祉課題を自ら考え、対処する能力を育成するため経験型実習を導入する。 基礎的な知識・技術を1・2年次で習得し、3・4年次の実習で現場を経験することで、専門知識や技術を柔軟に活用できる能力を育む。  ○達成目標 ・実習導入科目数 :看護学部では現在(平成17年度)3領域の実習で実施。今後、看護学部・人間社会学部の社会福祉学科では、全領域の実習を導入を目指す。 ・学生の成績:良以上80% ・学生による授業評価 :4以上75% ・実習先アンケート :良好評価75 %	2-1	【平成22年度計画】 【看護学部】 ○経験型実習教育の充実と強化を図る ・経験型実習ワークショップを、全領域対象の実習調整会議で実施するとともに、それぞれの領域でも行い、実習指導者・教員との共通理解を深める。 ・助教、助手の経験型実習指導のスキルアップを目的とした学習会を開催する。 ・平成22年4月から臨床教授制の本格的導入を行う。(4つの実習施設から全領域に関係する実習施設に拡大) ・教員と臨床教授等および臨地実習指導者を対象にした研修会を実施し、連携の強化をはかる。  ○達成目標 ・経験型実習教育の導入を6領域から7領域へ拡大へ ・実習教育における教員と臨地実習指導者との連携会議(1回/年) ・ワークショップの実施(2回/年) ・助教、助手の指導力アップの強化(4回/年) ・教員、臨床教授等および臨地実習指導者の研修会(1回/年) ・学生の成績:良(C)以上 90% ・学生による授業評価:3以上 80%(評価点変更のため) ・実習先アンケート評価 良好評価 80 %		1	【平成22年度の実施状況】 ○経験型実習教育の充実と強化を図る ・経験型実習ワークショップ及び、全領域対象の実習調整会議を実施し、実習指導者・教員との共通理解を深めた。 ・助教、助手の経験型実習指導のスキルアップを目的とした学習会を開催した。 ・平成22年4月から臨床教授制の本格的導入を行った。 ・教員と臨床教授等および臨地実習指導者を対象にした研修会を実施し、連携の強化をはかった。  ○目標実績 ・経験型実習教育の導入を6領域(基礎、成人、精神、老年、小児、在宅)から22年度は7領域(地域看護学)へ拡大 ・実習教育における教員と臨地実習指導者との連携会議1回実施 ・教員対象の経験型実習ワークショップの実施2回実施 ・助教、助手の指導力アップの強化1回実施 ・教員、臨床教授等および臨地実習指導者の研修会2回 ・学生の成績:良(C)以上 97.1% ・学生による授業評価:3以上 91.4% ・実習先アンケート評価 良好評価 85.0 %
		2-2	【平成22年度計画】 【人間社会学部】 ○新カリキュラム「相談援助実習指導」において、2年次の夏期休業期間終了までに1日6時間の5日間にわたり、各種保健医療福祉施設において経験型実習を実施する。		1	【平成22年度の実施状況】 【人間社会学部】 ・新カリキュラム「相談援助実習指導」を2年次生から開始した。このため、4月の2年次生オリエンテーションで経験型実習について説明した。 ・2年次前期に、経験型実習のための事前指導を、分野ごとの説明を含め、3回実施した。 ・夏休み終了までに、2年次の履修生全員(2年次生55名全員)が、合計5日間、保健医療福祉施設、社会福祉協議会等で経験型実習を行った。 ・2年次後期の最初の授業で、記録に基づき、小グループに分かれて経験型実習の報告会を実施した。

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	3【情報教育の拡充を通じ、地域社会を多面的に考察できる人材を育成する教育の強化】（人間社会学部社会学科） 社会学科のカリキュラムは、5つの系（現代社会系、情報系、地域系、公共福祉系、国際系）から構成されている。このうち、特に情報系を拡充し、流動的な社会的・文化的状況に関する情報を収集・分析し、各地域における社会問題を自ら発見し、かつ解決できる能力の強化を図る。具体的には、社会調査士資格取得に必要なカリキュラムを整え（平成17年度より開始）、情報収集・分析能力の強化を図りつつ、地域系や公共福祉系のカリキュラムと併せて、地方自治体・社会福祉協議会・福祉系NPOなどの地域・福祉マネジメント系の仕事に必要な力を習得させ、また、現代社会系や地域系を併せて、地域情報・教育産業・営業などの企画・情報系の仕事に必要な力を習得させる。  ○達成目標 ・関連資格取得者数：全員取得 ・学生の成績：良以上80% ・学生による授業評価：4以上75% ・個人業績評価（授業活動）：B評価以上75%	3-1【平成22年度計画】 【社会学科教育の充実（3年生～4年生）】 ○社会調査士資格取得に必要なカリキュラムの充実 ・社会調査及び資格制度に関するガイダンスの充実 ・関連科目の連携の充実  ○数値目標 ・社会調査士資格取得者数：取得希望者全員の取得 ・学生の成績：良（C）以上80% ・学生による授業評価：3以上70%（評価点変更のため） ・個人業績評価（授業活動）：B評価以上70%		1	【平成22年度の実施状況】 ○社会調査士資格取得に必要なカリキュラムの充実 ・社会調査及び資格制度に関するガイダンスを実施 公共社会学科キャリア支援プログラムとして下記を実施 ・4月6日  社会調査ガイダンス(1～3年生) ・4月9日  社会調査ガイダンス(4年生) ・6月14日  社会調査士見込み申請手続き説明会(3～4年生) ・12月21日  社会調査士資格の変更点について説明 ・2月1日  資格申請手続き説明会 ・3月18日  資格申請書類の受付 ・関連科目の連携の充実 ・11月10日  社会調査実習担当者会議を実施 ・2月17日  社会調査士関連科目担当者会議を実施(教員8名) 【新たな取組】 ・キャリア支援プログラム講演会の実施 「地域における放送局の役割とその仕事」(RKB総務部、11月24日) ・学生の意見を聞く懇談会の実施(3・4年、学科FD座談会として開催、1月25日) 参加学生13名、教員7名  ○目標実績 ・社会調査士資格取得者数：27名(希望者全員、うち1名は人間形成学科) ・学生の成績：良（C）以上95.3% ・学生による授業評価：3以上78.2% ・個人業績評価（授業活動）：B評価以上  100%
		3-2【平成22年度計画】 ○情報系カリキュラムの充実 ・情報教育の推進 ・情報教育充実について検討の継続 ・関連科目の連携 ・学生に対する個別相談の実施		1	【平成22年度の実施状況】 ○情報系カリキュラムの充実 ・情報教育の推進 公共社会学科キャリア支援プログラムとして下記を実施 5月19日  上級情報処理士について説明会実施(1～4年生対象) 6月16日  MOS資格取得講座の説明会実施(1～4年生対象) 6月30日  PCスキル養成講座Ⅱ①実施 7月  7日  PCスキル養成講座Ⅱ②実施 7月28日  PCスキル養成講座Ⅲ③実施 9月7日～9月15日  MOS資格取得講座実施(Word,Excel)(たがわ情報センター主催) 10月27日  PCスキル養成講座Ⅰ①実施 11月10日  PCスキル養成講座Ⅰ②実施 11月17日  PCスキル養成講座Ⅰ③実施 2月2日  IT関連企業への就職状況と情報処理関係資格説明会(1～4年生対象) ・情報教育充実について検討の継続 ・関連科目の連携 上記2点について、担当教員間で意見交換(9、10月学科会議) 11月10日  社会調査実習担当者会議を実施 ・学生に対する個別相談の実施…順次、実施したほか、下記の「学生の意見を聞く懇談会」を開催 【新しい取組】 ・学生の意見を聞く懇談会 3・4年、FDに関する学生との座談会、1月25日  参加学生13名、教員6名 1・2年、学科FD座談会として開催、1月26日  参加学生26名、教員7名 ○上級情報処理士資格取得者  35名 本カリキュラムの初年度生は2年次であるが、授業登録を3・4年も可能にしたため、22年度4年生10名、3年生25名が資格取得した。



中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	<p>4【実践力を身につけさせるための体験的学習の推進】 (人間社会学部人間形成学科) 地域住民の生涯発達を援助する実践的能力を高めるため、授業において、専門的知識の習得にとどまらず体験的学習場面を増加する。専門的知識や技術の実践的活用能力を高める。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体験学習導入科目数 :20科目以上</li><li>・学生による授業評価 :良好評価75%</li></ul>	<p>4-1【平成22年度計画】</p> <p>○体験的学習を取り入れた20科目について、前年度の分類・整理に基づき見直しを行う。</p> <p>○体験的学習の効果を引き続き検証し、より効果的な方法の検討を行う。</p> <p>○学生による授業評価を実施し、その方法と信頼性について引き続き検討を行う。</p>		1	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○体験的学習機会の導入科目は、前期・後期を合わせ24科目に増えた。</p> <p>○学生による授業評価の結果(良好以上、平均)は、以下のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前期10科目:92.4%</li><li>・後期14科目:86%</li><li>・年間24科目:89.2%</li></ul> <p>○検討の結果、後期に6.4ポイント低下した主な理由は以下のとおりであった。</p> <p>① 後期は演習科目が多く、講義科目(7科目)は92%、演習科目(7科目)は81%であった。</p> <p>② 保育所・幼稚園実習を経験した学生は、「将来、現場で役に立つか」という設問に対し、実習時の担当クラス・年齢から「どちらともいえない」を選択する傾向にあった。</p> <p>○演習科目と実習の関連をより深め、設問を再考することが課題として明らかになった。</p>
	<p>5【他の学部・学科の専門領域を学べる教育プログラムの導入】 地域社会の保健・福祉課題の解決に向けて関連職種等と協働できる専門職業人を育成するため、他の専門領域を学ばせることができる教育プログラムを設置する。</p> <p>①看護領域の学生は福祉領域・心理領域の分野、福祉領域の学生は看護領域・心理領域の分野、保育系の学生は看護・心理領域の分野を学ぶなど。</p> <p>②また、両学部の学生が、専門性の違いから来る認識の違いや、相互連携の必要性等を一緒に学習する教育プログラムを平成21年度の実施に向けて検討する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・設定科目数:すべての必要な領域間で設置</li><li>・学生の成績:良以上80%</li><li>・学生による授業評価:4以上75%</li><li>・個人業績評価(授業活動) :B評価以上75%</li></ul>	<p>5-1【平成22年度計画】</p> <p>○看護学部と人間社会学部の全学生を対象に教育プログラムを実施</p> <p>「看護と地域社会」「看護と心理」「看護と福祉の専門性を学ぶ」「看護と教育」という4つの視点から計4回からなる教育プログラムを実施する。</p> <p>1. 看護と地域社会 テーマ:地域社会における看護活動と地域社会の現実と課題・対応(90分間)</p> <p>2. 看護と心理 テーマ:がんをもちながら生活する人の看護と心理(90分間)</p> <p>3. 看護と福祉の専門性を学ぶ～地域における連携と協働を目指して～ テーマ:看護師と保健医療ソーシャルワーカーの役割について(90分間)</p> <p>4. 看護と教育 テーマ:健康問題を抱えた対象者(患者)と家族への教育的な支援のあり方 学校・家庭・地域をつなぐスクール(学校)ソーシャルワーカーの専門性(90分間)</p>		1	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○看護学部と人間社会学部の全学生を対象にした教育プログラムを検討し、準備を進めている。本年度は、後期に下記の4講座を実施した。</p> <p>1. 看護と地域社会(講師 看護学部教員と人間社会学部教員とで担当) テーマ:地域社会における看護活動と地域社会の現実と課題・対応(90分間) 本講座は、4名の学生と4名の教職員が受講した。 学生評価:専門性を深めることができた100%、満足できた(75.0%)</p> <p>2. 看護と心理(講師 看護学部教員と人間社会学部教員とで担当) テーマ:がんをもちながら生活する人の看護と心理(90分間) 本講座は51名の学生が受講した。 学生評価:専門性を深めることができた(96.3%)、満足できた(78.5%)</p> <p>3. 看護と福祉の専門性を学ぶ～地域における連携と協働を目指して～ (講師 看護学部教員と人間社会学部教員とで担当) テーマ:看護師と保健医療ソーシャルワーカーの役割について(90分間) 本講座は53名の学生が受講した。 学生評価:専門性を深めることができた(96.2%)、満足できた(62.2%)</p> <p>4. 看護と教育(講師 看護学部教員と人間社会学部教員とで担当) テーマ:健康問題を抱えた対象者(患者)と家族への教育的な支援のあり方 学校・家庭・地域をつなぐスクール(学校)ソーシャルワーカーの専門性(90分間) 本講座は31名の学生が受講した。 学生評価:専門性を深めることができた(100%)、満足できた(90.2%)</p>

中期計画			ウエイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		平成22年度計画	中期 年度	
			5-2	2	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○両学部1年生を対象に前期に「社会貢献論」を単位認定科目として実施した。 受講生の内訳 人間社会学部 52名（公共社会学科20名、社会福祉学科22名、人間形成学科10名） 看護学部 50名</p> <p>○両学部1年生を対象に後期に「社会貢献論演習」を単位認定科目として実施した。 受講生の内訳 人間社会学部:3名（公共社会学科2名、社会福祉学科1名） ※受講生は社会貢献フォーラムⅠ（3月3日）においてリーダーとして活躍した。</p> <p>○両学部1年生を対象に前期に「不登校・ひきこもり援助論」を単位認定科目として実施した。 受講生の内訳 人間社会学部127名（公共社会学科31名、社会福祉学科54名、人間形成学科42名） 看護学部 59名</p> <p>○目標実績 ・学生の成績:社会貢献論秀(A)48%、優(B)49% ・社会貢献論演習秀(A)100% ・学生の成績:不登校・ひきこもり援助論秀(A)97% ・学生による授業評価:3以上 80.3% ・個人業績評価(授業活動):B評価以上 100%</p>

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	6【実践的で高度な専門職業人育成の推進】(人間社会学部大学院) ①人間社会学研究科修士課程を、時代のニーズに対応するため、社会福祉専攻、心理臨床専攻、地域教育支援専攻の三専攻に再編する。 ②人間社会学研究科修士課程における心理臨床専攻での臨床心理士第二種を第一種に変更する。  ○達成目標 ・受験倍率:2.5倍以上	6-1【平成22年度計画】 ○人間社会学部大学院再編を踏まえて大学院教育の充実を図る。 ・アドミッションポリシーの周知を図り、長期履修制度の導入を検討する。 ・大学院生の指導充実を図る。  ○数値目標 ・受験倍率:2倍以上		1	【平成22年度の実施状況】 ・策定したアドミッションポリシーを大学要覧や大学ホームページに掲載し、高校訪問、会議等で周知した。 ・長期履修制度については学則を改正して制度を創設した(適用は平成23年度)。  ・大学院生の指導充実についてはコースツリーを各専攻で作り、修士論文評価体制も充実させた。  ○目標実績 受験倍率は2.00、志願倍率は2.53
		6-2【平成22年度計画】 ○日本臨床心理士認定協会指定大学院第1種校として運営 ・相談料金の徴収 ・心理教育相談室の運営 ・週に1回、事例検討会開催 ・相談業務の実施 ・心理教育相談室紀要の発行 ○心理教育相談室 相談員対象の講座開催(外部講師による)  ○卒業生対象カンファレンスの実施		1	【平成22年度の実施状況】 ○日本臨床心理士認定協会指定大学院第1種校として運営 ・相談料金の徴収を始めた 徴収金額767,200円 ・心理教育相談室の運営 ・週に1回、事例検討会を開催した ・相談業務の実施 相談受付件数 27件 相談件数940件 ・心理教育相談室紀要第3巻を発行 全116頁  ○心理教育相談室 相談員対象の講座開催(外部講師による) ・平成23年3月19日開催 参加者数 22名  ○卒業生対象カンファレンスの実施 ・年6回実施 参加者数 174名

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	7【実践的で高度な専門職業人育成の推進】(看護学部大学院) ○看護学部看護に特化した大学院修士課程を設置する。 ○修士課程に一般研究コース、専門看護師コース及び助産師コースを設置する。  ○達成目標 ・受験倍率:2.5倍以上	7-1【平成22年度計画】 ○新たなコース(上級実践コース:助産師・保健師養成コース)の設置について検討。 ○新たな専門看護師コースの検討 ○専門看護師コース(精神看護)の充実 ・助教を1名追加し、実習等の充実をはかる ・カリキュラム通りに講義・演習・実習が行われる ○数値目標 ・受験倍率:2倍以上 ・学生へのアンケート:満足度4以上(5段階評価):85% ・専門看護師養成課程検討ワーキンググループ会議 5回以上開催		1	【平成22年度の実施状況】 ○新たなコース(上級実践コース:助産師・保健師養成コース)の設置について検討し、カリキュラム(案)を県へ提出した。 ・上級実践コース:助産師・保健師養成コースの設置  ○新たな専門看護師コースの検討 ・老年看護検討中 専門看護師コースを持つ大学や実習病院で研修を行い、老年看護専門看護師コースの設置が可能か検討中。 ○専門看護師コース(精神看護)の充実 ・平成24年4月精神専門看護師コース開設 ・助教を1名採用し、講義・実習の充実をはかるよう計画。 ・カリキュラム通りに講義・演習・実習が行われた。 ○新たな取組み ・専門看護師教育課程認定審査申請を行い、「看護政策論」1単位、がん看護に関する理論「精神看護学特論」1単位が認められた。 ○目標実績 ・受験倍率:1.7倍 ・学生へのアンケート:満足度(3段階)「普通」以上 88.9% ・専門看護師養成課程検討ワーキンググループ会議を6回開催し、専門看護師コースの充実と新たなコースの検討を行った。
	8【社会人の大学院生が学びやすい授業形態の導入】 社会人が離職しないで大学院での学業が続けられるように、夜間や休日の開講、eラーニング等を検討する。  ○達成目標 ・社会人受験者数 :受験倍率3倍以上	8-1【平成22年度計画】 ○社会人に対応した授業形態の実施・改善 ・夜間、休日体制の継続実施 ・コア科目のeラーニング化 1科目 ・長期履修制度の導入  ○数値目標 ・受験倍率:2倍以上 ・社会人学生へのアンケート :満足度「中」以上: 75%		1	【平成22年度の実施状況】 ○社会人に対応した授業形態の実施・改善 ・夜間、休日体制の継続実施中 学生と相談して夜間、休日に講義を組み込んでいる。 ・コア科目のeラーニング化 1科目 コア科目のeラーニングを1科目導入した。 ・長期履修制度の導入 平成23年度より実施するため、大学院学則等を整理し、平成23年度学生募集要項に掲載した。 4名が長期履修制度を選択した  ○目標実績 ・受験倍率:1.7倍 ・社会人学生へのアンケート :満足度(3段階評価)「普通」以上: 88.9%

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
3 教員の教育能力の向上  学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る。	1【学生の授業活動評価の実施】 学生の授業活動評価を授業の改善に活かす。	1-1	【平成22年度計画】 ○学生による授業アンケート調査を実施し、授業の改善に活かす。 ・アンケート実施(前期、後期) ・授業別結果の担当者へのフィードバック ・アンケート結果の集計・分析 ・調査結果報告書の作成 ・授業改善に役立つアンケートとするための検討		1	【平成22年度の実施状況】 ○学生による授業アンケート調査を実施し、授業の改善に活かす。 ・アンケート実施(7月9日～26日 前期分実施、1月20日～2月4日後期分実施) ・2009年度分授業別結果の担当者へのフィードバック(4月実施) ・2009年度分アンケート結果の集計・分析実施(新調査票による分析) ・2009年度調査結果報告書の作成(10月刊行・配布) ・2010年度アンケート結果の集計分析中(2011年度発行予定)
	2【教員の個人業績評価制度及び任期制の導入】 ①評価対象を教育(FD活動を含む。)・研究・地域貢献・学内運営とし、各分野のウェイト付け、各評価項目の評価基準及び評価者の確定、評価項目に応じた評価期間の設定等を行う。	2-1	【平成22年度計画】 ○個人業績評価制度の実施と修正 ・評価の実施 ・給与への反映 ・時期:12月		1	【平成22年度の実施状況】 ○個人業績評価制度の実施と修正 ・評価を実施 ・給与に反映 ・給与への時期:12月
		2-2	【平成22年度計画】 ○任期制の導入		1	【平成22年度の実施状況】 ○ 新規採用教員に対しては、任期制を導入している。  ・任期制教員 : 57.3 % (平成23年4月1日現在)

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	3【FD活動の強化】 ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。  ○達成目標 ・FD研修会等教員参加率 :100% ・学生による授業評価 :4以上75% ・個人業績評価(授業活動) :B評価以上75% ・他の教員も使用できる教材・学習方法の開発 :19年度以降年間2件	3-1【平成22年度計画（業務運営「2-2-1」(No.57)）】  ○学部のFD活動 両学部が一体となったFD活動強化のため、以下の取り組みを行う。 ・学生による授業アンケートの実施 ・FDセミナーの開催(年間3回) ・他大学等のFDに関するセミナーへの教員派遣 ・FDに関する学生との座談会等の実施 ・FD関連図書の紹介 ・教員の授業改善等のFD実施状況の把握 ・FD活動年報の刊行  ○数値目標 ・FD活動への教員参加:100%(研修会及び個別FD活動) ・学生による授業評価:3以上70%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上70% ・他の教員も使用できる教材・学習方法の開発 :年間2件		2	【平成22年度の実施状況】  ○学部のFD活動 両学部が一体となったFD活動強化 ・学生による授業アンケートを実施(前期分7月13～26日、後期分1月20日～2月4日) ・FDセミナーの開催 ①第1回FDセミナー 情報処理センター運営部会共催 e-ラーニング・システム説明会 5月26日(水)午後2時50分～4時半 3号館2階 情報処理教室1 テーマ:e-ラーニング・システムについて(演習) 参加:53名 ②第2回FDセミナー6月30日(水)午後1時～4時(2部構成) 3号館3階LL教室 テーマ:“Using interactive teaching methods to improve university student participation and motivation.”Part.2 参加:25名 ③第3回FDセミナー 8月4日(水)午後1時～2時半 管理棟2階大会議室 テーマ:FD研修報告―他大学のFDから― 『学生を寛容させる初年次教育』シンポジウム 『大学教育の分野別質保証に向けて』 参加:25名 『大学教育研究フォーラムより』 ④第4回～第6回FDセミナー『PCスキルシリーズ』各回午後1時～2時半 情報処理教室1 9月22日「覚えて得するWORD講座(1)」 参加 32名 9月29日「覚えて得するWORD講座(2)」 参加 39名 10月6日「覚えて得するEXCEL講座」 参加 37名 ⑤第7回FDセミナー 情報処理センター運営部会共催 e-ラーニング・システム説明会2 11月10日(水)午後1時～2時半 3号館2階 情報処理教室1 テーマ: e-ラーニング・システムについて(演習) 参加 16名 ・他大学等のFDに関するセミナーへの教員派遣 3名 3月「FDフォーラム」大学コンソーシアム京都他 ・FDに関する学生との座談会等の実施 1月25日 人間社会学部社会学科(3・4年次)学生13名、教員6名【新たな取組】 1月26日 人間社会学部公共社会学科(1・2年次)学生26名、教員7名【新たな取組】 2月3日 看護学部看護学科(1～4年次)学生13名、教員8名 ・FD関連図書の紹介(年報に書評掲載) ・学科学系ごとの教員のFD実施状況の報告(年報に掲載) ・FD活動年報の刊行 3月刊行  ○目標実績 ・FD活動への教員参加: 81.1%(FDセミナーのみ) 84.6%(個別FD活動を含む) ・学生による授業評価:3以上 82.5%(評価点変更のため) ・個人業績評価(授業活動):B評価以上 96.1% ・他の教員も使用できる教材・学習方法の開発:年間2件(e-ラーニングシステム、教養演習テキスト)

中期計画			ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
		3-2	【平成22年度計画】 ○大学院FD活動 ・学内の講師によるFDセミナーの開催(2回) ・学外へのFDセミナー研修参加(2回以上) ・FDに関する大学院生と教員との座談会(1回) ・大学院生へのアンケート実施(1回) ・FD活動の整理と記録  ○数値目標 ・大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員: 80% ・大学院生への満足度調査:満足度「中」以上:75%	2	【平成22年度の実施状況】 ○大学院FD活動 学内の講師によるFDセミナーの開催 ・9月30日「学術データベースへのアクセス講習」出席者 32名 ・1月26日「研究の発展と研究対象となる人の権利」講師の都合により急遽中止 ・3月23日「学外のFDセミナーへの参加報告会」参加者22名 学外へのFDセミナー研修参加(2回以上) ・1月8日第6回関西地区FD連絡協議会ワークショップ「思考し表現する学生を育てる」に参加 ・3月5, 6日開催予定「第16回FDフォーラム」大学コンソーシアム京都に参加 ・3月17, 18日開催予定「第17回大学教育研究フォーラム」に参加 大学院生へのアンケート実施(1回) ・7月下旬に実施 回答数49名/59名中 回答率83.1% FDに関する大学院生と教員との座談会(2回) ・1月19日第1回大学院生アンケート結果報告と院生・教員との意見交換会開催 大学院生5名参加 ・2月23日第2回大学院生アンケート結果報告と院生・教員との意見交換会開催 大学院生6名参加 FD活動の整理と記録 ・大学院FD部会活動報告書の刊行 全71頁  ○目標実績 ・大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員: 延べ54名(参加率 48.1%) ・大学院生への満足度調査:満足度「中」以上: 88.9%



中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
4 学生の確保  健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量共に確保する。	1【特待生などより質の高い学生の確保】 ①アドミッションポリシーに適った入学試験制度の改善を行う。 センター入試で基礎学力の高い学生を確保し、推薦入試、前期・後期等、大学独自の入試では、受験生の意欲や将来の夢を引き出す工夫をする。 ②特待生制度を導入する。 特待生制度(成績優秀者への授業料減免)を広報活動を通じて積極的にPRする。  ○達成目標 ・受験の実施方法の改善 ：センター入試科目の増加 ・受験倍率:4.5倍以上 ・辞退率＝辞退者数 /合格者数(追加除):15%以下 ・センターランク:70%以上 ・特待生受験倍率:5倍以上 ・特待生辞退率＝辞退者数 /合格者数(追加除):0%以下 ・在学生の平均成績 ：良以上80% ・国家試験合格率 社会福祉士65% 精神保健福祉士65% 看護師100% 保健師95% 助産師100%	1-1【平成22年度計画】 【学部】 ○質の高い学生確保のため、アドミッションポリシーを踏まえて、入試制度を改善する。 ・改訂版アドミッションポリシーの普及・広報活動を実施する。 ・面接要項の広報活動を強化する。 ・(看護学部)新たな編入学試験制度の検討を行う。 ・入学試験改善会議を設置し、入試制度全般の改善を検討する。  【大学院】 ・大学院入試部会を6回以上開催し充実する。 ・アドミッションポリシーの充実を検討する。 ・長期履修制度の導入を検討する。		1	【平成22年度の実施状況】 【学部】 ○質の高い学生確保のため、以下の取組を行った。 ・改訂版アドミッションポリシーの普及・広報活動の実施 入試広報活動のあらゆるメディアと機会を通じて、以下のように普及・広報活動を実施した。 (1) 大学案内、入試要項、ホームページに掲載 (2) オープンキャンパス(夏と秋・計2回)、入試説明会、高校訪問においてPR (3) 夏の オープンキャンパスの「高校の先生限定受験指導セミナー」において、進路指導担当や3年担任などの教諭に直接説明 ・面接要項の広報活動の強化 以下のように積極的に広報活動を行った。 (1) 入試要項に掲載 (2) オープンキャンパス(夏と秋・計2回)、入試説明会、高校訪問において周知 (3) 夏の オープンキャンパスの「高校の先生限定受験指導セミナー」において、進路指導担当や3年担任などの教諭に直接説明 ・(看護学部)新たな編入学試験制度の検討 入試部会看護学部小部会において、新たな編入学試験制度を検討した。 ・入学試験改善会議 入学試験改善会議で検討すべき課題を精査し、「入学試験改善会議における検討課題」を作成した。  【新たな取組】 ・8月7日開催の夏のオープンキャンパスにおいて「高校の先生限定受験指導セミナー」を初めて開催した。 (参加: 26校、 34名)  【大学院】 ・看護学研究科では計7回、人間社会学研究科では計6回、それぞれ入試小委員会を開催した。また、両研究科合同の入試部会を計5回開催し、充実を図った。 ・ホームページを通じて、大学院アドミッションポリシーの周知を図った。 ・看護学研究科では、学生募集要領等を改正し、来年度入学生から長期履修制度を導入を決定した。 ・人間社会学研究科では、長期履修制度の導入について11月の研究科委員会に提案、決定された。その後11月の第4回大学院入試部会で決定、12月の理事会で導入が最終的に決定された。 ・これを受け、人間社会学研究科では、秋季および春季合格者に対し、長期履修制度について周知を図った。

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	2【積極的な広報活動】 パンフレット、入試説明会、出前講義、オープンキャンパス、ホームページ、大学祭など広報活動を改善する。 ・大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ・入試説明会、出前講義の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ・オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ・ホームページの更新、内容の工夫をする。 ・大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。  ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート ：1,000名以上、良好75%以上 ・ホームページのアクセス数 ：2,000件以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート：7会場、良好75%以上評価75%以上) ・訪問高校数及びアンケート ：20校、良好評価75%以上 ・出前講義及びアンケート ：20校、良好評価75%以上 ・志願者数(志願倍率) ：1,334人(5.8倍) ・受験者数(受験倍率) ：1,035人(4.5倍)	2-1【平成22年度計画】 ○学生確保のため、以下の取り組みを行なう。 ・オープンキャンパス(回数2回、人数：1,000名以上、アンケート：良好評価75%以上)。 ・入試説明会(回数：6回、アンケート ：良好評価75%以上)。 ・高校訪問(高校数：30回、アンケート ：良好評価75%以上)。 ・出前講義(回数：20回、アンケート ：良好評価75%以上)。 ・ホームページ、広報活動の充実  ○数値目標 ・ホームページ(アクセス数：20万件以上) ・志願者数(志願倍率)：1,334人(5.8倍) ・受験者数(受験倍率)：1,035人(4.5倍) ・前期入試会場：4箇所		2	【平成22年度の実施状況】 ○学生確保のため、以下の取組をおこなった。 ・オープンキャンパス：8/7(夏)、参加者数1,245名 11/13(秋)、参加者数142名 合計1,387名 (目標の138%達成)、良好評価96.6% 高校の先生限定受験指導セミナーの参加校数及び参加者数 26校34名 ・入試説明会：15回(目標の250%達成)、アンケート良好評価 100% ・高校訪問：73回(入試部会24回・公共社会学科49回で目標の243%達成)、アンケート良好評価 99.2% ・出前講義：22回(目標の110%達成)、アンケート良好評価 94.9% ・ホームページには新しい情報をできるだけ早く発信。小倉駅にスクロール電照広告の設置。 ・看護学研究科では募集用のプリントを作成し、実習施設などに配布。 ・大学院ホームページの充実(看護学研究科のコースツリーの掲載、院生募集情報にアクセスしやすい配置)  ○数値目標 ・ホームページ(平成23年3月31日現在) (訪問者数：169,762件、アクセス件数：211,158件、閲覧ページ数：778,546件) ・志願者数(志願倍率)：1,421人(5.68倍) ・受験者数(受験倍率)：1,093人(3.26倍) ・前期入試会場は4箇所。

中期計画		平成22年度計画	ウエイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
5 成績評価  公立大学法人福岡県立大学では、十分な教育と厳格な成績評価を行い、社会福祉士、保育士、臨床心理士、精神保健福祉士、幼稚園教諭、看護師、保健師、助産師、養護教諭、高校教諭(公民)としての知識・技術を確実に身につけた専門職業人を育成する。	1【厳格な成績評価の実施】 ①学生の質を高めるため、より厳格な成績評価を実施する。 ・成績評価基準を設定し、シラバスへの記載等により学生への周知を図る。 ・成績評価基準や成績評価の実施状況を定期的に点検・評価し、改善を図る。 ②GPA制度導入を前提に、その仕組み、活用方法を検討する。  ○達成目標 ・学生の成績:良以上80% ・国家試験合格率 社会福祉士65% 精神保健福祉士65% 看護師100% 保健師95% 助産師100%	1-1【平成22年度計画】  ○学生の質を高めるため、より厳格な成績評価を実施する ・学生便覧にGPAおよびGPAに基づいた学生支援について記載し、オリエンテーションで周知徹底する。 ○GPA制度の活用 ・福岡県立大学GPA運用細則第3条に基づき、平成21年度に両学部で作成したGPAに基づいた学習支援要領に則り、学生の学習支援を行っていく。 ・GPAに基づいた学習支援要領に基づき、各学部学科では、教務企画班、学生支援班と連携しながら、学生の支援を行う。  ○数値目標 ・学生の成績:良(C)80%以上		1	【平成22年度の実施状況】  ○学生の質を高めるため、より厳格な成績評価を実施する。 ・学生便覧にGPA運用細則と両学部のGPAに基づいた学習支援要領を記載し、オリエンテーションで周知徹底した。 ○GPA制度の活用 ・福岡県立大学GPA運用細則第3条に基づき、各学部の学習支援要領に従って学生のGPAの現状の把握を開始した。 ・各学部、学科ごとにGPAが2.0未満の学生個々に対して、支援の検討と実施を行なった。  ○目標実績 ・学生の成績:良(C)以上88.0%

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
		1-2【平成22年度計画】 ○国家試験合格率の目標値を設定し、目標達成のための試験対策の取り組みを行う。 【人間社会学部】 ・毎週1回4年生を対象に勉強会を実施 ・国家試験受験対策ガイダンス及び説明会を開催(3～4年生対象、年2回以上) ・模擬試験の受験支援及び情報提供等 ・卒業生アンケートの実施と報告書の作成(前年度国家試験受験経験者へのアンケート調査の実施)  【看護学部】 ○4年生への対策 ・ポートフォリオを利用した国家試験勉強の履歴の作成 ・4年生を対象とした寺子屋指導体制(要介入学生抽出による継続的小集団学習・指導講座)の継続推進 ・e-ラーニングによる国家試験自己学習体制の確立 ・看護師・保健師・助産師の各国家試験対策講座を年30回開催 ・進路カウンセリング及び受験カウンセリングの実施 ○教員への対策 ・教員の為の「国家試験合格のためのガイドマニュアル」継続活用の促し ・ゼミ教員による4年生を対象とした各学習・模試参加への体制の継続推進 ○低学年への対策 ・3年生までの早期指導体制の継続推進 ・3年生を対象とした看護師国家試験実力テストの実施 ・3年生を対象とした看護師等国家試験ガイダンスの実施(追加)  ○数値目標 ・国家試験合格率 ・社会福祉士:65% ・精神保健福祉士:65% ・看護師:100% ・保健師:95% ・助産師:100%		1	【平成22年度の実施状況】 ○国家試験合格率の目標値を設定し、目標達成のための試験対策の取り組み 【人間社会学部】 ・社会福祉士国家試験受験対策勉強会を23回外部講師による対策講座3回実施。51人が参加。 ・国家試験受験対策ガイダンス2回及び説明会1回を開催 ・模擬試験2回実施、メール及び電子掲示板、面談等による受験支援及び情報提供 ・卒業生アンケートを実施(59人中38人回収、回収率64.4%)。報告書を作成  【看護学部】 ○4年生への対策 ・ポートフォリオを利用した国家試験勉強の履歴作成および活用を推進 ・要介入学生抽出による継続的小集団学習・指導講座を継続推進 ・e-ラーニングによる国家試験自己学習体制の確立、活用を推進 ・看護師・保健師・助産師の各国家試験対策講座を年30回開催 ・就職・国試部会の教員およびゼミ教員による進路カウンセリング及び受験カウンセリングを実施 ○教員への対策 ・教員の為の「国家試験合格のためのガイドマニュアル」を配布し活用依頼 ・ゼミ教員への模擬試験情報の提供とゼミ教員の学習支援・模試結果の学習への反映体制を継続推進 ○低学年への対策 ・3年生までの早期指導体制の継続推進 ・3年生を対象とした看護師国家試験実力テストを1回実施 ・3年生を対象とした看護師等国家試験ガイダンスを2回実施  ○目標実績 ・国家試験合格率 ・社会福祉士:83.0% ・精神保健福祉士:100% ・看護師:98.7% ・保健師:88.9% ・助産師:90.0% ・国家試験合格率既卒者 ・社会福祉士:13.8% ・保健師:20% ・助産師:100%

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
6 学生への支援  入学から卒業までのキャリア支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業までのキャリア支援体制の構築】 ①担当職員の専門性の向上などにより、キャリア形成支援に関する事務局体制を強化する。 ②インターンシップの拡充などにより、学生のキャリア形成を入学から卒業まで一貫して持続的に支援する。 ③キャリア支援講座の実施  ○達成目標 ・企業・病院・施設等就職先訪問数及びアンケート ：60件以上、就職先アンケート良好評価75%以上 ・インターンシップ参加者数(率) ：10%増(平成17年度比) ・インターンシップ先アンケート ：良好評価75%以上 ・キャリア支援講座参加者アンケート ：良好以上75%以上 ・就職率：95%以上	1-1	【平成22年度計画】 ○就職支援として、キャリアサポートセンターの利用促進(キャリアサポート講座の実施等)  ○数値目標 ・キャリアサポートセンター利用件数 ：400件以上  ・就職率：95%以上	2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      	

中期計画			ウエイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		平成22年度計画	中期 年度	
			1-4【平成22年度計画】 ○学生生活の支援・充実 ・学生生活の実態・状況把握・ニーズ分析、支援検討 キャリア形成支援講座で実施した自己発見レポート及び進路成熟度評価のデータ活用 ・学生相談、サークル活動の活動状況を把握し、サークル間の交流促進を図る。	1	【平成22年度の実施状況】 ○学生生活の支援・充実 ・副理事長、学生支援班と各サークルとの意見交換会を8回実施 ・学生談話室に各サークルの活動状況が分かる掲示板を設置し、サークル間の交流促進を図った。 ・9月：学生生活支援部会にて、自己発見レポートの結果報告書をもとに入学時の学生の基礎学力や進路に対する意識等を把握、検討した。
	2	【卒業生への支援】 ①就職後の追跡調査の実施 就職後の追跡調査を定期的に実施することにより、早期にミスマッチ状況を把握し、適切な就職指導を行う。このことにより、卒業生及び就職先との信頼関係を築くことができる。 ②未就職者への就職活動支援 卒業後1年間、就職活動支援を継続する。 ③卒業後のキャリアアップの機会の提供 本大学が主催するキャリアアップコースやリカレント研修に関する情報を送り、卒後のキャリアアップの機会を提供する。  ○達成目標 ・職場からの評価 ：良好評価80%以上 ・未就職者への対応実績 ：全希望者への対応実施 ・就職率：90%以上	2-1【平成22年度計画】 ○卒業後の追跡調査の実施・改善 ・前年度の追跡調査結果をもとに調査内容を検討し、本年度の調査を行い、調査データから、ニーズ・対策の検討等を行う。  ○就職先アンケート ・アンケート結果：良好以上90%（看護学部）（人間社会学部） （平成21年度に平成18年度～平成20年度の卒業生の就職先アンケートを実施した。しかし、厚労省の調査では、大卒の3年後の離職率が約3割とのことであり、適切なアンケート評価を得るため平成21年度卒業生が入社後3年前後となる時期に実施することが適切なことから平成24年度からアンケート実施する）	1	【平成22年度の実施状況】 ○卒業後の追跡調査の実施・改善 平成24年度からアンケート実施予定  ○就職先アンケート 看護学部  25施設に実施、良以上100%

中期計画			ウエイト		計画の実施状況等	
項目	実施事項		平成22年度計画	中期 年度		
			2-2	【平成22年度計画】 ○未就職者への就職活動支援の実施 ・卒後1年生の看護師や社会福祉士等国家試験再受験者の状況把握と支援 ・就職者・未就職者を問わず、教員が卒後職業相談を受け付け支援する。	1	【平成22年度の実施状況】 ○未就職者への就職活動支援の実施 【人間社会学部】 ・卒業生アンケートにおいて、当該年度の国家試験受験の意思、受験・就職に関する情報提供希望の有無を確認。希望者に対して支援(6名) ・卒業生の職業相談につき、卒業時のゼミ教員が対応。  【看護学部】 未就職者なし
			2-3	【平成22年度計画】 ○キャリアアップコース、リカレント研修の実施 ・卒業生への情報提供案内送付  (具体的なリカレント講座の企画・実施は、社会貢献「1-2-1、2」(No.42、43)による)		1
			ウエイト総計			中期

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

- ・7ー2:両学部の学生が専門性の違いから来る認識の違いや、相互連携の必要性等を一緒に学習する教育プログラムの取り組みが重要である。
- ・13ー1、13ー2:教員の教育能力の向上を図るためには、FD活動、授業評価、個人業績評価に基づく授業の改善が必要であるが、特に教員間で教育能力の向上を共有できるFD活動の取り組みが重要である。
- ・15:学生の確保は、社会福祉系大学全体の落ち込みもあり、目標達成の努力が必要である。本学の特色を発信し、良質の学生確保に取り組むことが重要である。
- ・17ー1:在学生のキャリア形成支援とともに、就職支援体制を強化・推進するため、就職先アンケート・会社訪問等の実施が重要である。



中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
教育に関する特記事項（平成22年度）					
【「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」】 本大学の「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が平成22年度大学生の就業力育成支援事業に選定された。 ○取組概要 就業力を構成する8つの力のうち、達成率の低い「創造的思考力」「統合的学修力」「自己理解力」「コミュニケーション力」「ストレス耐性力」等の5つの力の育成を図るため、以下の事業を実施し、就業力向上を目指す。 ① 実学的専門教育科目として社会貢献論、社会貢献論演習、海外語学演習等を開講し、両学部で学ぶ専門的連携科目の充実を図る。 ② 社会貢献をテーマとしたボランティア活動やインターンシップ等の体験的学習を支援する。 ③ 学生が自らの生きる力や生活に基本的展望を持ち、主体的に大学生活を組み立て、将来の進路を自己決定できるよう、系統的なキャリア形成支援講座を実施する。 ④ 定期的に、学びの成果を共有し、自己を確認し、次の取組の計画を立てるため、各学年末に社会貢献フォーラムを開催し、最終年次には学びの集大成として、公開卒論発表会を開催する。 ⑤ 本プログラムを実施する大学内組織間の有機的な連携体制を充実させる。  ○本年度の取組 本年度は就業力向上支援会議と就業力向上支援プログラム推進会議を設置し、上記に掲げた目的に対応する6つの事業を検討・実施した。 ①実学的専門科目の開講と充実 ・実学的専門科目として、社会貢献論、社会貢献論演習、両学部で学ぶ専門的連携科目を開講した。 ・平成23年度に試行的に開講する海外語学演習の内容について検討 ②社会貢献活動やブレ・インターンシップ等の成果を記録するためのマイキャリアポケットを検討 ③ブレ・インターンシップ先の開拓及び全学生の活動支援 ブレ・インターンシップ先として、田川市内の知的障害者施設、身体障害者施設、精神障害者施設、高齢者施設、病院、美術館、NPO、ボランティア団体など10施設を開拓した。また、民間企業として食品工業、卸小売業、情報通信業、不動産業、建設業など59社を訪問し、そのうち14社から受入れの内諾を得ることができ、今年度内に学生が2施設に行くことができた。 ④キャリア支援講座の充実 基礎講座として「コミュニケーションスキルが切り拓く輝く自分」「協力と協調が導き出すチームワーク力」「社会貢献と社会参画」「コーチング」「ファシリテーション」を実施。 受講者延べ60名、満足度90%以上。 実践講座として「マナー・エチケットの5原則についての演習と実技」「今、企業はどんな人材を求めているか」「好感のもたれる面接の受け方と応答の仕方」を実施。 受講者延べ38名。満足度90%以上。 ⑤社会貢献・ボランティア支援センターとキャリアサポートセンターの連携強化 就業力を構成する8つの力の個別データをもとに、キャリアカウンセリングを行うシステムを検討中。 ⑥社会貢献フォーラムの開催 「社会に貢献できるリーダーを育てる」というテーマで「社会貢献フォーラムⅠ」を開催（於：本学講堂、平成23年3月3日）。 参加総数375名（学生137名、教職員36名、外部参加者202名）。 フォーラム概要 ・特別講演：「働くこと、生きること、私の体験から」 ・基調講演：「社会貢献って、なに？ ～仕事と会社と社会～」 ・パネルディスカッション：「学生が目指す社会貢献とは」 学生による社会貢献活動報告：「つくしんぼ（障害児の支援活動）」「てんぷらあいず（地域活動支援センター ゆう、一本松すずかけ病院での活動）」他6活動					

教育に関する特記事項

【大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム】  
「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」  
事業開始2年目となる本年度は事業費約7,100万円で、3つの基盤的取組、Ⅰ. ケアリングFD&CSD(大学教員及び臨地実習指導者の教育力開発)、Ⅱ. 卒後リメディアル・サポート(卒後1年目を対象にした離職予防:メンタリングと技術支援)、Ⅲ. 学生を核とするケアリング・コンソーシアム構築、を実施した。具体的には、7つの小部会、①ケアリングFD小部会、②ケアリングCSD小部会、③メンタリング・ネットワーク小部会、④看護技術支援小部会、⑤学生ケアリング・コンソーシアム小部会、⑥理科系科目補強教育小部会、⑦講義の相互受講体制小部会が実施主体となり、各小部会で、それぞれの課題達成に対応した各種プログラムを展開した。各種会議及び各種プログラムと参加者数の一覧は下記の通りである。  
なお、外部委員会は、評価委員会、運営委員会、情報戦略委員会を各1回開催した。3月にそれぞれもう一度開催予定である。

連携大学一覧:琉球大学、大分県立看護科学大学、沖縄県立看護大学、国際医療福祉大学、西南女学院大学、聖マリア学院大学、日本赤十字九州国際看護大学、福岡大学、福岡女学院看護大学、活水女子大学、九州看護福祉大学、名桜大学    協力校:産業医科大学

開催年月	実施内容	参加対象	参加者数
4月～3月	プロジェクト連携推進会議    8回	連携大学カウンターパート教員	延べ308名
＜FD小部会企画＞（会議8回）			
8月16・17日	特別講義:ホリスティック看護へのいざない 第2段「これからの看護に役立つ中医看護理論」	福岡県立大学看護学部生, 教員, 連携大学教員	延べ43名
10月23日	講演:国試を見据えた授業づくり	連携大学教員	29名
1月22日	講演:授業運営の評価 ～授業後の評価視点～	連携大学教員	63名
3月1日	研修:ホリスティック看護へのいざない 第3段「総合医療・全人的医療と看護の関係を学ぶ」	福岡県立大学看護学部生, 教員, 連携大学教員	52名
＜CSD小部会企画＞（会議8回）			
8月28日	講演・シンポジウム・研修:効果的な臨地実習指導について	連携大学の臨床スタッフおよび連携大学教員	194名
2月12日	講演・シンポジウム・研修:“教える”ということを考えるー教育学の視点からー	連携大学の臨床スタッフおよび連携大学教員	233名
＜メンタリング・ネットワークモデル小部会企画＞（会議11回）			
11月13日	シンポジウム「労働安全衛生管理の遵守と看護師の離職防止～新人看護師に焦点を当てて」	連携大学教員, 臨床スタッフ	109名
＜看護技術支援小部会企画＞（会議7回）			
7月2日	福岡大学 合同視察	看護技術支援小部会メンバー, 看護技術支援員	8名
10月22日	西南女学院大学 合同視察		8名
2月25日	看護技術支援員研修会		20名
＜学生コンソーシアム小部会企画＞（会議12回）			
7月31日	プロジェクト「学生コンソーシアム小部会」企画「学生ゼミナール実施」	九州地区11大学	143名
8月14日		沖縄3大学	267名
3月5日	プロジェクト「学生コンソーシアム小部会」企画、13大学看護学部学生中心に企画する「学生フェスティバル実施」	九州地区11大学	468名
3月5日		沖縄3大学	283名
＜理科系科目補強教育小部会企画＞（会議5回）			
1月22日	理科系科目補強教育小部会合同企画 テーマ:理科系知識を看護に活かす「ベッドサイドをわかりやすく科学する」	連携大学の学生および教員, 看護専門学校, 高等学校(看護)の学生および教員	156名
＜公開講義＞（精神看護専門看護師コース）			
6月4日	「司法精神看護における精神看護専門看護師の役割」	福岡県立大学大学院生, 教員, 連携大学教員, 臨床スタッフ	29名
7月3日	「精神科訪問看護における精神看護専門看護師の役割」		33名
8月9日	「看護における認知行動療法の適用」		49名
12月25日	「精神保健・医療・福祉の展望と精神看護専門看護師の役割」		30名

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 1 研究	「大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。」  福岡県立大学は、人間社会学部と看護学部が連携し、保健・医療・福祉に関する大学の教育と社会の発展に有用な学際的な研究を重点的に推進する。 研究費については、大学の財源を効果的に配分するとともに、外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
1 特色ある研究の推進  附属研究所を組織する。附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター)を核にし、福祉社会を創造する保健・福祉・教育・心理・社会等の分野に関する幅広い視野に立った学際的な研究を推進する。	1【附属研究所に従来の生涯福祉研究センターと新たにヘルスプロモーション実践研究センターを組織し、両学部が連携した学際的な研究プロジェクトを実施】 ①地域のヘルスプロモーション研究を実施する。 ②福岡県行政(保健福祉部等)、福祉機関、学校教育機関等と連携し、地域の福祉研究(地域の老人医療・介護費に関わる問題等)を実施する。 ③地域住民のキャリア教育・キャリア形成に関わる研究を実施する。  ○達成目標 ・プロジェクト数 : 毎年3件以上	1-1	【平成22年度計画】 ○研究プロジェクトの設置 ・生涯福祉研究センター研究プロジェクト ・ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト ・共同研究プロジェクト ○研究プロジェクトの内容・研究成果の公開 ○数値目標 ・生涯福祉研究センター研究プロジェクト: 10件 ・ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト: 15件以上(うち新規3件) ・共同研究プロジェクト: 5件以上(うち新規2件)		2	【平成22年度の実施状況】 ○研究プロジェクトの設置 ・生涯福祉研究センター研究プロジェクト 文部科学省研究費補助金: 10件、個別研究7件、計17件  ・ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト 文部科学省研究費補助金: 17件、個別奨励研究13件 計30件  ・共同研究プロジェクト: 7件 ①エンドオブライフケアにおけるコミュニティホリスティックタッチ ②赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究 ③身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関する研究 ④「足と靴」の問題性と福祉充実に関する総合的研究プロジェクト ⑤・インタラクティブな読書コミュニティの開発研究 ・オリジナルの例文作りを通じた異文化交流の推進と研究 ⑥学校を拠点とし、団地に焦点をあてた、寿命の延伸を究極目標とする保健福祉学的・高度重層介入研究 ⑦眼球運動を用いた看護学生の視覚探索法略と危険認知との関係  ○研究プロジェクトの内容・研究成果の公開 ・2009年度附属研究所事業報告書(平成22年10月発行) ・生涯福祉研究センター研究報告叢書1冊発行予定 ・附属研究所通信No3(2010)発行 ・研究奨励交付金・プロジェクト研究報告会(平成23年3月22日) ○目標実績 ・生涯福祉研究センター研究プロジェクト: 17件 ・ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト: 30件(うち科研新規5件) ・共同研究プロジェクト: 7件(うち新規3件)
	2【外部研究資金の獲得】 受託研究などによる外部資金を積極的に獲得する。  ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 : 年間30件、年間5千万円	2-1	【平成22年度計画】 ○外部研究資金獲得率の向上 ・申請、テーマの選定等に関する意見交換会の開催 ・科研費に関する教員説明会の開催 ○科研費申請者を高める為の新たな制度を検討する。 ○公募状況の提供 ・学内メーリングリストを活用しての情報提供 ○数値目標 ・外部研究資金への応募件数 : 60件以上 ・外部研究資金の獲得件数 (産学官連携分を除く): 30件以上 (外部研究資金獲得金額: 5千万円以上)		1	【平成22年度の実施状況】 ○外部研究資金獲得率の向上 ・申請、テーマの選定等に関する意見交換会の開催 大学生の就業力育成支援事業の申請に当たり検討会を開催 ・科研費に関する教員説明会の開催…10月6日実施(28名参加) ・〈看護学部〉「科学研究費補助金等、競争的資金申請支援制度」を設置し、 応募採択件数の向上を目指した(12名が制度を活用)。  ○公募状況の提供 ・各種募集要項を、その都度、関係教員に配布し、応募を勧奨 ○目標実績 ・外部研究資金等への応募件数 91件(新規72件、継続19件)(計画比: 152%) (内訳: 研究資金90件、その他の資金1件) ・外部研究資金等の獲得件数(産学官連携分を除く) 37件(新規17件、継続20件)(計画比: 123%) (内訳: 研究資金33件、その他の資金4件)  (外部研究資金等合計: 153,712千円)(計画比: 307%) (内訳: 研究資金44,477千円、その他の資金109,235千円)

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
	3【産学官連携の推進】 附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。  ○達成目標 ・産学官連携契約件数：年間2件	3-1	【平成22年度計画】 ○産学官連携ワーキンググループの活性化 ・活動を拡充して、教員のインセンティブを高める。 ・セミナーの開催：産学連携・特許・商標登録・IT技術などに関する研修会 ・学内メールマガジンの発行による、各地でのイベント、セミナー、公募事業の紹介 ○e-zukaトライバレー産学官技術交流会への参加 ・e-zukaトライバレー産学官技術交流会運営委員会への就任 ・教員への参加を積極的に呼びかける。 ・交流会での研究シーズの紹介  ○達成目標 ・産学官連携契約件数：2件以上（継続を含む） ・交流会参加者：4名 ・知的財産セミナーの開催：年1回 ・メールマガジンの発行：年12回以上 ・研究シーズの紹介参加者：3名以上（口頭発表、ポスターセッション等）		1	【平成22年度の実施状況】 ○産学官連携ワーキンググループの活動 ・九州経済産業局主催「知的財産セミナー事業」に採択され、2011年2月11日に知的財産セミナーを開催した。 テーマ「大学にとってブランドとは」 教職員・学生等35名参加 ・学外機関（福岡県新生活産業室、事業所、NPO、田川市など）との連携による、教員の意識向上 ・福岡県新生活産業室「くらし応援サービス体験フェア―新生活産業見本市」（2010年10月）への参加：本学のブースを設置しシーズ発表（准教授1名、助手1名）をおこなった。 ・福岡県新生活産業創出事業への参加：1研究（准教授1名）がシーズ発表、民間事業所とマッチング中 ・足と靴の相談室in福岡県庁：本学とNPO、民間事業所との連携によって開発された靴（FPU靴）のPR／販売、および靴の購入相談を受け付けるコーナーを福岡県庁地下1Fに設置した（准教授1名、助手1名、客員研究員1名）。 ・西日本国際福祉機器展への出展（2010年11月）：福岡県立大学福祉用具研究会がポスターセッション、ブースにてシーズ・研究成果を発表した（准教授1名、客員研究員1名）。 ・第3弾「女性のからだを感じるセミナー」福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センターと民間事業所との連携事業。 ・学内・メールマガジンの発行：3月末までに17回発行 ○平成22年度に、e-zukaトライバレー産学官技術交流会の活動縮小が通告され、同交流会に本学から運営委員を出すこと、同交流会におけるシーズ発表会が取りやめられた。 ○田川市、田川市内の民間事業所などとの産学連携研究を容易に進めるための基盤として、田川市と本学との間で包括連携協定を締結した。 ○目標実績 ・産学官連携契約件数：4件（うち新規2件） ・知的財産セミナーの開催：2011年2月10日開催 ・メールマガジンの発行：17回発行 ・研究シーズの紹介参加者：5名（新生活産業創出事業1名、くらし応援サービス体験フェア2名、西日本国際福祉機器展2名）
	4【研究費の配分】 研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するために、個々の教員の基礎的研究費を確保しつつ、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度を拡充する。  ○達成目標 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合：30% ・論文数（査読付、学術書掲載分）：90件以上 （人間社会学部40件以上、看護学部50件以上） ・学会発表（招待講演、シンポジスト招聘分）：10件以上 （人間社会学部5件以上、看護学部5件以上） ・特許・実用新案件数（取得済	4-1	【平成22年度計画】 ○理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度を充実（質的内容）する。 ○研究奨励交付金申請者を高める為の新たな制度を検討する。  ○数値目標 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合：30% ・論文数（査読付、学術書掲載分）：80件以上 （人間社会学部30件以上、看護学部50件以上） ・学会発表（招待講演、シンポジスト招聘分）：8件（人間社会学部4件、看護学部4件）		1	【平成22年度の実施状況】 ○理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ・全教員に研究奨励交付金の公募を通知（10月） ・研究奨励交付金応募数 プロジェクト研究 10件（前年より3件増） 個別研究 32件（前年より8件増）  ○目標実績 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合：30%（19,103千円） ・論文数（査読付き、学術書掲載文） 68件（人間社会学部23件、看護学部45件） ・学会発表（招待講演、シンポジスト招聘分） 25件（人間社会学部9件、看護学部16件）
		ウェイト総計		中期	22年度 5	

【ウェイト付けの理由】（年度計画）

- ・1：超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 3 社会貢献	「大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。」  大学が保有する人材や知識等を活用して、保健師、助産師、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士等を対象としたリカレント教育を実施するとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、地域住民の健康・福祉等に関する支援を実施し、積極的な社会貢献を果たす。					
中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
1 地域貢献  附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援等の実施】 ①新生児、子ども、成人、高齢者を対象とした健康教育を実施する。  ②保健・福祉・教育等に関わる個別の相談・支援を検討し、実施する。 不登校や発達障害、自然環境保全、健康づくり、青少年の非行防止など地域の住民や団体の相談に応じ、地域住民と連携して改善に取り組む。  ○達成目標 ・健康教室・相談等事業数 ：年間10件以上 ・参加者数・相談者数 ：年間個別相談参加者数50人以上 ：年間集団教育参加者数：500人以上 ・参加者・相談者アンケート ：75%以上の良好評価	1-1	【平成22年度計画】 【地域住民を対象とした健康教室の実施(ヘルスプロモーション実践研究センター)】 ○支援的環境づくり ・不妊支援事業：不妊相談および交流集会の開催を試みて ・健康大使(世にも珍しいマザークラス卒業生)への継続教育 ○地域活動の強化 ・「癒しの空間」の管理運営 ・健康教室の実施(ヒーリング講習会、ヒーリングワークショップ) ・健康教室の実施(世にも珍しいマザークラスinたがわ) ・地域におけるヘルスプロモーション環境作りのためのハーブ栽培 ・筑豊市民大学・看護ゼミ「ヘルシーエイジングを求めてPart6」 ・地域住民とともに創造する筑豊の健康長寿文化：学生と地域住民による長寿を楽しむ生活づくり ○個人技術の開発 ・健康教室の実施 (世にも珍しいマザークラスinふくおか) ・これで安心パパ・ママは名医だぞ(子供の病気の手当て) ○健康サービスの方向転換 ・慢性疾患セルフマネジメントプログラムワークショップ 6回コース：対象・・慢性疾患患者＋医療従事者 ○萌芽的事業 ・新たなコースの開設：ヒーリング・ティーティングコースの開設(東京) ・新たなマーケティングのための近隣市町村でのワークショップ開催 ○健康大使制度の構築と実施 ・昨年度までに育成した健康大使(マザークラス、ヒーリングクラス、ヘルシーエイジング)に正式に健康大使の称号を授与する。 ・健康大使授与式を実施する。 ・健康大使授与と記念シンポジウムを実施する。  ○数値目標 ・健康教室等：10件以上 ・参加者数：800人以上 ・参加者アンケート：75%以上の良好評価 ・新規健康大使育成数：20人以上			【平成22年度の実施状況】 【地域住民を対象とした健康教室の実施(ヘルスプロモーション実践研究センター)】 ○支援的環境づくり ・これで安心パパ・ママは名医だぞ(子供の病気の手当て) 8回実施 延べ参加者 663名(満足度81%) ・健康大使(世にも珍しいマザークラス卒業生)への継続教育 参加者 28名(満足度100%) ・不妊支援事業：・不妊当事者を対象に、不妊相談を目的としたパンフレット作成。個別相談3名。 ・地域住民とともに創造する筑豊の健康長寿文化：学生と地域住民による長寿を楽しむ生活づくり 学生 延べ人数104名 ・慢性疾患セルフマネジメントプログラムワークショップ 講師の急病のため開催できず。  ○地域活動の強化 ・「癒しの空間」の管理運営 延336名(内、ストレス数名、がん患15名)利用。 ・田川コース ① ヒーリング講習会オイルマッサージ基礎コース 12名 ② ハーブ栽培講座コース 5名 ③ ヒーリング論コース 5名 ・健康教室の実施(第5回世にも珍しいマザークラスinたがわ)同窓会 28名(満足度100%) ・健康教室の実施(第6回世にも珍しいマザークラス inたがわ) 5回実施 延べ参加者169名(満足度100%) ・筑豊市民大学・看護ゼミ「ヘルシーエイジングを求めてPart5」 8回開催 延べ参加者104名  ○個人技術の開発 ・健康教室の実施(第14回世にも珍しいマザークラスinふくおか)同窓会 35名(満足度100%) ・健康教室の実施(第15回世にも珍しいマザークラスinふくおか) 5回実施 述べ参加者158名(満足度100%) ・健康保育(健康大使) 9回実施 延べ参加者 709名  ○健康サービスの方向転換 ・福岡県糖尿病患者教育研究会 7回 参加者数 延べ60名 ・源流塾(2回/年)：1回目32名、2回目24名、延べ56名  ○萌芽的事業 ・新たなコースの開設 ・ヒーリング・ティーティングコース 2か所開設(東京12名、群馬10名) ・他大学へヒーリングおよび補完・代替療法の紹介、福岡大学医学部学生(135名)、岡山大学(20名)、神戸市(79名) ・月経何でも相談：性教育 2回実施(保護者対象) 延べ参加者45名 性教育 6回実施(中高生対象) 延べ参加者388名 個別相談8名 ・学生の禁煙サポート：喫煙防止教育 2回実施(保護者生徒対象)延べ参加者45名 ○育成した健康大使(マザークラス、ヒーリングクラス)に正式に健康大使の称号を授与した。 ○目標実績 ・健康教室等：22件 ・参加者数：延べ 3,313名 ・参加者アンケート：81%～100% ・新規健康大使育成数：104名(マザークラス74名、ヒーリング30名)

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
		1-2	<b>【平成22年度計画】</b> <b>【生涯福祉研究センター】</b> ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・おもちゃとしょかんたがわの運営（来館者数：延べ150名以上） * 開館日が祭日2回、入試関係2回重なり計4回閉館となるため ・お父さんお母さんの学習室の運営（相談者数：延べ40名以上） ・「足と靴の相談室」の運営（相談者数：延べ20名以上） ・アンビシャス広場（親子広場）の運営（月1回、利用者数：延べ7組以上） ・アンビシャス広場（童謡広場）の運営（月1回、参加者数：延べ40名以上） ・ボランティア養成ワークショップの開催（月1回、参加者数：のべ35人以上） ・福祉用具研究会の運営（5月～11月に7回開催） * 会員より開催期間・開催回数短縮の要望があったため		1	<b>【平成22年度の実施状況】</b> <b>【生涯福祉研究センター】</b> ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・おもちゃとしょかんたがわの運営（来館者数：延べ174名） ・お父さんお母さんの学習室の運営（相談者数：延べ50名） ・「足と靴の相談室」の運営（相談者数：延べ103名） ・アンビシャス広場（親子広場）の運営（週1回、利用者：延べ361名） Nobody's Perfect事業参加者を含む ・アンビシャス広場（童謡広場）の運営（月1回、参加者：延べ69名） ・ボランティア養成ワークショップの開催（月1回、参加者：延べ61名）、 ・福祉用具研究会の運営（5月～11月に7回開催、「西日本国際福祉機器展」11月11日～13日）  <b>【新たな取組】</b> ・足と靴の相談室in福岡県庁 ・平成22年6月より、福岡県庁地下1F売店コーナーでも、「足と靴の相談室」を開設 ・6月22日～24日、7月以降は第3火曜日・水曜日・木曜日に開催 ・7月7日 朝日新聞に紹介記事掲載 8月2日 KBCのニュース内で報道 11月21日TNCフレッシュ福岡県で報道 ・相談者数：延べ222名 ・Nobody's Perfect（5月22日～7月8日まで毎週1回、親子120組） 子育てに関するワークショップ。アンビシャス広場と共同で開催 生涯福祉研究センター共催事業 ・アンビシャスお話し会（出張1箇所を含む2箇所で実施9月～1月まで35名、老人保健施設で実施：12月～1月、11名）

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
		1-3	<b>【平成22年度計画】</b> <b>【不登校・ひきこもりサポートセンター】</b> ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○シンポジウムの開催 ○キャンパス・スクールの事業  <b>○数値目標</b> ・サポーター登録者数: 150名以上 ・サポーター派遣人数: 130名以上 ・教員対象研修回数 : 25回以上 ・教員参加者数 : 700名以上 ・シンポジウム開催回数: 年1回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数: 30名以上		1	<b>【平成22年度の実施状況】</b> <b>【不登校・ひきこもりサポートセンター】</b> ○県大子どもサポートセンター派遣事業の実施(平成22年4月1日～平成23年3月31日) ・サポーター登録者数: 185名 ・サポーター派遣者数: 127名(延べ1,181名) ○キャンパス・スクール事業(平成22年4月1日～平成23年3月31日) ・利用児童・生徒数 : 20名(延べ 762名) ○教員対象研修(平成22年4月1日～平成23年3月31日) ・教員対象研修回数 : 54回 ・教員参加者数 : 3,092名 ○シンポジウム開催 ・教育GPフォーラム(平成23年2月26日): 参加者数186名  <b>【新たな取組】</b> ・両学部で学ぶ専門的連携科目「不登校・引きこもり援助論」開講(履修者200名) ・福岡県少年補導員連絡協議会による活動表彰 (学生4名) ・平成22年度福岡県少年警察サポーター研修会での発表 (学生3名) 県立大からは研修会に28名が参加した。 ・学生主体の地域交流促進事業(泥んこドッジボール)主催(6月6日) 参加者174名内学生25名、NHKテレビで様子が放映された。 ・日本小児神経学会市民コンgresへの参加 学生14名、教員3名が発達障害について理解を深めた。 ・鎮西ウォークの主催(参加者26名うち学生4名) 地域人権啓発活動と協働した学生主体の地域交流促進プログラムを展開した。 NHKテレビにて様子が放映された。 ・湿地型ビオトープ構築への参画 (学生4名、教員2名が参加中) 地域の環境保全に資する取組に関与している。 ・北九州市若松区高等学校養護教諭研修会開催(8月4日) ・糟屋地区小中学校養護教諭研修会開催(8月9日) ・全国適応指導教室連絡協議会全国大会(7月28日・29日: 東京/文部科学省課長後援) にてセンター長が基調講演を行う。 ・全国少年警察学生ボランティア研修会(福岡県)に8名の学生が参加(9月10日) ・全国適応指導教室連絡協議会四国・九州地域会議(10月28日・29日: 久留米市)にてセン ター長が基調講演を行う。 ・ふれあいソフトボール大会(11月28日)(鎮西小学校の教員・PTA・県大子どもサポーター共同事業) ・福岡県警主催: 大学生に対する薬物乱用防止講演会(12月2日): 県大子どもサポーターが5名参加 ・警察ボランティア意見交換会(12月3日)に県大子どもサポーターが参加 ・NPO法人にじいるCAP主催あいち小児保健医療総合センター所長、杉山登志郎氏講演会(平成23年1月15日) : 県大子どもサポーターが13名参加 ・九州思春期研究ポストコンgres「発達障害を考える」研修(平成23年2月6日): 県大子どもサポーターが6名参加 ・警察ボランティアの福岡市家庭裁判所、福岡少年鑑別所施設見学(平成23年3月9日): 県大子どもサポーターが 3名参加



中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
		1-4	<b>【平成22年度計画】</b> <b>【社会貢献・ボランティア支援センター】</b> ○学生ボランティア活動支援事業 ・学生ボランティア及びボランティアサークル等の登録(登録目標 300人以上) ・学生へのボランティア活動及び社会貢献活動の情報提供 ・学生ボランティアに対する相談支援 ○地域での学生による社会貢献支援事業 ・学内外の関連機関(附属研究所の他のセンターや各地の社会福祉協議会のボランティアセンターなど)との連携強化 ・学内及び学外の依頼者及び依頼団体・機関の登録(登録目標 20件以上) ・学生ボランティアと学内外の活動依頼者とのコーディネートのための仕組みづくり ・コーディネートの実施(コーディネートした依頼者・団体及びイベントの把握) ○学生による社会貢献に関する教育支援事業 ・学生の活動に必要なスキル、マナー、活動先などに関する学習会や研修会の企画・実施 ・学生ボランティア活動者によるフォーラム(実践発表会)の開催 ※上記2点は、社会貢献論及び社会貢献演習の一環として行うものも含む。 ○学生による社会貢献に関する研究・調査事業 ・依頼者及び依頼団体に対するニーズ調査の実施 ・学生ボランティア活動者に対するニーズ調査の実施		1	<b>【平成22年度の実施状況】</b> <b>【社会貢献・ボランティア支援センター】</b> ○学生ボランティア活動支援事業 ・登録状況(平成23年3月31日現在) 学生307名 ・学生への情報提供 ホームページ、大学Webメール及び4か所の掲示板に随時紹介 ・相談支援 学生ボランティアサークルとの交流会を毎月1回実施 学生来所数917名(平成22年4月～平成23年3月31日) ○地域での学生による社会貢献支援事業 ・学内:学生に他のセンターの紹介 学外:ボランティア情報の交換等の連携 80件(平成23年3月31日現在) ・外部団体の登録件数 63件(3月31日現在) 高齢者に関する団体・施設:5件 精神障害者に関する団体・施設:2件 知的障害者に関する団体・施設:11件 身体障害者に関する団体・施設:4件 児童に関する団体・施設:7件 社会福祉協議会:6件 行政:28件(教育機関5件・地域振興23件) ・外部団体の学生ボランティアに対する依頼件数 80件(平成23年3月31日現在) ・登録制度の検討 外部団体及び学生の登録の流れを決め、ホームページに掲載、紹介 ・コーディネートの実施 コーディネート実施件数 35件(参加学生262名) 高齢者に関する団体・施設:4件 精神障害者に関する団体・施設:4件 知的視障害者に関する団体・施設:5件 身体障害者に関する団体・施設:2件 児童に関する団体・施設:9件 行政:11件(教育機関4件・地域振興7件) ・社会に貢献する活動の意義について学ぶ社会貢献論の企画・運営に参加 ・社会貢献活動に必要なコミュニケーション力を身につけ、活動を通じた体験的学修を行う社会貢献論演習の企画・運営に参加 ○学生による社会貢献に関する研究・調査事業 ・依頼者及び依頼団体に対するニーズ調査の実施(記述式) アンケート調査の回収率は90.9% ボランティア活動を「学生のスキルや人間性の向上に繋がりたい」という回答90%以上 ・学生ボランティア活動者に対するニーズ調査の実施 配布数105件で回収71件(回収率67.6%) ボランティア活動が、「実践的スキルの向上につながった」という回答が90%以上 ○平成22年度ふくおか共助社会づくり表彰(平成23年3月28日、於:博多サンヒルズホテル) 本センターが 先進的な取組で、将来性や波及効果が大いに期待されるものに授与される「共助社会づくり奨励賞」を受賞。

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	<p>2【資格・免許保持者等へリカレント教育や研修の実施】</p> <p>①保健師や助産師、看護師へのキャリアアップ及びリカレント教育・キャリアアップ教育臨床実習指導者講習会、教員養成講習会、実践健康教育士講習会など認定取得につながる講習会・リカレント教育糖尿病や難病、在宅酸素療法、オストメイト支援など各種専門分野の講習会、患者会支援方法など専門分野を深める講習会</p> <p>②社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育・社会福祉援助技術のスキルアップ研修や社会福祉制度・施策に関するシンポジウムの開催等のキャリアアップ及びリカレント教育を実施する。</p> <p>③公開講座の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の教育・研究の成果を地域に還元する。</li> </ul> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ・リカレント講習会開催数、受講者数 ：年間5コース、前年度以上</li> <li>・シンポジウム開催数、参加者数：年間1回、前年度以上</li> <li>・公開講座数、受講者数 ：年間3コース、前年度以上</li> <li>・参加者アンケート ：75%以上の良好評価</li> </ul>	<p>2-1【平成22年度計画】</p> <p>【リカレント教育等の実施(生涯福祉研究センター)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉従事者を対象としたシンポジウムの開催</li> <li>・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施</li> <li>・「山本作兵衛さんを「読む」会」の実施・運営 日記の読解・電子データ化作業 地域文化資料の視察・交流会</li> <li>・「漢詩を読む会」の実施・運営(月1～2回) 地域住民とともに漢詩を読解し、その意味や文 化的背景について議論する</li> <li>・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営 (月1～2回) 高等学校教員などを対象とする英会話スキ ルの向上</li> <li>・「足と靴のリカレント講座・初級」の実施</li> <li>・「筑豊市民大学」運営委員会の支援 共催団体として、運営委員会開催のサポート、 カリキュラム策定に関するアドバイスをおこな う。</li> <li>・「日本語クラブ田川」運営の支援。 共催団体として、同クラブの運営をサポート。</li> </ul> <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士従事者を対象としたシンポジウム ：80名以上</li> <li>・「特別支援教育・スキルアッププログラム」 ：10名以上</li> <li>・「足と靴のリカレント講座・初級」：10名以上</li> <li>・山本作兵衛さんを「読む」会：延べ参加者400名 以上</li> <li>・「漢詩を読む会」：延べ参加者30名以上</li> <li>・筑豊英語教員フォーラム：延べ参加者50名以上</li> </ul>		1	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○リカレント教育等の実施(生涯福祉研究センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉従事者を対象としたシンポジウムの開催：第3回福岡県立大学福祉学会の開催時に実施(平成23年2月、テーマ：時代の転換期と社会福祉)：参加者150名</li> <li>・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施：4月～7月に5回開催、幼稚園教諭、臨床心理士、保育士など、延べ135名が参加</li> <li>・「山本作兵衛さんを「読む」会」の実施・運営：56回開催、参加者延べ960名 日記の読解・電子データ化作業 地域文化資料の視察・交流会</li> <li>・「漢詩を読む会」：参加者 延べ32名</li> <li>・「筑豊英語教員フォーラム」：参加者 延べ48名</li> <li>・「足と靴のリカレント講座・初級」の実施(「第2回足の健康講座」開催 10月30日、31日 受講者15名)</li> <li>・「筑豊市民大学」運営委員会の支援：運営委員会への参加、企画立案への助言など</li> <li>・「日本語クラブ田川」運営支援：23回開催 共催団体として、同クラブの運営をサポート、企画・会場運営への助言など</li> </ul> <p>【新しい取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護者研修会」の実施：NPO福祉用具ネット主催・生涯福祉研究センター共催 対象：病院・施設・在宅などで介護に携わっている者、医療・福祉の学生 会場：福岡県立大学 第1回「摂食・嚥下障害がある方への対応について Part1」(6月12日：参加者57名) 第2回「医療依存度が高い方の介護のポイント」(7月17日：参加者50名) 第3回「摂食・嚥下障害がある方への対応について Part2」(8月21日：参加者50名)</li> <li>・NPO福祉用具ネット主催、福祉用具研修会への支援・協力 対象：病院・施設・在宅などで介護に携わっている者、医療・福祉の学生 会場：福岡県立大学 「尿吸引ロボ・ヒューマニーの使い方」(5月22日：参加者124名) 「オムツフィッター3級研修会」(9月17日～18日：参加者45名)</li> <li>・生命保険実学講座(2月2日：参加者：教職員4名、学生10名) (財)生命保険文化センターより講師を招き、生命保険に関する個別相談会と、公的年金制度・生命保険商品のあり方に 関する講習会を開催した。</li> </ul> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士従事者を対象としたシンポジウム：参加者150名</li> <li>・「特別支援教育・スキルアッププログラム」：参加者 延べ135名(27名/1回)</li> <li>・「足と靴のリカレント講座・初級」：受講者15名</li> <li>・山本作兵衛さんを「読む」会：(56回実施、参加者 延べ960名)</li> <li>・「漢詩を読む会」：参加者 延べ32名</li> <li>・筑豊英語教員フォーラム：参加者 延べ48名</li> </ul> <p>【新しい取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護者研修会」：157名</li> <li>・福祉用具研修会：169名</li> <li>・生命保険実学講座：14名</li> </ul>

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
		2-2			
		<p>【平成22年度計画】</p> <p>【リカレント教育等の実施(ヘルスプロモーション実践研究センター)】</p> <p>○地域活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職へのリカレント教育(世にも珍しいマザークラス医療者セミナー)</li> <li>・福岡県立大学看護学部実習調整会議</li> </ul> <p>○健康サービスの方向転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性疾患セルフマネジメントプログラムワークショップ</li> </ul> <p>6回コース:対象・・慢性疾患患者＋医療従事者</p> <p>○個人技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康保育(健康大使)</li> <li>・福岡糖尿病患者教育研究会 1回／月開催 対象:糖尿病認定看護師、糖尿病患者教育に関心のある看護職</li> </ul> <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ・リカレント講習会開催数 :年間10コース以上</li> <li>・キャリアアップ・リカレント講習会受講者数 :300名以上</li> <li>・シンポジウム開催数 :年間1回</li> <li>・シンポジウム参加者数:100名以上</li> <li>・参加者の満足度 75%以上の良好評価</li> </ul>			<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>【リカレント教育等の実施(ヘルスプロモーション実践研究センター)】</p> <p>○地域活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職へのリカレント教育(身体感覚活性化マザークラス)延べ参加者数123名参加。(満足度98.1%)</li> <li>・福岡県立大学看護学部実習調整会議 1回/年</li> <li>・臨床実習指導者を対象に、実習での指導力向上と学生支援環境づくりのための研修会、57名(内 教員20名)</li> </ul> <p>○健康サービスの方向転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡糖尿病患者教育研究会 10回実施 参加者人数 延べ74名</li> </ul> <p>○個人技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健康見守り隊(保育看護学習会) 92名</li> </ul> <p>【新たな取組】</p> <p>○地域活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院公開講座(精神CNSコース):参加者数141名</li> </ul> <p>○個人技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母乳育児支援を学ぶ九州教室(医療者を対象とした母乳育児支援に関する教育) 延べ491 名参加。</li> <li>・地域在宅推進における実務者研修会:2回(京築60名・宗像89名)149名(満足度100%)</li> </ul> <p>○海外交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイ・コンケン大学看護学部との国際協働展開(コンケン大学看護学部教員及び学生によるヘルプロ視察)実施 5名</li> <li>・中国の北京中医薬大学看護学部との国際協働展開 中医看護学の4日間集中演習実施 学生参加 55名 看護師参加 38名 教員参加 17名 計110名(満足度93.9%)</li> </ul> <p>○健康サービスの方向転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホリスティック看護へのいざない 2回実施 参加者人数 延べ308名</li> <li>・いのちを見つめるワークショップ:福岡市33名参加</li> </ul> <p>○健康的な公共政策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡県在宅推進会議での協議:福岡県庁 2回/年、保健環境事務所8回/年 参加者数:39名</li> <li>・福岡県介護保険広域連合地域包括支援センター地域ケア推進協議会:2回/年 参加者数:54名</li> <li>・在宅ホスピスシンポジウムを開催:「最期まで我が家で暮らしたいーこの願いをかなえるためにー」</li> </ul> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ・リカレント講習会開催数 :年間13コース</li> <li>・キャリアアップ・リカレント講習会受講者数 :1,676名</li> <li>・シンポジウム開催数 :1回</li> <li>・シンポジウム参加者数:86名</li> <li>・参加者の満足度:93～98%の良好評価</li> </ul>

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
		2-3		1	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○公開講座の実施            ・講座数:3コース 全体テーマ:『こころの悩みをかかえていませんか?』(各コース 定員30名)            公開講座Ⅰ:「うつ病のケアと自殺予防」(全3回、受講生32名、9月10日～10月23日)            ・アンケート:おおむね満足以上 73.3%            公開講座Ⅱ:「学校における心の病気のサインを見逃さないために」(全3回、受講生41名、10月14日～11月4日)            ・アンケート:おおむね満足以上 90.0%            公開講座Ⅲ:「高齢者の心理学 ～認知症・記憶・心理臨床～」(全3回、受講生64名、10月23日～11月6日)            ・アンケート:おおむね満足以上 71.2%</p> <p>○公開講座の開催地・対象者の検討            ・本年度は公開講座Ⅱを福岡市博多駅周辺で開催した。            ・公開講座Ⅰは壮年期、公開講座Ⅱは学童・青年期、公開講座Ⅲでは老年期の心の課題を中心にを行ったため、各講座の対象者は限定された(一部に重複があった)。</p> <p>○公開講座小部会体制の活性化            ・新たに、社会貢献・ボランティア支援センターが参加し、4センター支援体制になった。</p> <p>○目標実績            ・講座数:3コース(9～11月に開催)            ・受講者:受講者137(総定員90)名(延べ305名)            ・アンケート:良好評価以上 77.3%</p>
		2-4		1	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター)            ・九州糖尿病認定看護セミナー開催 3月予定            ・看護協会認定部への報告書の作成</p> <p>○数値目標            ・受験倍率 3倍            ・受講生満足度 4以上 90%            ・修了試験合格率 100%            ・認定試験合格率 100%</p> <p>【新たな取組】</p> <p>○糖尿病看護実践能力向上のためのフォローアップ研修の実施            ・対象:認定看護師教育課程修了生            ・時期:平成22年7月10・11日(2日間)            ・参加率:88%(対象者16名中14名)            ・受講生満足度:4以上 100%</p> <p>○糖尿病健康教育活動の実施            ・「正清会(明日の田川を拓く会)2月度例会」にて講演を行った。            開催日:平成23年2月7日            テーマ:「知って得する糖尿病予防の話」            参加者数:25名            ・「田川ライオンズクラブ2月度第二例会」にて講演を行った。            開催日:平成23年2月17日            テーマ:「血液事業と私たちの健康」            参加者数:70名</p> <p>○目標実績            ・認定試験合格率 94%            ・受講生満足度4以上 58.8%            ・受験倍率 1.65倍(志願倍率2.27倍)            ・修了試験合格率 100%</p>

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
2 国際交流  保健・福祉にかかわる人材育成のために、中国や韓国の大学等と相互の教育・研究を推進する。	1【保健福祉に関する教育情報の交換及び研究成果の発信】 ①福祉系の総合大学として、中国・韓国の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 保健福祉の分野は未開拓であり、福祉系の総合大学である本学の特徴を活かし、情報交換することは、本学の教育・研究においても有益である。 例えば、看護の分野では予防医学的見地から漢方、気功、ヨガ、指圧など、代替療法として着目しているところである。 また、アジアの近隣諸国では福祉従事者養成の取り組みに対し、本学が十分貢献できる状況にある。 ②中国・韓国の大学との教育交流協定締結校の数を増やす。  ○達成目標 ・シンポジウム等開催数 ：平成20年度より年1回以上 ・教員交流数：年6名以上 ・学術教育交流協定締結大学数：平成23年度までに4大学以上 （中国2大学、韓国2大学）	1-1	【平成22年度計画】 ○情報交換と発信の検討 ・英語版大学ウェブサイト掲載情報の充実 ・コリア語ウェブサイトの開設	<div></div>	1	【平成22年度の実施状況】 ○情報交換と発信の検討 ・英語版大学ウェブサイト掲載情報の充実 ・10月に教員情報の更新を行った。 ・充実を図るための重点強化のコンテンツを、「国際交流事業」に決定し内容の掲載を行った。 ・コリア語ウェブサイトの開設 ・10月にコリア語のウエブサイトを開設した。 ・11月にウエブサイトの更新を行った。
		1-2	【平成22年度計画】 ○学術交流する大学の継続的検討 ・韓国または中国、タイ(コンケン大学)の大学との研究、意見交換、協議を行なう。 ・福祉、看護に関する協定校との研究交流(シンポジウム)等を行なう。 ・韓国・三育大学校との交流協定書の締結予定  ○数値目標 ・交流協定締結予定校訪問：新たに1校以上 ・教員交流：延べ15名以上	<div></div>	1	【平成22年度の実施状況】 ○学術交流する大学の継続的検討 ・韓国・三育大学校との交流協定締結式を行った。総長と2名の教員が来学(5月)。 ・タイ・コンケン大学との教員交流 ①精神看護学の教員4名が本大学を訪問、研究交流を行った(5月)。 ②ホスピス並びにコンケン大学におけるホリスティックタッチ講習会開催のための調整と現地調査、1名派遣(8月―9月)。 ③コンケン大学におけるホリスティックタッチ講習会開催、1名派遣(1月)。 ・大邱韓医大学校からの教員1名が訪問研究員として後期期間中、本学に滞在。 ・北京中医薬大学との教員交流 ①看護学部教員1名を派遣(北京中医薬大学の1年生を対象に英語で看護学を教える)(平成22年3月―5月)と(平成23年2月―4月)。 ②北京中医薬大学看護学院2名の教員が1ヶ月滞在し、看護学部生、糖尿病認定看護教育課程の学生、助産師専攻学生を対象にそれぞれ15コマ、15コマ、12コマ集中講義・演習を実施した(8月―9月)。来年度からの単位化については 検討中。 ③北京中医薬大学での招聘講演、附属病院見学など、2名派遣(12月)。 ○目標実績 ・交流協定締結校 1校 ・教員交流：延べ16名

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
	2【交換留学制度の拡大・短期研修制度の導入】 ①交換留学生の数を増やす。 現在、中国の南京師範大学と相互に年間1名の留学生を受け入れている。今後、交流協定の拡大及び新規協定によって、複数の留学生が学べるようにする。本学で学んだ学生が中国や韓国で活躍することは、国際交流の人的資源として活用したり、情報提供に有益である。 ②短期研修制度を導入する。 長期留学にはもろもろの理由で参加できない学生のため、夏季休暇等を利用した短期研修制度を新設し、学生の国際交流を一層増やす。異文化理解、語学力の向上などにより相互理解が深まる。 ③学部生、大学院生の留学受け入れを検討する。  ○達成目標 ・交換留学生数 ：平成20年度より4名以上	2-1	【平成22年度計画】 ○交換留学生の増加対策の実施 ・受け入れ留学生のホストファミリー先確保の継続(6件以上) ・派遣・受け入れ留学生に対する更なる支援制度の整備(チューター制度の充実や男子学生の受け入れ体制の問題点を整理し体制の充実を図る) ・受け入れ留学生に対する日本語教育の充実 ・留学生の日本文化探訪の充実  ○数値目標 ・交換留学生6名以上	1	2	【平成22年度の実施状況】 ○交換留学生の増加対策の実施 ・中国・南京師範大学、韓国・大邱韓医大学校への今年度の交換留学生募集を開始し、南京留学への奨学金支給留学生1名を決定した。さらに大邱へ4名、南京へ1名を追加した。 ・大邱韓医大学校から交換留学生として3名が、南京師範大学から3名が来学した。 ・受け入れ留学生についてはホストファミリー4件を確保し、チューターは6名それぞれに配置した。 ・日本語教育については4科目を開講している。 ・第1回～第8回留学生支援事業を行った(英彦山登山、「日展」鑑賞、クラシックコンサート鑑賞、唐津市歴史施設見学、小石原焼窯元見学、大相撲九州場所観戦、九州国立博物館等、長崎ランタンフェスティバル、) ・10月の飯塚市での日本語スピーチコンテストに留学生が参加、最優秀賞を受賞した。 【新たな取組】 ・オープンキャンパスにおいて「留学体験を聴こう」を開催した(参加人数23名) 【目標実績】 ○交換留学生8名(派遣留学生2名、受入れ留学生6名)
		2-2	【平成22年度計画】 ○学生の海外短期語学研修の実施(1コース) ・場所:オーストラリア・モナッシュ大学 ・時期:3月 ・期間:3週間  ○海外短期語学研修の単位認定の実施 ・平成22年度に単位認定を実施する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○学生の海外短期語学研修の実施 ・学生の海外短期語学研修をオーストラリア・モナッシュ大学(2月～3月、3週間)において行うこととなり、募集を開始し、本学から4名が参加した。 ・ハワイ大学での語学研修を準備した。 同大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジを拠点とし、大学関連の保育園、デイケア・センター、病院などを訪問し、交流する。  ・「海外語学実習」の平成23年度開講に向け、部会でその案を検討し、全学教務部会へ諮問し、2011年8月～9月、2週間と4週間の2つのコースで実施される。この授業はパース・オックスフォードプログラムと提携して行われる。
		2-3	【平成22年度計画】 ○学部生、大学院生の留学受け入れの検討を継続 ・現在のところ、南京師範大学の卒業生が科目履修生や正規大学院生(平成22年度3月卒業)として在籍した実績があるが、大学として受け入れ条件等を検討する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○学部生、大学院生の留学受け入れの検討を継続 ・部会において検討中。正規大学院生3名が在籍中。
				ウェイト総計		中期

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・4-1:保健福祉の分野における国際交流は、未開拓である。このため、この分野での中国・韓国との交流を深めるために留学生の受入対策を整備し、学生の交流事業の推進を図る。

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
社会貢献に関する特記事項(平成22年度)					
【附属研究所を中心とした新たな活動】 研究所に設置されている4つのセンターの連携をもとに展開される事業として下記のプログラムを展開した。 ① 総合型地域スポーツクラブの運営と拠点作り ヘルスプロモーション実践研究センター、生涯福祉研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターが連携して、総合型地域スポーツクラブの展開とスポーツ離れに関する調査研究(田川市中学生対象)を行った。産学官民プロジェクトである調査研究は、すでにデータ分析を終え、報告書としてまとめた。 ② 地域幼小中高大連携プログラム 教科「英語」を題材として、地域の幼稚園から大学まで、英語教育に携わる教員の連携を図り、そこから地域のちからを高める取組につなげた。 ③ 県大ー西工大ジョイントプログラム 不登校・ひきこもりサポートセンター、ヘルスプロモーション実践研究センターが連携して、苅田町の子育て・家庭教育の悉皆調査結果をもとに、苅田町白川小学校区において子どもの居場所作り事業を、苅田町、県立大学、西日本工業大学のジョイントプログラムとして行った(対象児童20名、学生10名)。 ④ 県大杯の企画運営 不登校・ひきこもりサポートセンター、生涯福祉研究センターが連携して、特別支援学校のサッカークラブ間の招待試合を行った(参加250名)。 運営には田川市サッカー協会、総合型地域スポーツクラブが共同であったり、福岡県、田川市、田川市医師会の後援を得た。あわせてサッカー絵画コンクールも開催し、サッカー部以外の生徒たちの参画を可能とした。合計47枚の応募があり、一般投票で81名の方が優秀賞等を選んだ。 ⑤ 県大ー田川市立病院ジョイントプログラム HPVワクチンの普及啓発について、小中学生の保護者を対象に、県立大学と田川市立病院が合同で企画を展開した。金川校区及び鎮西校区で行い、参加は順に50名、40名だった。			【田川市・福岡県立大学包括連携協定策定にむけた取組】 田川市と福岡県立大学は8名の委員からなる「官学連携検討委員会」を立ち上げ、4度の会議の後、「田川市・福岡県立大学連携協議会」の設置にむけた中間報告を行った(平成22年8月11日)。包括連携協定策定の過程においては、「まちづくり」「保健・医療及び福祉の充実」「観光振興及び産業活性化」「教育・文化・歴史及びスポーツの振興」「人材の育成や交流」「国際交流」等の具体的連携が検討された。田川市と県立大学は平成22年10月5日に、包括連携協定に調印した。連携協議会のメンバーは、市長、学長等8名である。		
【教員免許状更新講習の開講】 平成21年度から教員免許更新制が導入されたことに伴い、文部科学省の認可を受けて、平成22年8月に4講座を開講した。 その内容は、全教員を対象とした教育の最新事情を1講座、養護教諭・高校教諭「看護」等を対象とした教育内容の充実が3講座である。					
講座の概要					
講習期間	講義の名称	主な受講対象者	時間数	受講者数	
8月23、24日	教育の最新事情	全教員	12時間	97人	
8月17日	疾病の理解と病弱児への支援	養護教諭、教諭(特別支援教育、看護、保健)	6時間	40人	
8月18日	生命の誕生と生き方への支援	養護教諭、教諭(特別支援教育、看護、保健)	6時間	40人	
8月19日	歯の健康とQOLを支える食と救急	養護教諭、教諭(特別支援教育、看護、保健)	6時間	39人	
			計 30時間	計 216人	

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 4 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」  大学は、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を策定し、大学の有する資源を最大限に活用して、主体的・自律的な大学運営を確立する。 理事長を補佐するため、事務局による支援体制を強化する。				
中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
1 運営体制の改善  教育研究の発展 および地域貢献 推進のため、理事長のリーダーシップによる戦略的な業務運営体制の確立を推進する。	1【全学的視点からの戦略的な学内資源配分の実施と事務局機能の強化】 理事長が中心となって策定した教育研究目標に従って、予算及び人員の効率的配分を行う。	1-1	【平成22年度計画】 ○プロジェクト研究(研究奨励交付金)の促進 ○学部業務の支援を図るため、両学部にと事務補助スタッフを継続配置 ○事務局体制の強化を図るため、事務及び人員配置の見直し  ○達成目標 ・プロジェクト研究:1千万円以上 ・事務補助スタッフ配置:各学部1名	1	【平成22年度の実施状況】 ○プロジェクト研究(研究奨励交付金)の促進 ・改革セミナーで、科学研究費申請促進を目的に、説明会を実施した。 ○両学部にと事務補助スタッフを継続配置した。 ○事務局体制の強化 ・ホームページ・PCヘルプデスク専門職員を雇用した。  ○目標実績 ・プロジェクト研究費 10,096千円を確保した。 ・事務補助スタッフを両学部にと1名配置した。
	2【教育研究組織の編成・見直し】 理事長のリーダーシップのもとに行われる大学全体の自己点検・評価等に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しを行う。	2-1	【平成22年度計画】 ○全学共通科目・教養教育を充実するための再編を検討 ○両学部ごとの将来構想ワーキンググループを設置 ○助教導入による教育体制の充実 ・助手の助教への昇任の推進 ○博士課程の検討の継続 ○特任教員、客員教員制度の活用	1	【平成22年度の実施状況】 ○全学的カリキュラムの検討 平成18年度には全学的にカリキュラム再編・教育内容の見直しのワーキンググループを設置し、平成19年度には全学カリキュラム検討委員会を設置、助教制度の導入、人間社会学部社会学科を「公共社会学科」に変更した。平成20、21年度には全学教務部会で引き続き検討を重ねた。 平成22年度も全学教務部会において定期的に、両学部にとまたがるカリキュラムに関する検討を行った。  ＜人間社会学部＞ ○人間社会学部将来構想委員会を設置し、10回の検討委員会(平成22年6月30日～10月20日)を開き、その間の審議内容をとりまとめ、平成22年12月21日に理事長・学長に報告を行った。 ○人間社会学部においては、平成22年12月1日の教授会で、助教の公募を提案し、選考委員会を設置し審議の結果、候補者2名を理事長・学長に推薦した。 ○博士課程の設置に関しては継続して検討を行っている。 ○特任教員は教職課程の科目を担当し、公共社会学科の学生が受講している。  ＜看護学部＞ ○将来構想プロジェクト会議を月1～2回行って、将来構想を取りまとめた。 ○特任教授を活用する体制を取り(1名)、また、臨床教授制度を導入した。さらに特任教員規程、客員教員規程を作成し、看護学部にと特任准教授の任用及び客員教員の委嘱を行った。 ○助手の助教への昇任を1名行った。



中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
		2-2		1	【平成22年度の実施状況】 ○看護学部学系制の推進 学系制における看護学部運営システムの構築 ・助手の実習・授業参加体制の柔軟化 ・助手の他領域実習の参加(領域実習・総合実習) ・実習オリエンテーションに領域を越えて参加し、他領域の実習内容を知り、実習教育のあり方を検討した。 ・資源の柔軟な活用 部屋予約システムを活用し、実習室の共有化をはかっている。 ・意思決定システムの明確化 4月:学部長と助手会の語り合いで、意思決定システムを説明 ○目標実績 3学系共に学系会議を月1回以上行った。
		【看護学部】 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の検討 ・ヒヤリハット防止の推進 ・「安全で確かな事故防止能力を身につけるために」の内容充実を図る。 ・使用状況と内容の検討を行い、適宜修正・追加を行う。 ・実習前、学生及び臨地実習の施設に配付し、効果的な活用を促す。 ・ヒヤリハット報告を徹底させ、防止策を検討 ・感染症対策マニュアル配付 ・インフルエンザ対策の強化を図る:学生へ「健康履歴」のファイルを配布し、健康管理を徹底させる。 ・実習教育体制の強化 ・学生の実習状況を把握し、次期実習領域に引き継ぐ ・報告をもとに学生を把握し、指導に当たる。 ○達成目標 ・ヒヤリハット報告の徹底 ・事例検討を評価し、事故再発防止対策作成 ・「安全で確かな看護を身につけるために」見直しと改訂			○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の検討 ・ヒヤリハット防止の推進 ・「安全で確かな看護を身につけるために」の中に事故防止能力の強化を盛り込みを3年次生、実習施設、教員に配布した。 内容を再点検し次年度に配布する準備をした。 ・ヒヤリハット報告10件、防止策を検討した。 ・感染症対策マニュアル配付 ・インフルエンザ対策の強化を図る ・学生へ「健康の履歴」のファイルを配布・活用 ・健康管理:うがい、手洗い、必要時マスク着用を徹底させた。 ・実習教育体制の強化 学生の実習状況を次期実習領域に引き継ぎ、指導にあたった。実習中の天候不良による通学の困難による実習の中止は各領域で判断することを確認した。 ○目標実績 ・ヒヤリハット報告の徹底 報告はその都度おこなわれ、徹底した。 ・事例検討を評価し、事故再発防止対策作成 ヒヤリハット事例ごとに検討し防止策を検討した。 ・「安全で確かな看護を身につけるために」見直しと改訂を行った。

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
		3-2	【平成22年度計画】 ○防犯講習会の開催 ・新学期ガイダンス及び適宜防犯講習会を行う。 ・啓発資料の作成及び配付を行う。 ○薬物乱用防止講習会の開催 ○消防訓練の実施  ○達成目標 ・防犯・防災講習会:年1回 ・薬物乱用防止講習会:年1回 ・学生寮の避難訓練:年1回 ・消防訓練実施回数:1回		1	【平成22年度の実施状況】 ○防犯講習会の開催 ・第1回防犯教室(新入生オリエンテーション、4月6日)を実施 参加者 250名 ・新入生オリエンテーションにおいて、冊子「新入生へのメッセージ」を配付 ・第2回防犯教室(5月26日、対象3・4年次生)を実施 参加者 100名 ・第3回防犯教室(6月3日、対象2年次生)を実施 参加者 100名 ○薬物乱用防止講習会の開催 ・新入生オリエンテーション(4月6日)にて実施 参加者 250名 ○消防訓練の実施 ・学生寮(すずかけ寮)にて消防訓練を実施 7月7日、参加者 34名 ・大学の消防訓練を実施 11月18日、参加者 475名
2 人事の適正化  戦略的・効果的に 人的資源を活用 し、非公務員型を 生かした柔軟かつ 多様な人事シ ステムを構築す る。	1【教員の個人業績評価システムの導入と給与への反映】 ①評価対象を教育(FD活動を含む)・研究・地域貢献・学内運営とし、各分野のウェイト付け、各評価項目の評価基準及び評価者の確定、評価項目に応じた評価期間の設定等を行う。 ②評価結果を給与に反映させる。	1-1	【平成22年度計画】 ○平成21年度分の評価を行う。 ○実施日程 ・自己申告書提出(4月) ・評価の実施(5月～7月) ・評価結果の通知(7月) ○評価結果の給与への反映 ・業績年俸への反映 ・報奨金への反映 ・時期:12月  ○達成目標 ・評価の実施		1	【平成22年度の実施状況】 ○平成21年度分の評価を行った。 ○実施日程 ・自己申告書を4月に提出させた。 ・5月から7月に評価を実施した。 ・7月に評価結果を通知した。 ○評価結果を給与に反映した。 ・12月に業績年俸及び報奨金へ反映させた。
	2【任期制の導入】 全教員を対象とした任期制を導入する。	2-1	【平成22年度計画】 ○全教員を対象とした任期制の導入  1-3-12-(2)		1	【平成22年度の実施状況】 ○ 新規採用教員に対しては、任期制を導入している。  ・任期制教員 : 57.3 % (平成23年4月1日現在)
		ウェイト総計		中期	22年度 6	

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 5 財務	「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」  大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、重要な自己財源である学生納付金のあり方について検討するとともに、外部研究資金の獲得に努め、社会人向け教育サービスや資産の有効活用などによる新たな収入の確保にも積極的に取り組む。 経費については、人員配置や業務内容の見直しを推進し、その抑制を図る。
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
1 自己収入の増加  学生納付金のあり方を検討する。 また、固定資産の活用や外部研究費の獲得等により、収入の増加を図る。	1【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②学生納付金の未納に対する取組を強化する。  ○達成目標 ・学生納付金収納率:100%	1-1	【平成22年度計画】 ○分割納付者の口座引き落としの検討 ○未納者への督促強化  ○達成目標 ・過年度分の分割納付者を除く過年度分未納額の解消 ・22年度分未納率:0%		1	【平成22年度の実施状況】 ○ 分割納付者の口座引落としの検討について、分割納付による毎月(年12回)の引落とし が可能か否 かについて金融機関と協議した結果、手数料増となるため従来どおり(年4回)とした。 ○ 未納者への督促強化については、徹底した電話による督促さらに面談の実施など督促強化に努めた。 ○ ・ 過年度未納額の解消に向けて、平成21年度の未納者(1名:267,900円)と分割契約を締結し、全ての過年度未納者と分割契約を締結した。 【納付状況】 ○過年度分(平成23年3月31日現在) ・期首未納額 : 3,308千円 ・納付額 : 1,427千円 ・未納額 : 1,881千円 ・未納率 : 56.9% ○22年度分(平成23年3月31日現在) ・期首未納額 : 571,743千円 ・納付額 : 570,225千円 ・未納額 : 1,518千円 ・未納率 : 0.27%
	2【その他の料金による収入の確保】 ①教室、講堂等の大学施設を開放し使用料金を徴収する。また、適切な施設はテナント貸しし、自己収入の増加に努める。 ②リカレント教育、キャリアアップ教育等における研修会の料金を設定し、徴収する。	2-1	【平成22年度計画】 ○教室、講堂等の大学施設の開放に伴う使用料金の徴収、施設のテナント貸しの実施 ○施設使用要項及び不動産管理規則に基づき、収入の確保に努める。  ○数値目標 ・使用料 :600千円 ・財産貸付料:540千円		1	【平成22年度の実施状況】 ○施設の貸出については、地域でのイベント等利用促進に向け、ホームページ等での情報発信を行った。  ○施設使用料 ・金額 : 906千円 (計画比151%) ・件数 : 47件 ○財産貸付料 ・金額 : 561千円 (計画比103%) ・件数 : 8件
		2-2	【平成22年度計画】 ○リカレント教育、キャリアアップ教育等における研修会料金の設定、徴収の実施 ○県立大学が徴収する料金の上限及び当該料金等一覧に定められている「当該講座開設に要する費用」に基づき定め、受講料の収受を行う。  ○数値目標 ・徴収額:4, 992千円		1	【平成22年度の実施状況】 ○ 公開講座を地元地域を始め多くの方に受講してもらうため、田川市広報にプレスリリースを行うとともに、ホームページにも開設講座を掲載し、周知を図った。  ○ 今年度から受講者が多い福岡市において講座を開催した。  ○ 目標実績 ・徴収額: 4,171 千円 (計画比83.5%)

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
	3【外部研究資金の獲得】 受託研究などによる外部資金を積極的に獲得する。  ○達成目標 ・外部研究資金獲得金額 ：年間5千万円以上	3-1	【平成22年度計画】 ○外部研究資金等の獲得 ○数値目標 ・外部研究資金等合計：5千万円以上		2	【平成22年度の実施状況】 ○以下のとおり外部研究資金等を獲得した。 ・外部研究資金等合計 37件 153,712千円(計画比307%) 〈内訳〉 ①文部科学省科学研究費補助金 (計10件 11,310千円、新規6件 8,450千円、継続4件 2,860千円) ②日本学術振興会科学研究費補助金 (計19件 29,480千円、新規7件 15,830千円、継続12件 13,650千円) ③質の高い大学教育推進プログラム(教育GP) (計1件 18,000千円、新規0件 0千円、継続1件 18,000千円) ④大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム (計1件 70,081千円、新規0件 0千円、継続1件 70,081千円) ⑤大学生の就業力育成支援事業 (計1件 19,953千円、新規1件 19,953千円、継続0件 0千円) ⑥その他受託研究等 (計5件 4,888千円、新規3件 1,692千円、継続2件 3,196千円)
2 経費の抑制  人件費抑制と組織的な目標管理に取り組み、経費を節減する。	1【人件費の抑制】 ①大学設置基準を踏まえ、人員配置を見直す。 ②業務内容や手順を洗い直し、適切に人員を配置する。  ○達成目標 ・人件費削減率 ：法人化前5%以上	1-1	【平成22年度計画】 ○人件費5%(毎年1%)、年6,500千円削減する人員計画の検討 ○アウトソーシングを引き続き検討  ○数値目標 ・削減額：6,500千円以上		1	【平成22年度の実施状況】 ○人件費の削減に向け、各班における事務量の洗い出しを行うとともに、事務の簡素化及び適切な人員配置になっているかについて検討した。 ○アウトソーシングについては、三大学において、給与のアウトソーシングに向けて検討委員会を立ち上げ、協議を行った結果平成23年度から一部の期間において試行開始を決定した。  目標実績(前年度比)削減額：14,140(千円) H21実績 → H22実績 人件費：742,415(千円) 728,275(千円)

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項		中期	年度	
	2【光熱水費・通信費の節減】 省エネ推進期間の設定など、省エネルギー対策等を徹底して実施し、光熱水費の節減に努める。  ○達成目標 ・光熱水費・通信費削減率 :通信費を5%削減 （平成17年度比） 看護学部完成年度(平成18年度)中に電気・水道・灯油使用料の節減目標設定	2-1【平成22年度計画】  ○通信費の節減 ・通信費を1%削減する。 （平成17年度比5%節減）  ○数値目標 ・削減額:370千円以上(対平成17年度決算7,388千円)		1	【平成22年度の実施状況】  ○ 通信費の節減に向けて、平成22年度からメール便業者を郵便局に変更契約を行った。このことにより、メール便利用を促進し通信費の節減を図った。  ○17年度決算額 : 約 7,388千円 ○18年度決算額 : 約 7,131千円 ○19年度決算額 : 約 5,781千円 ○20年度決算額 : 約 6,435千円 ○21年度決算額 : 約 7,019千円 ○22年度決算額 : 約 5,891千円 ○対17年度比 : 79.7%
		2-2【平成22年度計画】  ○光熱水費の節減 ・省エネルギー推進部会により、全学的な取組で電気、水道、ガス使用料の節減目標を設定し、節減運動を展開する。（光熱水費の増加ゼロ）			1
				ウェイト総計	中期

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 6 評価	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」  教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、その評価結果を速やかに公表する。 計画・実行・評価・改善の仕組みを確立し、教員の個人業績評価、県評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。				
中期計画		平成22年度計画		ウェイト	計画の実施状況等
項目	実施事項			中期   年度	
1 評価の充実  自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。また、教員の個人業績評価の評価結果を給与に反映させ、大学運営の改善につなげる。	1【自己点検・評価の実施と結果の公開及び各種評価結果の大学運営への反映】 ①本学の教育・研究及び組織運営に関して評価を実施し、評価結果の改善に努める。また、評価結果を公開する。 ②認証評価機関や県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。	1-1	【平成22年度計画】 ○自己点検・評価の実施 ・前年度の自己点検・評価報告書の作成 ・専任教員の教育・研究業績評価の実施 ・自己点検・評価内容の見直し	1	【平成22年度の実施状況】 ○自己点検・評価の実施 ・前年度の自己点検・評価報告書を作成した。 ・専任教員の教育・研究業績評価の実施をおこなった。 ・自己点検・評価内容の見直しにとりかかった。
		1-2	【平成22年度計画】 ○県評価委員会の評価結果の反映 ○年度計画に対する自己点検・評価 ○認証評価受審 ・大学評価・学位授与機構に自己評価書の提出（6月末） ・訪問調査(10月～11月) ・評価結果案に対する意見具申(2月)	1	【平成22年度の実施状況】 ○県評価委員会からの評価結果を教員全員に周知するためのセミナーを9月に実施 ○年度計画に対する自己点検・評価委員会を6月に開催 ○認証評価受審 ・大学評価・学位授与機構に自己評価書を提出(6月) ・第3回改革セミナーで認証評価受審について周知を図る(10月) ・大学評価・学位授与機構の訪問調査を受ける(10月) ・評価結果案に対する意見具申(2月) ・評価結果を受ける(3月)
	2【教員の個人業績評価システムの導入と給与への反映】 教員の個人業績評価システムを導入し、評価結果を給与に反映する。	2-1	【平成22年度計画】 ○教員の個人業績評価の実施 ○評価結果の給与への反映 ・業績年俸への反映 ・報奨金の支給 ・時期:12月	1	【平成22年度の実施状況】 ○個人業績評価制度の実施と修正 ・評価を実施 ・給与に反映 ・給与への時期:12月
		ウェイト総計		中期   22年度 3	

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 7 情報公開	「情報公開を積極的に推進する。」  入学希望者、学生、県民、企業などに対し、次のような情報を積極的に提供する。 ・大学や教員の評価に関する情報 ・組織、教職員、施設設備、入学試験などに関する情報 ・カリキュラム、シラバス、教員の研究成果や地域貢献活動などに関する情報 ・学生の就職支援や卒業生の進路状況に関する情報 ・公開講座、大学施設の開放などに関する情報 ・予算や決算など財務に関する情報
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等
項目	実施事項			中期	年度	
1 情報公開等の推進  本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開する。	1【情報公開等の推進】 ①情報公開・広報活動体制を確立する。 ②シラバス、研究成果、入学試験、就職、事業計画等、教育・研究・組織運営情報を公開する。 ③多様な媒体(出版物、ホームページによる広報、マスメディアの活用)を通して広報活動を充実する。 ④情報公開と個人情報保護に適切に対応しうる情報管理体制を構築する。	1-1	【平成22年度計画】 ○種々の情報公開・広報活動 ・プレスリリース体制の充実 ・大学パンフレット(2種類)の作成 ・広報誌(2号分)の作成 ・広報出版時期についての検討 ・県立大学出版物一覧の作成		1	【平成22年度の実施状況】 ○種々の情報公開・広報活動 ・プレスリリース体制の充実 ・10月にフローチャート作成し、部局長会議での承認を得て2月に教職員へ周知を行った。 ・大学パンフレット(2種類)の作成 ・大学案内:4月原稿依頼と写真撮影、5月～6月:原稿確認、業者へ依頼、印刷作業、校正作業、7月完成:配布 ・オープンキャンパス用パンフレットを作成・配布(8月) ・広報誌(2号分)の作成 ・9号:8月に完成・配布 ・10号:3月に完成・配付 ・広報出版時期についての検討 ・今年度は、従来の時期に決定し予定通り実施(一般入札により新しい業者になったため作業に時間を要した) ・来年度について、業者の選定を含め時期を検討した。 ・県立大学出版物一覧の作成 ・3月に作成した。
		1-2	【平成22年度計画】 ○情報発信体制の整備 ・新ホームページのコンテンツの充実		1	【平成22年度の実施状況】 ○情報発信体制の整備 ・新ホームページのコンテンツの充実 ・広報部会及び情報処理センター専属の担当者の雇用を行った。(11月) ・ホームページのチェックと更新については、雇用した専属の担当者の管理の下、ホームページ管理者へ定期的に確認を行くことに決定し、3月に実施した。 次年度については、確認方法の取り決めを検討し更新を図っていく予定 ・ホームページ掲載写真の差し替え作業として、2月に写真の選定を行い、3月差替えを完了した。  【新たな取り組み】 ・教育情報の整備 12月に教育情報のWeb公開に向けた検討及び作成準備に取り組み、2月に掲載内容を完成させた。四役へプレゼンテーションを実施、2月の部局長会議に提案し承認を得た後、3月2日ホームページへ掲載を開始した。
				ウェイト総計		中期

項目別の状況(年度計画項目)

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画				自己評価
		内容		実績		
Ⅰ 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				—
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)－(a)	
		費用の部	2,004	1,955	△ 49	
		経常費用	2,004	1,952	△ 52	
		業務費	1,688	1,697	9	
		教育研究経費	306	280	△ 26	
		受託研究等	63	85	22	
		人件費	1,319	1,331	12	
		一般管理経費	316	253	△ 63	
		(減価償却費 再掲)	△ 78	△ 81	△ 3	
		雑損	0	0	0	
		財務費用	0	1	1	
		臨時損失	0	3	3	
		収益の部	2,004	1,994	△ 10	
		経常収益	1,906	1,920	14	
		運営費交付金収益	990	984	△ 6	
		授業料収益	586	585	△ 1	
		入学金収益	122	121	△ 1	
		検定料収益	27	26	△ 1	
		受託研究等収益	63	85	22	
		寄付金収益	0	1	1	
		補助金等収益	2	1	△ 1	
		資産見返物品受贈額戻入	68	57	△ 11	
		資産見返運営費交付金等戻入	10	12	2	
		財務収益	1	0	△ 1	
		雑益	37	41	4	
		臨時利益	0	28	28	
		純利益	－	△ 7	△ 7	
		目的積立金取崩	98	45	△ 53	
		総利益	－	37	37	
	2. 資金計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)－(a)	
		資金支出	2,225	2,170	△ 55	
		業務活動による支出	1,829	1,850	21	
		投資活動による支出	98	29	△ 69	
		財務活動による支出	－	11	11	
		翌年度への繰越金	299	280	△ 19	
		資金収入	2,225	2,152	△ 73	
		業務活動による収入	1,828	1,857	29	
		運営費交付金による収入	990	987	△ 3	
		授業料等による収入	735	727	△ 8	
		受託研究等による収入	63	85	22	
		補助金等による収入	1	1	0	
		その他収入	40	57	17	
		有形固定資産の売却による収入	－	14	14	
		投資活動による収入	－	1	1	
		財務活動による収入	－	－	－	
		目的積立金取崩	98	45	△ 53	
		前年からの繰越金	299	280	△ 19	
		Ⅱ 短期借入金の限度額		1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れること。		
Ⅲ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		該当なし		該当なし	－	
Ⅳ 剰余金の使途		決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。 活用内容: ずすかけ寮の整備、防犯カメラ増設、サークル部室の建て替え、教務WEB成績システムの導入		平成21年度末剰余金より56百万円取り崩し、以下のとおり教育研究環境の改善に充当した。	－	
Ⅴ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項		該当なし		該当なし	－	



2009 (平成 21) 年度

福岡県立大学  
教育・研究・社会貢献活動一覽

福岡県立大学

## はじめに

公立大学法人福岡県立大学  
理事長・学長 名和田 新

平成18年4月1日、本学は「公立大学法人福岡県立大学」として第2の開学をスタートしました。

法人化後は6年の中期計画に沿って、教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価情報公開の全てにおいて、毎年年度計画の達成度の外部評価委員会の評価を受け、改善、改革を進めています。

この法人化を機会に、本学の専任教員の活動が、より詳細にわかるようにするため、「自己点検・評価報告書」を「教育・研究・社会貢献活動一覧」として毎年刊行することになりました。

超少子高齢社会、大学全入時代を迎え、公立大学協会は、80公立大学の生き残りをかけて、教育・研究の質の向上と、地域貢献の充実を大学改革の核にしています。

本学は人間社会学部と看護学部を擁する保健・医療・福祉の西日本屈指の福祉系総合大学を目指しています。保健・医療・福祉の専門的職業人であると同時に総合的マネジメントが出来る人材を育成し、更に東アジアの学術交流を通して国際人の育成を目指して頑張っています。

本学の附属研究所の生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターと社会貢献・ボランティア支援センターの4つのセンターを中心に、両学部が連携した研究と社会貢献を実施しています。

本年で4年目が終了しました。教職員の皆様方の努力により、めざましい改革が進められています。

文部科学省の教育 GP「不登校・ひきこもりの援助力養成教育」（松浦賢長附属研究所長）が3年目に入り、大学教育充実のための「戦略的大学連携支援プログラム」（大学間連携 GP）「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」（安酸史子教員兼務理事）が2年目に入りました。更なる成果を期待したいと思います。

今後とも、田川市郡の産学官の連携による地域に密着した健康寿命の延伸と福祉及び学生と地域の皆様方のための教育と研究のメッカとして、ここ福岡県立大学から全国に優れた研究成果を発信していきます。

ここに示した活動と成果を踏まえ、今後とも福岡県民の皆様をはじめとする多くの方々に広く支持され、愛される大学であるため、教職員一丸となって全力を尽くしていきます。

## 凡 例

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2009（平成21）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2010（平成22）年3月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している＜2007（平成19）年度～2009（平成21）年度＞。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2009（平成21）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2009（平成21）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2009（平成21）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2009（平成21）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2009（平成21）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2009（平成21）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはここに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2009（平成21）年度の状況を記載している。
- (11) 記載事項は、以上の9項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

## ＜目 次＞

はじめに  
凡 例

### 【掲載順】

人間社会学部については、学科ごとに職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。

### 人間社会学部

#### ➤ 一般教育等

● 教授	上野 行良	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
● 教授	田中 哲也	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
● 教授	西岡 健治	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
● 教授	郝 暁 卿	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
● 教授	久永 明	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
● 教授	茂木 豊	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
● 准教授	神谷 英二	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
● 准教授	Ian Stuart Gale	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
● 准教授	水野 邦太郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	21
● 准教授	森脇 敦史	・・・・・・・・・・・・・・・・	24
● 助教	増本 賢治	・・・・・・・・・・・・・・・・	26

#### ➤ 公共社会学科

● 教授	清田 勝彦	・・・・・・・・・・・・・・・・	29
● 教授	平野 泰朗	・・・・・・・・・・・・・・・・	32
● 教授	藤山 正二郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	34
● 教授	文屋 俊子	・・・・・・・・・・・・・・・・	36
● 教授	森山 沾一	・・・・・・・・・・・・・・・・	38
● 特任教授	中里 亜夫	・・・・・・・・・・・・・・・・	41
● 准教授	石崎 龍二	・・・・・・・・・・・・・・・・	43
● 准教授	岡本 雅享	・・・・・・・・・・・・・・・・	45
● 准教授	田代 英美	・・・・・・・・・・・・・・・・	47
● 准教授	光本 伸江	・・・・・・・・・・・・・・・・	49
● 助手	佐藤 繁美	・・・・・・・・・・・・・・・・	51

#### ➤ 社会福祉学科

● 教授	小田 美季	・・・・・・・・・・・・・・・・	53
● 教授	門田 光司	・・・・・・・・・・・・・・・・	55
● 教授	鬼崎 信好	・・・・・・・・・・・・・・・・	57
● 教授	細井 勇	・・・・・・・・・・・・・・・・	59
● 准教授	平部 康子	・・・・・・・・・・・・・・・・	61

● 准教授	本郷 秀和	・ ・ ・ ・ ・ 6 3
● 准教授	村山 浩一郎	・ ・ ・ ・ ・ 6 5
● 助手	松岡 佐智	・ ・ ・ ・ ・ 6 7

➤ 人間形成学科

● 教授	甲斐 彰	・ ・ ・ ・ ・ 6 9
● 教授	小嶋 秀幹	・ ・ ・ ・ ・ 7 1
● 教授	小松 啓子	・ ・ ・ ・ ・ 7 3
● 教授	秦 和彦	・ ・ ・ ・ ・ 7 8
● 教授	福田 恭介	・ ・ ・ ・ ・ 8 0
● 教授	古橋 啓介	・ ・ ・ ・ ・ 8 3
● 准教授	池田 孝博	・ ・ ・ ・ ・ 8 5
● 准教授	岩橋 宗哉	・ ・ ・ ・ ・ 8 7
● 准教授	桜井 国芳	・ ・ ・ ・ ・ 8 9
● 准教授	藤澤 健一	・ ・ ・ ・ ・ 9 1
● 准教授	麦島 剛	・ ・ ・ ・ ・ 9 3
● 講師	吉岡 和子	・ ・ ・ ・ ・ 9 6
● 助手	岡村 真理子	・ ・ ・ ・ ・ 9 9

➤ 附属研究所生涯福祉研究センター

● 准教授	中村 晋介	・ ・ ・ ・ ・ 1 0 2
● 助手	中藤 広美	・ ・ ・ ・ ・ 1 0 4
● 助手	林 ムツミ	・ ・ ・ ・ ・ 1 0 6

看護学部

➤ 基盤看護学系

● 教授	田中 美智子	・ ・ ・ ・ ・ 1 0 8
● 教授	永嶋 由理子	・ ・ ・ ・ ・ 1 1 0
● 教授	森 礼子	・ ・ ・ ・ ・ 1 1 3
● 教授	安酸 史子	・ ・ ・ ・ ・ 1 1 5
● 准教授	芋川 浩	・ ・ ・ ・ ・ 1 1 9
● 講師	江上 千代美	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 1
● 講師	加藤 法子	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 3
● 講師	北川 明	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 5
● 講師	小出 昭太郎	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 7
● 講師	四戸 智昭	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 8
● 講師	杉野 浩幸	・ ・ ・ ・ ・ 1 3 1
● 講師	津田 智子	・ ・ ・ ・ ・ 1 3 3
● 講師	淵野 由夏	・ ・ ・ ・ ・ 1 3 5
● 助教	藤野 靖博	・ ・ ・ ・ ・ 1 3 7

● 助手	於久 比呂美	・ ・ ・ ・ ・ 1 3 8
● 助手	近藤 美幸	・ ・ ・ ・ ・ 1 3 9
● 助手	清水 夏子	・ ・ ・ ・ ・ 1 4 0

➤ 臨床看護学系

● 教授	佐藤 香代	・ ・ ・ ・ ・ 1 4 2
● 教授	中野 榮子	・ ・ ・ ・ ・ 1 4 8
● 教授	村田 節子	・ ・ ・ ・ ・ 1 5 1
● 准教授	中條 雅美	・ ・ ・ ・ ・ 1 5 3
● 准教授	鳥越 郁代	・ ・ ・ ・ ・ 1 5 5
● 准教授	古田 祐子	・ ・ ・ ・ ・ 1 5 7
● 准教授	松枝 美智子	・ ・ ・ ・ ・ 1 5 9
● 准教授	宮城 由美子	・ ・ ・ ・ ・ 1 6 1
● 准教授	渡邊 智子	・ ・ ・ ・ ・ 1 6 4
● 講師	石村 美由紀	・ ・ ・ ・ ・ 1 6 7
● 講師	櫟 直美	・ ・ ・ ・ ・ 1 6 9
● 講師	安永 薫梨	・ ・ ・ ・ ・ 1 7 1
● 助教	江上 史子	・ ・ ・ ・ ・ 1 7 3
● 助教	安河内 静子	・ ・ ・ ・ ・ 1 7 4
● 助教	吉川 未桜	・ ・ ・ ・ ・ 1 7 6
● 助教	吉田 恭子	・ ・ ・ ・ ・ 1 7 8
● 助教	吉田 静	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 0
● 助手	梶原 由紀子	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 2
● 助手	坂田 志保路	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 3
● 助手	佐藤 繭子	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 4
● 助手	橋本 茂子	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 5
● 助手	森 純子	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 6
● 助手	山住 康恵	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 8
● 助手	山名 栄子	・ ・ ・ ・ ・ 1 8 9

➤ ヘルスプロモーション看護学系

● 教授	尾形 由起子	・ ・ ・ ・ ・ 1 9 1
● 教授	松浦 賢長	・ ・ ・ ・ ・ 1 9 3
● 准教授	石川 フカエ	・ ・ ・ ・ ・ 1 9 5
● 准教授	夏原 和美	・ ・ ・ ・ ・ 1 9 7
● 准教授	Je-Kan Adler-Collins	・ ・ ・ ・ ・ 1 9 9
● 講師	小森 直美	・ ・ ・ ・ ・ 2 0 1
● 講師	山下 清香	・ ・ ・ ・ ・ 2 0 4
● 助教	山崎 律子	・ ・ ・ ・ ・ 2 0 6
● 助手	手島 聖子	・ ・ ・ ・ ・ 2 0 8

●	助手	檜橋 明子	．．．．．	2 0 9
●	助手	野口 藍子	．．．．．	2 1 1
●	助手	野見山 美和	．．．．．	2 1 2
●	助手	樋口 善之	．．．．．	2 1 3
●	助手	渡辺 美加	．．．．．	2 1 5

➤ 大学院／看護学研究科臨床看護学領域

●	特任教授	石橋 朝紀子	．．．．．	2 1 6
---	------	--------	-------	-------

➤ ケアリング・アイランド九州沖縄構想戦略連携室

●	特任准教授	巖 紅	．．．．．	2 1 8
---	-------	-----	-------	-------

所属	人間社会学部・一般教育	職名	教授	氏名	上野 行良
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係の方法や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の気持ちの分析をしたいと考えています。

これまでの主な研究テーマとしてはユーモアと人間関係、現代青年の人間関係などを中心に行ってきています。

ユーモアの研究については「ユーモアの心理学－人間関係とパーソナリティ」（サイエンス社）という著作にまとめています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈著書〉

上野行良（2009）「対人関係の形成」（堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版）

上野行良（2009）「わかりやすく伝えよう－プレゼンテーション」（「レポートの書き方入門'09」福岡県立大学）

〈論文〉

木村舞子・上野行良・今井留美・中村早緒理・大場綾沙美・高原洋城・山並亜侑・大庭理英・松崎なぎさ・森下万貴子・鷺尾歩（2010）「否定的発言の量と心理的および対人的要因との関連」福岡県立大学心理臨床研究, 2.

松崎なぎさ・上野行良・鷺尾歩・高原洋城・今井留美・山並亜侑・大庭理英・中村早緒理・木村舞子・森下万貴子・大場綾沙美（2010）「『空気を読む』ことと対人意識・対人行動および精神的健康との関連」福岡県立大学心理臨床研究, 2.

山並亜侑・上野行良・今井留美・木村舞子・松崎なぎさ・森下万貴子・中村早緒理・大庭理英・高原洋城・大場綾沙美・鷺尾歩（2010）「コミュニケーションスキル及び心理的問題と相談相手との関連」福岡県立大学心理臨床研究, 2.

上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島剛（2009）「中学生の万引き行為に関連する要因」福岡県立大学心理臨床研究, 1, 67-73.

### ②その他の業績

〈雑誌〉

上野行良（2009）「やる気が育つ魔法の言葉はあるか－ほめることで何がしたいのか？」児童心理, 63(17 ).

〈報告書〉

上野行良（2010）「世界遺産調査アンケート I 世界遺産観光 II 観光意識」（福岡県立大学「平成 21 年度地方の元気再生事業 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書～産・官・学・民が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現～」）

上野行良（2009）「世界遺産調査アンケート II 田川市郡のこれから」（福岡県立大学「平成 20 年度地方の元気再生事業 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書～産・官・学・民が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現～」）



上野行良（2009）「川崎町子育て支援事業に関する調査報告書」（中村晋介・麦島剛と分担執筆）

上野行良（2007）「非行と家庭・学校での人間関係および精神的健康」（上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島剛「非行の抑制要因と促進要因－福岡県の少年非行に関する調査－」福岡県立大学奨励研究報告書）

上野行良（2007）「中学生の保護者が行政に望むこと」（上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島剛「非行の抑制要因と促進要因－福岡県の少年非行に関する調査－」福岡県立大学奨励研究報告書）

〈学会発表〉

上野行良（2007）「笑いとユーモアの心理学」日本心理学会第71回大会（学会発表）

〈学会講演〉

上野行良（2007）「わかりあうコミュニケーション」第11回日本医療保育学会（学会講演）

上野行良（2007）「現代青年の心理」第46回九州地区准看護師教育学会（学会講演）

〈テレビ〉

NHK教育テレビ「すいえんさー」制作協力（2009）

### ③過去の主要業績

上野行良（2003）「ユーモアの心理学－人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

## 3. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会、日本教育心理学会

## 4. 担当授業科目

〈学部〉

コミュニケーション論・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、心理学・2単位・1年・後期、心の科学の現在・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、人間関係の科学・2単位・3年・前期、演習（人間形成学科）・2単位・3～4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、人間関係特論・2単位・修士1年・後期、特別研究・4単位・修士1～2年・通年

## 5. 社会貢献活動

・日本心理学会「心理学研究」論文審査者

## 6. 学外講義・講演

- ・福祉関連団体（宮崎県医療ソーシャルワーク協会）
- ・看護協会各種研修（福岡県、長崎県）
- ・その他医療関連施設・団体（国立病院機構九州ブロック、佐賀病院、岡山医療センター、小倉医療センター、聖マリア病院、久留米大学病院、佐賀保険医協会、九州ストーマリハビリ研究会など）
- ・その他（大分県庁、熊本県看護教育協議会、北九州地区看護教員協議会、雲仙市など）

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	田中 哲也
----	--------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1978年九州大学大学院文学研究科修士課程修了、カイロ大学、カイロ・アメリカ大学留学、在シリア日本大使館専門調査員勤務後、同大学院博士後期課程中退。九州大学文学部助手として勤務後、1992年、本学助教授に就任、1997年より教授。2002-03年、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長。

主として中東アラブ・イスラム地域を主な対象領域として、宗教社会学的フィールド・ワーク研究から宗教史的研究、在シリア日本大使館付専門調査員として行った同地の宗派問題の研究まで幅広く研究を行ってきた。また、中東地域に加えて、西アフリカ、インド、インドネシアでの現地調査も行った。

近年は、近代教育の導入と拡大という観点から、イスラム世界の近代化にともなう社会・文化変容を、エジプトを事例として研究している。19世紀初頭以来の西洋式教育制度や教育内容がイスラム社会やイスラム文化をどのように変化させてきたのかについて分析してきた。現在、これまで行ってきたエジプトへの西洋式近代教育制度の導入と展開についての教育史・教育社会学的研究を出版するためにまとめる作業を行うとともに、市場経済化にともなう無償教育制度の空洞化や高学歴者の就職難にともなうエジプトにおける現代の教育・社会危機の分析も行っている。

教育活動としては、専門領域と関連する科目に加え、教養教育の充実に力を入れ、その改善に努めている。近年は新入学生のための「導入教育」についての調査研究を行うとともに、新入学生向けのテキストの編集・分担執筆などを行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・「エジプトにおける学歴病と中等教育課程」  
『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号、福岡県立大学、2008年。
- ・「近代教育制度とイスラーム社会の変容」  
『比較文明』第24巻、日本比較文明学会、2009年。

### ②その他最近の業績

- ・（共著）田中哲也・久永明・神谷英二・四戸智昭・内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究」平成19年度研究奨励交付金対象研究中間報告書（2008）
- ・（共著）久永明・田中哲也・上田毅・神谷英二・麦島剛『公立大学法人福岡県立大学における一般市民・社会人向け教育プログラム開発のための基礎的調査』（平成17-18年度福岡県立大学研究奨励交付金対象研究最終報告書）2007年

### ＜テキスト＞

- ・（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門2010年版—福岡県立大学教養演習テキスト』  
福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2010年（担当箇所「序章」）
- ・（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門2009年版—福岡県立大学教養演

習テキスト』

福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2009 年（担当箇所 「序章」）

- ・（共著）田中哲也編『レポートの書き方入門2008 年版—福岡県立大学教養演習テキスト』

福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2008 年（担当箇所 「序章」）

<学会発表>

- ・「グローバル化下エジプトにおける公教育の空洞化」、日本比較教育学会第？回（東京学芸大学）2009年6月.

### ③過去の主要業績

- ・「エジプト現代教育研究序説—無償教育制度とブラック・マーケット—」  
『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 15 巻第 1 号、2006 年.
- ・「革命前エジプトにおける県委員会による教育行政と地方分権」  
『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 14 巻第 1 号、2005 年.
- ・「革命前エジプト近代教育における宗教とメリトクラシー」  
『福岡県立大学紀要』第 13 巻第 1 号、2004 年（『教育学論説資料』第 24 号再録.

### 3. 外部研究資金

なし

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本宗教学会、宗教と社会学会、日本イスラム学会（評議員）、日本中東学会、比較文明学会（幹事）、日本比較教育学会、日本教育史学会、日本教育社会学会、アジア教育史学会、アジア教育学会

### 6. 担当授業科目

比較文化論・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期（人間社会学部責任者）、宗教学・2単位・2年・後期、社会学研究法Ⅰ・1単位・3年・前期、価値・規範論・2単位・3年・前期、外書講読Ⅰ・1単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・1単位・3年・後期、外書講読Ⅱ・1単位・3年・後期、卒論指導・6単位・4年・通年、地域文化演習・1単位・院1・2年・前期、地域文化研究・1単位・院1・2年・後期、日本事情B・留学生・前期（責任者、分担）、日本事情A・留学生・後期（責任者、分担）

### 7. 社会貢献活動

田川市違法駐車等対策審議会委員

### 8. 学外講義・講演

教員免許更新講習「グローバル化下エジプトに於ける公教育の空洞化」2009年7月26日.

### 9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	西岡 健治
----	--------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

1. 朝鮮古典文学、その中でも朝鮮王朝時代のパンソリ系小説「春香伝」研究
2. 日韓比較文学、日韓比較文化論

古典小説「春香伝」は韓国古典文学を代表する作品で、日本では源氏物語に相当する。そのため、日本でもこの作品はつねに関心がもたれてきた。世界で最初に翻訳されたのも日本人によってであった。私は、先に、この世界最初に日本人によって翻訳された作品を詳細に調査し研究発表した。それぞれの時代によって日本人がこの作品を受け取る受け取り方には少しずつ変化が見られる。その変化を歴史的に見ていくことによって、日本人の対朝鮮観の変遷が明らかにできるのではないかと考えている。題して「日本における『春香伝』受容史研究」とする。

今まで、①世界最初に翻訳された春香伝『鶏林情話春香伝』を考察し、②日本に2番目に紹介された高橋仏焉の「春香伝」に関する論文、③3・1独立運動後に翻訳紹介された「廣寒楼記」について研究した。今後、さらに後続の作品の特徴をあきらかにしていきたい。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

2008年9月 『韓国古小説の理解』図書出版パギジョン(韓国)

「日本における韓国文学の伝来様相」223～242P

2008年12月 『韓国の古典小説』ぺりかん社

論文「日本への韓国文学の伝来について(戦前編)」298～315P

座談会「韓国の古典小説、その魅力と源泉」13～81P

梗概と解説「雲英伝」178～184P

梗概と解説「謝氏南征記」199～207P

梗概と解説「壬辰録」208～215P

梗概と解説「春香伝」221～231P

### ②その他の業績

2007年9月 東アジア韓国古典文学研究大会(大邱韓医大)にて研究発表

題名「日本における韓国古典文学研究」

2010年1月【本邦初訳】「韓国古典小説『李春風伝』」

『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号 99-119頁

<テキスト>

2006年 共著『大学での学び方—スタディスキルズ06—』福岡県立大学人間社会学部(教養演習テキスト)、(担当個所「第2章 大学の附属図書館で情報を収集する」、7-13)

2007年 共著『レポートの書き方入門—教養演習テキスト』福岡県立大学、(担当個所「第2章 なにを集める?—レポートをつくるため

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

朝鮮学会

朝鮮文学研究会

古小説学会

パンソリ学会

日本韓国語研究会

6. 担当授業科目

コリア語Ⅰ・1単位・1年・前期、コリア語Ⅰ・1単位・1年・後期

コリア語Ⅱ・1単位・2年・前期、コリア語Ⅱ・1単位・2年・後期

コリア語Ⅲ・1単位・3年・前期、コリア語Ⅲ・1単位・3年・後期

留学生教養演習(1)・2単位・留学生・前期、留学生教養演習(2)・2単位・留学生・後期

教養演習・1年・前期

7. 社会貢献活動

田川市のみなさんとともに「たのしく漢詩を読む会」を主宰(会場:県立大学)。  
今年で7年目。漢詩または詩に興味のある方なら、どなたでも歓迎いたします。  
体験入会もできます。どうぞご連絡ください。

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	郝 曉 卿
----	--------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

グローバル時代における中国の国内政治を基点として、中国の現代史と国際環境との関係などを主な研究分野としている。その内容として、1、現在の中国の内政と外交に多大な影響を与えた文化大革命の国際的な背景の検討と、2、高度成長を伴う深刻な環境問題に対する中国政府の対策への調査、検討等である。具体的には、1の場合、文化大革命の発生から終息までの原因の一つとして、当時の国際環境に照準を定め、問題の解明を行ってきたが、現在はアメリカの要素を中心に、50～70年代における米国の対中政策を中国の国内情勢にいかなる影響を及ぼしたかを明らかにしようとしている。2については、世界、とくにアジアに深刻な影響を与えた中国の環境問題を注目し、現地調査で入手した資料などを参考にしながら、中国の環境問題などを制度的に検討するとともに、国際協力で、世界からいかなる越境支援を受け、また、何の問題があるのかを研究しようとしている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### 論文

- ・「文化大革命と国際環境」(4)、単著、2007年12月、『福岡県立大学紀要』、第16巻第1号
- ・「中国の子供たちにおける環境意識」、共著、2007年12月、『福岡自治研所報』、第63号
- ・「中西医結合医学の歴史と現状を顧みて」、単著、2008年7月、『福岡県立大学紀要』、第17巻第1号
- ・「中国文化における中医学」、単著、2009年7月、『福岡県立大学紀要』、第18巻第1号

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

#### 著書

- ・『社会主義の世紀』、共著、法律文化社、熊野直樹 星乃治彦編、2004年11月、第8章「ユートピアと現実との間」担当

#### 論文

- ・「中国の環境問題と国際協力」、単著、2006年11月、『福岡県立大学紀要』、第15巻第1号
- ・「文化大革命と国際環境」(3)、単著、2005年12月、『福岡県立大学紀要』、第14巻第1号

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

**5. 所属学会**

日本国際政治学会

**6. 担当授業科目**

- ・中国語Ⅰ－(1)・中国語Ⅰ－(2)・2単位・通年・1年、中国語Ⅱ－(1)・中国語Ⅱ－(2)・2単位・通年・2年、中国語Ⅲ－(1)・中国語Ⅲ－(2)・2単位・通年・3年、国際関係論・1単位・前期・1年、教養演習・1単位・前期・1年

**7. 社会貢献活動**

- ・福岡県立大学公開講座「導引養生法入門」、2008年6月

**8. 学外講義・講演**

- ・「日中関係について（戦争と平和の立場から）」、福岡大学における講義、2008年11月

**9. 附属研究所の活動等**

- ・障害福祉研究センター委員兼研究員
- ・2007～2009年度 大学奨励交付金・研究プロジェクト「中医学・ウイグル医学・日本の代替医療の医療人類学的比較研究―リサーチプラン作成のための基礎研究」

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	久永 明
----	--------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1979年九州大学大学院医学研究科博士課程（衛生学専攻）修了。九州大学医学部助手、講師として勤務後、1991年本学に着任。

これまで環境保健、公衆保健、環境科学を主な研究分野としており、ライフワークとして重金属、亜金属の環境や生体への影響を中心に研究している。特に、水質関連項目（有機物、無機物等）に関連した「生活系等排水の流入河川への影響について」、および半導体素子など多用されている「ヒ素・アンチモン等半金属の生体影響について」、それぞれの関連性について実験学的に検討してきている。

現在は、本学の地域支援事業として新たな展開をはかるべく、2008・2009年度地方の元気再生事業（内閣府）「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト」を中心に総合調査を実施している。

## 2. 研究業績

### <論文>

#### ①最近の著書・論文

- ・田中哲也、久永明、神谷英二、四戸智昭、内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究（第1報）」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号、福岡県立大学、2008年。

#### ②その他最近の業績

##### <調査研究報告書>

- ・久永 明、田中哲也、上田 毅、神谷英二、麦島 剛「公立大学法人 福岡県立大学における一般市民・社会人向け教育プログラム開発のための基礎的調査報告書」（平成17・18年度福岡県立大学研究奨励交付金報告書）、2007年3月。
- ・田中哲也、久永明、神谷英二、四戸智昭、内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究：中間報告書」（平成19年度研究奨励交付金対象研究報告書）、2008年3月。
- ・森山沾一、他「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書」（平成20年度地方の元気再生事業）、2009年3月。
- ・森山沾一、他「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書」（平成21年度地方の元気再生事業）、2010年3月。

##### <調査報告>

- ・田川地域資源研究会「田川市地域資源マップ」－文化遺産・産業遺産・自然遺産－、2009年3月。
- ・田川地域資源研究会「田川地域資源マップ」－文化遺産・産業遺産・自然遺産－、2010年3月。

##### <テキスト>

- ・「環境・衛生学テキスト」福岡歯科大学口腔保健学講座、p 1～20、2007年。
- ・「社会医学群 I（衛生学）講義資料集」、九州大学医学研究院環境医学分野、p 3～10、p 101～112、2009年10月。

#### ③過去の主要業績

- ・久永明、石西伸（翻訳）『ヒ素』環境汚染物質の生体への影響16、東京化学同人、1985。



- ・ N. ISHINISHI and A. HISANAGA: Synopsis of the HERP Studies, in DIESEL EXHAUST and HEALTH RISKS, 235-249, Research Committee for HERP Studies, 1988.12.
- ・ A. Hisanaga, M. Hirata, A. Tanaka, N. Ishinishi, and Y. Eguchi: Variation of Trace Metals in Ancient and Contemporary Japanese Bones, Bio. Trace Element Res., 22, 221-231, 1989.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本衛生学会（評議員）、日本ヒ素研究会（理事）

日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会、日本微量元素学会、日本食品衛生学会、日本大気環境学会、日本分析化学会 各会員

### 6. 担当授業科目

<学部>

環境科学A・2単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、環境科学B・2単位・1年後期、公衆保健・2単位・2年前期、地域保健論・2単位・3年前期、ヒューマンエコロジー・2単位・3年後期

### 7. 社会貢献活動

- ・ 田川市環境審議会・会長
- ・ （財）飯塚研究開発機構・入居審査委員会・審査委員
- ・ 麻生飯塚病院・住民医療協議会・委員
- ・ 福岡県立大学を応援する会・監事
- ・ 田川ふるさと川づくり交流会・会員（アドバイザー）

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 生涯福祉研究センター長
- ・ 福岡県立大学公開講座小部会長
- ・ 地方の元気再生事業（内閣府）・研究分担プロジェクト「保養滞在型エコツーリズムの商品化」チーム長

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	茂木 豊
----	--------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

地方小都市における住民の生活構造と社会的サービス  
 地方小都市における住居移動とその関連要因  
 高齢者の住居移動  
 社会学方法論（社会調査法を含む）

詳しくは、次のウェブ・サイトを参照してください。  
<http://www.shakaigaku.net>  
 下記の論文等のファイルなどを公開しています。

「地方小都市における住居移動とその関連要因」、単著、『福岡県立大学紀要』第9巻 第2号（<http://homepage2.nifty.com/ymoteki/roomb/ronbun1f.pdf>）

『地方小都市における住民の生活構造と社会的サービス』（科学研究費補助金研究成果報告書）（<http://homepage2.nifty.com/ymoteki/roomb/kake8310.pdf>）

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

茂木 豊・文屋俊子・三隅譲二・佐藤繁美「地域生活の総合的満足度の意味及び生活の質に関する質問項目との関係」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第1号、平成20年7月

茂木 豊「福岡県内における高齢者の住居移動」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第1号、平成19年11月

### ②その他の業績

「田川市民の地域生活における満足度：平成17年度社会調査実習報告書、共編（茂木・文屋・三隅・佐藤）、平成18年3月

下記のウェブ・ページを個人で運営しています。  
 SHAKAIGAKU.NET（社会学とその方法のオンライン研究室）  
<http://www.shakaigaku.net>

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本社会学会会員  
 日本社会福祉学会会員

社会政策学会会員

6. 担当授業科目

社会学 A・2 単位・1 年・前期、教養演習・1 単位・1 年・前期、社会学 B・2 単位・1 年・後期、社会調査法・2 単位・2 年・前期、社会調査の設計・2 単位・2 年・後期、社会学研究法 I・1 単位・3 年前期、社会福祉調査法・2 単位・3 年・前期、社会調査実習・2 単位・3 年・通年、社会福祉調査実習・1 単位・3 年・後期、社会学研究法 II・1 単位・3 年後期、卒業論文・6 単位・4 年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	准教授	氏名	神谷 英二
----	--------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を専門としています。現在取り組んでいる主要な研究テーマは以下の通りです。

- a. 現象学的他者論および相互主観性論研究
- b. 「記憶」と「習慣」に関する現象学的・解釈学的研究
- c. 身体性と世代性を手がかりとする現象学的倫理学の構築
- d. ドイツ人文主義的教養理念を中心とする「教養」についての哲学的・思想的な研究
- e. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラム開発

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <学術論文>

- (単著)「情感性と記憶—アンリ現象学による試論—(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2008年、1-14頁
- (単著)「遊歩者・記憶・集団の夢—ベンヤミン『パサージュ論』による記憶論構築のために—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2009年、67-79頁
- (単著)「固有名と記憶(1)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2010年、13-25頁

### ②その他最近の業績

#### <学会発表・シンポジウム>

- (コーディネーター) 第16回実存思想協会・ドイツ観念論研究会共催シンポジウム「記憶への問い—想起と忘却—」、2007年9月29日、早稲田大学
- (単独)「情感性・習慣・記憶」、哲学会第47回研究発表大会、2008年10月25日、東京大学
- (単独)「直面する課題から逃げず、小銭で払い続けるために—私の哲学的戦略メモ—」、日本現象学・社会科学会第25回大会・シンポジウム2「現象学と社会科学の接点をもとめて」提題、2008年12月7日、武蔵大学
- (コーディネーター) 日本現象学・社会科学会第26回大会・シンポジウム「臓器移植と死」、2009年12月6日、神田外語大学

#### <調査研究報告書>

- (共著) 田中哲也・久永明・神谷英二・四戸智昭・内田若希「福岡県立大学新入学生の学力実態を踏まえた導入教育及び全学共通教育に関する調査研究(第1報)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2008年、69-75頁

#### <教科書>

- (共著) 田中哲也編『レポートの書き方入門2008年版—福岡県立大学教養演習テキスト—』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2008年(担当箇所「第5章 レポート作成の基本技法」、74-94頁)
- (共著) 田中哲也編『レポートの書き方入門2009年版—福岡県立大学教養演習テキスト—』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2009年(担当箇所「第2章 レ

ポートとは？」、25-41頁)

### ③過去の主要業績

#### <著書>

(共著) 千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ—ヘーゲル以後フッサールまで—』理想社、2006年。(担当箇所「第9章 他者経験の起源—発生的現象学におけるヒュレー・キネステーゼ・他者—」、255-277頁)

#### <学術論文>

(共著) 神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理—患者の権利とインフォームド・コンセント—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2005年、75-94頁

#### <翻訳>

(単著) A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243頁

### 3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究(C)、研究課題名：集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究、研究代表者：神谷英二、課題番号：19520025、交付予定額：直接経費2200,000円、研究期間：平成19～22年度

### 5. 所属学会

日本現象学・社会科学会委員・企画委員、日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会各会員

### 6. 担当授業科目

哲学Ⅰ・2単位・1年・前期、	教養演習・1単位・1年・前期、
生命倫理・2単位・1年・前期、	哲学Ⅱ・2単位・1年・後期、
論理学・2単位・2年・前期、	倫理学・2単位・2～3年・前期、
社会学研究法Ⅰ・1単位・3年・前期、	
社会学研究法Ⅱ・1単位・3年・後期、	
哲学要論・2単位・3年・後期、	卒業論文・6単位・4年・通年
看護倫理・1単位・看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程	
スキルアップゼミ：不況に負けない就活入門・単位外・3年・前期	
スキルアップゼミ：ビジネス・ロジカル・トレーニング・単位外・3～4年・後期	

### 7. 社会貢献活動

福岡県田川郡香春町情報公開審査会会長、同町個人情報保護審査会会長、同町政治倫理審査会副会長、同町行政改革推進委員会副会長、福岡県直方市第5次総合計画策定アドバイザー、福岡県直方市消防本部職員採用試験員、株式会社麻生・飯塚病院倫理委員

### 8. 学外講義・講演

- ・福岡県直方市政策研修講師(2009年7月13日～10月30日・計7回)
- ・福岡県市町村職員研修所・政策課題研究<四王寺塾>・ロジカルライティング研修講師(2009年7月9日)

- ・福岡県市町村職員研修所・課題研修「高度福祉社会—家族を総合的に支援する仕組みづくり—」講師（2009年8月24日～26日）
- ・筑豊市民大学講座部「一期一会—生活のなかの哲学 Part8—」講師（2009年9月26日）
- ・福岡県宗像市人づくり・まちづくり研究所ロジカルシンキング研修講師（2009年10月26日～12月7日・計4回）

#### 9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター地域支援員（筑豊市民大学アドバイザー・講座部担当）

所属	人間社会学部・一般教育	職名	准教授	氏名	Stuart Gale
----	-------------	----	-----	----	-------------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University and Kyushu University. He joined the staff at Fukuoka Prefectural University in the spring of 2007.

Stuart Gale's research is currently focused upon two areas. The first of these concerns the development of a student-specific study-abroad programme. The objective of this research is to provide students (and specifically those studying at FPU) with a study-abroad programme more-directly related to their study majors. This involves the development of a two-module accredited course— the first module being conducted pre-trip and in-house at FPU with a view to orientating students to the experience of living and studying abroad (i.e. the type of course that, somewhat paradoxically and under normal circumstances, students would be required to take while actually abroad). The second module is based on the meaningful (i.e. relevant to study major) research conducted by each student abroad. Upon returning to FPU, the students present their research, either as a thesis in Japanese or as an oral presentation in English, which is then assessed in conjunction with professors from their department.

Stuart Gale's second field of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification in pursuit of more effective teaching. The results of this research have been incorporated into an academic writing textbook, the virtual learning website at Fukuoka Prefectural University, and the (English II) writing classes themselves.

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

Stuart Gale (2010) “編著, 楽しみながら英語力アップ 大学生になったら洋書を読もう!”, アルク.

Mori, R. and Gale, S. (2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, Vol. 33, No. 5.

Gale, S. (2007). Towards a culture-sensitive pedagogy: critical awareness versus student-ethnocentric learning. *Gengo Bunka Ronkyu (Kyushu University Studies in Languages and Cultures)*, No. 22, pp. 67-88.

## ②その他最近の業績

Author and developer, Fukuoka Prefectural University's online *Virtual Language Laboratory*.

Chair and course designer (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*.

Presenter, Faculty Development Seminar, Fukuoka Prefectural University, *Making a Webpage* (2007).

Author and proofreader, *Fukuoka Prefectural University's Entrance Exam* (English).

Developer, *Fukuoka Prefectural University's English Speaking Society*.

Developer, voluntary class for students exempt from English I (first semester) on the basis of having achieved a sufficient TOEIC (or equivalent exam) grade.

Course designer and teacher, *Orientation Course for Students Participating in Fukuoka Prefectural University's UK Study Trip*.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (May-June, 2008).



Annual presenter, *Fukuoka Prefectural University's Open Campus Day*.

Developer and coordinator *Fukuoka Prefectural University's UK Study Trip*  
(August-September, 2008).

Author, proofreader and developer, *Fukuoka Prefectural University's official English language version website*.

Assistant, *World Heritage International Symposium*, Tagawa City, February 15<sup>th</sup>, 2009.

Assistant, UNESCO Memory of the World (Yamamoto Sakubei project).

### ③過去の主要業績

Publications (pre-2006):

#### Fukuoka University Review of Literature and Humanities

- “Standing in the way of progress: the social and pedagogic implications of Japan’s hidden curriculum” (Sept. 2002).
- “A nice idea in theory: examining the conflict between progressive learning theory and conservative practice in Japanese schools” (Sept. 2003).
- “Persistent, if nothing else: evaluating Situational Language Teaching and the extent of its contribution to communicative competence” (Dec. 2003).
- “No substitute for the real thing: the future of online learning, a virtual reality check” (June 2004).
- “The nature and implications of language change and its impact upon teaching practice” (March 2005).
- “Feed the medium: reconciling the nature of language with pedagogic practice” (June 2005).

#### Fukuoka University Review of Language and Education Research

- “A wealth of limited potential: thoughts on the Internet and the extent and nature of its impact upon the language learning programmes of the future” (Dec. 2002).
- “Make of it what you will: a brief evaluation of the principles behind Communicative Language Teaching and the role of Task-Based Learning” (Dec. 2003).
- “Mistakes are good, but failure is better: devising an appropriate classroom response to the pragmatic dilemma” (Dec. 2004).

Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching

technique. Academic society lecture at the *2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium*, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11<sup>th</sup>, 2006.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

Member, *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter).

### 6. 担当授業科目

My regular classes during the 2007-8 academic year at Fukuoka Prefectural University were as follows:

英語 I    1単位    1年    前期 後期 (3 classes of this type per semester)

英語 III    1単位    2年    前期 後期 (3 classes of this type per semester)

### 7. 社会貢献活動

Chair and course designer (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each (5/12, 5/19, 5/26, 6/2).

Assistant, *World Heritage International Symposium*, Tagawa City, February 15<sup>th</sup>, 2009.

Assistant, UNESCO Memory of the World (Yamamoto Sakubei project).

### 8. 学外講義・講演

Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching technique. Academic society lecture at the *2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium*, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11<sup>th</sup>, 2006.

*Fukuoka Prefectural University's Open Campus Day.*

*Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers.* This class meets on one evening every other week for 2 hours.

*Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each (5/12, 5/19, 5/26, 6/2).

## 9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・一般教育	職名	准教授	氏名	水野 邦太郎
----	-------------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

「英語を学ぶ・使う」という実践の背後に多くの「仲間」が存在し、多様な人々が差異によって響き合う「学びの共同体(未知の世界と出会い、他者と出会い、自らの存在と出会い対話する対話的实践を遂行するコミュニティ)」を、いかに「教室」という場と、「インターネット」を活用して創出できるか、その教育方法に取り組んでいる。これまで、以下の4つのサイトを立ち上げ実践してきた: Interactive Writing Community, Interactive Reading Community, Writing for the TOEFL Test(<http://ilc.eknowhow.jp/>). Wikinary Project (<http://www.ilc-irc.jp/wp/auth/login>)

今後、これら3つの「学びの共同体」を充実させていくために、世界中の教育機関とネットワークを結び、さらに、マルチメディアをフルに活用して様々な機能を実装していき、新しい英語学習環境の創出の研究と実践に従事していきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

水野 邦太郎. 2010. 「ICT を活用した読書コミュニティづくり」『英語教育大系 第10巻』 木村博是 編. (共著). 東京. 大修館書店. pp.48-64.

水野 邦太郎. 2009. 「Interactive Writing Community を媒介とした学びの共同体創り」『全国調査から見る ICT 教育—実践・評価・理論』大学英語教育学会 ICT 調査研究特別委員会編. pp.157-182.

水野 邦太郎. 2008. 「学びを豊かにする ICT 環境をどう構築するか」『学びとコンピュータハンドブック』佐伯 胖 監修. 他多数. pp.254-257. 東京電気大学出版局.

水野 邦太郎. 2007. 「Writing for the TOEFL Test」『高等教育における英語授業の研究—授業実践事例を中心に』 他多数. 大学英語教育学会授業学研究委員会 編. 2008 年度 大学英語教育学会 実践賞 受賞. 松柏社. pp.134-135.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

水野 邦太郎. 2009. Interactive Reading Community (IRC) に媒介された読書コミュニティ創りと活動理論による考察. 第49回外国語教育メディア学会全国研究大会 8月5日

Kunitaro Mizuno and Reina Wakabayashi. 2008. The Effect of On-line Peer Feedback on EFL writing: Focusing on Japanese University Students. WorldCALL. August 4.

Kunitaro Mizuno. 2007. Computer Supported Collaborative Learning in Interactive Writing Community. Symposium on Second Language Writing in the Pacific Rim. 9月23日.

<対談>

水野 邦太郎, 鎌倉舞伊子, 杉本頼己. 2009. 「洋書を通して世界と出会う」『読書のいずみ』12月号, pp.18-2.

<新聞記事>

リーディング・アイランド 九州沖縄プロジェクト

2009年9月24日 西日本新聞

ICTを活用した英日韓三ヶ国語辞典づくりプロジェクト

2009年11月21日 読売新聞, 西日本新聞, 12月11日 朝日新聞

<ラジオ出演>

リーディング・アイランド 九州沖縄プロジェクト

RKB 毎日放送出演 : 「いけてるアラフォーに聞け」10月24日(土) 19:15~19:30

<開発したサイト>

<http://ilc.eknowhow.jp/>: Interactive Writing Community , Interactive Reading Community, Writing for the TOEFL Test.

<http://www.ilc-irc.jp/wp/auth/login> : Wikinary Project

③過去の主要業績

Kunitaro Mizuno. 2005. Improving TOEFL Writing Scores through Collaborative Learning on the Internet *Innovative Language Learning Asia-Pacific Association*

*Computer-Assisted Language Newsletter Series No.7. 2-13*

水野 邦太郎. 2005. 「Idea の物語～認知言語学的分析とその学習英和辞典への応用～」『英語教育』12月号. pp.66-68

水野 邦太郎. 2005. 「本と人・人と人との絆を結ぶ互惠的な読書環境の創出」『コンピュータ & エデュケーション』Vol. 19. 75-84. 2007年度 CIEC 学会賞・論文賞 受賞.

Kunitaro Mizuno. 2004. "Interactive Reading Community," p.65, 102, 111, pp.153-154. In J. Bamford and R. R. Day (eds.) *Extensive Reading Activities for Teaching Language*. Cambridge University Press.

田中茂範 編集主幹. 2003『E ゲイト英和辞典』他多数. 共著. ベネッセコーポレーション.

3. 外部研究資金

4. 受賞

平成21年度「九州IT経営力大賞」(九州経済産業局委託事業) 選考委員会奨励賞  
株式会社クリエイティブジャパンとの共同プロジェクト: Wikinary Project

5. 所属学会

大学英語教育学会，全国英語教育学会，外国語教育メディア学会，認知言語学会，日本英語学会，英語コーパス学会，コンピュータ利用教育協議会，教育工学会

**6. 担当授業科目**

英語Ⅱ(1)・1単位・1年・前期，英語Ⅱ(2)・1単位・1年・後期，英語Ⅳ(1)・1単位・1年・前期，英語Ⅳ(2)・1単位・1年・後期，教養演習・1単位・1年・前期．

**7. 社会貢献活動**

**8. 学外講義・講演**

**9. 附属研究所の活動等**

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	准教授	氏名	森脇 敦史
----	--------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、憲法上の権利である表現の自由という観点から、個別の事例においてどのような解決を図るべきなのか、さらには、どのような制度設計を行うことが、最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考察している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・大隈義和、大江正昭、井田洋子、苗村辰弥、植木淳、近藤敦、森脇敦史、湯浅 塾道、奈須祐治、太田周二朗『憲法学へのいざない』（青林書院）、第8章（経済的自由）、第15章（内閣・行政組織）、2008年3月
- ・駒村圭吾、大林圭吾、葛西まゆこ、平地秀哉、奈須祐治、尾形健、大江一平、大河内美紀、中川律、山本龍彦、森脇敦史、横大道聡『アメリカ憲法学の群像理論家編』（尚学社）、第11章「キャス・サンステイン リスクと不確実性の憲法学」、2010年1月

### ②その他最近の業績

#### < 翻訳 >

- ・エリック・バレント著、比較言論法研究会（青野篤、曾我部真裕、奈須祐治、西土彰一郎、福島力洋、前田正義、森脇敦史）訳『言論の自由』（雄松堂出版）、第8章「集会、抗議活動と公共の秩序」、第13章「言論の自由とインターネット」、2010年2月

#### < 教材開発 >

- ・大沢秀介（編）『確認憲法用語300』（成文堂）、2008年1月

### ③過去の主要業績

森脇敦史「言論市場の「自由」と「制約」について—Cass R. Sunsteinの「現状中立性」批判を手がかりとして—」、阪大法学第51巻5号939～967頁、2002年

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様—CDA、COPA、CIPAの事例から—」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「発言する政府、設計する政府」松井茂記、市川正人、紙谷雅子、鈴木秀美、福島力洋、森脇敦史、渡辺武達、宮崎寿子、田中智佐子、野原仁、ミッシェル・マクレラン、丹羽俊夫、木村哲也『メディアの法理と社会的責任』（ミネルヴァ書房）127-150頁、2004年

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会

### 6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、憲法・2単位・1年・後期、法律学概論Ⅰ・2単位・3年・前期、社会学基礎演習・2単位・2年・前期、社会学研究法Ⅰ・2単位・3年・前期、法律学概論Ⅱ・2単位・3年・後期、社会学研究法Ⅱ・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員

### 8. 学外講義・講演

出前講義「裁判の仕組みと役割」（熊本県立人吉高校）、2009年9月25日

### 9. 附属研究所の活動等



所属	人間社会学部・一般教育等	職名	助教	氏名	増本 賢治
----	--------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私は、これまで、水中歩行時の筋活動動態に着目して、研究を行ってきました。その結果、水中歩行時の筋活動は、歩行の方向、歩行速度、加齢および水流の有無によって影響を受けることが明らかになりました。最近は、水中でのランニング時の筋電図測定に関する新しい研究手法について学び、調査を行ってきております。これらの研究成果は、水中での運動処方やリハビリテーションの基盤となるデータとして有用であり、今後の更に効果的な運動処方に貢献し得ると考えられます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### 〈著書〉

- ・高杉紳一郎，増本賢治，岩本幸英，スポーツ医学実践ナビ スポーツ外傷・障害の予防とその対応，武藤芳照編，「後ろ向き歩行」の項と罪（pp. 288～289），日本医事新報社，2009年8月．

#### 〈学術論文〉

- ・ Masumoto K, Takasugi S, Hotta N, Fujishima F, Iwamoto Y, A comparison of muscle activity and heart rate response during backward and forward walking on an underwater treadmill, Gait and Posture, 25 巻 2 号, pp.222～228, 2007 年 2 月．
- ・ Masumoto K, Takasugi S, Hotta N, Fujishima F, Iwamoto Y, Age-related differences in muscle activity, stride frequency and heart rate response during walking in water, Journal of Electromyography and Kinesiology, 17 巻 5 号, pp.596～604, 2007 年 10 月．
- ・ Shono T, Masumoto K, Fujishima K, Hotta N, Ogaki T, Adachi T, Gait patterns and muscle activity in the lower extremities of elderly women during underwater treadmill walking against water flow, Journal of Physiological Anthropology, 26 巻 6 号, pp.579～586, 2007 年 11 月．
- ・ Masumoto K, Mercer JA, Biomechanics of human locomotion in water: an electromyographic analysis, Exercise and Sport Sciences Reviews, 36 巻 3 号, pp.160～169, 2008 年 7 月．
- ・ Masumoto K, Takasugi S, Hotta N, Fujishima F, Muscle activation, cardiorespiratory response, and rating of perceived exertion in older subjects while walking in water and on dry land, Journal of Electromyography and Kinesiology, 18 巻 4 号, pp.581～590, 2008 年 8 月．
- ・河野一郎，高杉紳一郎，上島隆秀，真鍋尚至，増本賢治，井雅代，岩本幸英，ボールエクササイズ～健康増進や介護予防における有用性～，Journal of Clinical Rehabilitation, 17 巻 10 号, pp.985～988, 2008 年 10 月．
- ・ Masumoto K, Hamada A, Tomonaga H, Kodama K, Amamoto Y, Nishizaki Y, Hotta N, Physiological and perceptual responses to backward and forward treadmill walking in water, Gait and Posture, 29 巻 2 号, pp.199～203, 2009 年 2 月．
- ・ Masumoto K, DeLion D, Mercer JA, Insight into muscle activity during deep water running, Medicine and Science in Sports and Exercise, 41 巻 10 号, pp.1958～1964, 2009 年 10 月．

## ② その他最近の業績〈学会発表〉

- ・ Masumoto K, Takasugi S, Hotta N, Fujishima F, EMG, cardiorespiratory response, and RPE in older subjects while walking in water, American College of Sports Medicine 54<sup>th</sup> Annual Meeting, New Orleans, USA, 2007 年 5 月 30 日～6 月 2 日.
- ・ Masumoto K, Hamada A, Tomonaga H, Kodama K, Amamoto Y, Nishizaki Y, Hotta N, Cardiovascular, metabolic, and perceptual responses to backward and forward walking in water, South West Chapter of American College of Sports Medicine 27<sup>th</sup> Annual Meeting, San Diego, USA, 2007 年 11 月 9 日～10 日.
- ・ Bhanot K, Mercer JA, Masumoto K, Dufek JS, Shock attenuation and impact characteristics for children running at different stride length, American College of Sports Medicine 55<sup>th</sup> Annual Meeting, Indianapolis, USA, 2008 年 5 月 28 日～31 日.
- ・ Forrest D, Dufek JS, Masumoto K, Mercer JA, Knee flexion and extension muscle activity during running at simulated microgravity: A pilot study, South West Chapter of American College of Sports Medicine 28<sup>th</sup> Annual Meeting, San Diego, USA, 2008 年 11 月 15 日～16 日.
- ・ Forrest D, Dufek JS, Masumoto K, Mercer JA, Muscle activity during running at reduced body weight, American College of Sports Medicine 56<sup>th</sup> Annual Meeting, Seattle, USA, 2009 年 5 月 27 日～30 日.
- ・ Mercer JA, Masumoto K, Exploration of muscle activity patterns during deep water running, American College of Sports Medicine 56<sup>th</sup> Annual Meeting, Seattle, USA, 2009 年 5 月 27 日～30 日.

## ③ 過去の主要業績

- ・ 増本賢治, 赤嶺卓哉, 堀田昇, 藤島和孝, 高齢者の腰痛症者に及ぼす水中運動の影響, 日本生理人類学会誌, 5巻3号, pp.35～42, 2000年8月.
- ・ Masumoto K, Takasugi S, Hotta N, Fujishima K, Iwamoto Y, Electromyographic analysis of walking in water in healthy humans, Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science, 23巻4号, pp.119～127, 2004年7月.
- ・ Masumoto K, Takasugi S, Hotta N, Fujishima K, Iwamoto Y, Muscle activity and heart rate response during backward walking in water and on dry land, European Journal of Applied Physiology, 94巻1-2号, pp.54～61, 2005年5月.

## 3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会, 科学研究費補助金(特別研究員奨励費), 2006 年度, 2007 年度および 2008 年度: 340 万円

## 4. 受賞

該当なし

## 5. 所属学会

日本体力医学会, 日本生理人類学会, アメリカスポーツ医学会

## 6. 担当授業科目(補助を含む)

健康スポーツ論・2単位・1年前期, 健康科学実習Ⅰ・1単位・1年前期, 健康科学実習Ⅱ・1単位・1年後期, 情報処理の基礎と演習・2単位・1年前期

**7. 社会貢献活動**

- ・財団法人日本アンチ・ドーピング機構・ドーピング検査官
- ・財団法人福岡県体育協会・スポーツ医科学委員

**8. 学外講義・講演**

- ・福岡県立門司大翔高等学校・出前講義「人生80年！健康的なライフスタイルを送ろう」講師，2009年10月15日

**9. 附属研究所の活動等**

- ・生涯福祉研究センター・研究プロジェクト「『足と靴』の問題性と福祉拡充に関する総合的研究」共同研究者

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	清田 勝彦
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

### (1) 社会病理学・逸脱研究

- 1) 社会病理学説及び逸脱行動論の理論的研究
- 2) 少年の逸脱行動（犯罪・いじめなど）に関する理論的、実証的研究
- 3) わが国の自殺の現状及び自殺防止対策

### (2) 地域問題研究

旧産炭地域（筑豊）の社会・生活問題の歴史および現状に関する調査研究

- 1) 「若年層の雇用と就業意識」「キャリア形成支援」に関する共同研究
- 2) 生活保護受給者の自立支援に関する共同研究

教員紹介：福岡教育大学教育専攻科修了（昭和 43 年）、京都大学文学部大学院社会学講座研究員（昭和 61 年度）、久留米工業大学教授（昭和 63 年）等を経て平成 5 年より現職

## 2. 研究業績

### ①最近の論文

1. 「特集：新しい社会問題と社会学—新しい社会問題とは」「生活保護世帯の自立と自立阻害要因—旧産炭地における世代的連鎖を中心に—」（単著）『西日本社会学会年報』第 8 号（投稿済）西日本社会学会誌 2010 年
2. 『生活保護自立阻害要因の研究—福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から—』（研究代表者「第 1 部本調査研究の概要」、「第 4 部 6 章生活保護の連鎖構造—世代的連鎖を中心に—」、「本調査研究のまとめ」分担執筆）福岡県立大学附属研究所（p1-315）2008 年
3. 「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」（清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ）福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.35（p1-141）2008 年
4. 「若年者の就業意識に関する比較研究—田川市郡と福岡都市圏高校生（3 年生）の意識調査から」（共著）福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.35（p143-196）2008 年
5. 『福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究』（清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ）（厚生労働省委託事業）福岡県労使就職支援機構（p1-143）2007 年
6. 「福岡県内事業所における若年者及び精神障害者の雇用と就業に関する調査研究」（清田勝彦、田代英美、中村晋介）福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.29（p3-108）2007 年
7. 『福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究』（清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ）（厚生労働省委託事業）福岡県労使就職支援機構（p1-100）2006 年
8. 「方城町の治安と防犯に関する調査研究」（清田勝彦、豊田謙二、三隅譲二）『筑豊地域調査報告Ⅱ』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.23（p1-66）2006 年
9. 「田川市事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究」（清田勝彦、田代英美、中村晋介）『若年者の雇用と就業意識に関する研究』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 Vol.24（p1-107）2006 年
10. 「若年層の就業意識に関する調査研究 2—福岡都市圏 6 高校（3 年生）の意識調査から」（清田勝彦、田代英美、中村晋介）『若年者の雇用と就業意識に関する研究』福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書

Vol. 24 (p 108-172) 2006 年

## ②その他最近の業績

(学会報告)

1. 「生活保護の世代的連鎖」(シンポジスト) 第 67 回 西日本社会学会 2009 年 5 月
2. 「生活保護自立阻害要因の研究」(清田勝彦、中村晋介、三隅讓二) 「日本社会病理学会」大阪府立大学 2008 年 10 月

## ③過去の主要業績

(著書)

1. 「日中非行少年の親子関係と規範意識」『「改革・開放」下中国教育の動態』東信堂 (p 255 - 274) 2005 年
2. 「社会病理のマクロ分析」『社会病理学の基礎理論』(社会病理学講座 第 1 巻) 学文社 (p 101-116) 2004 年
3. 「筑豊地域における学校教育問題」『旧産炭地の都市問題』多賀出版 (p 441 - 460) 1998 年
4. 『社会病理学の視角と諸相』 学文社 (p 101-116) 1989 年

## 3. 外部研究資金

平成 21 年度「自殺予防支援モデル構築に向けた調査研究」福岡市(内閣府)からの委託研究 清田勝彦、鬼崎信好、小嶋秀幹 (84 万円)

## 4. 受賞 特記なし

## 5. 所属学会

日本社会学会、日本社会病理学会、日本犯罪社会学会、日本社会分析学会、西日本社会学会等会員

## 6. 担当授業科目

(人間社会学部)

社会学史Ⅰ・2 単位・1 年・2 年・前期、社会病理学Ⅰ・2 単位・2 年・前期、社会病理学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、社会学基礎演習・2 単位・2 年・前期、社会調査実習 2 単位・3 年・通年、現代社会論Ⅰ・2 単位・3 年・前期、現代社会論Ⅱ・2 単位・3 年・後期、社会成層論・2 単位・3 年・後期、社会学研究法Ⅰ・2 単位・3 年・前期、社会学研究法 2 単位・3 年・後期、卒業論文指導・4 単位・4 年・通年

(大学院)

地域問題演習・2 単位・1 - 2 年・前期、地域問題研究・2 単位・1 - 2 年・後期、特別研究・2 単位・1 - 2 年・通年

## 7. 社会貢献活動

福岡県自殺対策連絡協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員、田川地区水道企業団事業再評価委員会委員、NPO 福祉用具ネット理事

## 8. 学外講義・講演

- ①「年間 3 万人…自殺問題とその背景を考える」筑後市社会福祉協議会・暮らしと福祉の学級講演 2009.8.22
- ②福岡家庭裁判所飯塚支部 調査官研修講演(「筑豊地域社会の変容と地域

問題」 2009.2.9)

9. 附属研究所の活動等

附属研究所生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	平野 泰朗
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1978年3月名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了。1978年9月から1980年9月までフランス政府給費留学生として社会科学高等研究院に留学。博士（経済学）。

現在は、社会保障制度の果たす役割を各国の社会・経済制度の中で考察することを、研究テーマとしている。

日本をはじめとする、いわゆる先進諸国では、少子高齢化が進む一方で経済成長の鈍化が起こり、社会保障の機能強化と効率的運営の双方が求められている。このため、例えば年金制度では、どの程度まで老後の所得保障をすべきかという制度の設計が改めて問われている。しかし、年金記録漏れのように、どのように制度を設計しても、それだけでは所定の目的を達成できない。これは、制度の設計の問題と言うよりは、制度の運用、すなわちマネジメントの問題である。近年、ヨーロッパでは社会保障制度の運営方法を確定していく傾向が出てきた。これらの事実を日本の文脈の中で再検討する必要がある。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著書>

Yasuro HIRANO & Toshio YAMADA, “How has the Japanese mode of regulation changed ?” in Robert BOYER & Hiroyasu UEMURA eds.” Diversity and Transformation of Asian Capitalisms” Routledge, London, 2010 (forthcoming)

平野泰朗「社会保障改革における制度の問題—年金問題を中心に—」、山田鋭夫他編『現代資本主義への新視角—多様性と構造変化の分析』昭和堂、2007年

### ②その他の業績

・インタビュー「北九州市生活保護問題 第三者委員会中間報告について」『読売新聞・北九州版』2007年10月2日

・インタビュー「年金問題について」2007年7月18日、FBS『めんたいワイド』

### ③過去の主要業績

平野泰朗『日本的制度と経済成長』藤原書店、1996年

平野泰朗、花田昌宣“Industrial Welfare and company-ist regulation: an eroding complementarity” in *Japanese Capitalism in Crisis: A regulationist interpretation*, Routledge, 2000

翻訳・平野泰朗『低成長下のサービス経済』パスカル・プチ著、藤原書店、

1991 年

翻訳・平野泰朗『経済幻想』エマニュエル・トッド著、藤原書店 1999 年

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

経済学史学会会員  
経済理論学会会員  
日仏経済学会会員、理事  
社会政策学会会員  
進化経済学会会員、理事

### 6. 担当授業科目

経済学A・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年、経済学B・2単位・1年・後期、社会学基礎演習・1単位・2年・前期、労働経済論A・2単位・2年・前期、社会保障論Ⅰ・2単位・2年・前期、労働経済論B・2単位・2年・後期、社会保障論Ⅱ・2単位・2年・後期、社会学研究法Ⅰ・1単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・1単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、社会政策研究・2単位・大学院1年・前期、社会政策演習・2単位・大学院1年・後期、特別研究・大学院1年・通年

### 7. 社会貢献活動

産炭地振興センター 運営委員  
飯塚研究開発機構 企画運営委員  
福岡県苅田町男女共同参画苦情処理委員

### 8. 学外講義・講演

・救急救命士研修「社会保障論」講師2009年10月

### 9. 附属研究所の活動等



所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	藤山 正二郎
----	---------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

中国・新疆ウイグル自治区のウイグル民族についての文化人類学的調査を基礎として、具体的には、医療人類学、教育人類学、民族問題などの観点から研究している。10余年のフィールドワークの成果は  
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~fsho2uyghurhotan/>で公開中。

ウイグル民族は中央アジアに連なるトルコ系民族であり、シルクロードの民として有名である。そこにはイスラム医学との関連をもつウイグル医学など、様々な文化が集積した独特の文化が存在する。だが、小学校から漢語教育が義務化され、自民族の言語であるウイグル語のあり方が問題になっている。この点から、多文化教育のあり方を考える。

医療人類学では西洋医学とは異なるウイグル医学を調査し、日本でも注目されている統合医療の方向性を探る。北京、上海などで中医学の調査も行っている。このような伝統医学は理論的な面で、陰陽や体液説など「哲学的」と思われ、「非科学的」と批判される。だが、伝統医学は近代西洋医学とは異なる科学的認識体系を持っている。そのことを明らかにしていく。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

< 著書 >

< 論文 >

「ウイグル民族アイデンティティと民考漢の将来」藤山正二郎、福岡県立大学紀要、第18巻、第2号、2010

「ウイグル医療文化」藤山正二郎、シルクロード、19巻、2009、

「野生の思考としての伝統医学」福岡県立大学紀要、第17巻第2号、2009年

「原因の不在—伝統医学の病因論—」福岡県立大学紀要、第16巻第2号、2008年月

「言語教育、実践共同体、身体知—ウイグルの漢語教育—」福岡県立大学紀要、第15巻第2号、2007年

「ウイグル社会の民俗宗教におけるタブーとジェンダー」福岡県立大学紀要、第14巻第2号、2006年

### ②その他の業績

< 調査報告 >

日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究A(1)研究課題「中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究」調査報告書、2007年3月

奨励研究プロジェクト「中医学、ウイグル医学と日本の代替医療の医療人類学的比較研究」調査報告、福岡県立大学 附属研究所、2008年9月

### ③過去の主要業績

「イニシエーションとしての思春期の病い」、病むことの文化—医療人類学のフロンティア、所収、海鳴社、1990年  
「犠牲の物語の神話作用」、伝説が生まれるとき、所収、福武書店、1991年  
「治療される家族—家族療法再考」、講座：人間と医療を考える、第4巻所収、弘文堂、1992 年  
「情報化社会と消費社会における病気—O 1 5 7 の退散祭り」、現代日本の病理所収、葦書房、1998年

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本文化人類学会、中央アジア学会

### 6. 担当授業科目

#### < 学部 >

文化人類学Ⅰ・2単位・2年・前期、文化人類学Ⅱ・2単位・2年・後期、国際共生研究Ⅰ・1単位・2年・前期、国際共生研究Ⅱ・1単位・2年・後期、教育人類学・2単位・3年・後期、社会学研究法Ⅰ・2単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・2単位・3年・後期、エスニシティ論・2単位・3年・前期、医療人類学・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年

#### < 大学院 >

子育ての比較文化演習・2単位・大学院1・2年・前期、子育ての比較文化研究・2単位・大学院1・2年・後期、特別研究・4単位・大学院1・2年・通年

### 7. 社会貢献活動

福岡アジア文化賞推薦委員、NHK学園スクーリング講師、田川市石炭・歴史博物館運営協議会委員。

### 8. 学外講義・講演

福岡県立大学公開講座：地域と教育・子育て

～子どもから大人まで育ち合える地域をめざして～

シルクロード・オアシスのマハッラ(地域共同体)と学校

～ウイグル・ホータンから～、2009 年

NHK 学園スクーリング「ウイグルにおける医療」講師、2009年

### 9. 附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	文屋 俊子
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程満期退学。専門は都市社会学。

1993年に本学に着任。

<研究分野>

### ①地域における社会関係

研究分野である都市社会学、地域社会学は、地域に起きるさまざまな現象を科学的にとらえ分析することです。この過程を通じて、地域問題の解決に指針を与えることができたなら、という願いを込めて研究しています。

### ②イタリアの地域社会研究

地方の小さな街がどうやれば自立的に存在可能なのか、この点からイタリアの地域社会の事例に学ぶものが多いと思い、数年前から短期間の参与観察を続けています。

### ③筑豊地域の交通体系に関する研究

ここ2年ほど筑豊地域の交通体系研究会を主催していました。これは2004年の平成筑豊鉄道調査からの継続研究ですが、2007～2008年度の福岡県産炭地域振興センターの受託研究として発展したものです。受託研究終了後も「地方交通と地域社会の振興」をテーマに研究を継続しています。

- ・研究分野とはいいいがたいですが、ここ数年、本学FD部会に責任を果たしており、全国の大学FDの動向や考え方、授業改善の進め方等を学ぶ機会が急速に増えています。FDとは、学生にとって良い大学教育を提供するための各段階での努力です。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

文屋俊子 筑豊地域の交通体系検討事業研究報告書、2009年3月、100頁。  
茂木豊、文屋俊子、三隅譲二、佐藤繁美。「地域生活の総合的満足度の意味及び生活の質に関する質問項目との関係」、福岡県立大学人間社会学部紀要、18(1),2009年。

福田恭介・文屋俊子・夏原和美・宮崎昭夫。「学生による比喻表現を用いた現実と理想の授業評価」福岡県立大学人間社会学部紀要 17 (2), 81-93. 2009年。

### ②その他最近の業績

文屋俊子 地域魅力再発見プロジェクト「田川地域郷土かるたづくり」『「癒学の郷」たがわの創生ー田川地域長期振興戦略プランー』9. 田川地域長期振興戦略詳細プラン、66～80頁、2007年10月。

### ③過去の主要業績

文屋俊子「イタリア地方都市の地域社会と地縁組織(2)ーシエナ市民のアイデンティティー」『福岡県立大学紀要』14(1),2005年。

文屋俊子「団地の近所づきあい」森岡清志・松本康編『都市社会学のフロンティア 2 生活・関係・文化』121-151頁、日本評論社、1992年。

文屋俊子「団地のイメージ」倉沢進編『大都市の共同生活』日本評論社、1990年。

文屋俊子「大都市周辺地域の都市化」『社会学評論』148号、37-4、1987年。

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会学会  
日本都市社会学会  
西日本社会学会  
社会分析学会

### 6. 担当授業科目

#### (学部)

都市社会学・2単位・1年・前期、地域社会学Ⅰ・2単位・1、2年・前期、  
地域社会学Ⅱ・2単位・2年・後期、コミュニティ論・2単位・2年・後期、  
社会調査実習・2単位・3年・通年、データ分析の基礎・2単位・3年・前期、  
社会学研究法Ⅰ・1単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・1単位・3年・後期、  
卒業論文・10単位・4年・通年

#### (大学院)

地域社会研究・2単位・1、2年・前期、 地域社会演習・2単位・1、2年後期

### 7. 社会貢献活動

福岡県公益認定等審議会 委員(平成20年12月より)  
福岡県農村地域直接支払制度検討委員会 委員  
福岡県交通対策協議会委員(平成22年3月まで)  
田川市都市計画審議会 副会長  
田川市地域公共交通会議 副会長  
田川市立図書館運営委員

### 8. 学外講義・講演

福智町職員研修会 講師

### 9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	森山 沾一
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

これまでの研究は教育・学習と地域社会との関連をマイノリティの視点から行ってきた。実践的研究に関心を持ち、現在は、「まちづくりと生涯学習」を、田川地区に焦点をあて、地域資源(ひと・文化・自然・歴史)を活かした交流・循環・滞在型まちづくりを総合的に研究している。分野で紹介すれば以下の4つである。

- (1) 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業一産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―
- (2) 地域教育社会学的方法によるマイノリティ(少数者)と生涯学習に関する研究
- (3) 田川・筑豊地域のまちづくり・文化発信システムに関する研究  
―山本作兵衛日記・資料の解説、田川地区の地域資源を活かすまちづくり施策―
- (4) 人権・同和教育の地域的展開と今後の方向性の究明

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- (1) 内閣府報告書『世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業一産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―』編著(プロジェクト代表)  
2010年3月
- (2) 内閣府報告書『世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業一産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―』編著(プロジェクト代表)  
2009年3月
- (3) 『にんげん・羽音豊』(共著) 森山沾一・安藤龍生・堀内忠 海鳥社 2007年5月

### ②その他最近の業績

- (1) 『山本作兵衛日記・資料集』第9巻(研究叢書41巻)  
福祉研究センター、2010年3月
- (2) 『山本作兵衛日記・資料集』第8巻(研究叢書38巻)  
福祉研究センター、2009年3月
- (3) 『山本作兵衛日記・資料集』第7巻(研究叢書34巻)  
福祉研究センター、2008年3月
- (4) 『癒学(ゆがく)の郷―田川地域長期振興戦略プラン』福岡県立大学  
2007年10月
- (5) 「産・官・民・学協働の意義と課題―世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業2年目を事例として―」第59回日本社会教育学会 大東文化大学 2009年9月
- (6) 「自治体改革と社会教育の再編―自治体における新たなガバナンス形成の可能性を探る・福岡県田川郡福智町の事例を中心に―」鹿児島大学、日本社会教育学会九州・沖縄研究集会でのシンポジウム指定発表
- (7) 「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業一産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現―」第58回日本社会教育学会 和歌山大学 2008年9月

- (8)「グラムシ没後 70 周年記念シンポジウム「部落解放運動の体験をふまえ戦後知識人を批判的にとらえかえす」 明治大学 2007 年 12 月 2 日
- (9)「グローバル時代における＜ローカルな知＞—山本作兵衛の文化をく読む＞(2) —」第 59 回九州教育学会 琉球大学 2007 年 11 月

### ③過去の主要業績

- (1)『教育格差拡大—希望の公教育・＜人間の森＞づくり』(編著)森山沾一・嶺正也・池田賢市・広瀬義徳・宮崎晃臣 国民教育文化総合研究所 2006 年 7 月
- (2) 森山沾一・方如偉「第 7 章 現代中国における成人教育体験と意識」森山沾一「補論 日本・中国 子どもの行方」『「改革・開放」下中国教育の動態—江蘇省の場合を中心に—』(共著)阿部洋編著・朱小蔓・陳敬朴・木山徹哉・一見真理子・李秀英・清田勝彦・趙志毅・呉康寧・朱乃識・賀曉星 東信堂 2005 年 12 月
- (3) 'The Innovation and Reform of Higher Education and Student Affairs in Japan' (国立台湾師範大学国際学術シンポジウム報告書) 2006 年 5 月

#### ＜審議会答申等＞

- (1) 「福智町行財政改革審議会答申～健康長寿の里・福智町がさらに良くなるために～」福智町行財政改革審議会(座長)2007 年 2 月

#### ＜インタビュー・新聞記事＞

「アンチ東京」(ブルータス 2010 年 3 月 15 日号)「田川の再生は可能か」(コンフォート 2009 年 12 月号)「福岡県差別ハガキ自作自演事件」のコメント(朝日、西日本新聞 2009 年 9 月)「福智町行革委 職員削減など求め町長に答申書提出」毎日・読売・朝日・西日本新聞筑豊版 2007 年 2 月 7 日

#### ＜書評・評論＞

「道半ばにして一大野甚一」(社・福岡県人権研究所『リベラシオン』2010 年 3 月)

### 3. 外部研究資金

- ①内閣府地方の元気再生事業「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業—産・官・民・学が協働するエコツーリズムの実現—」2009 年度(1,273 万円)代表

### 4. 受賞

「ふくおか地域づくり活動賞」(福岡県地域づくりネットワーク協議会) 2010 年 3 月 6 日 「田川地域観光推進会議」代表として

### 5. 所属学会

日本社会教育学会(理事・査読委員)、日本教育学会、日本教育社会学会、日本生活体験学習学会(理事)、九州教育学会(査読委員)など

### 6. 担当授業科目

(学部)

人権論・2 単位・1 年・前期、社会教育特論 A・2 単位・2 年・後期、教育社会学・2 単位・3 年・前期

(大学院)

地域教育支援研究 I・2 単位・1～2 年・前期、地域教育支援研究 II (演習)・2 単位・1～2 年・後期、地域教育支援特別研究・2 単位・1～2 年・通年、

フィールドワーク・2単位・1年・後期

**7. 社会貢献活動**

(社団法人) 福岡県人権研究所理事長、福岡県アンビシャス運動本部推進委員、福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団世話人、福岡市人権問題講師陣委員、全国教育研究者ネット会議世話人、花と緑のまち新田川創生プラン推進委員会座長、福岡県立大学・田川地域連携推進協議会会長など

**8. 学外講義・講演**

福岡県内、大分県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、福井県、東京都などで教育、人権問題の講演・シンポジウム・講演

**9. 附属研究所の活動等**

県立大学附属研究所調整部会委員 生涯福祉研究センター兼任研究員  
生涯福祉研究センタープロジェクト「筑豊文化発信システムに関する研究」  
顧問

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	特任教授	氏名	中里 亜夫
----	---------------	----	------	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1972 年広島大学大学院文学研究科博士課程修了。同年国立有明工業高等専門学校講師として勤務。1979 年に福岡教育大学教育学部助教授として着任し、同教授そして、定年退職。同大学名誉教授。2009 年本学の特任教授として着任。主な研究分野は、  
 (1)近代日本の歴史地理研究：家畜市場/屠場の再編整備の研究  
 (2)南アジア地域研究：インド・パキスタンの搾乳・酪農業の地域的展開に関する研究  
 (3)開発教育・市民性教育の研究：EU，特にイギリスの開発教育・市民性教育の研究である。近年地域貢献と関連して、里山への侵入竹林の研究を日本の地域再生研究の一つとして進めている。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

〈著書〉

- (1)「中国脊梁山地の草地と和牛放牧」、小長谷有紀・中里亜夫・藤田佳久編『アジアの歴史地理』、朝倉書店、126－142 頁、2007。
- (2)「インド農村における草地と家畜飼育」、小長谷有紀・中里亜夫・藤田佳久編『アジアの歴史地理』、朝倉書店、181－192 頁、2007。
- (3) クリスティヌ・ロラン＝レヴィ、アリストティア・ロス編、中里亜夫・竹島博之監訳『欧州統合とシティズンシップ教育—新しい政治学習の試み』、明石書店、286 頁、2006。

〈論文〉

- (1)「パキスタンの都市搾乳業事情—カラーチー大都市圏を例にして—」、『福岡教育大学紀要』、第 55 号第 2 分冊、79－95 頁、2006。

### ②その他の業績

〈学会報告〉

- (1) 2009 年度地理科学会春季学術大会 (2009, 5, 30)  
「明治期の屠場立地と屠場法」
- (2) 日本南アジア学会、シンポジウム 2009. 10. 4  
「インドを講義する—地理、開発教育の観点から—」
- (3) 歴史地理学会第 222 回研究例会 2009. 12. 12 (於：国士舘大学)  
「明治期・屠場法の成立経緯と屠場の地域的再編」

〈調査研究報告書〉

1. 「第 7 章 2 年間の経過と今後の展望」、公立大学法人福岡県立大学・経済産業省九州経済産業局編『平成 21 年度 地方の元気再生事業 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書』、245－247 頁、平成 22 年 3 月 25 日。

〈エッセイ〉

福岡県小学校社会科研究協議会編『遠眼鏡』を担当。年 4 回刊行。

### ③過去の主要業績

上記の主要な研究分野 (1)、(2)、(3) でみる、

(1) では、

- 「明治・大正期における朝鮮牛輸入(移入)・取引の展開」、歴史地理学会編『歴史地理紀要 32』、129－159 頁、1995。

(2) では

- 「イギリス植民地インドの主要都市における搾乳業—1920—30 年代の英領インドを中心にして」、『福岡教育大学紀要』、第 54 号 第 2 分冊、71－84 頁、2005。



中心にして」、『福岡教育大学紀要』、第 54 号 第 2 分冊、71－84 頁、2005。

(3) では

○クリスティーヌ・ロラン＝レヴィ、アリストティア・ロス編、中里亜夫・竹島博之  
監訳『欧州統合とシティズンシップ教育—新しい政治学習の試み』、明石書店、286 頁、  
2006。

### 3. 外部研究資金

なし

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本地理学会、人文地理学会、歴史地理学会、地理科学会、日本南アジア学会、広島  
史学研究会、市場史研究会

### 6. 担当授業科目・学部

教養演習・1 単位・1 年・前期、総合演習・2 単位・3 年・前期、  
世界地理・2 単位・1 年・後期

### 7. 社会貢献活動

- 1) 福岡県小学校社会科教育研究協議会 会長
- 2) NPO 法人宗像里山の会 理事長

### 8. 学外講義・講演

- 福岡教育大学での講義科目  
(社会科・地理教育論(指導法)、国際開発論、開発教育論、外国地誌)
- 北九州市立長者研修大学校(穴生学舎、周望学舎)でのテーマ  
(インド・パキスタンの農村生活)
- 日田市三花公民館での講演テーマ  
(インド世界の聖なる牛とムラ)

### 9. 付属研究所の活動等

無

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	石崎 龍二
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1993 年九州大学大学院理学研究科博士課程修了。1994 年、本学に着任。

現在、自然や社会のさまざまな現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションを行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。具体的には、① 長時間相関や長距離相関のある系を特徴づけるための新しい統計の探求、② 生体時系列や金融時系列のパターン・エントロピーによる解析、③ カオスや乱流における輸送係数の射影演算子法による解析等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究テーマとする複雑系科学と呼ばれる研究分野が発展してきている。複雑系科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、これまで見過ごされてきた現象が、数学的に表現され始めている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- ・石崎龍二「保測写像におけるカオス軌道の相対拡散」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻第 2 号, pp. 109-118, 福岡県立大学, 2009 年 1 月.
- ・Hiroataka Tominaga, Hazime Mori, Ryuji Ishizaki, Nobuyuki Mori and Shoichi Kuroki, “Memory Spectra and Lorentzian Power Spectra of the Chaotic Duffing Oscillator”, Progress of Theoretical Physics, Vol.120 No.4, pp.635-657, 2008.
- ・石崎龍二「Hénon-Heiles 系におけるカオスのパワースペクトルのピーク構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻第 1 号, pp. 29-43, 福岡県立大学, 2008 年 7 月.
- ・Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- ・石崎龍二「Hénon-Heiles 系におけるカオス軌道の統計的性質」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 16 巻第 2 号, pp. 15-27, 福岡県立大学, 2008 年 3 月.

### ②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部新入生の入学時のコンピュータスキルとコンピュータリテラシー教育(2009)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 18 巻第 2 号, pp. 121-141, 福岡県立大学, 2010 年 1 月.
- ・石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部新入生の入学時のコンピュータスキルとコンピュータリテラシー教育」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 18 巻第 1 号, pp. 43-60, 福岡県立大学, 2009 年 7 月.

<報告書>

- ・石崎龍二, 森肇, 富永広貴, 森信之, 黒木昌一「Hénon-Heiles 系におけるカオスのスペクトル構造」, 応用力学研究所研究集会報告「乱流現象及び多自由度系の動力学, 構造と統計法則」(九州大学応用力学研究所), pp.152-157, 2009 年 3 月.
- ・石崎龍二, 井上政義「複雑時系列のパターン・エントロピー時系列解析」, 応用力学研究所研究集会報告「乱流現象及び多自由度系の動力学, 構造と統計法則」(九州大学応用力学研究所), pp.42-48, 2008 年 3 月.

#### <学会報告>

- ・石崎龍二, 森肇, 富永広貴, 森信之, 黒木昌一「Hénon-Heiles 系の時間相関の減衰形の 2 つのタイプ」, 日本物理学会「2009 年秋季大会」(熊本大学), 2009 年 9 月.
- ・石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「AC トラップにおける帯電微粒子のカオス運動の統計的性質」, 日本物理学会「2009 年秋季大会」(熊本大学), 2009 年 9 月.
- ・石崎龍二, 田中稔次朗, 日浦悦正, 井上政義「金融時系列のパターン・エントロピーによる特徴づけ」, 日本物理学会「2009 年秋季大会」(熊本大学), 2009 年 9 月.
- ・石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 清水大輔「荷電微粒子の AC トラップにおける揺らぎの実験的・数値的研究 2」, 日本物理学会「第 64 回年次大会」(立教大学), 2009 年 3 月.
- ・石崎龍二, 田中稔次朗, 日浦悦正, 井上政義「金融時系列のパターン・エントロピーによる解析」, 統数研・共同研究集会「経済物理学とその周辺」H20 第 1 回研究集会(鳥取大学), 2009 年 1 月.
- ・石崎龍二, 田中稔次朗, 日浦悦正, 井上政義「金融時系列のパターン・エントロピーによる解析」, 日本物理学会「2008 年秋季大会」(岩手大学), 2008 年 9 月.
- ・石崎龍二, 井上政義, 「カオス時系列に対するパターン・エントロピーの統計的性質」, 日本物理学会「2008 年秋季大会」(岩手大学), 2008 年 9 月.

#### ③過去の主要業績

- ・駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998 年.
- ・Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion and Mixing of Chaotic Orbits in Hamiltonian Dynamical Systems”, Progress of Theoretical Physics, Vol.89 No.5, pp.947-963, 1993.
- ・Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

#### 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会(APS)、日本心理学会

#### 6. 担当授業科目

##### <学部>

情報処理の基礎と演習・2 単位・1 年・前期、情報科学・2 単位・1 年・後期、データ処理とデータ解析Ⅰ・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析Ⅱ・1 単位・3 年・後期

#### 7. 社会貢献活動

IT 情報発信による田川の認知度向上・保養滞在型エコツーリズムの販売体制整備チーム委員

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター兼任研究員
- ・2009 年度生涯福祉研究センター・研究プロジェクト、一般研究、「非線形力学系における長時間相関の統計解析」研究代表者

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	岡本 雅享
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で“Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文（2007～2009年度）

＜著書＞

- ・『中国の少数民族教育と言語政策（増補改定版）』社会評論社、2008年（単著）。

＜論文＞

- ・Does Diversity Matter to the National Unity of Japan?-The Hidden Diversity of the Japanese people-, *Canada Project in Kyushu Colloquia*, Volume 6, 2010.
- ・「国籍取得と名前の変更—常用・人名用漢字による漢・朝鮮民族姓への制約」『法学セミナー』2010年3月号。
- ・「創られた建国神話と日本人の民族意識—記紀神話と出雲神話の矛盾から」『アジア太平洋研究センター年報2009-2010』2010年。
- ・「島国観再考—内なる多文化社会論構築のために」『福岡県立大学人間社会学部紀要』18巻2号、2010年。
- ・「二人の現津神—出雲からみた天皇制」『アジア太平洋レビュー』6号、2009年。
- ・「民族宗教とアイデンティティー—北米・ハワイからみる神道」『アジア太平洋研究センター年報2008-2009』2009年。
- ・「言語不通の列島から単一言語発言への軌跡」『福岡県立大学人間社会学部紀要』17巻2号、2009年。
- ・「日本における民族の創造—まつろわぬ人々の視点から」『アジア太平洋レビュー』5号、2008年。
- ・「永住者の帰国権をめぐる国際的潮流と再入国許可制度」『法律時報』80巻2号、2008年。

### ②その他の業績

「再入国許可制度」外国人入権法連絡会編『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書2008年』2008年。

「新たな在留管理と再入国許可制度—国際人権規準と諸外国の動向から」『人権と生活』27号、2008年。

「アイヌ民族の先住民族としての承認と在日コリアン」『月刊イオ』2008年7月号。

### ③過去の主要業績

- ・『日本の民族差別—人種差別撤廃条約からみた課題』明石書店、2005年（監修・編著）。
- ・『ウォッチ！規約人権委員会——どこがずれてる？人権の国際規準と日本の現状』日本評論社、1999年（監修）
- ・「中国のマイノリティ政策と国際規準」叢書「現代中国の構造変動」第7巻・毛里和子編著『中華世界——アイデンティティの再編』東京大学出版社、2001年。
- ・「中国における少数民族の承認」『中国研究月報』第592号、1997年。
- ・「『中華民族』論台頭の力学——民族識別との関係を中心に」『部落解放研究』第107号、1995年。
- ・「移住労働者保護条約と家族生活の保護」『法学セミナー』442号、1991年。

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

- ・日本平和学会、宗教社会学会

### 6. 担当授業科目

国際政治学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、政治学Ⅰ・2単位・2年・前期、政治学Ⅱ・2単位・2年・後期、社会学基礎演習・2単位・2年・前期、社会学研究法・4単位・3年・通年、社会システム論・2単位・3年・前期、組織・集団論・2単位・3年・後期、卒論指導・4単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

- ・移住労働者と連帯する全国ネットワーク 事務局次長

### 8. 学外講義・講演

“Does Diversity Matter to the National Unity of Japan?” ACTJ & Canada Project in Kyushu 2009 Spring Conference, 鹿児島国際大学、2009年5月30日。

“Hidden Diversity of Japanese Peoples,” Japanese American National Library & Japan Society of Northern California 共催、San Francisco Japan Town, 2009年2月21日。

“Creation of Nation: How did we become Japanese?” San Francisco States University, 2009年2月27日、他。

### 9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。  
研究分野は都市社会学、生活構造論。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの共同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマであり、現在、地域社会の構成や人々の生活様式等が大きく変化する中で、改めて共同性や公共性が問われている。これに関わる具体的な研究テーマとして、公共社会学・文屋俊子教授とともに、地域における公共交通を取り上げて調査研究を行っている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための公共交通整備の課題を明らかにしたいと考えている。

もうひとつの現在の研究テーマは都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討することである。最近注目を集めているワーキングプアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、2010

田代英美「ナショナル・トラストと公共性」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号、2009

田代英美「筑豊地域における交通行動の実態と整備の考え方」、『筑豊地域における交通体系検討事業報告書』、福岡県、2009

清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」、『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター 研究報告叢書』第35号、2008

清田勝彦、田代英美、中村晋介「若年者の就業意識に関する比較研究」、『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター 研究報告叢書』第35号、2008

清田勝彦、田代英美、中村晋介、林ムツミ「福岡県内事業所における若年者の雇用と就業に関する調査研究」、『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター 研究報告叢書』第29号、2007

### ②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

田代英美・植田美佐恵『高齢者ふくし生協10年の現状と課題』、福岡県高齢者福祉生活協同組合、2010

田代英美『次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画（後期）策定に係るニーズ把握調査報告書』、福岡県福津市健康福祉部こども課、2010

＜学会発表＞

田代英美「「福智町の合併に対する調査」報告Ⅱ～生活構造からみた合併の評価」、日本社会学会第80回大会（関東学院大学）、2007年11月

### ③過去の主要業績

田代英美「地方小都市における公共交通の課題」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第14巻第2号、福岡県立大学、2006

田代英美、植田美佐恵、佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)（2））研究成果報告書、2005

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「都市社会学における生活研究の系譜と生活構造の論理構成に関する研究」、330万円、平成18年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：田代英美）

福津市、次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画（後期）策定に係るニーズ把握調査、688,380円、平成21年度

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会各会員

### 6. 担当授業科目

<学部>

公共性研究A（公共性の社会学）・2単位・1年・前期、社会学概論Ⅱ・2単位・1年・後期、社会学基礎演習・1単位・2年・前期、生活構造論Ⅰ・2単位・2年・前期、生活構造論Ⅱ・2単位・2年・後期、社会調査実習・2単位・3年・通年、社会学研究法Ⅰ・1単位・3年・前期、環境社会学Ⅰ・2単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・1単位・3年・後期、環境社会学Ⅱ・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

直方市都市計画審議会委員

川崎町地域公共交通活性化協議会委員

田川市地域公共交通会議委員

稼働能力判定会議委員（福岡県嘉穂鞍手福祉事務所）

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター・地域支援事業「添田町『英峰塾』運営支援」

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	光本 伸江
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2003年、九州大学大学院比較社会文化研究科博士後期課程単位修得満期退学。2008年、中央大学大学院法学研究科において博士号（政治学）取得。2003年より常任研究員として（財）地方自治総合研究所に勤務。2008年より、本学に着任。

主な研究分野は、自治体政治学・行政学・地方自治研究の観点からの、長期的視野に基づく自治体政策・構想及び自治運営の解明である。これまでの対象自治体は、大分県湯布院町（観光）、福岡県田川市（旧産炭地）、岡山県倉敷市（景観）、北海道夕張市（財政再建）、長崎県対馬市（市町村合併）他である。

また、福岡県内市町村の自治の取組に関する調査研究（基本構想・総合計画、産炭地域振興、市町村合併、市民参加、その他各種分野の条例・計画など）も行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

安武憲明（話し手）、光本伸江、金井利之、飛田博史（聞き手）『赤池町の財政再建と財政課長・安武憲明 自治総研ブックレット 8 自治に人あり 2』公人社、2009 年

光本伸江『自治と依存 湯布院町と田川市の自治運営のレジーム』敬文堂、2007 年

#### <論文>

光本伸江「「夕張問題」の構築—2006 年 6 月～2007 年 3 月—」『法政研究』第 76 巻第 4 号、2010 年 3 月

金井利之・光本伸江「夕張市政の体制転換過程における構想～夕張市政の体制転換の検証～（上）（下）」『自治総研』2008 年 6 月号・7 月号

光本伸江「夕張市が目指したもの 「炭鉱から観光へ」構想を考察する」『月刊自治研』2007 年 11 月号

光本伸江「「大和市における市民活動団体のサービス調査」中間報告」『自治総研』2007 年 10 月号

光本伸江「分権時代の自治体における法務管理～第 14 回～新潟市」『自治体法務 NAVI』vol.18(2007 年 8 月 25 日)

金井利之・嶋田暁文・光本伸江・今村都南雄「倉敷市「美観地区」の文化と伝承」『自治総研』2007 年 4 月

### ②その他最近の業績

#### <調査研究報告書>

正木浩司・畠山輝雄・野口鉄平・光本伸江『長崎県対馬市における合併の検証 一島合併の現状と課題』地方自治総合研究所発行、2008年9月

#### <学会報告>

光本伸江「「地方崩壊」における自治体の役割」2009年度日本公共政策学会総会・研究会（龍谷大学）、2009年6月

光本伸江「夕張市における「自治体の本分」」2009年度日本行政学会総会・研究会（広島大学）、2009年5月

#### <研究報告・シンポジウム>

光本伸江「北部九州地域の明日を考える」（パネリスト）（社）生活経済政策研究所・全国三ブロック公開座談会、2008年12月



光本伸江「自治と依存」（報告）2008年度九州政治研究者フォーラム、2008年9月  
光本伸江「生活の現場からのルールづくり」（パネリスト）第14回自治体法務合同研究会、  
2008年7月

<その他報告書>

光本伸江「第2章第3節市民モニター」「第2章第4節先進地調査」、福岡県立大学『平成  
20年度地方の元気再生事業 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書』  
2009年3月

**③過去の主要業績**

<著書>

光本伸江「まちづくりの資源と討議過程」出水薫・金丸裕志・八谷まち子・梶島洋美編著  
『先進社会の政治学—デモクラシーとガバナンスの地平』一』法律文化社、2006年

<論文>

光本伸江「産炭地域振興にみる自律と依存—福岡県田川市のまちづくりを事例として—(1)  
～(5・完)」『自治総研』2004～2006年（5回連載）

**3. 外部研究資金**

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究B）、「地方自治研究のパラダイム転換」、  
770,000円、平成21年度～平成23年度、共同研究（研究代表者 今村都南雄・中央大学）

**4. 受賞**

**5. 所属学会**

日本政治学会、日本行政学会、日本地方自治学会、日本公共政策学会

**6. 担当授業科目**

公共性研究B（地方自治基礎論）・2単位・1年・後期、社会学基礎演習・1単位・2年・前  
期、社会原論演習・2単位・2年・通年、地方政治論・2単位・3年・後期、地域計画論・2  
単位・3年・後期、社会学研究法ⅠⅡ・各1単位・3年・前期・後期

**7. 社会貢献活動**

- ・筑豊・京築地域公共交通活性化協議会 委員
- ・福智町人権と福祉のまちづくり行動計画策定 アドバイザー
- ・宗像市市民参画等推進委員会 委員
- ・田川市社会教育委員
- ・香春町次世代育成計画後期計画策定委員会 委員
- ・飯塚市指定管理者評価委員会 委員
- ・田川市第5次総合計画策定委員会 委員

**8. 学外講義・講演**

**9. 附属研究所の活動等**

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- ・大原孫三郎の研究
- ・地域の権力構造の研究

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

- ・福智町における防犯意識の構造 地域防災と地域防犯に関する調査研究、2009年
- ・市町村の財政の現状と課題に関する調査  
福岡県および県内市町村の地方自治・地域振興政策～福岡県内自治体調査結果報告～、2008年3月
- ・学会発表 「福智町の合併に対する調査」報告Ⅰ  
——社会構造からみた合併の評価——(日本社会学会第80 回大会)、2007 年11 月
- ・資料解説 石井十次に関する大原孫三郎の講演  
—— 一九三九年同志社アーモスト館における石井十次記念会の速記録 ——  
細井勇・佐藤繁美、2006年6月

### ③過去の主要業績

- ・『生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程』  
「大原孫三郎の経営思想」、科学研究費研究成果報告書、2005 年6 月
- ・『香春町史』、香春町資料編纂委員会 編、香春町史料編纂員会、2001. 3

## 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費・基盤研究 (C)  
「都市社会学における生活研究の系譜と生活構造の論理構成に関する研究」、90万円、2006年度～2009年度、共同研究(研究代表者：田代英美)
- ・ 科学研究費・基盤研究 (B)  
「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」、260万円、2006年度から2009年度、共同研究(研究代表者：細井勇)

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

- ・ 日本社会学会
- ・ 関西社会学会
- ・ 社会分析学会

## 6. 担当授業科目

(学部)

- ・ 社会原論演習（補助） 2単位・2年・演習・通年
- ・ 社会調査実習（補助） 2単位・3年・実習・通年
- ・ データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期
- ・ データ処理とデータ解析Ⅱ（補助） 1単位・3年・演習・後期
- ・ 社会福祉調査実習（補助） 1単位・3年・実習・後期

（大学院）

- ・ フィールドワーク（補助） 2単位・1年・実習・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 「田川市における地域防災と地域防犯―市民意識調査―」

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	小田 美季
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2002年4月、本学着任。

日本とドイツ語圏（ドイツ、オーストリア）における障害者福祉を主な研究分野としている。

現在の障害者福祉は歴史の変遷の中で形成されてきたものであり、各国の障害者福祉はその国の文化や価値観、障害者観と深くかかわりをもつものである。さらに、その国の状況は国際的な影響も受けている。この前提に立ち、日本とドイツ語圏における障害者福祉の史的展開及び現状と課題について、歴史分析や国際比較の観点から検討している。特に、日本とドイツ語圏における障害児・者観、障害者の自立支援・地域生活支援、当事者活動についての研究を進めている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈論文〉

単著「オーストリアにおける障害者デイサービス」

福岡県立大学人間社会学部紀要 17 (1) 2008 年 7 月

単著「オーストリアにおける障害者の職業的インテグレーション」

福岡県立大学人間社会学部紀要 16 (1) 2007 年 11 月

### ②その他最近の業績

〈報告書〉

小田美季「日本とオーストリアにおける障害保健福祉システムに関する国際比較—精神障害者の地域生活支援を中心に—」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』vol.36 (2007(平成 19)年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書) 2008 年 3 月

本郷秀和・松岡佐智・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性—福岡県立大学・社会福祉学科学生のボランティア意識の現状と課題—」2007(平成 19)年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書 2008 年 3 月

### ③過去の主要業績

単著「ドイツとオーストリアにおけるクラブハウス」

福岡県立大学人間社会学部紀要 15 (1) 2006 年 11 月

単著「ドイツにおける精神障害者家族会と当事者会の現状と課題 (2)」

福岡県立大学人間社会学部紀要 14 (1) 2005 年 12 月

Miki Oda “Rehabilitationswesen in Japan-Die Lage behinderter Menschen in Japan und die Entwicklung der Rehabilitation” (Inaugural-Dissertation zur Erlangung des Doktorgrades der Heilpaedagogischen Fakultät der Universitaet zu Koeln; Gedruckt mit Unterstuetzung des Deutschen Akademischen Austauschdienstes) 1997

### 3. 外部研究資金

科学研究費基盤研究（c）、自助・相互支援・公助の観点からみた障害者雇用創出の方策に関する基礎的研究、91万円（平成21年度分）、平成21～23年度

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会  
日本ソーシャルワーク学会  
日本ドイツ学会

### 6. 担当授業科目

《学部》

相談援助の基盤と専門職Ⅰ・2単位・1年前期  
社会福祉援助技術演習Ⅱ・2単位・3年通年  
精神保健福祉論Ⅰ・2単位・3年前期  
精神保健福祉論Ⅱ・2単位・3年後期  
社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期  
精神保健福祉援助実習・8単位・4年通年  
卒業論文・6単位・4年後期

《大学院》

障害者福祉研究・2単位・1・2年前期

### 7. 社会貢献活動

人に優しい町・田川をつくる会理事

### 8. 学外講義・講演

なし

### 9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	門田 光司
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

主な研究分野は、1つは学校ソーシャルワーク実践研究です。現在、学校現場は不登校、いじめ、非行、児童虐待、学級崩壊等の課題に加え、障害のある子どもたちへの特別支援教育の充実が求められています。子どもたちへの支援として、心の支援に加え、学校・家庭・関係機関が協働して取り組んでいくことが今日、切望されています。そして、そのつなぎ役として、諸外国にはスクールソーシャルワーカー(SSW)が活躍しています。日本においても平成20年度より文部科学省はSSWを学校に派遣する事業を開始しました。そのため、さらなる発展のための研究を行っています。2つめは知的障害・自閉症の人への地域生活支援方法の研究です。今日、ノーマライゼーションの潮流により、障害のある人たちの住まいの場は入所施設ではなく、地域で共に暮らす社会が求められています。しかし、知的障害や自閉症の人が地域生活を継続していくためには、その支援方法を見つけ出していく必要があります。そのための実践研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <著書>

- ・日本学校ソーシャルワーク学会編（門田光司代表編集）『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版 2008 年
- ・門田光司, 奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規出版, 2009 年
- ・門田光司, 松浦賢長編著『不登校・ひきこもりサポートマニュアル』少年写真新聞社, 2009 年
- ・門田光司（分担）『スクールソーシャルワークの実践方法』青弓社, 2009 年
- ・門田光司, 鈴木庸裕編著『ハンドブック学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房, 2010 年
- ・門田光司『学校ソーシャルワーク実践－国際動向とわが国での展開』ミネルヴァ書房, 2010 年

#### <論文>

- ・門田光司「学校現場の混乱の背景にある家族問題と支援方法－学校ソーシャルワークの展開可能性」社会福祉研究, 第 98 号, 2007 年
- ・門田光司「第 3 回国際学校ソーシャルワーク大会(釜山大学・韓国)について」学校ソーシャルワーク研究, 創刊号, 2007 年
- ・門田光司「個別の教育支援計画と学校ソーシャルワーク」学校ソーシャルワーク研究, 第 2 号, 2007 年

### ②その他の業績

#### <学会報告>

- ・自主シンポジウム「地方自治体の学校(スクール)ソーシャルワーカー事業における実践課題と今後の展望」日本社会福祉学会第 55 回大会(大阪市立大学), 2007 年 9 月
- ・自主シンポジウム「スクール(学校)ソーシャルワーク研究の現状と課題」日本社会福祉学会第 56 回大会(岡山県立大学), 2008 年 9 月
- ・Koji Kadota: The effect of school social work intervention on students refusing to attend school in Japan. The 4rd International School Social Work Conference (Massey University, New Zealand), 2009, April 14-17.

#### <学会講演>

- ・門田光司「社会的排除と学校ソーシャルワーク」日本社会福祉学会九州部会(長崎国際大学), 2008 年 12 月

### 3. 外部研究資金

- ・文部科学省科学研究費(基盤研究C)「わが国における学校ソーシャルワーカーの人材養成に関する研究」350万円, 平成19年度～平成21年度, 研究代表者

### 5. 所属学会

- ・日本学校ソーシャルワーク学会代表理事
- ・日本社会福祉学会研究誌査読委員
- ・日本特殊教育学会, 日本行動療法学会, 日本小児精神神経学会, 日本地域福祉学会, 日本心理臨床学会, 日本学校保健学会, 日本ソーシャルワーク学会

### 6. 担当授業科目

「障害者福祉論Ⅰ」(2単位・2年・前期), 「障害者福祉論Ⅱ」(2単位・2年・後期), 「社会福祉援助技術演習Ⅰ」(2単位・2年・通年), 「社会福祉援助技術現場実習指導」(3単位・2年後期～3年前期), 「社会福祉援助技術現場実習」(4単位・3年・前期), 「社会福祉学演習」(2単位・3年後期～4年前期), 「卒論指導」(6単位・4年・後期), 「ソーシャルワーク研究」(2単位・大学院・前期), 「ソーシャルワーク演習」(2単位・大学院・後期), 「特別研究」(4単位・大学院・通年)

### 7. 社会貢献活動

- ・日本学校ソーシャルワーク学会代表理事
- ・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長
- ・社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会理事長
- ・福岡県障害者施策推進協議会会長
- ・福岡県地域自立支援協議会会長
- ・福岡県発達障害者支援体制整備検討委員会委員
- ・北九州市障害者施策推進協議会会長
- ・北九州市地域自立支援協議会会長
- ・北九州市社会福祉法人等審査会委員
- ・北九州市人権施策推進協議会委員
- ・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会会長
- ・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会会長
- ・北九州市障害者相談支援事業協会理事
- ・北九州市地域福祉振興協会理事
- ・北九州市適応指導教室スーパーバイザー
- ・その他多数

### 8. 学外講義・講演

- ・北九州市教育センター「学校ソーシャルワーカーの視点に立った子ども理解」(H21年6月19日)
- ・八女保健環境福祉事務所「発達障害児の理解と支援のあり方」(H21年9月7日)、その他多数

### 9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター長
- ・2010年3月11日内閣府主催「子ども・若者支援地域協議会設置に向けた相談会」(於：東京)において, 全国の中の先進事例4例のうちの1事例として「不登校・ひきこもりサポートセンター」活動について内閣府より報告依頼を受け, 報告した。

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	鬼崎 信好
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

高齢者ケアシステムの在り方を研究テーマにしている。近年においては、特に介護保険制度の導入後の介護保険施設(指定介護老人福祉施設・介護老人保健施設・指定介護療養型医療施設)並びに居宅サービスにおけるサービスの第三者評価に焦点を置き、その課題等を整理している。

海外に関しては、福祉の先進国とされている北欧(デンマーク、スウェーデン、フィンランド)の高齢者ケアシステムに関して現地におけるフィールドワークを中心にして調査研究を進めている。

## 2. 研究業績(平成19年度～21年度分)

### ①著書・論文

#### 【著書】

- ・鬼崎信好編著『四訂 社会福祉の理論と実際』中央法規出版、平成 19 年 3 月
- ・大塚達雄ほか篇『入門社会福祉(第 5 版)』ミネルヴァ書房、平成 19 年 5 月(第 2 章、第 13 章を分担執筆)

#### 【論文】

- (1)古野みはる・鬼崎信好・本郷秀和「福岡県介護保険広域連合を巡る課題」(『九州社会福祉学』第 5 号、日本社会福祉学会九州部会)平成 21 年 3 月
- (2)本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄「指定福祉 NPO における社会福祉士の活動実態と役割ー常勤社会福祉士を配置する指定福祉 NPO の全国実態調査を基礎としてー」(『九州社会福祉学』第 4 号、日本社会福祉学会)平成 20 年 3 月。

### ②その他の業績

#### 【調査研究報告書】

- (1)本郷秀和(研究代表)・鬼崎信好・松岡佐智「介護系NPOにおける社会福祉士の役割」福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、平成22年3月予定。(平成21年度福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書・平成21-23年度予定文部科学省科学研究費補助金基盤研究C中間報告書)
- (2)鬼崎信好・本郷秀和・松岡佐智・佐伯幸雄・荒木剛・石踊紳一郎「認知症高齢者への生活支援等に関する従事者の意識調査Ⅰ(研究報告書)」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、平成 21 年 3 月
- (3)鬼崎信好・本郷秀和・松岡佐智・佐伯幸雄・荒木剛・石踊紳一郎「認知症高齢者への生活支援等に関する従事者の意識調査Ⅱ(研究報告書)」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、平成 21年3月
- (4)清田勝彦・森山沾一・鬼崎信好・西原尚之・中村晋介・三隅譲二・中村幸・四戸智昭・本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智・久富芳孝「生活保護自立阻害要因の研究ー福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析からー」受託研究「田川郡における被保護者の自立阻害要因に係る分析」報告書 福岡県立大学附属研究所、平成20年 3月
- (5)鬼崎信好・本郷秀和・山田真知子・松岡佐智「介護サービスの評価システム開発に関する研究」、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C 研究報告書、平成20年3月
- (6)清田勝彦・森山沾一・鬼崎信好・西原尚之・中村晋介・三隅譲二・中村幸・四戸智昭・本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智「田川郡における貧困の世代的再生産に係る要因分析(平成19年度事前継続研究報告書)」福岡県立大学附属研究所、平成19年7月
- (7)鬼崎信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木剛・松岡佐智「助けあいの地域づくりアンケート調査 最終報告書」(日本生命財団 平成 15 年度 高齢社会研究助成報告書、受託:社会福祉法人 慈愛会)、『福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書』Volume.31、福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、平成 19 年 4 月
- (8)鬼崎信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木 剛「介護系NPO法人におけるソーシャルワークの課題と



展望Ⅰ」(福岡県立大学生涯福祉研究センター研究叢書第31号 三井住友海上福祉財団 平成15年度交通安全・高齢者福祉研究助成報告書)平成19年4月

【学会報告】

- (1) 松岡佐智、鬼崎信好、本郷秀和「介護施設における利用者の生活環境に関する調査報告」日本社会福祉学会第50回大会九州部会口頭発表(沖縄大学)、平成21年12月
- (2) 鬼崎信好「日本における高齢者医療制度の課題と展望」大邱韓医科大学・東義大学国際学術研究第11回大会 招待報告)平成19年11月。

③過去の主要業績

- ・鬼崎信好編著『四訂 社会福祉の理論と実際』中央法規出版、平成19年3月
- ・鬼崎信好・本郷秀和・荒木剛「地方都市における障害児の生活実態と意識に関する一考察ー福岡県A市の実態調査を踏まえてー」(『九州社会福祉学』第3号、日本社会福祉学会九州部会、平成19年3月。
- ・本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」(『日本の地域福祉』第20巻、日本地域福祉学会)平成19年3月。
- ・鬼崎信好「介護保険制度下における介護サービス評価システムの有用性」(『久留米医学会雑誌』第69巻第7・8号、久留米大学医学部)平成18年9月。
- ・鬼崎信好「社会福祉学研究の動向と展望」(『社会福祉研究』第92号、鉄道弘済会)平成17年5月。(以下、略)

3. 外部研究資金(平成21年度)

本郷秀和(研究代表)、平成21-23年度(予定)文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】、研究課題:「介護系NPOの可能性とソーシャルワークの役割」(平成21年度:195万円)共同研究者

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉教育学会、日本社会福祉実践理論学会、北ヨーロッパ学会(理事)、日本社会分析学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

【学部】

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年・前期、社会福祉概論Ⅱ・2単位・1年・後期、老人福祉論Ⅰ・2単位・2年・前期、老人福祉論Ⅱ・2単位・2年・後期、社会福祉施設論・2単位・3年・前期、社会福祉学演習・4単位・3～4年・後期～前期、卒業論文・単位・4年・後期

【大学院】

高齢者福祉研究・2単位・後期、高齢者福祉演習・2単位・前期、フィールドワーク・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県医療審議会 専門委員、福岡県介護実習・普及センター運営委員会 委員長、福岡市介護サービス評価システム検討会 会長、福岡市介護保険事業計画策定委員会 副委員長、福岡市地域包括支援センター運営協議会 会長、福岡市地域保健福祉活動振興基金運営委員会 委員長、福岡県国保連介護保険苦情処理委員会 副委員長、福岡県老人保健施設協会 理事、北ヨーロッパ学会 理事、『教育と医学』編集委員、福岡アジア・都市科学研究所 評議員、九州経済調査協会 専門委員、福岡県共同募金会配分委員会 委員長 (以下、略)

8. 学外講義・講演

- ・大分県認知症対応型サービス事業開設者一理事長研修(平成20年11月)
- ・福岡市社会福祉法人理事長研修会(平成19年3月) (以下、略)

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	細井 勇
----	---------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、とくに、近代日本におけるキリスト教の受容、その隣人愛に触発された慈善事業に関心がある。これまで、救世軍と山室軍平、岡山孤児院と石井十次、キリスト教社会主義の安部磯雄等を研究してきた。2009年には『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業』『岡山孤児院関係資料集成全3巻』を刊行することができた。今後はより国際的な視野から研究を継続していきたい。

今一つの研究分野は児童福祉研究である。少子化と子育て支援については共同研究を行ってきた。とくに近年は日韓比較研究を実施してきた。児童福祉の歴史的生成、児童虐待問題、非行問題等については『児童福祉論—新しい動向と基本的視点』に纏めている。

また、かつて筑豊の地域問題に取り組んでいたが、それを再開したいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### 〈著書〉

細井勇「生存権に関する一考察—愛と正義の相関論—」元村智明編『戦前日本の社会事業—社会と共同性の形成に向けて—』社会福祉形成史研究会、2010年

細井勇「安部磯雄—『社会問題解釈法』と社会問題論—」室田保夫編『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房、2010年

学会誌編集委員会（松永俊文、江口敏一、岸川洋治、細井勇、三原博光、永岡正己）『日本キリスト教社会福祉学会50年史』日本キリスト教社会福祉学会、2009年

細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全3巻、不二出版、2009年

細井勇『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』ミネルヴァ書房、2009年

細井勇「石井十次」伊藤隆・李武嘉也編『近現代日本人物史情報辞典3』吉川弘文館、2007年

菊池義昭・細井勇・柿本誠編『児童福祉論—新しい動向と基本的視点—』ミネルヴァ書房、2007年

#### 〈論文〉

細井勇「石井十次を支えた人々—高鍋の同行者達—」『石井十次資料館研究紀要』9号、2008年

細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ「福岡市における子育て意識調査—子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ」福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書36号、2008年

細井勇「次世代育成に関わる市町村行動計画—その背景と課題—」福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科・市町村福祉計画班『市町村福祉計画の研究（その1）』2007年

秦和彦・古橋啓介・細井勇・林ムツミ「田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について—田川地域の子育て意識調査結果から見た課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』15巻2号、2007年

細井勇（学位論文）「石井十次と岡山孤児院の研究」関西学院大学社会学研究科博士後期課程、2007年

### ②その他最近の業績

#### 〈書評〉

細井勇「書評：加藤博史著『福祉哲学—人権・生活世界・非暴力の統合思想—』」『同志社社会福祉学』22号、2008年

#### 〈史料目録〉

細井勇、池田敬正、菊池義昭、池本美和子、三上邦彦、元村智明『石井十次資料館蒐・

所蔵資料仮目録 図書の部』(平成21年度科研費研究(基盤B)「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」成果報告)、2009年

細井勇、池田敬正、菊池義昭、池本美和子、三上邦彦、元村智明『石井十次資料館蔵・所蔵資料仮目録 写真の部』(同上)、2009年

〈史料紹介〉

細井勇「史料紹介と解説: 渡辺亀吉日記」科研費成果報告書(代表細井勇)『岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究』2010年

〈学会報告等〉

細井勇「これからの子育て支援の方向について―日韓比較調査結果から―」日韓共同学術セミナー「子育て意識と子育て支援についての日韓比較」(於大邱韓医大学校)2010年1月10日

細井勇「子育て意識と子育て支援についてのニーズ調査―日韓比較研究―」日本社会福祉学会第57回大会(於法政大学)、2009年10月10日

細井勇「社会福祉の研究方法を問う―歴史研究の立場から―」シンポジウム: 社会福祉の研究方法を問う、第49回日本社会福祉学会九州部会(於大分大学)、2007年12月

〈翻訳監修〉

宋映沃訳、テグ韓医大学校児童福祉学科『子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズの調査―テグ・キョンサン市の修学前幼児の保護者を中心に―』福岡県立大学附属研究所、2009年

〈エッセイ〉

細井勇「天使と虫」北九州市手をつなぐ育成会『ハートフル・ネット』78号、2009年12月

### ③過去の主要業績

田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996年

共著『誰もが安心して生きられる地域福祉システムを創造する』ミネルヴァ書房、1995年

共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

### 3. 外部研究資金

細井勇研究代表・科研費研究(基盤B)「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」平成18～21年度、平成21年度は390万円

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会、社会事業史学会、司法福祉学会、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止研究会、福岡県立大学社会福祉学会(事務局長)

### 6. 担当授業科目

(学部)

社会福祉史入門・2単位・1年前期、児童福祉論Ⅰ・2単位・2年前期、児童福祉論Ⅱ・2単位・2年後期、施設養護論・2単位・4年前期、社会福祉援助技術現場実習指導・3単位・2年後期～3年、社会福祉援助技術現場実習・4単位・3年、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年後期

(大学院)

社会福祉研究・2単位・前期、社会福祉演習・1単位・後期、特別研究・4単位・通年、フィールドワーク・2単位・1年後期

### 7. 社会貢献活動

福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター・研究プロジェクト「地域における子育て支援」研究代表、2010年1月10日、大邱韓医大学校にて日韓共同学術セミナーを開催。

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	平部 康子
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 主な研究分野

### 【日仏英の社会保障制度における児童の養育にかかる給付および負担】

現在のように、家族形態の変容（核家族、単親家族）および労働市場への女性の参加が進むと、養育者にとって子の養育は、2重の負担（労働機会の喪失、子への出費）となる。日英仏の比較を通じて、社会保障法上にちらばっている子に対する給付（児童手当、各種加算、保育サービス）と負担（所得制限、費用負担）に児童に対する配慮が見出せるか検討する。

### 【介護保険法制における参加および利益調整】

介護保険では、利用者・サービス事業者・行政（市町村、都道府県）が法主体として登場するが、「公正な競争」の下で「保険制度の安定的運営を迫及」しつつ「利用者の選択」を保障するという目標のためには、基準の設定と遵守だけでなく、特に契約などの場面で立場の弱い利用者の手続保障や利益調整の場への参加を保障する必要がある。多様な法目的を実現するための法規制と法主体への権限付与、救済や利益調整のあり方を検討する。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <著書>

- ・ 平部康子「社会福祉の財政と利用者負担」 河野正輝他編『社会福祉法入門』（2008年、有斐閣）
- ・ 平部康子「高齢者福祉」 石橋敏郎他編『やさしい社会福祉法』（2008年、嵯峨野書院）
- ・ 平部康子「イギリスの介護保障」 増田雅暢『世界の介護保障』（2008年、法律文化社）
- ・ 平部康子「イギリスの年金改革」 河野正輝他編『社会保険改革の法理と将来像』（2010年、法律文化社）
- ・ 平部康子「児童福祉・社会手当」 石橋敏郎編『わかりやすい社会保障論』（2010年）

#### <論文>

- ・ 平部康子「医療扶助における一部負担金の法的性質」別冊ジュリスト社会保障判例百選（2008年）
- ・ 平部康子「『多様な働き方』と保育費用の社会的分担」週刊社会保障2458号（2007年）
- ・ 平部康子「保育の法政策と市町村次世代育成支援行動計画」福岡県立大学社会福祉学科共同研究報告書（2007年）

## 3. 外部研究資金

なし

## 4. 受賞

なし

## 5. 所属学会

日本社会保障法学会・社会保障法学会誌編集委員  
日本労働法学会

## 6. 担当授業科目

(学部)

教養演習・1単位・1年・前期、社会福祉援助技術現場実習指導・3単位・2年後期～3年通年、社会福祉法制論Ⅰ・2単位・3年・前期、社会保障法Ⅰ・2単位、3年・前期、外書講読A・2単位・前期、社会福祉法制論Ⅱ・2単位・3年・後期、社会保障法Ⅱ・2単位、3年・通年、外書講読B・2単位・後期、社会福祉援助技術現場実習・4単位・3年・前期、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、日本事情Ⅰ・2単位・留学生・後期、

(大学院)

社会保障制度研究・2単位・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・福岡県介護保険審査会・公益委員・副委員長
- ・福岡県田川保健所感染症の診査に関する協議会・委員
- ・福岡県職業能力開発審議会・委員

## 8. 学外講義・講演

出前講義

中間高等学校「社会福祉学入門」(5月)

古賀竟成館高校「社会福祉学入門」(6月)

## 9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	本郷秀和
----	---------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私は、過去に福祉・介護活動に取り組むNPO法人で相談員や介護業務、運営管理業務に従事した経験があることから、高齢者福祉(介護)や福祉活動に取り組むNPO法人の役割に関心を持っています。具体的には、高齢者福祉領域において①介護サービス(特にNPO法人が提供するサービス)の現状と、その中で高齢者等を支援する社会福祉士の役割と課題、②ソーシャルワーカー(社会福祉士)が高齢者に対して取り組む支援内容や方法、③地域の高齢者問題の把握と課題解決方法等に関心を持っています。近年、高齢者に関しては、犯罪や孤立・孤独死、限界集落や経済格差等のような多様な課題があり、高齢者を支えるシステムを再検討する必要性が高くなっていると思っています。総じて、高齢者を中心に地域住民が安心して生活できるための介護系NPOの基盤整備、社会福祉士の業務と配置体制の充実方法等を模索したいと考えています。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文 [2007(平成17)年度～2009(平成21)年度]

- 1)本郷秀和、「第6章 福祉NPOが地域の主体となって取り組む」妻鹿ふみこ編著『地域福祉の今を学ぶ-理論・実践・スキル-』ミネルヴァ書房、2010年3月。
- 2)本郷秀和・松岡佐智、「北九州・京築・筑豊地域における社会福祉施設のボランティア受け入れの実態と福祉系大学生のボランティア意識に関する一考察」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第1号、福岡県立大学、2009年7月。
- 3)古野みはる・鬼崎信好・本郷秀和、「福岡県介護保険広域連合を巡る課題」、『九州社会福祉学』第5号、日本社会福祉学会九州部会、2009年3月。
- 4)松岡佐智・本郷秀和、「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第17巻第2号、福岡県立大学、2009年1月。
- 5)本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄、「指定福祉NPOにおける社会福祉士の活動実態と役割 一常勤社会福祉士を配置する指定福祉NPO 全国実態調査を基礎にして一」、『九州社会福祉学』第4号、日本社会福祉学会九州部会発行、2008年3月。
- 6)本郷秀和・松岡佐智・西原尚之、「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅰ」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第16巻第1号、福岡県立大学、2007年12月。

### ② その他最近の業績 [2007(平成17)年度～2009(平成21)年度]

- 1)本郷秀和(研究代表)・松岡佐智編集「介護系NPOにおける社会福祉士の役割」福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2010年3月予定。(平成21年度福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書・平成21-23年度予定文部科学省科学研究費補助金基盤研究C中間報告書、共著)
- 2)本郷秀和「Ⅳ 回答者のストレス状況」、研究代表:村山浩一郎『川崎町「安宅の滝」と健康に関する住民意識調査報告書』2010年3月(川崎町受託研究、共著)。
- 3)本郷秀和(研究代表)、「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅲ」福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科、経験型実習研究グループ発行、2009年3月(共著)。
- 4)本郷秀和「資料編:社会福祉学科 WEBリスト」福岡県立大学教養演習テキスト学生編集委員会編、『レポートの書き方 09』福岡県立大学教養演習テキスト出版会発行、2009年3月。
- 5)鬼崎信好・本郷秀和編集、「認知症高齢者に係わる職員の職務意識と資質向上の方策に関する研究Ⅱ」(福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告書 vol.42)、福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2009年3月(共著)。
- 6)本郷秀和・松岡佐智「第2節 ボランティア活動の実態調査」森山沾一代表『世界遺産を目指す旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書』(福岡県立大学発行、委託者:経済産業省九州経済産業局)2009年3月。
- 7)鬼崎信好(研究代表)・本郷秀和・山田真知子・松岡佐智「介護サービスの評価システム開発に関する研究」、2008年3月。(平成18-19年度、文部科学省科学研究費補助金基盤研究C 研究成果報告書、共著)

- 8) 鬼崎信好・本郷秀和・松岡佐智「高齢期の自立阻害要因」、清田勝彦研究代表、『生活保護自立阻害要因の研究』(福岡県立大学付属研究所発行、福岡県受託研究)、2008年3月。
- 9) 本郷秀和(研究代表)『福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性(2)』福岡県立大学生涯福祉研究センター、2008年3月(共著)。
- 10) 鬼崎信好・本郷秀和編集『助け合いの地域づくりアンケート調査最終報告書』(福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、日本生命財団高齢社会研究助成)、2008年4月(共著)。
- 11) 鬼崎信好・本郷秀和編集『介護サービスを実施するNPO法人に関する研究』(福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告書 Vol.32、平成16-17年度三井住友海上福祉財団助成)、福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2007年4月(共著)。 ※以下略。

## (2) 学会報告

- 1) 松岡佐智、鬼崎信好、本郷秀和、「介護系施設における利用者の生活環境に関する調査報告」日本社会福祉学会第50回大会九州部会口頭発表(沖縄大学)、2009年12月。
- 2) 本郷秀和・松岡佐智・西原尚之、「北九州・京築・筑豊地域における社会福祉施設のボランティア受け入れ実態と福祉系大学生のボランティア意識に関する一考察」、日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表(長崎国際大学)、2008年12月。
- 3) 袖井智子・本郷秀和、「介護保険制度下の高齢者支援の課題 ―福島県磐梯町における調査結果の整理」、日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表(長崎国際大学)、2008年12月。
- 4) 松岡佐智・本郷秀和、「社会福祉援助技術現場実習の実習効果意識に関する一考察」、日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表(長崎国際大学)、2008年12月。
- 5) 松岡佐智・本郷秀和・西原尚之、「福祉ボランティアを通じた実習教育導入の可能性(2)」日本社会福祉学会第48回大会九州部会口頭発表(大分大学)、2007年12月。

## 3. 外部研究資金(平成21年度)

- 1) 本郷秀和(研究代表)、平成21-23年度(予定)文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】、研究課題:「介護系NPOの可能性とソーシャルワークの役割」(平成21年度:195万円)共同
- 2) 川崎町受託研究「山村資源を活用した健康と癒しの森づくり推進事業医療介護状態実情把握調査分析」、439950円、2009年12月-2010年2月。 ※共同

## 5. 所属学会: 日本社会福祉学会 ・日本地域福祉学会 ・日本社会福祉士会等

## 6. 担当授業科目(平成21年度)

「社会福祉援助技術演習Ⅰ」(4単位、2年、通年)、「社会福祉援助技術現場実習指導」(3単位、2～3年、通年)、「社会福祉援助技術現場実習」(4単位、3年次、通年)、「社会福祉援助技術論Ⅱ」(2単位、2年次、前期)、「社会福祉学演習」(4単位、3年次前期～4年時後期、通年)、「卒業論文」(6単位、4年次、後期)、「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」(2単位、1年、後期)

## 7. 社会貢献活動(平成21年度)

- ①福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員、②福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費審査会審査委員、③福岡県社会福祉士会 介護サービスの情報公開 第三者委員会委員、④玉名荒尾地区(熊本県)「障害者児の生活を豊かにする会」(任意団体)会員・会計監査
- ⑤NPO 法人 地域たすけあいの会(介護保険・自立支援法に基づく事業等を実施) 理事代表等。

## 8. 学外講義・講演(平成20年度)

- ①平成21年度福岡県人権相談従事者職員研修非常勤講師(財団法人福岡県人権啓発情報センター主催、テーマ「社会福祉と人権」)平成20年9月。(※以下略)

## 9. 附属研究所の活動等・・・社会貢献・ボランティア支援センター運営部会幹事

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	村山浩一郎
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。こうした研究は、実践現場との連携なしには考えられません。社会福祉協議会の地域福祉活動や自治体の計画づくりなどに参加しながら研究を進め、現場に貢献できる研究を目指したいと思います。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

村山浩一郎「小地域ネットワーク活動の課題に関する研究ー北九州市のふれあいネットワーク事業を担う福祉協力員に対する質問紙調査の分析からー」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号、2010年

村山浩一郎「北九州市における小地域福祉活動の活動実態と課題に関する研究」、『西南女学院大学紀要』第13巻、2009年

村山浩一郎・樋口真紀「北九州市における『新しいまちづくり協議会』の課題」、『西南女学院大学紀要』第11巻、2007年

### ②その他最近の業績

村山浩一郎「第1部地域活動におけるセーフティネットに関する調査研究 第2章福祉協力員の小地域福祉活動調査のまとめ」、『地域課題研究 地域づくりに関する研究報告書』北九州市立大学都市政策研究所 地域づくり研究会、2009年3月

村山浩一郎・山崎克明・平野健太「第1部地域活動におけるセーフティネット機能に関する調査研究 I 社会福祉協議会小地域福祉活動に関する聞き取り調査結果から」（『2007年度社会福祉プロジェクト 地域づくりに関する調査研究報告書』、北九州市立大学都市政策研究所 地域づくり研究会、2008年3月

村山浩一郎「II 訪問経験別にみた『安宅の滝』の活用状況と健康意識」、「V まとめ」、『川崎町「安宅の滝」と健康に関する住民意識調査報告書』、川崎町受託研究、共著、2010年3月

### ③過去の主要業績

村山浩一郎「北九州市における地域づくりの課題と展望ー新しいまちづくり協議会をめぐってー」（『地域づくりに関する調査研究報告書ー2005年度社会福祉プロジェクトー』地域づくり研究実行委員会、北九州市立大学北九州産業社会研究所）2006年3月

村山浩一郎「社会福祉事業主体の自由化と新しい規制の仕組みについてーケアハウスと痴呆性高齢者グループホームの事例からー」、『高齢者福祉における自治体行政と公私関係の変容に関する社会学的研究』（平成12年度～平成13年度科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者 平岡公一）、2003年

村山浩一郎「非営利組織と社会的監査ー英国スコットランドの事例からー」、『社会福祉学』第41巻2号、日本社会福祉学会、2001年

細内信孝、村山浩一郎「コミュニティ・ビジネス論ーコミュニティ・ビジネスによる社会開発の試みー」、『生活協同組合研究』、生協総合研究所、1998年7月



### 3. 外部研究資金

川崎町受託研究「山村資源を活用した健康と癒しの森づくり推進事業医療介護状態実情把握調査分析」、439,950円、2009年12月～2010年2月

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本社会学会、福祉社会学会、地域社会学会

### 6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、社会福祉援助技術現場実習指導・3単位・2～3年・後期～通年、社会福祉援助技術現場実習・4単位・3年・通年、社会福祉援助技術演習Ⅱ・2単位・3年・通年、社会福祉援助技術論Ⅳ・2単位・3年・前期、地域福祉論Ⅰ・2単位・3年・前期、地域福祉論Ⅱ・2単位・3年・後期、社会福祉計画論・2単位・3・4年・前期、社会福祉学演習・2単位・3～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・後期

### 7. 社会貢献活動

- ・行橋市福祉のまちづくり条例及び地域福祉計画策定委員会・委員
- ・行橋市福祉のまちづくり条例及び地域福祉計画策定プロジェクト会議・委員（座長）
- ・北九州市社会福祉協議会・総合企画委員会・委員
- ・北九州市社会福祉協議会・ふれあいネットワーク事業「協働事業」助成金交付校（地）区社協選定会・委員
- ・みやこ町社会福祉協議会・みやこ町地域福祉活動計画策定委員会・委員（委員長）
- ・福岡市社会福祉協議会・「第4期地域福祉活動計画」策定委員会・委員（副委員長）
- ・北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会・委員

### 8. 学外講義・講演

- ・北九州市社会福祉協議会・北九州市社会福祉ボランティア大学校・新任福祉協力員合同研修会（八幡西区）「小地域における福祉活動」講師 2009年7月5日、7月11日
- ・北九州市立年長者研修大学校「周望学舎」・年間研修コース等「地域での支え合いについて」講師 2009年5月29日、7月30日、2010年2月18日
- ・みやこ町社会福祉協議会・福祉講演会「地域福祉活動計画とは」講師 2009年9月18日
- ・NPO法人生涯学習指導者育成ネットワーク（北九州市・北九州市教育委員会共催）・生涯学習・地域福祉・まちづくり推進活動のための「人材育成セミナー」講師 2010年1月23日、2月6日、2月20日、3月27日
- ・北九州市社会福祉協議会・北九州市社会福祉ボランティア大学校・地域福祉活動専門研修「校（地）区単位のまちづくり活動計画」講師 2010年3月16日

### 9. 附属研究所の活動等

- ・社会貢献・ボランティア支援センター運営部会幹事
- ・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業」社会貢献センターの開設・運営・管理チームメンバー

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	助手	氏名	松岡 佐智
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2005年3月、福岡県立大学人間社会学研究科福祉社会専攻修了。2005年4月、本学に着任。

現在、高齢者福祉分野における福祉専門職の支援のあり方について関心を持っている。人口高齢化が進行する中で、要介護高齢者の数も年々増加している。その中で、利用者に対し、直接支援を担う社会福祉専門職の役割・支援のあり方は、非常に重要なものであると考えている。また、高齢者の生きがい支援のあり方、高齢者が積極的に社会参加できる地域ケアシステムの課題についても研究を進めている。

さらに、社会福祉士・精神保健福祉士の実習教育のあり方についても関心を持っている。社会福祉専門職養成としての実習のあり方、学生に対する実習教育方法、実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組み、本学学生の専門職養成に寄与したいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文 [2007(平成17)年度～2009(平成21)年度]

- (1)本郷秀和・松岡佐智「北九州・京築・筑豊地域における社会福祉施設のボランティア受け入れの実態と福祉系大学生のボランティア意識に関する一考察」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第18巻第1号、福岡県立大学、2009年7月
- (2)松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究－福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅱ－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学、2009年1月
- (3)本郷秀和・松岡佐智・西原尚之、「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅰ」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第16巻第1号、福岡県立大学、2007年12月

### ②その他の業績

〈調査報告書〉

- (1)本郷秀和(研究代表)・松岡佐智編集「介護系NPOにおける社会福祉士の役割」福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2010年3月予定。(平成21年度福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書・平成21-23年度予定文部科学省科学研究費補助金基盤研究C中間報告書)
- (2)本郷秀和・松岡佐智「第2節 ボランティア活動の実態調査」森山沾一代表『世界遺産を目指す旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書』(福岡県立大学発行、委託者:経済産業省九州経済産業局)2009年3月
- (3)本郷秀和・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ・松岡佐智「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性(3)－福岡県立大学・社会福祉学科学生のボランティア意識の現状と課題－」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2009年3月
- (4)鬼崎信好・本郷秀和・松岡佐智・佐伯幸雄・荒木剛・石踊紳一郎「認知症高齢者への生活支援等に関する従事者の意識調査Ⅰ(研究報告書)」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2009年3月
- (5)鬼崎信好・本郷秀和・松岡佐智・佐伯幸雄・荒木剛・石踊紳一郎「認知症高齢者への生活支援等に関する従事者の意識調査Ⅱ(研究報告書)」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2009年3月
- (6)清田勝彦・森山沾一・鬼崎信好・西原尚之・中村晋介・三隅譲二・中村幸・四戸智昭・本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智・久富芳孝「生活保護自立阻害要因の研究－福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から－」受託研究「田川郡における被保護者の自立阻害要因に係る分析」報告書 福岡県立大学附属研究所、2008年3月
- (7)本郷秀和・西原尚之・門田光司・細井勇・小田美季・中村幸・城井みづほ・松岡佐智「福祉ボランティアを通じた『経験型実習』導入の可能性(2)－福岡県立大学・社会福祉学科学生のボランティア意識の現状と課題－」福岡県立大学研究奨励交付金報告書、2008年3月

- (8) 鬼崎信好・本郷秀和・山田眞知子・松岡佐智「介護サービスの評価システム開発に関する研究」、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C 研究報告書、2008年3月
  - (9) 清田勝彦・森山沾一・鬼崎信好・西原尚之・中村晋介・三隅讓二・中村幸・四戸智昭・本郷秀和・高間満・城島泰伸・谷村紀彰・泉賢祐・林ムツミ・中藤広美・松岡佐智「田川郡における貧困の世代的再生産に係る要因分析(平成19年度事前継続研究報告書)」福岡県立大学附属研究所、2007年7月
  - (10) 鬼崎信好・本郷秀和・佐伯幸雄・荒木剛・松岡佐智「助けあいの地域づくりアンケート調査 最終報告書」(日本生命財団 平成15年度 高齢社会研究助成報告書、受託:社会福祉法人 慈愛会)、『福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書』Volume.31、福岡県立大学生涯福祉研究センター発行、2007年4月
- 〈学会報告〉
- (1) 松岡佐智、鬼崎信好、本郷秀和「介護系施設における利用者の生活環境に関する調査報告」日本社会福祉学会第50回大会九州部会口頭発表(沖縄大学)、2009年12月
  - (2) 松岡佐智・本郷秀和「社会福祉援助技術現場実習の実習効果意識に関する一考察ー福岡県立大学社会福祉学科学生の実習意識に関する調査報告ー」日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表(長崎国際大学)、2008年12月
  - (3) 本郷秀和・松岡佐智・西原尚之「社会福祉施設のボランティア受け入れ実態と福祉系大学生のボランティア意識に関する一考察ー福岡県内の北九州・京築・筑豊地域におけるボランティア実態調査報告ー」日本社会福祉学会第49回大会九州部会口頭発表(長崎国際大学)、2008年12月
  - (4) 松岡佐智・本郷秀和・西原尚之「福祉ボランティアを通じた実習教育導入の可能性(2)ー福祉ボランティアに関する学生アンケート調査の報告ー」日本社会福祉学会第48回大会九州部会口頭発表(大分大学)、2007年12月

### ③過去の主要業績

- (1) 本郷秀和・西原尚之・松岡佐智「福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅰ」『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第16巻第1号、福岡県立大学、2007年11月
- (2) 本郷秀和・松岡佐智「社会福祉援助技術現場実習における実習効果意識に関する一考察」『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第15巻第2号、福岡県立大学、2006年3月
- (3) 松岡佐智「高齢者の生きがいと社会参加に関する調査研究ー北九州市のアンケート調査をもとにしてー」『九州社会福祉学』創刊号、日本社会福祉学会九州部会、2005年3月

### 3. 外部研究資金(平成21年度)

本郷秀和(研究代表)、平成21-23年度(予定)文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】、研究課題:「介護系NPOの可能性とソーシャルワークの役割」(平成21年度:195万円)共同研究者

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会

### 6. 担当授業科目

精神保健福祉援助実習(補助)・8単位・4年・通年  
 社会福祉援助技術現場実習指導(補助)・3単位・2年後期～3年(通年)  
 社会福祉援助技術現場実習(補助)・4単位・3年・通年

### 8. 学外講義

門司大翔館高校・出前講義「社会福祉学入門」講師 2009年10月15日

### 9. 附属研究所の活動等

田川元気再生プロジェクト「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業一産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現」ボランティアチーム メンバー

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	甲斐 彰
----	---------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

初学者のための教授法研究に基づく具体的な学習プログラムの検討・作成を行なっている。これまで保育士・幼稚園教員養成課程及び小学校教員養成課程の学生を対象とした実用書「左手のための実用伴奏法」（1990、音楽之友社、現在13版）および理論書「楽譜が読めるステップ12」（1995、音楽之友社、現在25版）、「楽譜が読める・弾けるステップ20」（2004、音楽之友社、現在5版）を執筆し、一般の読者より要望の高かったコンパクトな「超わかりやすい楽譜の読み方」（2006、音楽之友社、現在8版）も出版した。

そして昨年度はこれらの集大成とも言える「コード伴奏にチャレンジ！ “らくらく弾けるピアノコード” ～スリーコードから始めるステップ17～」（2009、3月）を執筆した。

今年度はこれらを通した教育実践を中心に活動を行い、2010年2月には、保育士養成校教員を対象にした授業研究会において、「保育士養成校に於ける授業研究の試み～保育内容『表現』及び基礎技能『音楽』に関する授業研究」と題して、これら一連の研究とそれに基づいて作成した具体的な学習プログラムの提示を行なった。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈著書〉

- ・甲斐 彰「らくらく弾けるピアノコード」、音楽之友社、2009年3月

### ②その他の最近の業績

〈シンポジウム等〉

- ・ 全国保育士養成セミナー、分科会H「新任者特別分科会～新任の先生方と保育士養成を考える～」、コーディネーター及び助言者、鹿児島城山観光ホテル、2007年9月13日、主催：全国保育士養成協議会
- ・ 全国保育士養成セミナー、G分科会「新任者特別分科会」、助言者、函館国際ホテル、2008年9月25日、主催：全国保育士養成協議会
- ・ 全国保育士養成セミナー、分科会D「保育士養成校の教員に求められる力量とその形成。1）保育士養成校教員としての新任者研修」、コーディネーター及び助言者、東北福祉大学、2009年9月10日、主催：全国保育士養成協議会

### ③過去の主要業績

〈著書〉

- ・ 甲斐 彰「左手のための実用伴奏法」、音楽之友社、1990年12月
- ・ 甲斐 彰「楽譜が読めるステップ12」、音楽之友社、1995年8月
- ・ 甲斐 彰「楽譜が読める・弾けるステップ20」、音楽之友社、2004年9月
- ・ 甲斐 彰「超やさしい楽譜の読み方」、音楽之友社、2006年9月

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

- ・ 日本音楽教育学会会員
- ・ 日本教科教育学会会員

## 6. 担当授業科目

音楽Ⅰ・2単位・1年・通年、音楽Ⅱ・2単位・2年・通年、「保育内容・表現Ⅰ」・2単位・2年・前期、「保育内容・表現Ⅱ」・2単位・2年・後期、演習・2単位・3年～4年・後期～前期、保育総合演習・2単位・4年・前期、保育内容演習・2単位・4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期、

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会・会長
- ・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会評価決定部会・部会長
- ・ 北九州市立母子福祉センター指定管理者検討会・座長
- ・ 北九州市立第1・第2緑地保育センター指定管理者検討会・座長
- ・ 北九州市親子ふれあいルーム運営事業者選考会議・座長
- ・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会委員養成研修会講師
- ・ 北九州市平成21年度第三者評価事業フォローアップ研修会講師
- ・ 第58回福岡県小学校音楽コンクール審査員

#### 8. 学外講義・講演

- ・ 大分交響楽団トレーナー
- ・ 中学校・高等学校の吹奏楽指導
- ・ 授業研究会（保育士養成校に於ける授業研究の試み）

#### 9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民に対する精神障害の啓発教育（心理教育の方法）、地域における自殺予防対策に取り組んでいる。主な取り組みには福岡県中間市や福岡市における自殺予防対策事業への参画がある。様々な精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法に興味を持っている。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、思春期の精神保健（自傷行為やひきこもりの問題）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。これまで心理臨床専攻大学院生は、アルコール依存症・境界性パーソナリティ障害・発達障害等の精神障害についてのイメージと心理教育の効果、ストレスマネジメント教育の方法等をテーマとして研究調査を実施している。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <著書>

- ・小嶋秀幹：「産業医・人事労務担当者の役割」、専門医のための精神科臨床リュミエール 18 職場復帰のノウハウとスキル（中村 純編）、pp27-40、中山書店（東京）、2009.

#### <主な論文>

- ・中藤麻紀、小嶋秀幹、吉岡和子：「保健・福祉系学部大学生の「アルコール依存症」についてのイメージ精神保健教育による変化」、福岡県立大学心理臨床研究、2:27-31、2010.
- ・小嶋秀幹：「地域民生委員に対する精神障害の啓蒙教育のあり方に関する研究」、科学研究費補助金報告書（基盤研究C）、1 - 98、2009.
- ・小嶋秀幹：「民生児童委員に対するこころの相談員研修のあり方についての検討」、福岡県立大学心理臨床研究、創刊号：75 - 79、2009.
- ・小嶋秀幹：「都市部で有効な自殺予防対策とは―福岡県中間市での取り組みを通して考えること―」、日本社会精神医学会雑誌、17(1):70-76、2008.
- ・小嶋秀幹：産業保健スタッフと精神科医・心療内科医との連携：良好な関係構築に向けて―精神科医の視点から―、産業精神保健16(1)：18 - 22、2008.
- ・小嶋秀幹、中村 純：職域における自殺予防対策―大規模事業所における管理監督者教育での試み―、総合病院精神医学 19(1)：29-33、2007.

### ②その他の業績

#### <学会報告>

- ・小嶋秀幹、中野英樹、宮川治美、木村 忍、松村久美、竹井憲一、山下文恵、中村 純：「精神障害の啓発ツールとしての全戸配布リーフレットの有効性の検討」、第 33 回日本自殺予防学会（大阪）、2009 年 4 月
- ・小嶋秀幹：「いのちの電話相談員に対する境界性パーソナリティ障害についてのイメージ調査」、第 33 回日本自殺予防学会（大阪）、2009 年 4 月
- ・小嶋秀幹：「フィールドワークから―自殺予防のためにできること―」、シンポジスト、第 31 回北九州いのちの電話自殺予防シンポジウム、2009 年 7 月
- ・小嶋秀幹：「介護サービス従事者を対象としたうつ病と自殺予防についての教育効果」、第 105 回日本精神神経学会（神戸）、2009 年 8 月

## 3. 外部研究資金

- ・「福岡市自殺予防支援モデル構築に向けた調査研究」、平成21～23年度、分担研究者
- ・こころの健康科学事業「自殺対策のための戦略研究」、平成17～21年度、研究協力者

#### 4. 受賞 なし

#### 5. 所属学会

- ・九州精神神経学会評議員
- ・日本精神神経学会精神科専門医
- ・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本病院地域精神医学会、日本司法精神医学会、日本自殺予防学会、日本アルコール精神医学会、日本臨床精神薬理学会、日本産業衛生学会、日本老年精神医学会、日本心理臨床学会、福岡県臨床心理士会 各会員

#### 6. 担当授業科目

精神保健学・2単位・1年・前期、精神保健学Ⅰ・2単位・2年・前期、精神医学Ⅰ・2単位・3年・前期、老年期医学・2単位・3年・前期、精神保健学Ⅱ・2単位・2年・後期、精神医学Ⅱ・2単位・3年・後期、演習・2単位・3～4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期、特別研究・4単位・大学院1年・通年、臨床心理実習（学内）・1単位・大学院2年・通年、臨床心理査定演習・4単位・大学院1年・前期、臨床心理面接特論・4単位・大学院1年・後期、臨床心理基礎実習・2単位・大学院1年・通年、臨床心理実習（施設）・1単位・大学院2年・前期

#### 7. 社会貢献活動

北九州市精神医療審査会委員、北九州いのちの電話評議員、北九州市役所嘱託産業医、北九州市立子ども総合センター非常勤医師、産業医科大学医学部非常勤講師、田川児童相談所虐待カウンセリング医、中間市こころの健康づくり計画策定協議会事務局、心神喪失等医療観察法判定医、精神保健指定医業務（措置鑑定）

#### 8. 主な学外講義・講演

- ・第82回日本産業衛生学会（福岡市）、座長、5月
- ・「うつ病はこころの風邪」、福岡県遠賀保健所研修会、講師、6月
- ・「ストレスとうつ病」、中間市立中間東小学校教員研修会、講師、7月
- ・「事業場外資源との連携」、エキスパート産業医養成研修会、講師、8月・12月
- ・「子どもの人権」、福岡県職員人権研修、講師、9月・10月
- ・「不登校の児童生徒をめぐる連携」、教員免許更新研修、福岡県立大学、9月
- ・「中間市こころの健康づくり事業の実績と今後」中間市民生児童委員研修会、9月
- ・「福祉系大学生からみたアルコール依存症のイメージ」第1回AA九州・沖縄地域広報&病院・施設フォーラム（佐賀）、講師、9月
- ・「死にたいと言われたときに」、中間市傾聴ボランティア研修会、講師、10月
- ・「職場におけるこころの健康」、野尻町職員研修会（宮崎）、講師、10月
- ・「うつ病患者の初期対応と連携」、西諸地区看護師研修会（宮崎）、講師、10月
- ・「うつ病の理解と対応」、遠賀郡吉木町公民館研修会、講師、11月
- ・「こころの病気の理解と対応」、福岡県主任介護職員研修会、講師、12月
- ・「ストレスケアと心の健康」、赤坂市民センター研修会（北九州市）、講師、1月
- ・「精神医学Ⅰ・Ⅱ」、北九州いのちの電話相談員養成研修、講師、11月・2月
- ・「自殺予防とうつ病」、藤松市民センター研修会（北九州市）、講師、3月

#### 9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学不登校サポートセンター幹事

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	小松 啓子
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

1976年日本女子大学大学院家政学研究科修士課程修了（家政学修士）。1979年徳島大学大学院栄養学研究科博士課程単位取得満期退学（1980年保健学博士、徳島大学 甲栄16号、栄養学専攻）。1979年徳島大学医学部栄養学科・特殊栄養学教室（助手）勤務、1983年から産業医科大学小児科学教室訪問研究員として在籍、小児科外来・病棟での栄養指導を担当しながら研究活動を展開（2007年迄）。1987年福岡県立社会保育短期大学に着任（助教授）、1992年福岡県立大学移行後、人間形成学科教授として現在に至る。2007年看護学部看護学研究科開設と同時に看護学研究科教授として食育学特論・演習を担当し、人間社会学部学生との教育と併せ、社会人の専門教育に貢献。

栄養学に関する研究活動を始めて約35年になるが、研究の柱として生命誕生から死にいたる人生を食の視点から捉え続けることを重視し、研究活動を展開してきた。現在は研究の取組みを、共同と個人研究の二つの柱で下記のテーマで実施しているが、二つの柱は夫々が独立したものではなく、食の視点を重視した「人の健康のあり方」を問う学問研究として位置づけている。

### (1) 共同研究（小松啓子他13名で構成）

「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究」

赤村全住民を対象に、健康と生活に関する基礎調査をもとに、ライフサイクルにおける食育上の課題について研究を進めている。また、本研究を、本大学が将来担うコホート研究に位置づけるための基盤づくりも進めている。

### (2) 個人研究

小児を対象に下記の2件を中心に研究活動を展開している。

「幼児の健全な食行動の形成に対して連続的な菜園活動体験を取り入れた食教育のあり方」「思春期に表出する小児の自己体型に対する認知のずれに関する研究」

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <著書>

- ・小松啓子「特集 栄養カウンセリング入門」、『食育』第72巻第7号、健学社、2007年3月。
- ・小松啓子「幼児の偏食改善に向けた連続的な食生活体験ーちびっ子農園活動が育む食行動の自立ー」、子育て問題を考える福岡会議編『子育て問題を考える』、日本小児医事出版社、2007年9月。
- ・小松啓子「第1章 子どもの健康な生活と食生活の意義、第2章子どもの発育・発達と食べる行動、第6章 幼児期の食生活」、小松啓子編著『プリマーズ 小児栄養』、ミネルヴァ書房、2007年12月。
- ・小松啓子「2.1 栄養カウンセリングの基本、2.2 食行動理論の活用、2.3 心理アセスメントの基本、5.2 乳児期・離乳期の栄養アセスメントと栄養管理」、山本茂編『管理栄養士技術ガイド』文光堂、2008年4月。
- ・小松啓子「1. 栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ、2. 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル、6・1食行動に影響を及ぼす要因、9. 栄養カウンセリングのための実習プログラム」、小松啓子編著『栄養科学シリーズ 栄養カウンセリング論 第2版』、講談社サイエンティフィック、2009年3月。
- ・小松啓子「3. 栄養教育の基礎技術：栄養教育を効果的に行えるようにしよう」、片井加奈子等編『栄養教育論実習書』、講談社サイエンティフィック、2010年3月。



<論文>

- ・小松啓子、岡村真理子「小児のメタボリックシンドローム・肥満症における食生活と食事療法」、『Adiposcience』第4巻4号、フィジカル出版、2007年12月。
- ・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の学習・食生活・健康に与える影響」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻2号、2008年3月。
- ・Takeshi UEDA, Kazunari ISHIHARA, Mariko OKAMURA, Keiko KOMATSU, 「The Effect of Childrens Sports Activities on Life Habits:Sports Activities of Children in the Chikuhō Region and Related Factors」  
『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻1号、2008年7月。
- ・小松啓子「メタボリックシンドロームの予防と治療ー現代の日本小児の食生活ー」  
『小児科臨床ピクシス6』五十嵐隆総編者、大関武彦専門編者、中山書店、2009年3月。

②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・小松啓子、岡村真理子「幼稚園における食育活動実態調査」2008年3月。
- ・小松啓子、上田毅、石川フカエ、岡村真理子、小嶋秀幹、中野榮子、夏原和美、安酸史子、吉岡和子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究ー住民の健康と生活に関する基本調査」『福岡県立大学生涯福祉研九センター研九報告叢書』第38号、2008年3月。
- ・小松啓子監修『平成19年度食育及び中学校給食に関する調査結果報告書』北九州市食育推進会議、2008年7月・小松啓子監修『食育及び中学校給食に関する報告書【概要版】』北九州食育推進会議、2008年7月。
- ・小松啓子、岡村真理子「福岡県の幼稚園における食育活動実態調査」2008年4月。
- ・小松啓子、岡村真理子「保育所（園）における食育活動実態調査」2009年3月。
- ・小松啓子、石川フカエ、上田毅、尾形由紀子、岡村真理子、北川明、清田勝彦、小嶋秀幹、中野榮子、夏原和美、安酸史子、山下清香、吉岡和子、渡邊智子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究ー住民（16歳から40歳）の健康と生活に関する基本調査」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』第43号、2009年3月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究ー小児のメタボリックシンドローム改善に向けた幼児の食生活実態調査」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』第44号、2009年3月。

<インタビュー>

- ・小松啓子「特集 栄養カウンセリングを食育に生かそう」『食育』第72巻第7号、健学社、2007年3月。

<連載>

- ・小松啓子「子どもの食ー女子中学生にみられる健康面の課題とやせ願望」『心とからだの健康』第10巻107号、健学社、2007年1月。
- ・小松啓子「子どもの食ーお菓子の選択方法に要注意」『心とからだの健康』第10巻108号、健学社、2007年2月。
- ・小松啓子「子どもの食ー体調の不調を訴える女子中学生には栄養評価を」『心とからだの健康』第10巻109号、健学社、2007年3月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第1回 40歳代の朝ごはんを食べない人の食習慣について」『広報あか』2009年2月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第2回 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度について」『広報あか』2009年3月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第3回 朝食を食べない人が多くみられた40

歳代の健診受診について」『広報あか』2009年4月.

- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第4回 調査日の朝食バランスについて」、『広報あか』2009年5月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第5回 体を動かす習慣について」『広報あか』2009年6月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第6回 睡眠について」『広報あか』2009年7月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第7回 40代の方々の健康につながる8つの食習慣について」『広報あか』2009年8月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第8回 40代の方々の体調について」『広報あか』、2009年9月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第9回 朝食のメニューについて」『広報あか』2009年10月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第10回 体型について」『広報あか』2009年11月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第11回 腹囲について」『広報あか』2009年12月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第12回 BMIと食習慣の関係について」『広報あか』2010年1月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第13回 夜食について」『広報あか』2010年2月.
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第14回 毎食野菜を食べましょう」『広報あか』2010年3月.

#### <その他の掲載>

- ・北九州市食育あり方検討会委員長 小松啓子『北九州市食育あり方検討会報告書』北九州市保健福祉局、2006年8月
- ・小松啓子「産業カウンセラーの目 第11回キャリアサポートセンターにおける産業カウンセラー」『らいふ』第5巻第12号、社団法人全国労働基準関係団体連合会、2006年12月.
- ・小松啓子「早起きすることはもともと、体にとって、ごく自然なことなのです」『クリム』、2008年3月、生活協同組合連合会コープ九州事業連合
- ・小松啓子「朝ごはんを食べる、ということ」『クリム』生活協同組合連合会コープ九州事業連合、2008年3月.

#### <シンポジスト>

- ・「生活リズムの中の食の役割について」 子どもの生活リズム向上全国フォーラムin福岡県、2007年1月13日（於：北九州市）.
- ・「子どもの食について」 子どもの生活習慣を考えるーみんなで築く生活リズムー、2007年10月17日（於：福岡市）.
- ・「小児期の食生活の課題とメタボリックシンドローム予防」第28回日本肥満学会、2007年10月（於：東京、海運クラブ）.
- ・「女性の働く・キャリア形成の支援」分科会、キャリア・コンサルタント全国大会、2008年11月2日（於：東京、国学院大学）.
- ・「専門家としてのキャリア・コンサルタント～キャリア・コンサルタントの専門性とは」キャリア・コンサルタント福岡大会、2008年8月3日（於：福岡市）.
- ・「食育とケアリング」第28回看護科学学会学術集会、2008年12月14日（於：福岡市）.
- ・「農産物を育てて、食べて、みんなで楽しい食育」平成21年度田川地域食育推進大会、2010年1月17日（於：赤村）

#### <特別講演>

- ・「偏食を予防する離乳食の進め方～赤ちゃんとお母さんの笑顔を育む～」健康・育児・生活支援、産学連携による新生活産業創出シーズ発表会、2009年7月27日（於：福岡市）
- ・「子どもたちの健康と食育」大分県健康・教育研修会、2009年8月25日（於：大分市）
- ・「食育活動における栄養カウンセリング」島根県立大学リカレント教育、2009年10月10日（於：島根）
- ・「家庭科教育における生きる力や学力向上につながる食育の視点」家庭科教育筑後地区研究大会2009年10月14日（於：久留米）
- ・「子どもの生きる力を培う食育の大切さ～過去60年間の食生活の歩みから～」北九州小児歯科研修会、2009年11月7日（於：北九州市）
- ・「食と健康を学ぼう～早やね・早起き・おいしい朝ごはん～」北九州医師会講座、2009年12月7日（於：北九州市）
- ・「子どもの健康を目指す食育の視点」大分県学校保健研究大会、2009年12月10日（於：大分）
- ・「学校での子どもたちの生きる力や学力向上につながる食育の視点」佐賀県学校栄養士会、2010年1月25日（於：佐賀市）
- ・「特定保健指導における栄養カウンセリングの効果」兵庫県栄養士会生涯学習、2010年2月20日（於：神戸市）
- ・「田川市のこどもたちの食育上の課題とこれから～過去23年間の歩みからみえてきた子どもたちへのかかわり～」田川市立学校評議員連絡会議研修会、2010年3月5日（於：田川市）
- ・「栄養カウンセリング」熊本市行政栄養士研修会、2010年3月11日（於：田川市）
- ・「味覚やそしゃく機能の発達を大切にしたい食育の実践」福岡県私立幼稚園振興協会・北九州市私立幼稚園連盟研究大会、2010年3月27日（於：北九州市）

#### ＜コーディネーター＞

- ・第49回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会、第4分科会「肥満・痩身傾向のある児童生徒への指導」2008年8月1日（於：久留米市）。
- ・九州保育研究会食育分科会「いま、食育を考える」2008年11月9日（於：北九州市）。
- ・「食べよう、伝えよう田川の食文化」平成20年度田川地域食育推進大会シンポジウム、2008年11月15（於：大任町）。

#### ＜学会報告＞

- ・岡村真理子、小松啓子「幼稚園における食育活動の取り組み」第1回日本食育学会総会・学術大会（和洋女子大学）2007年5月。
- ・岡村真理子、小松啓子「幼児にみられる疲労症状と食生活、生活リズムとの関連性について」第54回日本栄養改善学会（長崎ブリックホール）2007年9月。
- ・岡村真理子、小松啓子「食育推進活動における幼稚園での菜園活動の取り組み」第2回日本食育学会総会・学術大会（東京農業大学）2008年5月。
- ・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の食生活や健康に与える影響について」第55回日本栄養改善学会（鎌倉芸術館・鎌倉女子大学）2008年9月。
- ・岡村真理子、小松啓子「家庭における幼児に対する食育の取り組み－保護者の食意識が幼児の健全な食行動形成に及ぼす影響－」第56回日本栄養改善学会（札幌市コンベンションセンター）2009年9月。

### 3. 外部研究資金

- ・独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）、「幼児の健全な食行動の形成に対して連続的な食生活体験を取り入れた食教育のあり方」、130万円（平成20年度）、平成18年度～平成20年度、共同研究。
- ・シダックス研究機構委託研究、「連続的な菜園活動体験と保護者の食意識が幼児の健全

な食行動形成に及ぼす影響」499,999円（平成20～21年度）

## 5. 所属学会

（社）日本産業カウンセラー協会（理事）、日本肥満学会（評議委員）、日本栄養改善学会（評議委員）、日本食育学会（編集委員）、日本小児科学会、日本小児保健学会、日本ビタミン学会、日本家政学会、産業カウンセリング学会、日本栄養・食糧学会、日本臨床栄養学会 各会員

## 6. 担当授業科目

<学部>

人間社会学部：栄養学Ⅰ・2単位・2年・前期、栄養学Ⅱ・2単位・2年・後期、栄養学実習・1単位・3年・前期、小児栄養・2単位・3年・通年、栄養学演習・2単位・3・4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・後期、保育内容・健康Ⅰ・1単位・3年・前期、保育内容・健康Ⅱ・1単位・3年・後期、発育論・2単位・1年・前期、

看護学部：栄養学・2単位・1年・後期

<大学院>

看護学研究科：食育学特論・2単位・1年・前期、食育学演習・2単位・1年・後期、ヘルスプロモーション看護学特別研究・8単・2年・通年、

人間社会学研究科：地域教育支援研究Ⅱ（食育）・2単位・1・2年・前期、地域教育支援演習Ⅱ（食育）・2単位・1・2年・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・田川市食育検討委員会 委員長
- ・北九州市食育推進会議 座長
- ・田川市男女共同参画審議会 委員長
- ・田川市0歳教室運営委員会 委員
- ・平成19年度若年者地域連携事業に関する企画審査委員会 委員長
- ・平成19年度インターンシップ受入企業開拓事業に係る企画審査委員会 委員長
- ・福岡県地方労働審議会 委員
- ・青少年アンビシャス運動筑豊地域推進委員

## 8. 講演

- ・小松啓子「子どものたちの食生活について」赤村学校・家庭支援事業『家庭教育講座』、2009年6月23日（於：赤村）
- ・小松啓子、岡村真理子「赤ちゃんが喜ぶ離乳食の作り方」北九州市食育のための協力栄養士養成研修会、2009年8月21日（於：北九州市）
- ・小松啓子、岡村真理子「5年生の食生活の実態」赤村学校・家庭支援事業「家庭教育講座」、2009年8月25日（於：赤村）
- ・小松啓子「地域における食育推進活動の意義について」福岡県立大学公開講座、2009年10月31日（於：田川市）
- ・小松啓子、岡村真理子「おいしい離乳食とのであひ一味覚や咀嚼機能の発達と心の育ちを大切にー」田川市平成21年度0歳期教育親子教室、2009年9月29日（於：田川市）
- ・岡村真理子、小松啓子「赤小学校5年生の食生活調査報告」赤小学校保護者会、2010年1月29日（於：赤村）
- ・小松啓子、岡村真理子「田川市の子どもたちの健康を目指した縦断的研究～2000年から2008年～」田川市学校教育食育推進委員会、2010年2月22日（於：田川市）
- ・小松啓子、岡村真理子「家族で取り組む赤村の食生活」赤村学校・家庭支援事業『家庭教育講座』、2010年3月25日（於：赤村）

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	秦 和彦
----	---------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は以下の通りですが、近年は(2)が中心となっています。

### (1) 教育行政学、教育制度論、教育政策論。

近代国家・社会の特徴を踏まえて、近代公教育の仕組みとそれに関わる政策、行政、改革動向などの分析。

### (2) 幼児教育・保育論。

幼児教育・保育・子育て支援に関する政策やその制度、内容に関する分析。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

(1) 秦 和彦・古橋啓介・細井 勇・林ムツミ「田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について－田川地域の子育て意識調査結果からみた課題－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第15巻第2号、pp. 49-71、2007年3月。

(2) 細井 勇・古橋啓介・秦 和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ『福岡市における子育て意識調査－子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ－』福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター『研究報告叢書』Vol.34, 2008年3月。

### ②その他最近の業績

特になし

### ③過去の主要業績

(1) 古橋 啓介・秦 和彦・細井 勇・林ムツミ「田川地域における子育て意識調査」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第8巻第1号、pp. 113-134、1999年12月。

(2) 古橋 啓介・秦 和彦・細井 勇・林ムツミ「田川地域における子育て意識調査 II」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第10巻第2号、pp. 97-118、2002年3月。

(3) 古橋啓介・秦 和彦・細井 勇・林ムツミ・本多潤子「田川地域における保育者の子育て意識調査」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第12巻第2号、pp. 55-74、2004年3月。

(4) 細井 勇・古橋啓介・秦 和彦・林ムツミ・本多潤子「田川地域における高校生の子育てについての意識調査」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、pp. 51-74、2005年3月。

## 3. 外部研究資金

なし

## 4. 受賞

なし

## 5. 所属学会

- ・日本教育行政学会
- ・九州教育学会
- ・日本保育学会

## 6. 担当授業科目

【学部】

教育学概論・2単位・1年・前期、保育者論・2単位・1年・後期、保育学・4単位・2年・

通年、保育実習指導・3年・前期、保育実習Ⅰ・5単位・3年・前期、保育実習Ⅱ・2単位・3年・後期、施設実習・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習Ⅰ・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・3年後期～4年前期、演習・2単位・3年後期～4年前期、幼稚園教育実習Ⅱ・2単位・4年・前期、保育総合演習・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・後期。

【大学院】

地域と子育て研究Ⅰ・2単位・1・2年・前期、地域と子育て研究Ⅱ・2単位・1・2年・後期、地域と子育て演習・2単位・1・2年・後期、特別研究・4単位・1～2年・通年。

7. 社会貢献活動

- ・糟屋郡保育士会研究部会講師（1999年4月から現在に至る）

8. 学外講義・講演

- ・オープンキャンパス模擬授業「保育というお仕事」2009年8月8日

9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター兼任研究員
- ・生涯福祉研究センター・研究プロジェクト「子育て支援」研究員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	福田 恭介
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1984年九州大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学後、1986年に同大学より文学博士の学位取得。佐賀女子短期大学に講師、助教授として勤務後、1993年に本学に着任。その間、ペアレントトレーニングの研究開発に肥前精神医療センターで携わる一方で、2003年から1年間アメリカ合衆国ワシントン大学（セントルイス）で客員教授としてまばたき研究に従事。

現在、2つの研究に従事している。1つはまばたき研究、これまで、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じているだけでなく、ヒトの心理過程と関連して生じていることを明らかにしている。何らかの刺激を見せたり聞かせたりすると、その直後にまばたきが生じることを発見し、その生じ方が、その人にとってどれくらい重要かによって変化することをいろいろな実験によって明らかにしてきている。このことは、その人に何が重要であるかをまばたきで知ることができる可能性を秘めている。もう1つは、ペアレントトレーニングの研究開発。発達に遅れを持つ子どもの親を、自分の子どもの療育者として仕立て上げるために、さまざまな養育技法を親に教えている。これを通して、親の子どもを見る目が変わり、親としての自信を回復している。このような取り組みを、保育園や学校の先生方にも知ってもらうことが有効であることがわかり、多くの啓発活動を行っている。このことにより、全ての子どもが自尊感情を持って生活できるようなることを目指している。

## 2. 研究業績

### ①最近の論文

- ・ 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志 「ビジランス課題中における持続性瞬目と一過性瞬目」 福岡県立大学人間社会学部紀要 (2007) 15 (2), 27-35.
- ・ 藤本夏美・福田恭介 「ペアレントトレーニング情報提供による4歳児をもつ親の養育態度の変化」 福岡県立大学人間社会学部紀要 (2007) 17, 27-35.
- ・ Kyosuke Fukuda, Takehito Hayami, Kazunori Shidoji, & Takashi Matsuo (2008). The effect of stimulus location and Inter-Stimulus Intervals (ISI) upon blink activity. *International Journal of Psychophysiology*, 69, 229-230.
- ・ 福田恭介・文屋俊子・夏原和美・宮崎昭夫 「学生による比喩表現を用いた現実と理想の授業評価」 福岡県立大学人間社会学部紀要(2009) 17 (2) 81-93.
- ・ 福田恭介 「かんしゃくを起こす小学生男児に対するペアレントトレーニング」 福岡県立大学心理臨床研究 (2009) 創刊号 13-19.
- ・ 藤本夏美・福田恭介 「ペアレントトレーニング情報提供が乳幼児をもつ親の養育態度に及ぼす影響」 福岡県立大学心理臨床研究 (2009) 創刊号 31-42.
- ・ 吉岡和子・福田恭介・中藤広美 「保育・教育現場における特別支援へのペアレントトレーニングの応用」 福岡県立大学心理臨床研究 (2010) 2 (印刷中)

### ②その他最近の業績

#### <調査研究報告書>

- ・ 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志 「記憶負荷を伴うビジランス多重課題中における瞬目活動」平成18年度～平成19年度学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C) 研究成果報告書 (2008) 91頁

#### <シンポジウム>

- ・ K. Fukuda as a Discussant in “Psychophysiology of Ocular Phenomena” *The 14th World Congress of Psychophysiology* (2008) 12<sup>th</sup> September, St. Petersburg Russia

#### <テレビ出演>

- ・ 福田恭介 NHK総合テレビ「解体新ショー」出演 2008年1月19日放送

### <学会報告>

- ・ 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志 刺激のヒット時とミス時における瞬目活動 第25回日本生理心理学会大会 北海道大学 (2007) 7月16日
- ・ 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志 周辺刺激・中心刺激注視時における内因性瞬目 日本心理学会第71回大会 東洋大学 (2007) 9月18日
- ・ 福田恭介・児玉紗織・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志 「7」と「seven」を見たときどちらに速くまばたきするか—一桁の数文字刺激・英数文字刺激提示時における瞬目潜時—第16回まばたき研究会 大阪人間科学大学(2008)3月24日
- ・ 早見武人・福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則,瞬目入力作業が瞬目パターンに与える影響,第26回日本生理心理学会, 琉球大学2008年7月5日
- ・ 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志,英語・アラビア数字の奇数・偶数弁別課題における瞬目潜時と反応時間,第26回日本生理心理学会,2008年7月5日
- ・ K. Fukuda, T. Hayami, K. Shidoji, T. Matsuo. The effect of stimulus location and inter-stimulus intervals (ISI) upon blink activity, *The 14th World Congress of Psychophysiology*, 2008年9月9日. St. Petersburg Russia
- ・ 福田恭介・早見武人・志堂寺和則・松尾太加志,処理時間と瞬目潜時, 日本心理学会第72回大会, 2008.09.20
- ・ 76. 森下万貴子・福田恭介 ペアレントトレーニングの考え方の学校現場への応用, 九州心理学会第70回大会, 2009.12.06

### ③過去の主要業績

- ・ 田多英興・山田富美雄・福田恭介「まばたきの心理学—瞬目行動の研究を総括する—」289頁 (1991/2) 北大路書房 (京都)
- ・ 免田 賢・伊藤啓介・大隈紘子・中野俊明・陣内咲子・温泉美雪・福田恭介・山上敏子「お母さんの学習室」199頁 (1998/11) 二瓶社 (大阪)
- ・ K. Fukuda Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*. 40, (2001), 239-245.

### 3. 外部研究資金

- ・ なし

### 4. 受賞

- ・ なし

### 5. 所属学会

- ・ 日本生理心理学会 (編集委員)
- ・ 九州心理学会, 日本心理学会, Society of Psychophysiological Research (SPR), 日本行動療法学会, 日本心理臨床学会会員

### 6. 担当授業科目

#### <学部>

- ・ 教養演習・1単位・1年, 実験測定法Ⅰ・2単位・2年・前期, 実験測定法Ⅱ・2単位・2年・後期, 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 知覚心理学・2単位・3年・前期, 認知心理学・2単位・3年・後期, 演習・2単位・3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期

#### <大学院>

- ・ 臨床心理基礎実習・2単位・修士1年・通年, 心理学研究法特論・2単位・修士1年・前期, 認知心理学特論・2単位・修士1年・後期, 臨床心理実習 (学内)・1単位・修士2年・通年, 臨床心理実習 (施設)・1単位・修士2年・前期, 特別研究・4単



位・修士1・2年通年

**7. 社会貢献活動**

- ・ 日本学術振興会特別研究員等審査会・専門委員

**8. 学外講義・講演**

- ・ 直方養護学校PTA研修会「発達障害をもつ子どもとのかかわりについて」2009年7月6日 福岡県立直方養護学校
- ・ 福岡県保育士会研究部会「ペアレントトレーニングの考えに基づいた保育実践スキルアップ」2009年7月24日 春日市クローバープラザ
- ・ わたる会講演会「子育て上手な親をめざして」2009年8月2日 行橋市ウィズゆくはし
- ・ 教員免許講習会「特別支援教育へのペアレントトレーニングの考え方の応用」2009年9月6日福岡県立大学
- ・ 出前授業「心理学入門」2009年10月9日 福岡県立八幡中央高等学校
- ・ 産業カウンセラーシニアコース講座「教育指導」2010年1月24日 岡山市みのるガーデン
- ・ 豊前市学校・園人権教育研究会「保育・教育に活かすペアレントトレーニングの考え」2010年2月8日 豊前市役所
- ・ 2009年度人権教育研究集会 助言者 2010年2月16日 行橋市立中京中学校
- ・ 京築地区 学校経営研究会 第3回研修会「教育に活かすペアレントトレーニングの考え」2010年2月20日 豊前市築城館

**9. 附属研究所の活動等**

- ・ 「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」の企画と運営
- ・ 「教師・保育士のための特別支援教育スキルアッププログラム」の企画と運営

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	古橋 啓介
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- ・高齢者の記憶研究 加齢に伴い全体的に記憶能力は減退するが、短期記憶、長期記憶、作業記憶などの記憶の種類の中にはそれほど減退しない記憶能力もある。記憶システム論の立場から、記憶の生涯発達過程を実証的に明らかにする研究を行っている。とくに、高齢者が計算課題や音読課題を行うことにより記憶能力の減退を防止することが出来るかという問題を科学研究費の助成を得て検討している。
- ・子育て支援研究 地域の子育ての実態と保護者の意識等を調査し、子育ての効果的支援のあり方を研究している。本年は福岡市（日本）と大邱市（韓国）の調査を行い、両市の比較研究を行った。
- ・生涯発達支援に関する研究 地域において対人援助職についている人たちを対象に、心理的支援の実践について研修会講師等の活動を通じて行っている。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文

- ・古橋啓介・細井勇・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ・南美慶・黄星賀・徐慧全 2010 福岡市とテグ・キョンサン市における子育て中の保護者の意識と子育て支援の実態
- ・古橋啓介 2009 高齢者記憶研究が心理臨床場面に役立つために 福岡県立大学心理臨床研究 1, 91-95.
- ・岡田圭代・古橋啓介 2009 対人関係に悩みを持つ中学生に対するソーシャルスキルトレーニングの効果 福岡県立大学心理臨床研究 1, 45-52.
- ・吉澤佳代子・古橋啓介 2009 中学校におけるスクールカウンセラーの活動に対する生徒の評価 福岡県立大学心理臨床研究 1, 53-66.
- ・古橋啓介 2008 高齢者における記憶と自己 心理学評論 51(1), 151-161.
- ・岡田圭代・古橋啓介 2008 小学生の対人交渉方略に及ぼすソーシャルスキルトレーニングの効果 福岡県立大学人間社会学部紀要 17(2), 33-46.
- ・吉澤佳代子・古橋啓介 2008 中学校におけるスクールカウンセラーの活動に対する教師の評価 福岡県立大学人間社会学部紀要 17(2), 47-66.
- ・古橋啓介 2007 高齢者の記憶機能における計算訓練の効果 福岡県立大学人間社会学部紀要 16(1), 85-89.
- ・田代輝浩・古橋啓介 2007 児童のストレス反応軽減に及ぼすソーシャルスキルトレーニングの効果 福岡県立大学人間社会学部紀要 16(1), 143-156.
- ・秦和彦・古橋啓介・細井勇・林ムツミ 2007 田川地域の市町村の次世代育成支援対策行動計画について ―田川地域の子育て意識調査結果から見た課題― 福岡県立大学人間社会学部紀要 15(2), 49-71.

### ②その他最近の業績

- ・シンポジウムパネリスト  
日・韓子育て支援シンポジウム 2009 古橋啓介 福岡市における子育て意識調査概要
- ・国際学会発表  
XXIX International Congress Of Psychology 2008 Effect of performing arithmetic and reading aloud on memory tasks in the elderly. Yoshida, H., Furuhashi, K., Okawa, I. and Tsuchida, N.
- ・学会ワークショップ話題提供  
古橋啓介 2007 加齢に伴う記憶・抑制機能の変化及び介入 日本心理学会第71回大会論文集

・学会発表

孫琴・箱岩千代治・石川真理子・古橋啓介他 2009 加齢に伴う健康高齢者の記憶及び抑制の変化 日本心理学会第73回大会論文集 1055.

高橋伸子・孫琴・古橋啓介他 2009 健康高齢者の記憶及び抑制に関する介入研究 日本心理学会第73回大会論文集 1056.

③過去の主要業績

・古橋啓介・門田光司・岩橋宗哉 2004 子どもの発達臨床と学校ソーシャルワーク ミネルヴァ書房

・古橋啓介 2003 記憶の加齢変化 心理学評論 45(4), 466-479.

・古橋啓介 1995 概念学習における仮説検証行動の研究 風間書房

・古橋啓介 1979 選択事態における自発的仮説抽出行動 心理学研究 50(1), 9-16.

3. 外部研究資金

・科学研究費代表 基盤(C)、健康高齢者の記憶機能における計算訓練課題の効果、3400千円、2008-2010.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

・日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本心理臨床学会

6. 授業科目

・発達心理学Ⅰ・2単位・1年次前期、発達心理学Ⅱ・2単位・1年次後期、発達心理学Ⅲ・2単位・2年次後期、学習心理学・2単位・3年次前期、演習・2単位・3年次後期～4年次前期、卒業論文・6単位・4年次後期、発達心理学特論・2単位・1/2年次前期、臨床心理学研究法・2単位・1/2年次後期、臨床心理実習・1単位・通年、臨床心理基礎実習・2単位・通年、特別研究・4単位・1～2年次・通年

7. 社会貢献活動

・北九州いのちの電話評議員  
・田川市就学指導委員会委員長  
・田川市政治倫理審査会会長  
・筑豊地区教育相談ネットワーク会議委員

8. 学外講義・講演

・北九州市社会福祉研修所 「保育士のカウンセリング研修」 3日  
・北九州いのちの電話 「カウンセリングと対人援助」・「発達課題」2回  
・北九州市社会福祉研修所 「社会福祉等援助技術研修」1回  
・北九州市社会福祉ボランティア大学 「介護従事者のカウンセリング」全3回

9. 附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター兼任研究員  
・生涯福祉研究センター研究プロジェクト「地域の子育て支援に関する研究」分担

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	池田 孝博
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1992年筑波大学大学院修士課程体育研究科修了（修士（体育学））。1992－1997年慶應義塾中等部（教諭），1997－2009年佐賀短期大学（講師，准教授）に勤務、2009年福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了（博士（スポーツ健康科学））。2009年4月本学着任。人間の運動パフォーマンスや健康行動・健康意識の測定評価を研究分野としている。具体的には、①幼児の体力・運動能力の発育発達，性差，影響する諸要因，②体育としての教材の妥当性や学習評価方法について検討している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・青柳領・池田孝博・池田知子・井藤英俊. スポーツ情報処理概論（分担項目：第2章 Word、pp.35-62）. 権歌書房. 2009年.

#### <論文>

- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between gender difference in motor performance and age, movement skills and physical fitness among 3- to 6-years old Japanese children based on effect size calculated by meta-analysis. School Health 5: 9-23, 2009.
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Testing the causal relationship between children's motor ability and lifestyle; How does life rhythm influence physical activity and motor ability?. Japan Journal of Human Growth and Development Research, 42: 11-23, 2009.
- ・ 池田孝博・堀勝治. 佐賀短期大学の一般教育科目『あすなろう』は、初年次教育か？ 永原学園佐賀短期大学紀要, 39: 7-12, 2009年.
- ・ 池田孝博・田中麻里・四元博晃・鍋島恵美子・田中知恵・堀勝治. 佐賀短期大学における初年次教育の取り組みとその評価；一般教育科目「あすなろう」への学生による授業評価から. 永原学園佐賀短期大学紀要, 39: 13-18, 2009年.
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008.
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Meta-analytic Study of Gender Differences in Motor Performance and Their Annual Changes among Japanese Preschool-aged Children. School Health 4: 24-39, 2008.
- ・ 池田孝博・青柳領. 幼児の運動能力テストバッテリーの作成；信頼性・妥当性および実用性による検討. 身体運動文化研究, 13: 11-29, 2008年
- ・ 平田孝治、池田孝博、中村勝美、田中知恵、福元芳子、飯盛和代. 保育者養成における環境教育の学習形態に関する一考；平成17-19年度実践事例から. 永原学園佐賀短期大学紀要38: 17-28, 2008年
- ・ 池田孝博・木村安宏・田村滋男・田中麻里・中村勝美・飯塚一裕・永田誠・柏村雪子. 幼児保育学科理論系「卒業演習」の学習指導における諸問題；担当教員によるファカルティ・ディベロプメントの取り組み. 永原学園佐賀短期大学紀要38: 213-217, 2008年.
- ・ 池田孝博. 佐賀短期大学におけるサークル活動の現状と課題；学友会剣道部の活動報告を中心に. 永原学園佐賀短期大学紀要38: 205-211, 2008年.
- ・ 中村勝美・木村安宏・田村滋男・田中麻里・池田孝博・飯塚一裕・永田誠・柏村雪子. 保育者養成教育に関する一考察；理論的な卒業研究指導を中心として. 永原学園佐賀短期大学紀要38: 119-124, 2008年.

- ・田村滋男・桜井琴音・田中麻里・飯塚一裕・柏村雪子・林洋子・木村安宏・米倉慶子・丹羽ヤエ子・池田孝博・野口美乃里・中村勝美・永田誠・坂井加奈. 保育者をめざす学生と子育て支援；「親子いきいき広場」の教育効果. 永原学園佐賀短期大学紀要38: 167-175, 2008年.
- ・Ikeda, T., Fukumoto, F., Fukumoto, Y. & Aoyagi, O. A relationship between motor ability and daily living activities in childhood. Journal of Nishikyusyu university & Saga junior college 37: 87-93, 2007.

## ②その他最近の業績

### <学会報告>

- ・池田孝博・青柳領（口頭発表）幼児の運動能力発達速度曲線の分類とその特徴. 第58回九州体育・スポーツ学会（崇城大学），2009年.
- ・池田孝博（分科会企画ラウンドテーブルディスカッション）幼児・児童の健康問題を考える；運動能力の視点より. 第58回九州体育・スポーツ学会（崇城大学），2009年.
- ・池田孝博・青柳領（口頭発表）混合縦断データによる幼児の運動能力発達の性差とテスト項目の特性・運動技能・体力と発達との関連. 第60回日本体育学会（広島大学），2009年.
- ・池田孝博・青柳領.（口頭発表）幼児の健康生活と運動能力に関する因果モデルの検証；生活リズムは身体活動や運動能力にどう影響するか？ 第7回日本体育測定評価学会（東京医科大学病院），2007年.

## 4. 受賞

日本体育測定評価学会学会賞，2010年2月28日，（日本体育測定評価学会）

## 5. 所属学会

日本体育学会・日本発育発達学会・日本測定評価学会・日本学校保健学会・日本健康心理学会・日本レジャー・レクリエーション学会・日本保育学会・日本幼少年健康教育学会・身体運動文化学会・日本武道学会・日本武道学会剣道分科会・九州体育・スポーツ学会

## 6. 担当授業科目

<学部>健康科学実習Ⅰ：1単位, 1年前期・健康科学実習Ⅱ：1単位, 1年後期・体育Ⅰ：2単位, 2年前後期・体育Ⅱ：2単位, 3年前後期・野外活動体験：2単位, 集中講義  
<大学院>地域教育支援研究（からだ）・2単位・修士1年・前期

## 7. 社会貢献活動

- ・佐賀市小中学校通学区審議会・副会長
- ・田川市幼児教育審議会・会長

## 8. 学外講義・講演

- ・「子どもの心を育む親子の集い」. 主催：佐賀県波戸岬少年自然の家.
- ・就学前学習会・講演「体育・スポーツ科学からみた子どもの育ちの諸問題」. 主催：田川市・田川市教育委員会
- ・田川市幼稚園教諭研修会「これからの幼児教育について」. 主催：田川市教育委員会
- ・福岡県立大学公開講座・地域と教育・子育て「地域と学校の連携による子どもたちの発達支援；スポーツ学の視点から」

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	岩橋 宗哉
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学  
研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。（１）現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（２）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをも明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（３）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文

#### 著書

- ・門田光司・松浦賢長編著 西原尚之・岩橋宗哉・杉野浩幸・四戸智昭・吉岡和子・樋口善之・原田直樹・長谷川智子・渡辺龍彦・宮川治美・柴田陽子著  
「不登校・ひきこもりサポートマニュアル」 少年写真新聞社 2009年9月

#### 論文

- ・岩橋宗哉「カップルの中のエディプスー生み出される思考とその機能ー」『福岡県立大学心理臨床研究』第2号 2010年3月
- ・岩橋宗哉「クライアントを理解するためのいくつかの枠組み」『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号 2009年3月
- ・田中克江・吉岡和子・中村晋介・麥島剛・岩橋宗哉「中高年求職者に対する心理的支援プログラムの試み」『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号 2009年3月

### ②その他最近の業績

- ・岩橋宗哉「はくぐみ、そだてるために」『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号 2009年3月

### ③過去の主要業績

- ・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号 1998年6月
- ・岩橋知子・岩橋宗哉「重度痴呆性老人の体験を共有しようとする試みー抱える環境としてのプレバールな関わりー」『心理臨床学研究』第17巻第1号 1999年4月
- ・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚ー精神分裂病者との心理療法過程からー」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月

### 3. 外部研究資金

なし

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

### 6. 担当授業科目

教養演習・2単位・1年、心身科学B・2単位・2年・後期、臨床心理学・2単位・3年・前期、演習・2単位、3～4年、通年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文、6単位、4年・通年、臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理学特論・4単位・1,2年・通年、臨床心理実習・2単位・2年・通年、心理臨床実習（施設）・1単位・2年・前期、特別研究・4単位・1～2年・通年、臨床心理学特論（看護学研究科）・2単位・1年・後期

### 7. 社会貢献活動

- ・九州大学発達臨床心理センター面接指導員
- ・久留米大学病院精神神経科付属カウンセリングセンター臨床心理士

### 8. 学外講義・講演

- ・学外講義「エゴグラムを通してみる自分」唐津東高等学校 2009年9月18日

### 9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 室長

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	桜井 国芳
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1995年上越教育大学大学院学校教育研究科芸術系コース（美術）修了。1998年、本学に着任。絵画制作を主な研究主題とし、公募展やグループ展への出品を続けている。

授業は、保育士や幼稚園教諭養成のための「造形」や「表現」などを担当している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

なし

### ②その他最近の業績

#### <作品発表>

- ・ 平成19年10月 第75回独立展（独立美術協会・国立新美術館）
- ・ 平成20年5月 福岡独立展（福岡市美術館）
- ・ 平成20年10月 第76回独立展（独立美術協会・国立新美術館）
- ・ 平成21年1月 福岡独立展（福岡市美術館）
- ・ 平成21年3月 独立新人選抜展（独立美術協会・東京都美術館）
- ・ 平成21年10月 第77回独立展（独立美術協会・国立新美術館）

### ③過去の主要業績

#### <学術論文>

- ・ 平成11年9月 「構成的表現・モダンテクニックに見られる表現過程の在り方」  
『福岡県立大学紀要』第8巻第1号 81～93p

#### <作品発表>

- ・ 平成16年10月 第72回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- ・ 平成15年10月 第71回独立展（独立美術協会・東京都美術館）

## 3. 外部研究資金

なし

## 4. 受賞

なし

## 5. 所属学会

大学美術教育学会

## 6. 担当授業科目

造形Ⅰ・2単位・1年・通年、造形Ⅱ・2単位・2年・通年、保育内容表現Ⅰ・1単位・3年・前期、保育内容表現Ⅱ・1単位・3年・後期、保育内容演習・2単位・4年・通年、



演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期

**7. 社会貢献活動**

田川市美術館協議会委員

**8. 学外講義・講演**

なし

**9. 附属研究所の活動等**

なし

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	藤澤 健一
----	---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

教育学を専攻しています。教育学は、教授学習過程の分析と、組織運営過程の分析に二分されますが、このうち後者に属する、教育の制度・政策の歴史的研究が専門です。具体的には、近現代の沖縄における教育制度・政策史を基軸とした研究に取り組んでいます。

近年は、教育制度・政策が実態レベルでどのように運用されていたのかを探るため、教員史または教育実践史についての調査研究に着手しつつあります。

歴史的研究の要は史料です。公文書、行政史料をはじめとした地域教育史にかかわる基礎史料についての系統的な調査を従来どおり進めていく予定です。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### 〈著書〉

『沖縄に向き合う』シリーズ沖縄・問いを立てる 1（屋嘉比収、近藤健一郎、新城郁夫、藤澤健一、鳥山淳編）社会評論社、2008 年 7 月

復刻版『沖縄教育』別冊（「解説」「総目次」「索引」、以上、近藤健一郎氏と共同執筆）不二出版、2009 年 11 月

#### 〈論文〉

「国家に抵抗した沖縄の教員運動」『反復帰と反国家—「お国は？」』所収、シリーズ沖縄・問いを立てる 6（藤澤健一編）社会評論社、2008 年 11 月

「沖縄県初等教育研究会の基礎的研究」（単著）科学研究費補助金基盤研究（C）『近代沖縄における教育実践史に関する実証的研究』研究成果報告書、2009年3月

### ②その他の業績

#### 〈調査報告〉

「日本における『植民地教育史研究』についての短信」韓国教育史学会『韓国教育史学』（ハングル文、日本文併載）第 29 巻第 1 号所収、2007 年 4 月

#### 〈テキスト〉

『要説 教育制度[新訂第二版]』（分担執筆）学術図書出版社、2007 年 10 月

#### 〈新聞記事〉

「『沖縄教育』復刻の意義（上）」（単著）『沖縄タイムス』2009年10月26日（朝刊）

### ③過去の主要業績

『近代沖縄教育史の視角—問題史的再構成の試み』（単著）社会評論社、2000年4月

『沖縄／教育権力の現代史』（単著）社会評論社、2005年10月

「教育行政学における権力認識の展望—国民の教育権論をめぐる学説史の基礎的検討を通して」（単著）日本教育行政学会編『教育行政学の課題と展望』所収、教育開発研究所、2006年10月

### 3. 外部研究資金

科学研究費補助金基盤研究（B）「近代沖縄における教育実践史に関する実証的研究」（2006年4月～2009年3月）研究分担者

科学研究費補助金若手研究（B）「近代沖縄の小学校における郷土教育実践に関する基礎的調査研究」（2007年4月～2010年3月）研究代表者

### 4. 受賞

該当なし

### 5. 所属学会

日本教育制度学会 日本教育政策学会 日本教育行政学会 日本教育学会各会員

### 6. 担当授業科目

教育史・2単位・2年前期、教育思想論・2単位・2年後期、比較教育学・2単位・2年後期、総合演習（分担）・2単位・3年前期、教育実習事前事後指導・2単位・3年後期から4年前期、国際教育文化交流論・2単位・3年後期、演習・2単位・3年後期、卒業研究・4年、地域と学校教育研究Ⅰ・2単位・大学院、地域と学校教育研究Ⅱ・2単位・大学院、地域と学校教育演習・2単位・大学院

### 7. 社会貢献活動

日本教育政策学会理事

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	麦島 剛
----	---------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

発達障害・注意の障害・ストレス関連疾患についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、認知症には、中枢神経機能の変化が関与すると考えられる。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下の可能性を探索している。1) 統合失調症患者にみられる「しなやかな認知の障害」が catecholamine神経系の活動異常により生じ、これがストレスと関係すること。2) てんかん患者にしばしばみられる衝動性の高さを、そのモデル動物を用いて、オペラント学習理論により説明すること。3) benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違い。これらの解明は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。

さらに老年心理学や進路指導論の立場から、地域貢献を主眼とした研究を遂行している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・麦島 剛 (2009) 第10章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.
- ・麦島 剛 (2009) 学習の神経基盤. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.
- ・麦島 剛 (2009) うつはいかに学習されるか. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.
- ・Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep- wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy. *Physica A: Statistical Mechanics and its Applications*, 87 (13), 3145-3154.
- ・上野行良・中村晋介・本多潤子・麦島 剛 (2009) 中学生の万引き行為に影響する要因. 福岡県立大学心理臨床研究, 1, 67-74.
- ・田中克江・吉岡和子・中村晋介・麦島 剛・岩橋宗哉 (2009) 中高年求職者に対する心理支援プログラムの試み. 福岡県立大学心理臨床研究, 1, 81-90.

### ②その他最近の業績

#### ＜研究報告書＞

- ・麦島 剛 (2007) 地域の物理的環境と非行との関連. 『少年非行の促進要因と抑制要因 - 福岡県の少年非行に関する調査 - 第1部』 Pp.58-68.
- ・麦島 剛 (2007) 保護者の生計・金銭感覚と行政への期待. 『少年非行の促進要因と抑制要因 - 福岡県の少年非行に関する調査 - 第2部』 Pp.174-180.
- ・上野行良・中村晋介・麦島剛・久永明 (2009) 世界遺産アンケート結果. 『平成20年度地方の元気再生事業 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書 ～産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現～』 Pp.22-55.
- ・上野行良・中村晋介・麦島剛・久永明 (2010) 地域アンケート結果. 『平成21年度地方の元気再生事業 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書 ～産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現～』 (印刷中).

#### ＜学会報告＞

- ・石崎龍二・榛葉俊一・麦島剛・原口光・井上政義. ラットの脳波のエントロピー時系列への変換とそれによる解析. 共同, 2007年3月, 日本物理学会2007年春季大会.

- ・中本百合江・麦島剛・佐藤弥都子・中山繁・高松幸雄・池田和隆・吉井光信. ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. 2007年7月, 第37回日本神経精神薬理学会.
- ・麦島剛・木村裕・林美穂・栢田恵子・中本百合江・吉井光信. オペラント反応を指標としたELマウスの衝動性に対する光弁別刺激提示の効果. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会.
- ・松崎なぎさ・榛葉俊一・荒木智子・仕立めぐみ・森恵美・麦島剛. ラットのpaired stimulationに対する聴覚誘発電位と自発変動へのnoradrenaline神経系の関与. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会.
- ・栢田恵子・吉井光信・中本百合江・林美穂・木村裕・麦島剛. DRL事態下でのレバー押し反応を指標としたELマウスの衝動性とけいれん発作に対するatomoxetineの効果. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会.
- ・廣井昇(司会・麦島剛). 精神疾患のマウスモデル ―統合失調症とニコチン依存症―. 2007年10月, 日本動物心理学会第67回大会招待講演.
- ・木村舞子・榛葉俊一・木村裕・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 睡眠剥奪ストレスがマウスのガラス玉覆い隠し行動に及ぼす影響とclonidine投与の効果. 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
- ・栢田恵子・木村裕・木村友香・中本百合江・吉井光信・麦島剛. DRL事態下でのレバー押し反応を指標としたELマウスの衝動性に対するmethylphenidate投与の効果. 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
- ・松崎なぎさ・榛葉俊一・小田香奈絵・塩月太一郎・麦島剛. Paired stimulationの間隔とラットの聴覚誘発電位との関係. 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
- ・麦島剛・木村裕・栢田恵子・志岐信明・西村早紀子・中本百合江・吉井光信. オペラント反応を指標としたELマウスの衝動性に対するfluoxetine投与の効果. 2008年9月, 日本動物心理学会第68回大会.
- ・麦島剛・安野俊紘・小山明子・久保浩明・栢田恵子・榛葉俊一. Paired stimulationに対するラットの聴覚誘発電位へのmethylphenidate投与の影響. 2009年9月, 日本動物心理学会第69回大会.
- ・久保浩明・木村裕・栢田恵子・小山明子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 擬似弁別刺激の持続時間の変動がELマウスのオペラント行動に及ぼす影響. 2009年9月, 日本動物心理学会第69回大会.
- ・小山明子・木村裕・栢田恵子・久保浩明・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 弁別刺激の明瞭度およびADHD治療薬atomoxetine投与がマウスのオペラント行動にもたらす効果. 2009年9月, 日本動物心理学会第69回大会.
- ・栢田恵子・木村裕・小山明子・久保浩明・中本百合江・吉井光信・麦島剛. DRL事態下でのELマウスの衝動性に対する不明瞭な光弁別刺激の効果. 2009年9月, 日本動物心理学会第69回大会.

### ③過去の主要業績

- ・Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T.. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry, 20, 1037-1049.
- ・麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. 動物心理学研究, 47, 91-98.
- ・麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発 ―行動薬理実験への応用― 早稲田心理学年報, 30, 55-62.
- ・Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. Prog. Neuro-Psychopharmacol. & Bio. Psychiat. 25, 1629-40.

- ・ 麦島 剛. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) をめぐる動向：新たな研究法の確立に向けて.  
(2006) 福岡県立大学人間社会学部紀要, 14 (2), 51-63.

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「ADHDの衝動性・注意を指標化した新しい動物モデルの提唱.」 課題番号21530766. 2009～2011年度 [単独研究] 麦島 剛

### 5. 所属学会

日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、早稲田大学心理学会、日本動物心理学会第67回大会準備委員会委員

### 6. 担当授業科目

生理心理学Ⅰ 2単位, 2年前期、生理心理学Ⅱ 2単位, 2年後期、心身科学A 2単位, 2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年, 実験測定法Ⅰ 2単位, 2年前期, 実験測定法Ⅱ 2単位, 2年後期, 老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

### 7. 社会貢献活動

- ・ 田川市指定管理者選定委員会 委員
- ・ e-zukaトライバレー産学官技術交流会2009 研究出展
- ・ 田川元気再生事業・調査チーム員

### 8. 学外講義・講演

- ・ 2009年度 福岡県看護科・看護専攻科高等学校協会講演会『ADHD(注意欠陥・多動性障害)の行動と脳科学』2009年12月.
- ・ 2009年度 教員免許更新講習・教育の最新事情 『発達障害児の行動と脳科学』 2009年9月.

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	吉岡 和子
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2004年に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任。2007年に博士号（人間環境学）取得。

- ①対人関係における自己表出の在り方に関する研究
- ②アサーショントレーニング・プログラムの実践研究
- ③心理アセスメントを用いた強迫性障害理解のための研究

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著書>

吉岡和子・高橋紀子編「大学生の友人関係論－友だちづくりのヒント」（2010）ナカニシヤ出版.

<論文>

- ・吉岡和子「ヒューマン・コミュニケーション授業の効果研究（1）」（2009）『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻2号，福岡県立大学.
- ・菊浦友美・吉岡和子「青年期の対人関係における攻撃性の表出とアサーション及び自己評価との関連」（2009）『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻2号，福岡県立大学.
- ・富田真弓・吉岡和子・河本 緑「強迫性障害のロールシャッハ反応の治療前後比較－情緒体験の在り方に焦点を当てて」（2008）『ロールシャッハ法研究』第12巻，日本ロールシャッハ学会.
- ・吉岡和子「友人関係での自己表出における葛藤」（2007）『心理臨床学研究』第24巻第6号，日本心理臨床学会.
- ・吉岡和子「友人関係の満足感と自己像及び対他的自己像との関連」（2007）『九州大学心理臨床研究』第26巻，九州大学.
- ・吉岡和子「友人関係における「自己の在り方をめぐる葛藤」に関する研究」（2007）『九州大学心理学研究』，第8巻，九州大学.

### ②その他最近の業績

<学会報告>

- ・Yoshioka K, Tomita M, Kawamoto M, Nakatani E, Nakao T, Nabeyama M, Nakagawa A, Kanba S「Memory deficits in obsessive-compulsive disorder (OCD): 『checkers』 vs. 『washers』 vs. normal controls」，XXXVIII Annual Congress of the EABCT, Helsinki Finland，9.2008.
- ・吉岡和子・田中克江「ヒューマン・コミュニケーション授業の効果研究－QOSL（Quality of Student Life）を中心に－」日本心理臨床学会第27回大会，東京，2008年9月.
- ・Tomita A, Yoshioka K, Kawamoto M, Nakao T, Nakagawa A, Takahashi Y「Changes in Rorschach responses after treatment in Japanese patients with Obsessive-Compulsive Disorder」，XIXth ISR Congress, Leuven Belgium, 7.2008.
- ・富田真弓・吉岡和子・河本緑「強迫性障害のロールシャッハ反応の治療前後比較－情緒体験の在り方に焦点を当てて－」日本ロールシャッハ学会第11回大会，名古屋，2007年11月.
- ・Mayumi Tomita, Kazuko Yoshioka, Midori Kawamoto, Eriko Nakatani, Tomohiro Nakao, Akiko Nakagawa, Shigenobu Kanba「Trait of personality and interpersonal relationship

in patients with OCD: changes with treatment」, XXXVII Annual Congress of the EABCT, Barcelona Spain , 7.2007.

### ③過去の主要業績

- ・吉岡和子「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」(2001)『青年心理学研究』13巻, 青年心理学会.

### 3. 外部研究資金

文部科学省 平成21年度科学研究費補助金(若手研究B)「大学生に対するコミュニケーション教育の効果研究」¥500,000 課題番号: 19730434 (継続 2007-2009年)

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本青年心理学会研究委員会・委員

九州臨床心理学会 日本人間性心理学会 日本青年心理学会 日本心理臨床学会  
日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会 日本パーソナリティ心理学会 各会員

### 6. 担当授業科目

<学部>

パーソナリティ論/人格心理学・2単位・1年・後期, カウンセリング・2単位・4年・前期,  
家族心理学・2単位・4年・前期, 教育相談(幼児教育)・2単位・4年・前期, 演習・2単位・  
3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>

臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年, 臨床心理面接特論・2単位・1年・前期, 臨床心理  
査定演習・2単位・1年・後期, 臨床心理実習(学内)・1単位・2年・通年, 臨床心理実習  
(施設)・1単位・2年・前期

### 7. 社会貢献活動

- ・NPO法人九州大学ところとそだちの相談室 理事
- ・福岡女学院大学 臨床心理センター 心理査定委託相談員
- ・福岡教育大学 心理査定委託相談員

### 8. 学外講義・講演

- ・福岡県市町村職員研修所 新規採用職員研修「メンタルヘルス」4月7日、5月12日、10月6日、20日
- ・ひびき高等学校 近未来ガイダンス「自分も相手も大切にするコミュニケーション」7月3日
- ・やまぐち総合教育支援センター「不登校の子どもや保護者とのコミュニケーションについて考えるーアサーション・トレーニングを活用してー」7月6日
- ・水巻町「いきいきはつらつ塾公開講座 子どもの「やる気を引き出す」大人の接し方」7月17日
- ・平成21年度教職免許状更新講習会 「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」9月5日
- ・平成21年度人権相談従事職員研修カリキュラム「面接技法講座 人権相談Ⅲ(対人援助の技法)」9月7日、11月10日
- ・中間高等学校 出前講座「自分も相手も大切にするコミュニケーション」9月30日
- ・平成21年度福岡県立福祉用具研究会「アサーションとカウンセリングの基本」10月16日



- ・九州地連第7 回のちと健康を守る交流会「ストレスとそのつきあい方～メンタルヘルス～」11月29日
- ・北九州LD親の会「すばる」全体会 の学習会「親と子の上手なコミュニケーションの方法について」2月28日

## 9. 附属研究所の活動等

<生涯福祉研究センター>

兼任研究員

- ・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営
- ・特別支援教育を行うためのスキルアップ・プログラムの企画と運営

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	助手	氏名	岡村 真理子
----	---------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

徳島大学医学部栄養学科卒業。実験助手として神戸学院大学栄養学部に勤務後、1993年、本学に着任。2009年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了。

子ども達の「食」を中心とした生活習慣と健康に関する実態を調査し、食行動上の課題について解析を行っている。特に、思春期の食行動上の課題解決に向けた健康教育のあり方を研究テーマとしている。また、菜園での連続的な食生活体験活動を通して、幼児期の食教育のあり方についても検討している。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <著書>

- ・岡村真理子「第9章 障害をもつ子どもの食生活」、小松啓子編、『プリマーズ 小児栄養』、ミネルヴァ書房、2007年12月。

#### <論文>

- ・小松啓子、岡村真理子「小児のメタボリックシンドローム・肥満症における食生活と食事療法」、『Adiposience』第4巻第4号、フィジカル出版、2007年。
- ・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の学習・食生活・健康に与える影響」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第16巻第2号、福岡県立大学、2008年。
- ・上田毅、石原一成、岡村真理子、小松啓子「生活習慣に及ぼす子どものスポーツ活動の影響：筑豊地域の子どものスポーツ活動と関連要因」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第1号、福岡県立大学、2008年
- ・岡村真理子「中学生の健康教育のあり方に関する基礎研究－生活習慣および疲労感と加速度脈波との関連について－」福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文、2009年。

### ②その他の業績

#### <調査研究報告書>

- ・小松啓子、岡村真理子「幼稚園における食育活動実態調査」2008年3月。
- ・小松啓子、上田毅、石川フカエ、岡村真理子、小嶋秀幹、中野榮子、夏原和美、安酸史子、吉岡和子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究－住民の健康と生活に関する基本調査－」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』第38号、2008年3月。
- ・小松啓子、岡村真理子「保育所（園）における食育活動実態調査」2009年3月。
- ・小松啓子、石川フカエ、上田毅、尾形由紀子、岡村真理子、北川明、清田勝彦、小嶋秀幹、中野榮子、夏原和美、安酸史子、山下清香、吉岡和子、渡邊智子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究－住民（16歳から40歳）の健康と生活に関する基本調査」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』第43号、2009年3月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究－小児のメタボリックシンドローム改善に向けた幼児の食生活実態調査」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』第44号、2009年3月。

#### <連載>

- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第1回 40歳代の朝ごはんを食べない人の食習慣について」、『広報あか』、2009年2月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第2回 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度について」、『広報あか』、2009年3月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第3回 朝食を食べない人が多くみられた40歳代の健診受診について」、『広報あか』、2009年4月。

- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第4回 調査日の朝食バランスについて」、『広報あか』、2009年5月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第5回 体を動かす習慣について」、『広報あか』、2009年6月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第6回 睡眠について」、『広報あか』、2009年7月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第7回 40代の方々の健康につながる8つの食習慣について」『広報あか』、2009年8月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第8回 40代の方々の体調について」、『広報あか』、2009年9月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第9回 朝食のメニューについて」、『広報あか』、2009年10月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第10回 体型について」、『広報あか』、2009年11月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第11回 腹囲について」、『広報あか』、2009年12月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第12回 BMI と食習慣の関係について」、『広報あか』、2010年1月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第13回 夜食について」、『広報あか』、2010年2月。
- ・小松啓子、岡村真理子「赤村健康調査報告第14回 毎食野菜を食べましょう」、『広報あか』、2010年3月。

#### <学会報告>

- ・岡村真理子、小松啓子「幼稚園における食育活動の取り組み」第1回日本食育学会総会・学術大会（和洋女子大学）2007年5月。
- ・岡村真理子、小松啓子「幼児にみられる疲労症状と食生活、生活リズムとの関連性について」第54回日本栄養改善学会（長崎ブリックホール）2007年9月。
- ・岡村真理子、小松啓子「食育推進活動における幼稚園での菜園活動の取り組み」第2回日本食育学会総会・学術大会（東京農業大学）2008年5月。
- ・岡村真理子、小松啓子「メディア暴露時間の長短が、女子生徒の食生活や健康に与える影響について」第55回日本栄養改善学会（鎌倉芸術館・鎌倉女子大学）2008年9月。
- ・岡村真理子、小松啓子「家庭における幼児に対する食育の取り組みー保護者の食意識が幼児の健全な食行動形成に及ぼす影響ー」第56回日本栄養改善学会（札幌市コンベンションセンター）2009年9月。

### ③過去の主要業績

- ・岡村真理子「第16章 施設別給食(4)-児童福祉施設給食」、外山健二・幸林友男編、『栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論 第2版』、講談社、2006年8月。

### 5. 所属学会

日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本小児保健学会、日本食育学会、日本保育園保健学会、日本肥満学会、日本生活体験学習学会、日本産業カウンセラー協会 各会員

### 6. 担当授業科目（補助）

#### <学部>

小児保健学実習・1単位・2年・後期、栄養学実習・1単位・3年・前期、小児栄養・2単位・3年・通年、保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期、幼稚園教育実習Ⅰ・2単位・3年・後期、保

育実習Ⅱ・2単位・3年・後期、施設実習・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習Ⅱ・2単位・4年生・前期

<大学院>

フィールドワーク・2単位・1年・後期

#### 8. 学外講義・講演

- ・小松啓子、岡村真理子「赤ちゃんが喜ぶ離乳食の作り方」北九州市食育のための協力栄養士養成研修会、2009年8月21日（於：北九州市）
- ・小松啓子、岡村真理子「5年生の食生活の実態」赤村学校・家庭支援事業「家庭教育講座」、2009年8月25日（於：赤村）
- ・小松啓子、岡村真理子「おいしい離乳食とのであいー味覚や咀嚼機能の発達と心の育ちを大切にー」田川市平成21年度0歳期教育親子教室、2009年9月29日（於：田川市）
- ・岡村真理子「中学生の食生活」筑豊市民大学食育ゼミ、2009年11月25日（於：田川市）
- ・岡村真理子「子どもの食生活」筑豊市民大学食育ゼミ、2010年1月27日（於：田川市）
- ・岡村真理子、小松啓子「赤小学校5年生の食生活調査報告」赤小学校保護者会、2010年1月29日（於：赤村）
- ・小松啓子、岡村真理子「田川市の子どもたちの健康を目指した縦断的研究ー2000年から2008年ー」田川市学校教育食育推進委員会、2010年2月22日（於：田川市）
- ・小松啓子、岡村真理子「家族で取り組む赤村の食生活」赤村学校・家庭支援事業「家庭教育講座」、2010年3月25日（於：赤村）

所属	附属研究所・生涯福祉研究センター	職名	准教授	氏名	中村 晋介
----	------------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

### 1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究

「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、若者や児童・生徒の考え方（就業観、社会観など）や行為に見られる特徴の解説を試みています。

### 2.ジェンダー論に関する研究

特に日本社会における「女性の社会進出」の可能性について、社会学的な観点から研究しています。

### 3.社会学理論に関する研究

主にピエール・ブルデュー（フランスの社会学者）の業績や思想について研究をおこなっています。現在は特に、アメリカ極集中や社会的格差の増大と固定化、新自由主義に関するブルデューの批判に関心を寄せています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 1.「福岡県における生活保護の動向および自立支援策」（長田和宏・中村晋介）『西日本社会学会年報』No.7,2009年.
- 2.「中高年求職者に対する心理的支援プログラムの試み」（田中克江・吉岡和子・中村晋介・麦島剛・岩橋宗哉）『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号,2009.
- 3.「中学生の万引き行為に関連する要因」（上野行良・中村晋介・本田潤子・麦島剛）『福岡県立大学心理臨床研究』創刊号,2009.
- 4.『被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的再生産にかかる分析』（清田勝彦・鬼崎信好・中村晋介・西原尚之・四戸智昭ほか）福岡県立大学附属研究所,2008年.
- 5.「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」『若年者の雇用と就業意識に関する研究Ⅱ（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 No.35）』（清田勝彦・田代英美・中村晋介・林ムツミ）,2008年.
- 6.「若年者の就業意識に関する比較研究——田川市郡と福岡都市圏における高校生（3年生）の意識調査から」『若年者の雇用と就業意識に関する研究Ⅱ（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 No.35）』（清田勝彦・田代英美・中村晋介）,2008年.
- 7.『福岡県内事業所における若年求職者の雇用と就業に関する調査研究』（清田勝彦・田代英美・中村晋介・林ムツミ）福岡労使就職支援機構,2007年.
- 8.『『体育会系』女子学生のジェンダー観——『大学生のスポーツ・価値観に関する調査より』（単著）『社会分析』No.34,2007年.
- 9.『福岡県内事業所における若年者と精神障害者の就労と雇用に関する研究（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 No.29）』（清田勝彦・奥村幸夫・田代英美・中村晋介・林ムツミ・中藤広美）,2007年.
- 10.『ライフサポート研究8（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書 No.28）』（大山美智江・豊田謙二・中村晋介・中藤広美）,2007年.

### ②その他最近の業績

<テキスト>

- 1.『レポートのかきかた'09』福岡県立大学,2009年
- 2.『レポートの書き方入門——教養演習テキスト version2007』福岡県立大学,2007年.

<学会等発表>

1. 「若年求職者の求職動機と就業傾向」『第 57 回 e-zuka トライバレー産学官技術交流研究会』（単独）2009 年 11 月
2. 西日本社会学会第 67 回大会シンポジウム「新しい社会問題と社会学」2009 年 5 月
3. 「旧産炭地における生活保護自立支援阻害要因の研究」（清田勝彦・中村晋介・三隅譲二）『日本社会病理学会第 24 会大会』2008 年 10 月.
4. 「若年求職者の求職動機と就業傾向——福岡県内求職者の意識調査より」『西日本社会学会第 65 会大会』（単独）2008 年 5 月

### ③過去の主要業績

1. 「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木譲編『現代高校生の規範意識（第 2 版）』九州大学出版会,2005 年.
2. 「社会学者と社会参加——ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3, 2005 年.

### 3. 外部研究資金

1. 九州経済産業局「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業——産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現」（研究分担者）、12,789,000 円.

### 5. 所属学会

日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会、西日本社会学会（『西日本社会学会年報』編集委員会副委員長）

### 6. 担当授業科目

社会学史Ⅱ・2 単位・1 年・後期、 教養演習・1 単位・1 年・前期  
 性・世代論・2 単位・2 年・前期、 社会学基礎演習・2 単位・2 年・前期  
 社会調査実習・4 単位・3 年・通年、 卒論・6 単位・4 年・通年  
 日本事情・2 単位・留学生・分担・前期

### 7. 社会貢献活動

1. 川崎町次世代育成支援対策地域協議会 会長
2. 筑豊地区産学官技術交流会実行委員会 実行委員
3. 九州経済産業局 平成 20 年度知的財産セミナー事業 福岡県立大学会場運営責任者

### 8. 学外講義・講演

1. 「占いはなぜあたるのか」東鷹高等学校での出前講義（2009 年 7 月 10 日）

### 9. 附属研究所の活動等

1. 管理運営に関する活動  
 附属研究所調整部会、生涯福祉研究センター運営部会（副部会長）への参加、  
 『附属研究所事業報告書』編集委員長  
 「附属研究所通信」の企画・編集・発行など
2. 産学官連携に関する活動（産学官連携ワーキンググループ長）  
 福岡県産学連携新生活産業促進事業、筑豊地区産学官技術交流会の企画・運営  
 平成 20 年度知的財産セミナーの企画・運営、産学官連携メールマガジン発行責任者
3. 公開講座に関する活動：公開講座小部会・部会員として企画・運営
4. 生涯福祉研究センター調査研究事業への参加  
 筑豊地域の文化資源の収集・整理・体系化と発信システム構築に関する研究
5. 生涯福祉研究センター地域支援事業・教育研修事業への参加  
 日本語くらぶ田川

所属	附属研究所・生涯福祉研究センター	職名	助手	氏名	中藤 広美
----	------------------	----	----	----	-------

## 1. 主な研究分野

〔乳幼児教育および発達障害児の発達支援〕

キーワード；障がい児・乳幼児の発達支援、玩具、お父さんとお母さんの学習室、子どもの足と靴の問題性

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育に携わった経験を基盤とした研究活動です。生涯福祉研究センター事業「おもちゃとしょかん・たがわ」では、例えば重複障がいのお子さんが遊ぶ意欲をかき立てるような玩具を提供し、インタラクティブな環境の中で心身の発達を促す方法を研究するなど、子どもの発達支援と玩具について関心を持っています。また、「お父さんとお母さんの学習室」では、保護者の思いに十分寄り添いながらも客観的なデータに基づいた子育て支援のあり方を探り、保護者が子どもの発達に確かな手ごたえを感じられるような実践と研究を目指しています。さらには、子ども時代からの外反母趾等をはじめ、日本人の足の問題が指摘されている昨今。子どもを取り巻く環境が足の成長にどのような影響を及ぼすのか、また望ましい足の成長を守るための靴や歩き方、遊び方など生活様式との関連についても研究を進めていきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

福岡県立大学福祉用具研究会編『ライフサポート研究8－2005年度研究報告書（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書vol.28）』、2007.3（編集）

中藤広美、奥村幸夫「A精神科病院デイケア通所者の就労に関する意識調査」（福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書vol.29所収予定） 2007.3

中藤広美、奥村幸夫「精神障害者と雇用について～2006年度福岡県内事業所における調査研究～」(福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書vol.29 所収予定) 2007.3

『「癒学<sup>ゆがく</sup>の郷<sup>さと</sup>」たがわの創生-田川地域長期振興戦略プラン』p46-p58 財団法人 福岡県産炭地域振興センター 受託研究 「田川地域の長期的な地域振興戦略に係わる地域資源活用方策の調査研究」調査報告書 2007（平成19）年10月31日

清田克彦、鬼崎信好、三隅譲二、高間満、西原尚之、中村晋介、本郷秀和、中村幸、四戸智昭、林ムツミ、中藤広美、松岡佐智、城島泰伸、泉 賢祐、谷村紀章、久富芳孝、森山沾一、『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～/母子世帯・父子世帯』福岡県監査保護課・受託研究報告書、2008・3

『山本作兵衛一日記・手帳一』解説資料集第7巻 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書山本作兵衛さんをく読む会>2008年3月（分担1922(大正11)年）

『山本作兵衛一日記・手帳一』解説資料集第8巻 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書山本作兵衛さんをく読む会>2009年3月（分担1925(大正14)年）

### ②その他の業績

日本発達心理学会 ニュースレター「特集 発達心理学者の学生育て～学生の戸惑いに寄り添って～」 第54号 所収 (2008年6月30日発行)

「足と靴の相談室」 特定非営利活動法人NP0福祉用具ネット会報誌「ささえ」26号、27号、28号、29号、30号、31号所収

「身体状況にあった車いすとの出会いであきらめていた外出ができました！」 特定非営利活動法人NP0福祉用具ネット会報誌「ささえ」2007年1月発行 第18号所収

「足の悩みを靴で解決」朝日新聞社会面 2008年8月1日（夕刊）、2日（朝刊）

RKBラジオ 中西一清スタミナラジオ出演 2008年8月20日

RKBラジオ 週間GET出演 2008年8月30日

こづれDE CHA・CHA・CHA! 2010年」3&4月号(2010.2/25発行)「おもちゃとしゃかん・たがわ」の紹介

### ③過去の主要業績

田川地域における保育所・幼稚園の変遷と課題(旧産炭地の産業と生活の変遷と地域福祉の課題) 2000年3月15日

「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」 福田恭介、中藤広美 2000年11月30日

「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価(2)」福田恭介、中藤広美、本多潤子、興津真理子 2005年3月17日

### 3. 外部研究資金等

NP0法人福祉でまちがよみがえる会受託事業「足と靴の相談技術者養成講座」¥1021,500

NP0法人福祉でまちがよみがえる会受託事業「足と靴の相談技術者自主研修会」¥154,620

### 4. 受賞 なし

### 5. 所属学会 日本保育学会、日本発達心理学会

### 6. 担当授業科目 なし

### 7. 社会貢献活動

NP0福祉用具ネット理事

### 8. 学外講義・講演

・福岡県市町村職員研修所主催 課題研修「高度福祉社会 事例報告」 2009(平成21)年8月24日(月)

・福岡県立大学公開講座 特別支援教育を行うためのスキルアッププログラム-小学校・養護学校・幼稚園・保育園の先生方向け- 5月26日、6月9日、6月23日、7月7日、7月21日講師

・みやこ町社会福祉協議会 子育て支援事業講師 5月12日、19日、26日

・「足の健康講座」講師 6月14日

・「おもちゃ図書館のうがたスタッフ研修会」講師 11月17日

・田川市立後藤寺中学校家庭科授業講師「障がい児とのかかわり方について」 11月25日

・みやこ町社会福祉協議会 「健康を考える足と靴子どもや大人の足のトラブルと対処～靴の正しい選び方と歩き方～」講師 1月19日

・広川町社会福祉協議会 「子育て子育て応援講座～ペアレントトレーニング 子育てのコツ編 ペアレントトレーニングの技法を用いて～」講師 2月19日、3月5日

・「足と靴の相談技術者自主研修会」コーディネーター 3月23日、24日

### 9. 附属研究所の活動等

・おもちゃとしゃかん・たがわ代表

・「足と靴の相談室」相談員

・福岡県立大学福祉用具研究会

・「お父さん・お母さんの学習室」(ペアレントトレーニング)の実践に関する研究

・『足と靴』の問題性と福祉拡充に関する総合的研究(「足と靴の相談技術」養成講座、「足の健康」講座開催)

・生涯福祉研究センターHP

・・・・他



所属	附属研究所・生涯福祉研究センター	職名	助手	氏名	林 ムツミ
----	------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- ①生涯福祉研究センターは、その前身は本学の幼稚園教諭免許を取得する学生の実習を大きな目的として運営されていた大学の附属幼稚園であった。そこで培ってきた幼児教育の実践・研究の実績・知見を活かしながら、子育て支援・幼児教育を研究分野としている。
- ②筑豊の文化人としての炭坑記録画家山本作兵衛さん（1892～1984）の日記〈解説〉作業及び資料集発刊や地域にある炭坑記録絵の調査をし、田川の文化財の発掘・発信を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・秦和彦・古橋啓介・細井勇・林ムツミ「田川地区の自治体の次世代育成支援対策行動計画策定状況について」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第15巻第2号』2007年3月
- ・清田勝彦・田代英美・中村晋介・林ムツミ「福岡県内における若年求職者の雇用と就業意識に関する調査研究」、厚生労働省委託事業 福岡県労使就職支援機構（2007年11月）
- ・清田勝彦、鬼崎信好、三隅譲二、高間満、西原尚之、中村晋介、本郷秀和、中村幸、四戸智昭、林ムツミ、中藤広美、松岡佐智、城島泰伸、泉 賢祐、谷村紀章、久富芳孝、森山沾一、『生活保護自立阻害要因の研究－福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から－福岡県監査保護課・受託研究報告書』（p211-220、2008年3月）
- ・林ムツミ、瀧井喜代子、西田大輔、広滋勝己、広滋洋子『山本作兵衛一日記・手帳一』解説資料集第7巻 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』（p123-199、福岡県立大学生涯福祉研究センタープロジェクト代表林ムツミ、顧問森山沾一、山本作兵衛さんを〈読む〉会、2008年3月）
- ・細井勇、古橋啓介、秦和彦、宮城由美子、吉川未桜、林ムツミ「福岡市における子育て意識調査－子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ－」『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』（2008年3月）
- ・林ムツミ、島田純恵、瀧井喜代子、野村喜七郎『山本作兵衛一日記・手帳一』解説資料集第8巻 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』（p135-175 福岡県立大学生涯福祉研究センタープロジェクト代表林ムツミ、顧問森山沾一、山本作兵衛さんを〈読む〉会、2009年3月）
- ・林ムツミ、山崎美子「第4節先進地域調査4. 石見銀山現地調査報告」『世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト』（p114-131、福岡県立大学、2009年3月）
- ・林ムツミ、野村喜七郎「第6節地域資源調査（山本作兵衛の炭坑画）」『世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト』（p169-190、福岡県立大学、2009年3月）
- ・林ムツミ、野村喜七郎「地域資源調査（山本作兵衛の炭坑記録画）」『世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト』（福岡県立大学、2010年3月予定）

### ②その他最近の業績

〈学会報告〉

森山沾一、林ムツミ、木村裕子「グローバル時代における〈ローカルな知〉－山本作兵衛の文化を〈読む〉(3)－」、第61回九州教育学会（鹿児島大学）2009年11月

〈編集（執筆も含む）作業〉

- ・福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書Vol.29『福岡県内事業所における若年者及び精神障害者の雇用と就業に関する調査研究』（2007年3月）

- ・福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書Vol.30『山本作兵衛一日記・手帳－解説資料集』（2007年3月）
- ・福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書Vol.33『山本作兵衛一日記・手帳－解説資料集』（2008年3月）
- ・福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書Vol.39『山本作兵衛一日記・手帳－解説資料集』（2009年3月）
- ・福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書Vol. 46『山本作兵衛一日記・手帳－解説資料集』（2010年3月予定）

### ③過去の主要業績

- ・林ムツミ『仲間あそびを育てる』（共著、第4章4／第5章1・2）（コレール社、1988年）
- ・林ムツミ「田川地域における就学前教育」『福岡県立大学生涯福祉研究センター研究報告叢書Vol. 5旧産炭地域筑豊における生活と福祉－田川市郡を中心に－』（研究代表者保田井進、p111-133、2000年3月）
- ・林ムツミ「乳幼児を持つ母親の学習を支援する講座のあり方－福岡県立大学生涯福祉研究センターでの実践をとおして－」『日本生活体験学習学会誌3』（p57-66、2003年3月）

### 3. 外部研究資金

なし

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

- ・日本子ども社会学会
- ・日本保育学会
- ・日本生活体験学習学会

### 6. 担当授業科目

なし

### 7. 社会貢献活動

- ・生涯福祉研究センター事業「田川アンビシャス親子広場」（担当）
- ・生涯福祉研究センター事業「田川アンビシャス親子広場 ボランティア養成講座」月1回実施（担当）
- ・生涯福祉研究センター事業「Nobody's Perfect 『完璧な親なんていない！』プログラム」講座コーディネーター（8回講座）
- ・福岡県立大学共催事業「筑豊市民大学」コーディネーター
- ・生涯福祉研究センター共催事業「外国人のための『日本語教室』」コーディネーター
- ・「ちくほう女性会議」（広報等担当）
- ・「田川地区子育てネットワーク『たんたん』」

### 8. 学外講義・講演

なし

### 9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター研究プロジェクト「筑豊地域の文化資源の収集・整理・体系化と発信システム構築に関する研究」（研究代表者）
- ・生涯福祉研究センター研究プロジェクト「地域の子育て支援に関する研究」
- ・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川の再生プロジェクト」

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	田中 美智子
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1992 年千葉大学大学院医学研究科博士課程修了。1992 年～鹿児島純心女子短期大学講師、鹿児島純心女子大学看護学部講師として勤務。1998 年～宮崎県立看護大学講師、その後、助教授、准教授として勤務し、2009 年 4 月本学に着任。

- ・ 高齢者の健康維持増進と慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸法  
高齢者の健康維持増進に向けて、意識的に横隔膜を使用して行なう呼吸法が循環動態や自律神経系にどのような影響を与えるかについて検討している。また、同時に、呼吸リハビリの点からこのような呼吸法が軽度な慢性閉塞性肺疾患患者に対して、有効かどうかを明らかにすることも目指している。
- ・ 睡眠の簡易評価システム開発と高齢者における睡眠の質改善  
日常的な睡眠状態の測定・評価を可能にするためのシステム開発と高齢者に見られる睡眠に関する問題を解決するために、睡眠の質改善のための援助について考えている。  
これらの研究の他に身体を温めることの効果についても検討している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 田中美智子「血液」「体液」「呼吸」「尿生成と排泄」、新・看護生理学テキスト、深井喜代子他編集、南江堂、219-245, 265-289, 340-354, 2008 年 5 月。

#### <論文>

- ・ 田中美智子、長坂猛、矢野智子、小林敏生、榊原吉一：健康成人女性を対象とした腹式呼吸による自律神経反応と尿中ホルモンの変化。日本看護研究学会雑誌 31(4), 59-65, 2008.
- ・ Tanaka M, (Takeshita) Kusuda M., Abe K., Nagasaka M.: Effects of iron deficiency anemia on growth rate of rats. 形態・機能, 7(2), 67-75, 2009.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ Tanaka M, Nagasaka M., Yano T., Kobayashi T., Sakakibara Y. (2009). The autonomic Nervous responses during the voluntary abdominal breathing in the elderly. 36th International congress of physiological sciences. Kyoto.
- ・ 田中美智子、長坂 猛. (2009). 意識的に横隔膜を使用する呼吸法が高齢者の自律神経系とホルモンの与える影響. 第 8 回日本看護技術学会、旭川.
- ・ 田中美智子、矢野智子、長坂猛. (2008). ホームページを活用した「人体の構造と機能」の実験実習. 第 34 回日本看護研究学会、盛岡.
- ・ 田中美智子、長坂猛、矢野智子. (2008). 腹式呼吸が高齢者の循環・自律神経反応に及ぼす影響. 第 7 回日本看護技術学会学術集会、弘前.
- ・ 田中美智子、長坂猛、矢野智子、渋谷まさと. (2007). 「人体の構造と機能」への自己学習システムの導入（第 2 報）. 第 33 回日本看護研究学会学術集会.
- ・ 田中美智子、矢野智子、長坂猛. (2007). 意識的腹式呼吸による尿中ストレスホルモン、第 6 回日本看護技術学会学術集会、前橋.

#### <報告>

- ・ 田中美智子：問診と視診、呼吸器ケア 5(5)、メディカ出版. 65-75, 2007.
- ・ 田中美智子：自律神経反応を指標としたケア技術の評価。日本看護技術学会雑誌. 6(1), 16-17, 2007.
- ・ 田中美智子：「聴いて」「視て」「触れて」呼吸器アセスメントの要点。呼吸器&循環器 17(4), 日総研、35-40, 2007.

- ・ 田中美智子、矢野智子、井野瑞樹、安部浩太郎：「人体の構造と機能」関連科目を4年次に開講する意義と学生の学び。看護教育. 49(3), 医学書院, 231-236, 2008.
- ・ 田中美智子：呼吸器における解剖生理の理解と「検査データ」「アセスメント」の判断根拠。ナースセミナー, 29(12), 日総研. 4-14, 2009
- ・ 田中美智子、矢野智子、長坂猛、渋谷まさと：「人体の構造と機能」への「一步一步学ぶ医学生理学」自己学習システムの導入と学生の反応。看護教育 50(11)、医学書院、108-114, 2009.

〈新聞での研究紹介〉

- ・ 田中美智子・長坂猛：岩盤浴で体を温めると・・・血液循環や新陳代謝促進。宮崎日日新聞. 2007. 6 月 9 日朝刊.

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・ Tanaka M., Takaishi S., Honda Y., et al.:Dependence of biphasic HR response to sustained hypoxia on magnitude of ventilation in man. Jpn.J.Physiol. 42, 865-875, 1992.
- ・ Tanaka M., Masuda A., Honda Y., et al.:Estimation of CO<sub>2</sub> chemosensitivity from the carotid body in humans. Oxygen Sensing: Molecule to Man, edited by S. Lahiri et al. Kluwer Academic / Plenum Publishers. 663-670, 2000.
- ・ Tanaka M., Nagasaka M., Honda Y., et al.:Improved O<sub>2</sub> transport and utilization capacity following intermittent hypobaric hypoxia in rats. Adv. Exp. Med. Biol. 499, 375-379, 2001.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 C)「呼吸困難感軽減をねらいとした高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における呼吸訓練の早期介入」、1040,000 (平成 21 年度)、平成 20 年度～22 年度

5. 所属学会

日本看護研究学会 (2001.4.～2004.3.:査読委員, 2007.4～：評議員・査読委員 現在に至る)、日本看護研究学会九州地方会 (2006～：地方会役員、2009～：地方会会計) 日本生理学会 (評議員 現在に至る)、日本臨床生理学会、日本胸部疾患学会 (現：日本呼吸器学会)、日本病態生理学会、看護人間工学部会 (2007～：査読委員・役員、2010 部会主催)、日本登山医学会 (2009～：評議員)、日本体力医学会、コメディカル形態機能学研究会、日本看護技術学会 (2008.～ 査読委員)、日本看護科学学会 (2009.～和文誌編集委員)

6. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年・後期、実験看護学演習 (実験看護学演習Ⅰ)・1 単位・2 年(編入生)・前期、実験看護学Ⅱ・1 単位・編入生・後期、教養ゼミ・1 単位・1 年・前期、専門看護ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・通年

〈大学院〉

実験看護学特論・2 単位・1 年・前期、実験看護学演習・2 単位・1 年・後期、Advanced 生理学・病態生理学・2 単位・1 年・前期、基盤看護学特別研究・8 単位・2 年・通年

7. 社会貢献活動

呼吸器ケア編集協力委員

8. 学外講義・講演

模擬授業、武蔵台高校、2009. 6 月.

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- 看護技術の熟達化と思考の関係性に関する研究  
平成16年度～平成17年度の科研(基盤研究(C))に引き続き、平成18年度～平成20年度科研(基盤研究(C))の3ヵ年計画で調査及び実験研究進めてきた。平成21年度は、実験方法を見直し、一部修正や追加を加え実施した結果、一定の結果を見出すことができた。この研究結果を踏まえ、平成22年度は看護技術の熟達化を生理学的観点から客観的に解明するため、新たな研究計画を作成中である。
- 在宅酸素療法患者の生活支援に関する研究  
在宅酸素療法患者の生活実態と自己効力感の関係性について研究に取り組んでいる。第1回の調査では、HOT患者の生活実態とその問題点を明らかにし、報告書としてまとめた。平成22年度は、調査の結果を踏まえ、具体的な教育プロトコル作成を予定している。

## 2. 研究活動

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- 永嶋由理子,「学習理論」の3つの考えかた.安酸史子編著,目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術,メディカ出版,2007.

#### <論文>

- 永嶋由理子. 看護過程の考え方と進め方(基礎編). 月刊看護きろく,17(1), 75-84, 2007.
- 永嶋由理子. 看護の視点からアセスメントするために(基礎編). 月刊看護きろく,17(2),78-87,2007.
- 永嶋由理子. 看護記録の再考ーアセスメントを生かした看護記録(基礎編). 月刊看護きろく,17(3),84-94,2007.
- 湊野由夏,永嶋由理子. 人工骨頭置換術を受けた高齢者の展開事例. 月刊看護きろく,17(4),61-70,2007.
- 津田智子,永嶋由理子. 癌性疼痛に苦しむターミナル期にある患者の事例展開,月刊看護きろく,17(5), 85-94, 2007.
- 加藤法子,永嶋由理子. 急性増悪を来した高齢肺炎腫患者の展開事例,月刊看護きろく,17(6), 57-66, 2007.
- 湊野由夏,永嶋由理子,中野榮子,山名栄子,加藤法子,津田智子. 基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要,4(2), 82-87, 2007
- 加藤法子,永嶋由理子,湊野由夏. 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討. 福岡県立大学看護学研究紀要,4(2), 64-68, 2007.
- 田中美保子,松本弘子,矢野由紀代,中島壽子,倉地美智子,佐々木美佳,永嶋由理子,湊野由夏,加藤法子. 高齢HOT利用者における自己効力感の実態,日本看護学会論文集:老年看護,37,209-211, 2007.
- 永嶋由理子. 編集:看護実践に活かすフィジカル・アセスメント,臨床看護, 34(4), 2008.
- 永嶋由理子. フィジカル・アセスメントの基礎知識,臨床看護,34(4). 433-454, 2008.
- 湊野由夏. 加藤法子. 中野榮子. 永嶋由理子. 津田智子. 山名栄子. 基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要,5(2), 89-96, 2008.
- 加藤法子. 湊野由夏. 永嶋由理子. 津田智子. 山名栄子. 中野榮子,基礎看護実習Ⅰの教育効果の検討:実習前後における学習意欲の変化から,福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 52-60, 2008.
- 津田智子. 中野榮子. 永嶋由理子. 湊野由夏. 加藤法子. 山名栄子,口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴:学生が記述したプロセスレコードの分析を通して. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 43-51, 2008.

### ②その他最近の業績

#### <調査研究報告書>

- 永嶋由理子, 湊野由夏, 加藤法子, 田中美保子, 矢野由紀代, 中島壽子, 古川亜貴子, 城戸知美,

倉地美智子, 佐々木美佳, 松本弘子. 在宅酸素利用者の生活及び自己管理能力の実態に関する調査報告書, 1-18, 2006.

- ・ 永嶋由理子, 山川裕子, 安永悟. 看護技術の獲得・熟達化における思考過程深化の解明, 平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金〔基盤研究(C)〕研究成果報告書, p. 1-52, 2006.
- ・ 永嶋由理子, 湊野由夏, 加藤法子: 高齢在宅酸素療法患者の日常生活行動及び肺機能の実態とその評価: 高齢在宅酸素療法患者の外来教育プロトコルの開発に向けて, 平成 19-20 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2009.
- ・ 永嶋由理子, 湊野由夏, 津田智子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美. 温度センサーを用いた看護技術のエビデンスの検証: 足浴による温熱効果の検証から. 平成 19-20 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2009.

#### 〈学会発表〉

- ・ Nagashima Y., Yamakawa, Y. Research on improved performance and greater self-reflection in nursing technology. ICN Conference, Yokohama, 2007.
- ・ 永嶋由理子・山川裕子・湊野由夏. 看護技術の獲得プロセスにおける動作の向上と思考の深まりに関する研究. 日本看護科学学会学術集会, 福岡, 2008.
- ・ 湊野由夏, 藤野靖博, 加藤法子, 津田智子, 於久比呂美, 永嶋由理子. 看護技術の獲得過程における緊張度の検討ー反復練習と緊張度の変化からー, 日本看護科学学会, 福岡, 2008.
- ・ 小野寺洋子, 永嶋由理子, 湊野由夏. 看護技術習得過程における看護技術の熟達化と自己効力感の変化: 血圧測定技術に焦点をあてて, 第 14 回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会, 2009.

#### ③過去の主要業績

- ・ 田中美保子, 松本弘子, 河野俊, 湊野由夏, 永嶋由理子. 5 段階尺度マスタ記録と患者目標達成度との関連ー患者目標達成度評価の標準化に向けてー, 第 7 回看護情報研究会論文集, 74-7, 2006.
- ・ 湊野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子: 在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 3(1), 33-37, 2005.
- ・ 高橋清美, 佐藤友美, 加藤法子, 笹尾松美, 湊野由夏, 永嶋由理子, 中野榮子: 看護基礎教育における看護技術教育に関する一考察ー臨床における実態調査をもとにー. 福岡県立大学看護学部紀要, 3(1), 39-46, 2005.
- ・ 松本弘子, 田中美保子, 湊野由夏, 永嶋由理子. S 病院における ADL 分類スコアを用いた入院時と退院時の比較検証, 日本看護学会論文集: 看護総合, 36, 200-202, 2005.

#### 5. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

#### 6. 担当授業科目

##### 〈学 部〉

基礎看護学概論・2 単位・1 年・前期, ケアリング論・2 単位・1 年・前期, 基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期, 基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期, フィジカルアセスメント論・1 単位・2 年・前期, 看護過程・1 単位・2 年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期, シンptomマネジメント論・1 単位・後期・家族看護論・2 単位・2 年・後期, 看護研究・1 単位・3 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期, 総合実習・3 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期

##### 〈大学院〉

基盤看護学特別研究・8 単位・1～2 年・通年

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 田川市住宅政策審議会委員(2007 年～現在)
- ・ 田川市立病院における看護師卒後研修会講師(2008 年～現在)
- ・ 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2008 年 12 月～2009 年 11 月)
- ・ 看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想 (看護学部 FD 委員)

(2009 年～現在)

**8. 学外講義・講演**

- ・ フィジカルアセスメントの理解,訪問看護師養成講習会,2009 年 8 月(計 2 回)
- ・ フィジカルアセスメントー身体面のアセスメントをするための観察技術ー,看護師卒後研修会,2009 年 9 月
- ・ 看護教育評価,看護師養成講習会,2009 年 10 月～(計 30 時間)).
- ・ 看護過程と記録の考え方,総合せき損センター卒後研修会,2009 年 11～12 月
- ・ フィジカルアセスメントの実際,北九州総合病院卒後研修会,2009 年 12 月・2010 年 2 月

**9. 附属研究所の活動等**

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	森 礼子
----	-------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

現在、英語教師が教室で英会話を教えているとき、学習者の間違いをどのような信念に基づいて直すかについて調査している。今後は日本という、英語圏とは異なった社会文化的な状況に置かれた学習者や教師に焦点を当て、日本独特の教育や文化が教室内のやりとりにどのように反映され、またそれがどのように英語学習に影響を与えているかの研究に移行するつもりである。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <論文>

- ・ 森 礼子. (2007). 小学校英語教育は話す教育にどのように寄与しているか: 事例研究『福岡県立大学看護学部紀要』第4号、頁1-9.
- ・ Mori, R. (2007). Asia TEFL, TESOL, multiculturalism, and teacher development. *Annual Review of English Learning and Teaching*, 12, 31-37.
- ・ 森 礼子. (2007). 国語科教科書における話す練習とその大学英会話教室にとっての意味. 『福岡県立大学看護学研究紀要』第5号、頁1-8.
- ・ Mori, R. (2008). Encouraging communication through individual, pair, and group work. *The Language Teacher*, 32, 17-18.
- ・ 森 礼子. (2009). ある英会話教師が間違い直しに関して持っている知識. 『福岡県立大学看護学研究紀要』第6号、頁70-77.
- ・ Mori, R., & Gale, S. (2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, 33, 9-12.

### ②その他の業績

#### <学会報告>

- ・ Mori, R. (2007). Appropriating English: A case of a fifth grade classroom in Japan. TESOL 2007, 3月、米国・シアトル.
- ・ Mori, R. (2007). Asia TEFL, TESOL, and teacher development. Asia TEFL 2007. 6月、クアラルンプール.
- ・ Mori, R. (2008). Crossing borders: A complementary experience. JALT 2008. 11月、東京.
- ・ 森礼子. (2009). 二人の英語教師が持つ間違い直しに関する知識、大学英語教育学会第48回大会. 9月、北海学園大学.
- ・ Mori, R. (2010). Teacher cognition in corrective feedback in Japan. TESOL 2010, 3月、米国・ボストン.

## 5. 所属学会

TESOL, AAAL, Asia TEFL, 全国英語教育学会、全国語学教育学会、大学英語教育学会、外国語教育メディア学会

## 6. 担当授業科目

英語Ⅰ・1単位・1年・前期、英語Ⅱ・1単位・1年・後期、英語Ⅲ・1単位・2年・前期、英語Ⅳ・1単位・2年・後期、英語Ⅴ・1単位・4年・前期、専門看護学ゼミ2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、英語文献講読特講・大学院1年・前期。

## 7. 社会貢献活動

System 査読員、外国語教育メディア学会紀要編集委員、外国語教育メディア学会九州・沖縄支



部紀要 編集委員、大学英語教育学会・九州沖縄支部紀要 編集委員。

**9. 附属研究所の活動等**

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	安酸 史子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1978 年自衛隊中央病院附属看護学院卒業。看護師経験の後、1981 年千葉大学看護学部入学。1987 年千葉大学大学院看護学研究科修了。順天堂大学病院浦安分院で看護師として勤務後、東京女子医科大学看護短期大学助手、岡山県立大学保健福祉学部看護学科助教授・教授、岡山大学医学部保健学科看護学専攻教授を経て、2003 年本学に初代学部長として着任。

2009 年には、看護実践教育センターを立ち上げ、センター長として糖尿病看護認定看護師教育課程の教育も担当している。また、平成 21 年度から大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」の取り組み担当者として、13 大学からなるプロジェクトを推進させている。

現在取り組んでいる研究は、①経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究、②糖尿病患者教育における看護専門職として醸し出す雰囲気 (Professional learning climate) についての研究である。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### ＜著書＞

- ・ 安酸史子「目からウロコの新人ナース・プリセプティ指導術」、メディカ出版、2007.
- ・ 安酸史子「患者がみえる成人看護の実践」、安酸史子編、大阪、メディカ出版、2007.
- ・ 安酸史子. (2009). 教育的ケアリングモデル・経験型実習教育. 180-190. (グレッグ美鈴・池西悦子編著(2009). 看護教育学. 南江堂.)

#### ＜論文＞

- ・ 櫛直美、安酸史子、小野美穂、清水夏子「主体的健康づくりを促すための健康支援モデルに関する研究—筑豊市民大学看護ゼミ生における行動変容へのアプローチ—」、第 40 回日本看護学会論文集、2010.

### ②その他最近の業績

#### ＜学会講演＞

- ・ 安酸史子. (2009,8). アンドラゴジー. 日本腎不全看護学会ワークショップ. 横浜.
- ・ 安酸史子. (2009,1). 第 3 回日本腎不全看護学会九州・沖縄地区教育セミナー. 糖尿病腎症患者の看護. 日本腎不全看護学会. 福岡.
- ・ 安酸史子. (2009,9). 教育講演「看護の教育的関わりモデル—患者教育に必要な PLC—」. 日本糖尿病教育看護学会. 札幌.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 教育講演「循環器看護におけるセルフマネジメント」. 心臓リハビリテーション学会. 東京.
- ・ 安酸史子. (2009,11). 教育講演「エンパワメント」. 日本腎不全看護学会. 神戸.

#### ＜学会発表＞

- ・ Fumiko Yasukata, Michiyo Oka, Miyako Oike, Fusae Kondo, Megumi Higashi, Chieko Yamamoto, Narumi Takiguchi, Emi Yamada, Hiromi Sanaki, Teruko Kawaguchi, Hiroko Shimomura, Yuko Hayashi, Momoe Konagaya, Takako Kobayashi, Kyoko Kodaira, Etsuko Yokoyama, Sanae Iha, Tomoe Inoue, Kazumi Oda, Sachiko Tange. (2007). Nursing Model on education3: Professional Learning Climate as a Patient Education Expert and “Stepwise Searching and Problem-Solving Educational Method. Sigma Theta Tau International 18<sup>th</sup> Nursing Research Congress. Viena.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 北川明, 安酸史子, 中野榮子. (2008). 精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発. 第 28 回日本看護科学学会. 福岡.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 中野榮子, 安酸史子. (2008). 精神障害者の社会復帰促進

を目的とした継続教育の現状と課題. 第18回日本看護学教育学会. つくば.

- ・ 安永薫梨, 安田妙子, 松枝美智子, 中野榮子, 安酸史子. (2008). 経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び. 第39回日本看護学会【精神看護】. 神戸.
- ・ 小野美穂・添田百合子・清水夏子・政時和美・安酸史子. (2008.9). ピア・エデュケーション機能を取り入れた福岡糖尿病患者教育研究会の取り組み. 第13回日本糖尿病教育看護学会. 金沢.
- ・ 万代ゆかり, 澤田由美, 安酸史子. (2009). 在宅看護論実習における学生の行動―訪問看護実習場面の体験に焦点を当てて―. 第19回日本看護学教育学会, 北見.
- ・ 小野美穂, 添田百合子, 山田靖子, 安酸史子. (2009). 「糖尿病患者へのセルフマネジメントモデル」の学習会と事例検討会を用いたアクションリサーチ. 第14回日本糖尿病教育・看護学会, 札幌.
- ・ 森口智恵子, 安酸史子. (2009). 臨床看護師の臨床看護研究に対する自己効力感尺度の開発に関する研究. 第29回日本看護科学学会, 幕張.
- ・ 櫛直美, 安酸史子, 小野美穂, 清水夏子. (2009). 地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討. 第40回日本看護学会地域看護, 松本.
- ・ <シンポジウム>
- ・ 安酸史子. (2009,2). 糖尿病患者を支える心理的アプローチ、糖尿病学の進歩、シンポジスト. 松本.
- ・ 安酸史子. (2009.9). 患者教育専門家の立場で一慢性疾患患者に対するセルフマネジメント支援について. 日本看護学会成人Ⅱシンポジウム「その人らしく輝けるために」. 鳥取.
- ・ 安酸史子. (2009,9). シンポジスト「看護実習教育で学生の実践力を培う」. 日本看護学教育学会. 北見.
- ・ 安酸史子. (2009,9). シンポジスト「新人看護師に求められる看護技術とケアリング・マインド育成の狭間」. 日本医療マネジメント学会. 博多.

#### <パネルディスカッション報告>

- ・ 安酸史子. (2009,3). 看護系大学の将来を担う教員に対するFDのあり方について―大学院生・新任教員に向けての準備教育―. 一大学における教授の指導力. 平成19年度・平成20年度パネルディスカッション報告. 日本看護系大学協議会ファカルティ・ディベロップメント委員会, 1-46.

### ③過去の主要業績

- ・ 安酸史子「糖尿病患者の食事自己管理に対する自己効力感尺度の開発に関する研究」(博士論文)、東京大学, 1997.
- ・ 藤岡完治, 安酸史子, 他「学生とともに創る臨床実習指導ワークブック第2版」、医学書院, 2001.
- ・ 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力」、メディカ出版, 2004.

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省、基盤研究(B)、経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究、220万、平成21年度から平成24年度.
- ・ 文部科学省、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム、「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」、8500万、平成21年度から平成23年度.

### 5. 所属学会

日本看護学教育学会理事、日本看護科学学会理事、日本教師学学会理事、日本健康教育学会評議員、日本看護研究学会評議員、日本糖尿病教育看護学会

## 6. 担当授業科目

### 〈学部〉

看護への招待・1単位・1年前期、継続看護教育論・2単位・編入3年・前期、教師論・2単位・3年前期、看護実践論・1単位・3年前期、看護教育学Ⅰ・2単位・4年前期、看護管理論Ⅰ・2単位・4年前期、看護教育学Ⅱ・2単位・4年後期、看護管理論Ⅱ・2単位・4年後期、ケアリングと教育・2単位・4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年前期

### 〈大学院〉

看護教育学特論・2単位・1年前期、看護教育学演習・2単位・1年後期、看護教育学・2単位・1年後期、

## 7. 社会貢献活動

- ・ 日本看護科学学会編集委員長
- ・ メディカ出版発行月刊誌『糖尿病ケア』編集長
- ・ 川崎町立病院経営形態検討委員会委員
- ・ 筑豊市民大学ゼミ「ヘルシー・エイジング」担当

## 8. 学外講義・講演

- ・ 安酸史子. (2009,1). 第1回九州糖尿病認定看護セミナー 糖尿病教育に携わる看護師の将来展望. 看護実践教育センター. 博多.
- ・ 安酸史子. (2009,1). 第2回中国ブロック糖尿病看護スキルアップセミナー 患者教育 合併症を持った患者への教育的関わり (実践編). 日本糖尿病教育・看護学会研修委員会. 岡山.
- ・ 安酸史子. (2009,1). ケアリング科学に基づくFDの状況と課題. 平成20年度看護系大学協議会ファカルティ・ディベロプメント委員会主催パネルディスカッション「看護系大学の将来を担う教員に対するFDのあり方について—大学における教授の指導力—」. 看護系大学協議会. 東京.
- ・ 安酸史子. (2009,2). ヒューマンケアの実践者をどのように育て、支援するか. 青森県立大学FD. 青森.
- ・ 安酸史子. (2009,2). 経験型実習教育の考え方と実際. 名桜大学FD. 沖縄.
- ・ 安酸史子. (2009,2). 第3回名桜大学看護教育研修会. 慢性疾患患者への教育的アプローチ—糖尿病患者の事例を通して—. 名桜大学. 沖縄.
- ・ 安酸史子. (2009,2). 患者教育専門家として醸し出す雰囲気. 和歌山糖尿病療養指導セミナー. 和歌山.
- ・ 安酸史子. (2009,3). 経験型実習教育パート2. 旭川看護専門学校. 旭川.
- ・ 安酸史子. (2009,5). 糖尿病看護について. 五月園デイサービスセンター. 直方.
- ・ 安酸史子. (2009,6). 患者さんの指導・支援にあたっての看護師としての関わり方とやりがい. 久恒病院. 福岡.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 看護学教育方法論. 沖縄県看護教員養成講習会. 沖縄.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 基礎看護技術教育と評価. 平成21年度沖縄県看護教育協議会専任再教育研修会. 沖縄.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 糖尿病患者を支える心理的アプローチ. 第14回医療スタッフのための「隠岐糖尿病セミナー」. 隠岐.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 看護教育原論. 日本精神看護技術協会. 東京.
- ・ 安酸史子. (2009,7). ヘルスプロモーションとヘルシーエイジング. 筑豊市民大学ゼミ. 田川.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 患者教育に必要な教育技法. 平成20年度認定看護師教育課程 (清瀬). 東京.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 経験型実習教育の理論と実際. 太宰府病院. 太宰府.

- ・ 安酸史子. (2009,7). 患者の行動変容を起こす鍵ー患者教育で必要とされる諸理論ー. 北海道医療大学認定看護師教育. 札幌.
- ・ 安酸史子. (2009,7). 患者教育の基礎. 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」. 札幌.
- ・ 安酸史子. (2009,10). 考えながら実践できる学生を育てる. 厚生省看護教員養成講習会同窓会大阪支部. 大阪.

## 1. その他

### (1) 公開講座・ワークショップ

- ・ 安酸史子. (2009,1). 看護学部指導力UPのためのFD 経験型実習教育の事例検討. 福岡県立大学看護学部FD部会. 田川.
- ・ 安酸史子. (2009,1). 「患者さんが受け入れやすい表現って何?」. 生活習慣病療養支援研究会. 飯塚病院.
- ・ 安酸史子. (2009,2). 学生のやる気を引き出す看護実習教育を目指そう. 第2回合同実習調整部会. 田川.
- ・ 安酸史子. (2009,3). 臨床実習と教育評価. 沖縄県看護教育協議会平成20年度看護教員再教育研修会. 沖縄.
- ・ 安酸史子. (2009,5). プリセプター教育と新人教育. 山口赤十字病院. 山口.
- ・ 安酸史子. (2009,5). 「相手の気持ちをどうたずねよう」. 生活習慣病療養支援研究会. 飯塚病院.
- ・ 安酸史子. (2009,8). 経験型実習教育の理論と実際. 看護学部第1回学内FD. 田川.
- ・ 安酸史子. (2009,8). 糖尿病患者の心理と行動変容支援. 長崎県糖尿病に強い看護師養成プログラム. 長崎原爆病院.
- ・ 安酸史子. (2009,8). 患者の行動変容を促すアプローチ. 愛媛県糖尿病に強い看護師養成プログラム. 愛媛大学.
- ・ 安酸史子. (2009,9). 看護教育方法(実習指導). 福岡県教員研修. 福岡.
- ・ 安酸史子. (2009,9). 看護実習教育. 岡山実習指導者研修会. 岡山.
- ・ 安酸史子. (2009,9). 経験型実習教育の教材化. 看護学部第2回学内FD. 田川.
- ・ 安酸史子. (2009,10). 臨床実習と教育評価. メディカ出版. 東京.
- ・ 安酸史子. (2009,10). 臨床実習と教育評価. メディカ出版. 大阪.
- ・ 安酸史子. (2009,11). 経験型実習教育について. ケアリングアイランド九州沖縄構想第1回FDワークショップ. 博多.
- ・ 安酸史子. (2009,12). プリセプターシップ. 島根県看護協会. 松江.
- ・ 安酸史子. (2009,12). 糖尿病患者の心理と行動療法. 熊本県糖尿病に強い看護師養成プログラム. 熊本労災病院.
- ・ 安酸史子. (2009,12). 経験型実習教育について. ケアリングアイランド九州沖縄構想第2回FDワークショップ. 博多.

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター長
- ・ 看護実践教育センター長

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	芋川 浩
----	-------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1992 年名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)。その後、日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構 ERATO プロジェクト・グループリーダー、ロンドン大学 UCL 校上級研究員、理化学研究所・発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005 年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリという動物やマウスを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器を失うと、元通りに再生させることはできないが、有尾両生類の仲間であるアカハライモリという動物は、手足や各臓器を失っても、元通りに再生できるのである(イモリはトカゲやヤモリとは違います)。また、近年の目覚ましい生命科学の進歩により、手足をつくる重要な遺伝子群がよくわかってきた。その結果、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を利用して手足を形成することもわかった。この二つの事実を総合すると、「同じ遺伝子を持っているにも関わらず、どうしてイモリは手足を再生できてヒトは再生できないのか」という疑問が生じる。現在その疑問を遺伝子レベルで解明しようと研究を進めている。その疑問を解決できれば、ヒトも手足を再生できる可能性が非常に高いと考えている。なぜなら、手足を形作る遺伝子とメカニズムは、ヒトもイモリも全く同じなのだから！！

また、このような分子生物学的アプローチによる看護学に関わる研究も精力的に行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 芋川 浩、小関 尚子、『エタノール綿を用いた塗擦消毒効果の検討』 Expert Nurse、Vol.24 No.10, p.96-p.99 (2008)
- ・ 芋川 浩、『四肢再生過程に発現する FGF9 遺伝子の単離』、福岡県立大学看護学研究紀要、Vol.7 No.1, p.1-p.5 (2009)
- ・ 芋川 浩、『RNA 干渉法 (RNAi) を用いた培養細胞の骨格筋細胞への分化阻害』、福岡県立大学看護学研究紀要、Vol.7 No.1, p.6-p.9 (2009)
- ・ 芋川 浩、『表皮上の細菌数は酢による処置で大幅に減少する』、福岡県立大学看護学研究紀要、Vol.7 No.2, (印刷中)
- ・ 芋川 浩、『在宅における口腔内細菌の除去方法の検討①一健常者の舌に注目してー』、福岡県立大学看護学研究紀要、Vol.7 No.2, (印刷中)

### ②その他最近の業績

- ・ 芋川 浩、『イモリの再生とその再生開始分子を求めて』、日本動物生物学会 第 78 回大会シンポジウム(2007 年 弘前)
- ・ 芋川 浩、『イモリから考える再生医療研究へのアプローチ』、再生医学研究会 (2007 年 栃木)
- ・ Yutaka Imokawa, 『Molecular mechanism of the initiation on both lens and limb regeneration』 British Society of Developmental Biologist, Section Meeting (2008, London)
- ・ 4. Yutaka Imokawa, 『The Analysis of regeneration mechanism, using newt cell culture system』 British Society of Developmental Biologist, Workshop (2008, London)
- ・ 芋川 浩、『井守から見る生命の不思議、イモリの再生の不思議--イモリってすごい！』日本動物学会イモリネットワーク分科会 市民公開講座 (2009, 取手)
- ・ 芋川 浩、『イモリの再生の過去と未来』日本動物学会第 80 回大会シンポジウム(2009 年 静岡)
- ・ 芋川 浩、『エタノール綿を用いた塗擦消毒効果の細菌学的検討』日本看護研究学会 第 35 回学術集会(2009 年 横浜)
- ・ 芋川 浩、『脊椎動物の再生メカニズム』心血管再生医学研究会 第 10 回シンポジウム(2009

年 京都)

### ③過去の主要業績

- Y. Imokawa & K.Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds  
Proc. Natl. Acad. Sci. USA **94**, 9159-9164 (1997).
- Y. Imokawa & J. P. Brockes. Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration.  
Curr. Biol. **13**, 877-881 (2003).
- Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brockes. A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration.Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci., **359**, 765-776 (2004).
- Y. Imokawa, P. B. Gates, Y-T Chang, H-G. Simon & J. P. Brockes.Distinctive Expression of Myf-5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells.  
Int. J. Dev. Biol., **48**, 285-291 (2004).
- 再生—甦るしくみ— 吉里勝利編 (第2-3章) 羊土社

### 3. 外部研究資金

- 平成21年度 科学研究費補助金(基盤研究(C) 研究代表者)、900,000 円、(平成19年4月—平成22年3月) 「四肢再生とレンズ再生に共通する再生開始の初期メカニズムの解明」
- 平成21年度 科学研究費補助金(基盤研究(B) 研究分担者)、100,000 円、(平成21年4月—平成24年3月) 「アカハライモリの資源化とモデル動物化を支える情報・技術基盤の研究」

### 5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会、日本遺伝看護学会

### 6. 担当授業科目

化学・2単位・1年・前期、実験看護学演習Ⅱ・1単位・2年・前期、生物学・2単位・1年・後期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、実験看護学演習ⅠA・1単位・3年・後期、実験看護学演習ⅠB・1単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、日本事情(科学事情Ⅰ&Ⅱ)・2単位・留学生・後期

### 7. 社会貢献活動

産学官連携ワーキンググループ・委員、紀要部会 看護学研究紀要発行

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	江上 千代美
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

探索眼球運動を精神生理学的指標とした対人的な視覚認知機能の解明および支援を主な研究分野としている。具体的には、①探索眼球運動を精神生理学的指標とした小児期の視覚認知機能の発達、②探索眼球運動を精神生理学的指標とした軽度発達障害児（アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害等）の特徴、③軽度発達障害児および保護者への根拠に基づく介入プログラムを主な研究テーマとしており、対人的な視覚認知として重要な表情認知や情動認知について特に関心がある。

発達障害者の新しい診断・治療法の開発に関する研究として認知機能評価である CogHealth を用いて、①健常児の発達、②注意欠陥多動性障害の特徴、③くるめ STP (Summer Treatment Program)の効果等について検討している。これらの知見をもとに、注意欠陥多動性障害をもった人を対象とした児および保護者への生活支援につなげることに取り組んでいる。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

＜論文＞

- ・ 江上千代美、森田喜一郎、石井洋平、山下裕史朗、松石豊次郎. 笑顔図の探索眼球運動から類推される対人性視覚認知機能の発達、脳と発達（印刷中）。
- ・ 江上千代美、森田喜一郎、石井洋平、大矢崇、山下裕史朗、松石豊次郎. アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討、臨床神経生理学（印刷中）。
- ・ Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.
- ・ 江上千代美、森田喜一郎、石井洋平、山下裕史朗、松石豊次郎. 探索眼球運動評価による小児期の視覚認知機能の特徴、臨床神経生理学 35（6）, 479-486, 2008.
- ・ 江上千代美、日隈眞智子、自己効力感が授業過程評価に与える影響、日本看護学校協議会雑誌 163-164, 2008.
- ・ 江上千代美. 看護学生の手首一貫感覚と精神的健康度との関係. 日本心身健康学会 4(2), 43-48, 2008.

### ②その他最近の業績

- ・ Sachiko Nishiura, Youko Nakashima, Keiichiro Mori, Takayuki Kodama, Satoshi Hirai, Takatsugu Kurakake, Chiyomi Egami, and Kiichiro Morita. A life span study of exploratory eye movements in healthy subjects : Gender Differences and Affective Influences, The Kurume Medical Journal, 54, 65-72, 2007.
- ・ 立松康弘、森田喜一郎、川辺千津子、中島洋子、岡本泰弘、江上千代美、小路純央、情動関連眼球運動を精神生理学的指標にしたうつ病患者の寛解過程、久留米医学会雑誌、70, 361-368, 2007.
- ・ 江上千代美：目標内容と適応との関係。人間総合科学会誌 3(1) , 46-52, 2007.
- ・ 江上千代美：看護学生の学習への適応と理想の看護師像との関係-自尊感情の視点から-日本看護学校協議会雑誌, 36（2）, 106-107, 2006.

## 5. 所属学会

日本臨床神経生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会、会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員

## 6. 担当授業科目



〈学部〉

実験看護学演習・1単位・2年次・前期，生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期，生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期，教養演習・1単位・1年次・前期，総合実習・2単位・4年次・前期，専門看護学ゼミ・2単位・4年次・前期，卒業研究・2単位・4年次・前期

〈大学院〉

実験看護学特論・2単位・大学院1年次・前期，実験看護学演習・2単位・大学院1年次・後期

**9. 附属研究所の活動等**

- ・ 久留米大学高次脳疾患研究所，久留米大学小児科学
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	加藤 法子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- 基礎看護学の教育方法に関する研究  
基礎看護実習、基礎看護技術に関する教育方法の検証を行っている。基礎看護実習教育では、実習における学習意欲や看護師のイメージ、思考動機などの変化から基礎看護実習の教育効果と教育方法について検討している。また、基礎看護技術においては、基礎看護技術の科学的検証を行い、科学的根拠に基づいた看護技術教育プログラムの開発に向けた検討を行っている。
- 高齢患者への外来教育方法の検討  
平成15年度より、高齢の在宅酸素療法患者を対象に自己管理能力に基づいた外来教育方法について検討している。在宅酸素療法を受けている患者には、生活の様々な面で自己管理することが求められるため、自己管理能力を適切に査定し、それに応じた教育をすることで、より効果的な教育ができるのではないかと仮説のもと、研究に取り組んでいる。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <論文>

- 津田智子, 中野榮子, 永嶋由理子, 渕野由夏, 加藤法子, 山名栄子 (2008). 口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴—学生が記述したプロセスレコードの分析を通して—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 43-51.
- 加藤法子, 渕野由夏, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子, 中野榮子 (2008). 基礎看護実習Ⅰにおける教育効果の検討:実習前後の学習意欲の変化から. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 52-60.
- 渕野由夏, 加藤法子, 中野榮子, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子 (2008). 基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 89-96.
- 中野榮子, 津田智子, 永嶋由理子, 渕野由夏, 加藤法子, 山名栄子, 杉野浩幸 (2008). 洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～ 福岡県立大学看護学研究紀要, 6(1).
- 加藤法子 (2008). 呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカル・アセスメント. 臨床看護, 34 (4), 457-490.
- 加藤法子 (2008). 神経系器官に問題のある対象へのフィジカル・アセスメント. 臨床看護, 34 (4), 527-564.
- 加藤法子. (2007). 呼吸困難感により自宅にこもりがちな在宅酸素療養患者. 安酸史子, 奥祥子 (編), 患者が見える成人看護の実際 150-156. 大阪, メディカ出版.
- 加藤法子, 永嶋由理子, 渕野由香 (2007). 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討. 福岡県立大学看護学部紀要4(2), 64-68.
- 渕野由香, 永嶋由理子, 中野榮子, 山名栄子, 加藤法子, 津田智子 (2007). 基礎看護実習Ⅱの実習前後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学部紀要4(2), 82-87.
- 加藤法子, 永嶋由理子. (2007) 再点検!看護過程 急性増悪を来した高齢肺気腫患者の展開事例 (実践編), 看護きろく, 17(9), 57-56.

### ②その他最近の業績

- 渕野由夏, 藤野靖博, 加藤法子, 津田智子, 於久比呂美, 永嶋由理子 (2008). 看護技術の獲得過程における緊張度の検討—反復練習と緊張度の変化から—, 日本看護科学学会, 福岡.

#### <調査研究報告書>

- 永嶋由理子, 渕野由夏, 加藤法子: 高齢在宅酸素療法患者の日常生活行動及び肺機能の実態とその評価—高齢在宅酸素療法患者の外来教育プロトコールの開発に向けて—. 平成19-20年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2009.

- ・ 永嶋由理子、湊野由夏、津田智子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美温度センサーを用いた看護技術のエビデンスの検証－足浴による温熱効果の検証から－. 平成 19-20 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2009.

### 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金、若手研究B、「高齢在宅酸素療法患者に向けた教育戦略の検討～教育プロトコールからのアプローチ～」平成 20 年度～平成 21 年度

### 5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本協同教育学会

### 6. 担当授業科目

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護論Ⅱ・2単位・1年・後期、フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、家族看護論・2単位・2年・後期、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

### 8. 学外講義・講演

加藤法子、湊野由夏、津田智子、藤野靖博、於久比呂美（2009. 8）. 子どもの支援に生かせる実践的ケアと理論：看護技術－吸入・吸引. 平成 21 年度教員免許状更新講習、福岡県立大学.

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	北川 明
----	-------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

現在、看護学・保健学と情報科学との融合を目指した看護情報学を主な研究分野としている。情報科学との融合とは、単に医療にコンピュータを導入するというものではなく、数学理論や統計学を応用し、情報の収集、分析、管理を行い、サービスの向上を図るものである。

具体的には、①健康保健指導におけるeラーニングの教育効果と活用可能性の研究、②地域保健活動支援システムのあり方と構築に関する研究、③テキストマイニング手法を用いた定性データ分析方法に関する研究を行っている。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### ＜論文＞

- ・ 恒松美輪子, 北川明, 山口扶弥, 梯正之, 烏帽子田彰: 地域保健活動における ICT 活用推進のための効果的方策に関する研究—先進的自治体の保健師に対するインタビューを通じて—。医療情報学, 28 (5), 261-268, 2009.
- ・ 北川明, 梯正之, 烏帽子田彰: 全国悉皆調査からみた市町村保健センターの ICT(Information and Communication Technology)活用状況の現状と評価 (第一報)。医学と生物学, 151(9): 312-318, 2007.

#### ＜報告書＞

- ・ 烏帽子田彰, 内藤佳津雄, 河原智江, 石田光広, 研究協力員 柴崎祐美, 久野譜也, 高木敏, 木村友昭, 北川明: 介護保険制度の適正な実施及びサービスの質の向上に寄与する調査研究事業—介護予防にかかる市町村事業計画の在り方に関する研究—。平成 18 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分) 介護保険制度の適正な運営・周知に寄与する調査研究事業 (主任研究者 烏帽子田彰) 報告書: A4 版全 67 頁, 2007
- ・ 他 2 点

### ②その他の業績

#### ＜論文＞

- ・ 北川明, 磯貝恵美, 松浦賢長. (2009). テレビ会議システムを用いた遠隔健康教室の賛否についての意識調査. 第 68 回日本公衆衛生学会総会, 奈良.
- ・ 北川明, 恒松美輪子, 梯正之, 烏帽子田彰. (2008). テレビ会議システムを用いた遠隔健康教室の利点と課題—住民アンケートの結果から—. 第 9 回日本医療情報学会看護学術大会, 東京.

#### ＜新聞取材＞

- ・ 「テレビ電話でメタボ健康教室」中国新聞, 2007 年 12 月 15 日朝刊  
URL: <http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn200712150022.html>

#### ＜商業誌掲載＞

- ・ 北川明, 樋口善之, 杉野浩幸. (2009). 「わかりやすい!」と言ってもらえる看護研究発表資料の作り方. Smart nurse, 11 (8), 55-68.
- ・ 北川明, 中村秀敏. (2009). e ラーニングの効果的・効率的な導入のコツ. 看護 臨時増刊号, 61 (14), 54-60.

## 3. 外部研究資金

「e ラーニングを用いるうつ病患者を対象としたセルフマネジメント教育の開発」平成 21 年度科学研究費補助金 (若手 B) 課題番号: 21790504 (平成 21 年～23 年)

**5. 所属学会**

日本医療情報学会，日本看護科学学会，日本精神保健看護学会，広島保健学学会，日本公衆衛生学会，医学生物学速報会，日本健康教育学会

**6. 担当授業科目**

疫学保健統計学・2単位・2年・前期、看護情報学・1単位・2年・後期、医療保健福祉政策論・2単位・4年・前期、総合実習・2単位・4年・前期、看護管理論Ⅰ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、看護管理論Ⅱ・2単位・4年・後期、卒業研究・2単位・4年・後期

**7. 社会貢献活動**

- ・ ケアリング・アイランド九州沖縄構想、戦略連携室教員
- ・ 日本看護科学学会社会貢献委員（2008-2009）
- ・ 第28回日本看護科学学会学術集会、事務局・企画委員
- ・ 福岡eラーニング研究会、幹事

**8. 学外講義・講演**

北川明（2009,7）看護研究の実際②. 福岡県看護協会、福岡

**9. 附属研究所の活動等**

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

＜論文＞

- ・ 神山吉輝・小出昭太郎・川口毅・青木啓子、「保健師の支援による高齢者の食生活の変化及び医療費推移との関連」、『厚生指針』、第54巻第7号、2007年。
- ・ Morimoto, A., Nishimura, R., Sano, H., Matsudaira, T., Miyashita, Y., Shirasawa, T., Koide, S., Takahashi, E., and Tajima, N., “Gender differences in the relationship between percent body fat (%BF) and body mass index (BMI) in Japanese children”, *Diabetes Research and Clinical Practice*, 78, 2007.

### ③過去の主要業績

- ・ 小出昭太郎・田村誠、「1991年英国NHS改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・ 小出昭太郎・田村誠、「イギリスNHS成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・ 小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

## 5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本健康教育学会、東北哲学会

## 6. 担当授業科目

＜学部＞

情報処理演習・2単位・1年・前期、保健社会学・2単位・1年・後期、保健社会調査論・2単位・2年・後期、看護研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉政策論・2単位・4年・前期、看護管理論Ⅰ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、日本事情B・2単位・留学生・前期

＜大学院＞

データ解析特論・2単位・修士1年・後期

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	四戸 智昭
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題 などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、ご要望があればいつでもお話を伺いに参ります。お気軽にご連絡ください。(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### ＜著書＞

- ・ 田中哲也編著、四戸智昭著. "第 1 章レポートのためのテーマ設定". 『レポートの書き方入門 2007 年版』. (2007). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.
- ・ 田中哲也編著、四戸智昭著. "第 1 章レポートのためのテーマ設定". 『レポートの書き方入門 2008 年版』. (2008). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.
- ・ 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. "第 14 章家族の孤立という危機—ディスコミュニケーションが生む家族の苦悩—". 『21 世紀の心の処方学—医学・看護学・心理学からの提言と実践—』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- ・ 田中哲也編著、四戸智昭著. "第 3 章資料を探そう—上手に本を探すテクニック—". 『レポートの書き方入門 2009 年版—教養演習テキスト』. (2009). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.
- ・ 門田光司、松浦賢長編著、四戸智昭著. "第 2 章「親を支える」". 『子どもの社会的自立を目指す 不登校・ひきこもりサポートマニュアル』. (2009). 東京、少年写真新聞社.

#### ＜学術論文＞

- ・ 四戸智昭. 「生活保護受給世帯における依存症問題—旧産炭地域における生活保護受給者と依存症問題の関連について—」. 『アディクションと家族』第26巻3号、日本嗜癖行動学会、2010年.

### ②その他の業績

#### ＜出版物＞

- ・ 四戸智昭. (2007,5). 現代人と携帯依存. 月刊保団連、No.936、21-25.

#### ＜調査報告書＞

- ・ 清田勝彦、高間満、鬼崎信好、城島泰伸、谷村紀彰、泉賢祐、本郷秀和、松岡佐智、西原尚之、中藤広美、中村幸、久富芳孝、三隅譲二、林ムツミ、四戸智昭、中村晋介.
- ・ 「生活保護自立阻害要因の研究—福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から—」. 福岡県立大学付属研究所. (2008,3). A4 版全 315 頁.
- ・ 田中哲也、久永明、神谷英二、四戸智昭、内田若希. 「福岡県立大学新入学生の学力実態をふまえた導入教育に関する調査研究中間報告書」. 福岡県立大学研究奨励交付金研究. (2008,3). A4 版全 130 頁.
- ・ 四戸智昭. 「直方市次世代育成支援行動計画実態調査報告書」. 直方市市民部健康福祉課児童・母子福祉係. (2009,3). A4 版全 210 頁.

#### ＜学会発表＞

- ・ Shinohe, T. “Livelihood Protection in Japan: Case Study of Tagawa, Fukuoka.”, 19<sup>th</sup> Asia Pacific Social Work Conference. Penang, Malaysia. (2007,9).
- ・ 四戸智昭. 「生活保護受給世帯における依存症問題―旧産炭地域における生活保護と依存症問題の関連について―」. 日本嗜癪行動学会第 19 回学術集会. 東京. (2008,11) .
- ・ 四戸智昭. 「不登校・ひきこもりの子を抱えた親たちの自助グループについて―親が抱える不安と強迫観念に関する一考察―」. 日本嗜癪行動学会第 20 回学術集会. 福島. (2009,11) .

#### 〈シンポジウム〉

- ・ 四戸智昭. 福岡県精神科病院協会精神障害者地域支援研修「シンポジウムこれからの地域づくり」. シンポジスト. 行橋市. 2010 年 2 月 4 日
- ・ 四戸智昭. 福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンター「シンポジウム青年期のひきこもりを考える～高校生年代のひきこもり支援の現状と課題～」コーディネーター. 福岡県立大学. 2010 年 3 月 20 日

#### ③過去の主要業績

- ・ 四戸智昭著. (単著). 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.

#### 3. 外部研究資金

- ・ 田川郡における被保護者の自立阻害要因に関する研究、(代表清田勝彦)、受託研究、研究メンバー
- ・ 平成 20 年度質の高い大学教育推進プログラム「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」、(代表松浦賢長)、受託研究、研究メンバー

#### 5. 所属学会

日本嗜癪行動学会 (学会誌編集委員)、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本心理臨床学会、日本アルコール関連問題学会

#### 6. 担当授業科目

情報処理演習・2 単位・1 年・前期、教養演習・1 単位・1 年・前期、現代社会と嗜癪・2 単位・1 年・後期、看護学研究法・2 単位・3 年・後期、保健医療福祉政策論・2 単位・4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期、行動病理学・2 単位・3 年・前期、大学院看護学研究法・2 単位・1 年・前期

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県直方市次世代育成後期行動計画推進協議会・会長
- ・ 福岡県直方市第 5 次総合計画策定委員会・アドバイザー
- ・ 福岡県直方市第 5 次総合計画市民会議・コーディネーター
- ・ 福岡県北九州市薬物対策連絡協議会事業検討委員会・座長

#### 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県直方市市民部健康福祉課児童・母子福祉係「直方市次世代育成支援行動計画実態調査」報告、2009 年 8 月 4 日
- ・ 福岡県自治体職員研修所「高度福祉社会」講師、2009 年 8 月 24、25 日
- ・ 筑紫保健環境事務所「子どもの問題から親を見るということ」講演、2009 年 12 月 11 日
- ・ 福岡県直方市市民部健康福祉課児童・母子福祉係「ファミリーサポートセンター講習会」講師、2010 年 1 月 28 日、2 月 22 日
- ・ 福岡県直方市第 5 次総合計画市民会議、「すくすくいいきいき部会」講師、2010 年 1 月 21 日、2 月 8 日、2 月 23 日、3 月 4 日、3 月 17 日、3 月 26 日
- ・ 福岡県直方市第 5 次総合計画市民会議、「くらし環境部会」講師、2010 年 1 月 21 日、2 月 3



日、2月18日、3月2日、3月16日、3月26日

- ・ 福岡県精神保健福祉センターひきこもり研修会「不登校ひきこもりサポートセンターのこれまでとこれから」講演、2010年3月5日
- ・ 福岡県社会福祉協議会「依存症に関する基礎」講演、2010年3月9日
- ・ 福岡県直方市民生委員児童部研修会「DVとひきこもり」講演、2010年3月29日

#### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	杉野 浩幸
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院博士課程後期修了、博士（工学）、平成 17 年度より福岡県立大学看護学部・講師。Dreamweaver、Illustrator、InDesign などを用いたデザイン・プレゼンテーション資料作成、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援（Microsoft Office Specialist 取得）など、ICT テクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) グループホームにおける感染対策マニュアルの作成、4) 不登校・ひきこもりへの援助力養成教育（文科省教育 GP）

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 杉野浩幸、森山信男、ホームページを活用した看護教育の情報化、看護教育、vol.48 no.12 pp1089-1092、2007 年
- ・ 杉野浩幸、森山信男、実験看護学演習Ⅱ（細菌学実習）における実習効果の評価、福岡県立大学看護学研究紀要、vol.5 no.1 pp29-34、2007 年
- ・ 杉野浩幸、森山信男、感染対策の意識を高める体験学習、整腸剤を活用した事例、看護きろくと看護過程、vol.18 no.1 pp68-71、2008 年
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力 ー看護のアピールで集める患者と看護師へ、ナース・マネージャー、vol.10 no.1 pp72-75、2008 年
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ホームページ作成に必要な知識、2008 年 4 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.2 pp76-79.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、無料ツールを利用した簡易ホームページの作成、2008 年 5 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.3 pp83-85.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、初心者のためのホームページ設計方法、2008 年 6 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.4 vol.10 no.4 pp78-80.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ワンランク上のホームページを作成するには、2008 年 7 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.5 pp83-86.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ホームページで利用する画像の準備方法、2008 年 9 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.7 pp83-86.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、見栄えのするホームページの配色、2008 年 10 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.8 pp80-83.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、CGI は便利な機能、ホームページでデータのやり取りをする方法、2008 年 10 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.10 pp83-86.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、ホームページへの訪問者を増やす方法、2009 年 1 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.11 pp78-82.
- ・ 杉野浩幸、病院看護部の WEB 広報力、看護のアピールで集める患者と看護師、利用しやすいホームページへとは、2009 年 2 月、ナース・マネージャー、vol.10 no.12
- ・ 杉野浩幸、樋口善之、北川明、2009 年 4 月. 看護系学会抄録を作ろう！ Word & Excel のらくらく操作と裏ワザ、Word 編その 1：Word の基本！4 通りのソフト操作、看護きろくと看護過程、vol.19 no.1 pp70-73 .
- ・ 杉野浩幸、樋口善之、北川明、2009 年 6 月. 看護系学会抄録を作ろう！ Word & Excel のらくらく操作と裏ワザ、Word 編その 2：基本的な書式を設定する、看護きろくと看護過程、vol.19 no.2、pp59-65.
- ・ 杉野浩幸、樋口善之、北川明、2009 年 8 月. 看護系学会抄録を作ろう！ Word & Excel のらくらく操作と裏ワザ、Word 編その 3：図表のレイアウト、看護きろくと看護過程、vol.19 no.3、

pp56-62.

- ・ 杉野浩幸、樋口善之、北川明、2009 年 10 月、看護系学会抄録を作ろう！ Word & Excel のらくらく操作と裏ワザ、Word 編その 4：実際に学会抄録を作成してみよう、看護きろくと看護過程、vol.19 no.4、pp49-55
- ・ 杉野浩幸、樋口善之、北川明、2009 年 12 月、看護系学会抄録を作ろう！ Word & Excel のらくらく操作と裏ワザ、Word 編その 5：知っておくと便利な Word の裏技集、看護きろくと看護過程、vol.19 no.5、94-100
- ・ 杉野浩幸、樋口善之、北川明、看護系学会抄録を作ろう！ Word & Excel のらくらく操作と裏ワザ、Excel 編：知っておくと便利な Excel の裏技集、2010 年 2 月、看護きろくと看護過程、vol.19 no.6、pp47-52

## ②その他最近の業績

### ＜学会発表＞

- ・ 杉野浩幸、森山信男、実験看護学演習Ⅱ（細菌学実習）における実習効果の評価、日本看護研究学会・九州・沖縄地方学術集会、2007 年 11 月、沖縄（琉球大学）
- ・ 杉野浩幸、ホームページを活用した看護教育の情報化、日本看護学教育学会・学術集会 2008 年 8 月、茨城
- ・ 杉野浩幸、看護学部教育における安全で効果的な細菌学演習マニュアルの開発、日本看護学教育学会・学術集会 2009 年 9 月、北見（日本赤十字北海道看護大学）

### ＜フォーラム発表＞

- ・ 平成 21 年「大学教育改革プログラム合同フォーラム」ポスター発表、2010 年 1 月、東京
- ・ 平成 21 年「公立大学協会 60 周年記念シンポジウム」ポスター発表、2009 年 12 月、東京

## ③過去の主要業績

- ・ H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* **174**:2485-2492
- ・ H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* **269**: 1957-1967
- ・ H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula*-lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having  $\beta$ -1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **68**:757-760

## 3. 外部研究資金

文部科学省、平成 20 年度・質の高い大学教育推進プログラム、不登校・ひきこもりへの援助力養成教育、4,971 万円、平成 20 年度～平成 22 年度、事業推進分担者

## 5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護学教育学会

## 6. 担当授業科目

感染看護学・1 単位・1 年・後期、実験看護学演習・4 単位・2 年・前期、実験看護学演習Ⅱ・4 単位・編入 3、4 年・前期、実験看護学演習Ⅰ・4 単位・編入 3 年・後期、看護研究・1/15 単位・3 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期

## 7. 社会貢献活動

平成 21 年度、不登校・ひきこもり支援フォーラム、不登校・ひきこもり支援シンポジウム、鎮西地区小学校どろんこドッジボール

## 9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター：ホームページ作成・更新（センター、教育 GP）、教育 GP 予算調書・交付申請書・実績報告書作成、予算執行管理、フォーラム資料作成、シンポジウムチラシのデザイン・作成

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	津田 智子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護の実践方法論としての看護技術、殊に、看護基本技術の開発・教育方法を主な研究分野としている。具体的には、看護基本技術の科学性の検証や、学生との教授－学習過程における効果的な教育方法（主に演習・実習における個別指導）が主な研究テーマである。新卒看護者の看護実践力の低下が叫ばれる中、学生の看護実践力が定着・向上し、看護の質が向上するために、科学的根拠にもとづく看護技術を開発し、指導方法や教材開発等を含めた看護技術教育の効果的なあり方とその具体的方法について明らかにしていきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 津田智子「脳梗塞で急性期を脱し回復期にある患者」「職場復帰に不安をみせる人工肛門造設患者」、安酸史子・奥祥子編集『患者がみえる成人看護の実践』メディカ出版、2007年。

#### <論文>

- ・ 津田智子、中野榮子、永嶋由理子、湊野由夏、加藤法子、山名栄子「口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻2号、2008年。
- ・ 中野榮子、津田智子、永嶋由理子、湊野由夏、加藤法子、山名栄子、杉野浩幸「洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第6巻1号、2008年。
- ・ 佐藤香代、津田智子、山下清香、松枝美智子、小路ますみ、渡邊智子、石川フカエ、宮城由美子、安河内静子、田淵康子、森崎直子「看護学生の実習到達度の評価と今後の課題－第1回合同実習調整会議における調査から－」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第6巻1号、2008年。
- ・ 湊野由夏、加藤法子、中野榮子、永嶋由理子、津田智子、山名栄子「基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻2号、2008年。
- ・ 加藤法子、湊野由夏、永嶋由理子、津田智子、山名栄子、中野榮子「基礎看護実習Ⅰの実習前後における学習意欲の変化の比較検討」、『福岡県立大学看護学研究紀要』第5巻第2号、2008年。
- ・ 津田智子、東サトエ、松崎敏男、山口さおり、松成裕子、柳川育美、宮菌夏美「体温の経時的変化からみた洗髪技術の科学的根拠－サーモグラフィと深部温モニターによる分析－」、『Biomedical THERMOLOGY』第26巻3号、2007年。
- ・ 湊野由夏、永嶋由理子、中野榮子、山名栄子、加藤法子、津田智子「基礎看護実習Ⅱの実習前後における看護学生の思考動機の実態」、『福岡県立大学看護学研究紀要』、第4巻2号、2007年。
- ・ 松成裕子、宮菌夏美、山口さおり、東サトエ、津田智子、柳川育美、中俣直美、徳久朋子、大野佳子、今村利香、増満誠、兒玉慎平「看護実践能力育成に向けた取り組み－看護技術教育における学内実習・演習の授業内容の精選－」、『鹿児島大学医学部保健学科紀要』第17巻、2007年。

### ②その他最近の業績

#### <調査研究報告書>

- ・ 永嶋由理子、湊野由夏、津田智子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美「温度センサーを用いた看護技術のエビデンスの検証：足浴による温熱効果の検証から」、平成19-20年度研究奨励交付金研究成果報告書、107－108、2009年。
- ・ 奥祥子、牛尾禮子、塚本康子、中俣直美、堀内宏美、津田智子、渡邊智子「一般病棟における

遺族へのケアに関する研究」、平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））報告書、2007 年。

＜学会報告＞

- ・ 湊野由夏、藤野靖博、加藤法子、津田智子、於久比呂美、永嶋由理子「看護技術の獲得過程における緊張度の検討ー反復練習と緊張度の変化からー」、第 28 回日本看護科学学会学術集会(福岡)、2008 年 12 月。

＜雑誌＞

- ・ 津田智子、中野榮子「基礎看護技術 40」、クリニカルスタディ、Vol.29 No.6, 28-47、メヂカルフレンド社、2008 年。
- ・ 津田智子「循環器系器官、筋・骨格系器官に問題をもつ対象へのフィジカルアセスメント」永嶋由理子編『看護実践に活かすフィジカルアセスメント』、へるす出版、2008 年。
- ・ 津田智子、永嶋由理子「癌性疼痛に苦しむターミナル期にある患者の事例展開」、かんごきろく 17 巻 5 号、日総研、2007 年。

③過去の主要業績

- ・ 津田智子「看護技術修得の初期段階にある学生の指導過程に関する研究ー学内演習の個別指導を通してー」、鹿児島大学医学部保健学科紀要、第 15 巻、鹿児島大学、2005 年。

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、看護科学研究学会、日本看護学会、日本サーモロジー学会 各会員

6. 担当授業科目

＜学部＞

『教養演習・1 単位・1 年・前期』、『基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期』『基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期』、『看護過程・1 単位・2 年・前期』『基礎看護実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期』、『シンプソンマネジメント論・1 単位・2 年・後期』、『総合実習・3 単位・4 年・前期』、『専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期』『卒業研究・2 単位・4 年・後期』

＜大学院（修士課程）＞

『基礎看護学特論・2 単位・1 年・前期』、『基礎看護学演習・2 単位・1 年・後期』

8. 学外講義・講演

- ・ 中野榮子、津田智子（2009. 8）. 病弱児・発達障害児の理解と支援：看護技術ー経管栄養・導尿、平成 21 年度教員免許状更新講習、福岡県立大学。
- ・ 加藤法子、湊野由夏、津田智子、藤野靖博、於久比呂美（2009. 8）. 子どもの支援に生かせる実践的ケアと理論：看護技術ー吸入・吸引。平成 21 年度教員免許状更新講習、福岡県立大学。
- ・ 津田智子（2009. 10）. 看護の「技」。熊本県立熊本第一高等学校 出前講義、熊本県。
- ・ 津田智子（2009.10～2010.3/全 6 回）.看護記録研修会講師、直方中央病院、福岡県。
- ・ 津田智子（2009.12）.看護研究発表講評、鞍手町立病院、福岡県。
- ・ 津田智子（2010.2）.看護研究発表講評、社会保険田川病院、福岡県。

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	涸野 由夏
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- 基礎看護学教育に関する研究
  - ①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し、看護技術習得を促進するための効果的な看護技術教育方法の開発を行っている。
  - ②基礎看護実習の実習前後の思考動機、看護師イメージ、学習意欲の変化の比較から基礎看護実習の教育効果の検証および評価を行っている。
- 高齢患者の教育指導技術および実践法に関する研究
 

高齢在宅酸素療法患者の日常生活行動や自己管理能力の実態に関する調査を行い、高齢在宅酸素療法患者の自己管理能力に応じた日常生活指導のための外来教育プロトコルの開発をすすめている。
- 看護職の職業性ストレスおよび職場環境に関する研究
 

訪問看護師の職業性ストレス構造について解明し、訪問看護師の職業性ストレスを測定できる尺度を開発中である。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- 涸野由夏, リフレイミング. 安酸史子編著, 目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術, メディカ出版, 2007.
- 涸野由夏, 健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者. 安酸史子, 奥祥子編, 患者がみえる成人看護の実践, メディカ出版, 2007.
- 涸野由夏, 福祉用具や住宅改修を活用した認知症高齢者の日常生活援助. 三原博光, 山岡喜美子, 金子努編著, 認知症高齢者の理解と援助～豊かな介護社会を目指して～, 学苑社, 2008.

#### <論文>

- 涸野由夏, 永嶋由理子, 中野榮子, 山名栄子, 加藤法子, 津田智子: 基礎看護実習Ⅱの実習前後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要, 4(2), p.82-87. 2007.
- 加藤法子, 永嶋由理子, 涸野由夏: 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 4(2), 64-68. 2007.
- 涸野由夏, 永嶋由理子: 人工骨頭置換術を受けた高齢者の展開事例. 月刊看護きろく, 17(4), p.61-70, 2007.
- 田中美保子, 松本弘子, 矢野由紀代, 中島壽子, 倉地美智子, 佐々木美佳, 永嶋由理子, 涸野由夏, 加藤法子: 高齢 HOT 利用者における自己効力感の実態. 日本看護学会論文集: 老年看護, 37, p.209-211, 2007.
- 涸野由夏, 加藤法子, 中野榮子, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子: 基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), p.89-96, 2008.
- 加藤法子, 涸野由夏, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子, 中野榮子: 基礎看護実習Ⅰの教育効果の検討ー実習前後における学習意欲の変化からー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), p.52-60, 2008.
- 津田智子, 中野榮子, 永嶋由理子, 涸野由夏, 加藤法子, 山名栄子: 口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴ー学生が記述したプロセスレコードの分析を通してー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), p.43-51, 2008.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- 涸野由夏: 訪問看護師の職業性ストレスと不眠との関連. 第33回日本看護研究学会学術集会, 2007.

- ・ 涸野由夏, 藤野靖博, 加藤法子, 津田智子, 於久比呂美, 永嶋由理子:看護技術の獲得過程における緊張度の検討ー反復練習と緊張度の変化からー. 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008.
- ・ 永嶋由理子, 山川裕子, 涸野由夏:看護技術の獲得プロセスにおける動作の向上と思考の深まりに関する研究. 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008.
- ・ 小野寺洋子, 永嶋由理子, 涸野由夏:看護技術習得過程における看護技術の熟達化と自己効力感の変化ー血圧測定技術に焦点をあててー. 第14回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会, 2009.

#### ＜調査研究報告書＞

- ・ 永嶋由理子, 涸野由夏, 加藤法子:高齢在宅酸素療法患者の日常生活行動及び肺機能の実態とその評価ー高齢在宅酸素療法患者の外来教育プロトコルの開発に向けてー. 平成19-20年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2009.
- ・ 永嶋由理子, 涸野由夏, 津田智子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美:温度センサーを用いた看護技術のエビデンスの検証ー足浴による温熱効果の検証からー. 平成19-20年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2009.

#### ③過去の主要業績

- ・ 涸野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子:在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 3(1), p.33-37, 2005.
- ・ 高橋清美, 佐藤友美, 加藤法子, 笹尾松美, 涸野由夏, 永嶋由理子, 中野榮子:看護基礎教育における看護技術教育に関する一考察ー臨床における実態調査をもとにー. 福岡県立大学看護学部紀要, 3(1), p.39-46, 2005.

#### 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 訪問看護師の職業性ストレス尺度の開発 (課題番号:19791781), 70万円, 平成19～21年度, 研究代表者

#### 5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生学会, 日本産業衛生学会, 日本協同教育学会

#### 6. 担当授業科目

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 教養演習・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期, 家族看護論・2単位・2年・後期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 総合実習・3単位・4年・前期

#### 8. 学外講義・講演

- ・ 看護技術:吸入・吸引 (教員免許状更新講習), 福岡県立大学, 2009年8月2日
- ・ 肝臓について, 田川メディカルセンター, 2009年9月3日

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	藤野 靖博
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

近年の身体活動量の減少、過食などの不適切な食生活は、肥満、高血糖などを引き起こし、メタボリックシンドロームの原因となっている。メタボリックシンドロームは、さらには重症化し、合併症を伴いながら、生活機能の低下へと段階的に進行していく。この負の連鎖をより早い段階で食い止めることが、急激な高齢化社会を迎える日本において早急に取り組まなければならない課題であると考えている。

そこで研究者は、疾病を持たない壮年期～中年期の人々を対象に行動変容へのレディネスのレベルを身体活動、食生活を中心にアセスメントし、行動変容を起こさせるように、個々人に合ったアプローチを対象者と話し合いながら一緒に考え、その実践を支援する。さらにこの支援活動を分析し、その問題点と効果的な方法について明らかにする。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### ＜著書＞

藤野靖博他「心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩－看護の要点」、『日本臨床 65（増刊号 5）』、日本臨床社、2007 年。

#### ＜論文＞

藤野靖博「ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響」、『日本人間工学会看護人間工学会誌』第 8 巻、2007 年。

### ②その他最近の業績

#### ＜学会発表＞

洸野由夏、藤野靖博、加藤法子、津田智子、於久比呂美、永嶋由理子、2008. 看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－、日本看護科学学会、福岡、2008 年。

#### ＜調査研究報告書＞

永嶋由理子、洸野由夏、津田智子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美：温度センサーを用いた看護技術のエビデンスの検証－足浴による温熱効果の検証から－、平成 19-20 年度研究奨励交付金研究成果報告書、2009。

## 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（若手研究 B）、「トランスセオレティカル・モデルに基づくメタボリックシンドローム予防に関する検討」、120 万円、平成 19－21 年度。

## 5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本人間工学会看護人間工学会部会

## 6. 担当授業科目

#### ＜学部＞

フィジカルアセスメント論・1 単位・2 年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護技術論・1 単位・1 年・後期、看護過程・1 単位・2 年・前期、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、基礎看護実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期、総合実習・3 単位・4 年・前期

## 8. 学外講義・講演

加藤法子、洸野由夏、津田智子、藤野靖博、於久比呂美（2009. 8）. 子どもの支援に生かせる実践的ケアと理論：看護技術－吸入・吸引. 平成 21 年度教員免許状更新講習、福岡県立大学。

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員



所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助手	氏名	於久 比呂美
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

近年、疾病構造は複雑に変容し、それに伴う患者のニーズも多様化してきた。また同時に、看護師に求められる課題も複雑となり、これに対応できるような看護師の育成が望まれている。そのため、看護における継続教育には、看護師自らが課題を設定して学ぼうとする自己教育力が重要であると考え、現在、看護師の自己教育力に注目をし、研究を進めている。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

### ②その他の業績

#### ＜学会報告＞

- ・ 山住康恵、於久比呂美、小野寺洋子、清水夏子、脇崎裕子、中野真理子、石飛マリコ、野口玉枝、福本優子、宮崎亜友美、山口のり子、山下浩典、小西恵美子「医療実践における「和」－看護倫理の授業での事例分析から－」、日本看護倫理学会第2回年次大会、2009年6月。
- ・ 福本優子、野口玉枝、山口のり子、石飛マリコ、宮崎亜友美、山下浩典、山住康恵、於久比呂美、小野寺洋子、清水夏子、中野真理子、脇崎裕子、小西恵美子「看護における「同」－看護倫理の授業での事例分析から－」、日本看護倫理学会第2回年次大会、2009年6月。
- ・ 湊野由夏、藤野靖博、加藤法子、津田智子、於久比呂美、永嶋由理子「看護技術の獲得過程における緊張度の検討－反復練習と緊張度の変化から－」、第28回日本看護科学学会学術集会、2008年12月。

#### ＜調査研究報告書＞

永嶋由理子、湊野由夏、津田智子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美：温度センサーを用いた看護技術のエビデンスの検証－足浴による温熱効果の検証から－。平成19-20年度研究奨励交付金研究成果報告書、2009。

## 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（若手研究B）、「看護実践能力と“Reflection”の質的变化の関係性に関する研究」、120万円、平成21年度～平成22年度、研究代表者：於久比呂美。

## 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護倫理学会

## 6. 担当授業科目（補助）

#### ＜学部＞

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、ケアリング論・2単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、家族看護論・2単位・2年・後期、看護研究・2単位・3年・後期、総合実習・3単位・4年・前期

## 8. 学外講義・講演

加藤法子、湊野由夏、津田智子、藤野靖博、於久比呂美（2009. 8）. 子どもの支援に生かせる実践的ケアと理論：看護技術－吸入・吸引. 平成21年度教員免許状更新講習、福岡県立大学。

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助手	氏名	近藤 美幸
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

現在、清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や罨法による援助技術の解明を主な研究分野としている。その中でも清潔援助については、対象が清潔援助を受けた前後での皮膚組織への影響を、顕微鏡を用いて観察したり、清潔援助を行っている施行者の動きをさまざまな実験器具を用いて数値化・画像化している。罨法については、温罨法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経変化等を測定し明らかにする試みを行っている。

## 2. 研究業績

### ②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ 近藤 美幸, 古田祐子, 江上千代美, 安河内静子, 田中美智子. (2009). 圧迫振動法の検証～皮膚トラブルを抱えた乳児の皮膚組織から～. 第8回日本看護技術学会, 旭川.
- ・ 近藤 美幸, 古田祐子, 江上千代美, 安河内静子, 田中美智子. (2009). 皮膚トラブルを抱えた乳児の皮膚組織の特徴. 第14回日本看護研究学会 九州地方会, 宮崎.
- ・ 古田祐子, 安河内静子, 近藤 美幸. (2009,9). 皮膚トラブルを有する乳児の皮膚洗浄前後の表皮油分・水分計・Ph値の変化, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 古田祐子, 近藤 美幸, 安河内静子. (2009,9). 皮膚トラブルを有する乳児の皮膚圧迫洗浄法の有用性—写真及び表皮画像による検証—, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 近藤 美幸. (2009,9). 皮膚トラブルを有する乳児の表皮油分・水分計・Ph値の実態, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 近藤 美幸. (2009,9). 乳児の皮膚洗浄法と皮膚トラブルの関連, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 近藤 美幸, 古田祐子, (2008,11) 皮膚圧迫振動皮膚洗浄法による乳児の脱落皮膚に関する調査. 第49回日本母性衛生学会総会, 千葉.

## 5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会（各会員）

## 6. 担当授業科目（補助）

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年・前期、フィジカルアセスメント論・1単位・1年・前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・前期、病態看護学Ⅰ・2単位・1年・後期、実験看護学演習Ⅱ・1単位・2年・前期、診断・治療学・2単位・2年・前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期、実験看護学演習Ⅰ・1単位・1年・後期

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助手	氏名	清水 夏子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型看護実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。今後も経験型看護実習教育における教育効果と近年の学生理解を深める研究を行っていきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈奨励研究報告書〉

中野榮子，安酸史子，佐藤香代，小松啓子，津田智子，岡村真理子，清水夏子．（2009）．看護における西洋医療と東洋医療の融合に関する日韓比較研究．2007・2008 年度 福岡県立大学研究奨励交付金 成果報告書，98－128．

〈学会誌〉

楳直美，安酸史子，小野美穂，清水夏子．（2009）．地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討．第40回日本看護学会論文集地域看護（掲載予定）．

〈修士論文〉

清水夏子．（2009）．経験型看護実習教育での教授行動が学生の対話意欲および行動に与える影響－各論実習1 クール目の学生に対するグループインタビュー調査から－．平成21年度福岡県立大学大学院看護研究科修士論文．

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 小野美穂，添田百合子，政時和美，清水夏子．（2008）．ピア・エデュケーション機能を取り入れた福岡糖尿病患者教育研究会の取り組み．第13回日本糖尿病教育・看護学会学術集会．金沢歌劇座，金沢21世紀美術館．石川．
- ・ 清水夏子，小野美穂，北川明，安酸史子．（2008）．各論実習直前の学生の不安および講義による不安軽減の試み．第28回日本看護科学学会学術集会．福岡国際会議場，福岡サンパレス&ホール．福岡．
- ・ 楳直美，安酸史子，小野美穂，清水夏子．（2009）．地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討．第40回日本看護学会地域看護．長野．
- ・ 山住康恵，石飛マリ子，於久比呂美，小野寺洋子，清水夏子，中野真理子，福本優子，宮崎亜友美，山口のり子，山下祐典，小西恵美子．（2009）．医療実践における「同」：看護倫理の授業での事例分析から．第1回日本看護倫理学会学術集会．長野．
- ・ 福本優子，石飛マリ子，於久比呂美，小野寺洋子，清水夏子，中野真理子，宮崎亜友美，山口のり子，山下祐典，山住康恵，小西恵美子．（2009）．医療実践における「和」：看護倫理の授業での事例分析から．第1回日本看護倫理学会学術集会．長野．

## 5. 所属学会

日本看護協会会員，日本看護科学学会，日本看護倫理学会，日本看護学教育学会

## 6. 担当授業科目

〈学部〉

看護への招待・1単位・1年・前期（補助），看護実践論・1単位・3年・前期（補助），継続看護教育論・2単位・3年・前期（補助），教師論・2単位・4年・前期（補助），ケアリングと教育・2単位・4年・前期（補助），看護教育学Ⅰ・2単位・4年・前期（補助），看護管理論Ⅰ・2単位・4年・前期（補助），基礎看護技術論・2単位・1年・後期（補助），看護教育学Ⅱ・2単位・4年・後期（補助），看護管理論Ⅱ・2単位・4年・後期（補助）

〈臨地実習〉

総合実習・3単位・4年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・後期

**7. 社会貢献活動**

福岡糖尿病患者教育研究会メンバー

**9. 附属研究所の活動等**

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	佐藤 香代
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2005 年北里大学大学院看護学研究科修了（博士：看護学）九州大学医療技術短期大学部勤務後、英国テームズバリー大学大学院留学、帰国後九州看護福祉大学に勤務。2005 年、本学に着任。

女性の一生の健康をサポートする研究を一貫して行っており、特に身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関するものが中心である。身体経験を基盤にした身体感覚活性化の健康ケアモデルは、女性が本来持っている産み育てる力や自己治癒力を最大限に引き出ししていく健康ケアへの新たな試みである。主な研究は以下の通りである。

### ①「身体感覚活性化マザークラス」の実践とその評価

- ・妊婦の身体感覚と内面的変容過程
- ・女性に寄り添う女性（ドゥーラ）研究
- ・看護職・学生への教育とその評価・プログラム作成

### ②身体感覚に基づく女性の健康—身体とのコミュニケーションのとり方

### ③性教育

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### ＜著書＞

- ・ 佐藤香代, 三根有紀子. 快適な母乳育児とその支援. 15-18, こどもケア, 日総研出版, 2007 年.
- ・ 佐藤香代, 梶井祥子, 原清治, 溝上慎一, 渡部隆夫, 細見吉郎, 樋口和彦, 浜本京子. 絆—きずな—. 母と子の絆は、地球を救う. 京都：大学コンソーシアム京都, 2008 年.

#### ＜論文＞

- ・ 佐藤香代, 石村美由紀. (2007). フォーラム・子どもがいても、いなくても、大切なわたし・大切なあなた～不妊の視点から女性と社会を考える～. 助産雑誌, 61(1), 78-79.
- ・ 田中美樹, 佐藤香代. (2007). NICU 退院児と母親に対する育児支援に関する研究～NICU 看護師のインタビューを通じて（第 1 報）. 福岡県立大学看護学研究紀要, 4(1), 28-34.
- ・ 古田祐子, 石村美由紀, 佐藤香代. (2007). 学士課程における助産実習の技術到達度目標基準—分娩介助技術・健康教育の実習到達評価記録からの分析—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 4(2), 54-63.
- ・ 佐藤香代, 津田智子, 山下清香, 松枝美智子, 小路ますみ, 渡邊智子, 石川フカエ, 宮城由美子, 安河内静子, 田淵康子, 森崎直子. (2008). 看護学生の実習到達度の評価と今後の課題—第 1 回合同実習調整会議における調査から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 6(1), 39-46.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代. (2008). 田川市における妊娠期から産後の女性の喫煙行動の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要, 6(1), 55-63.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 森純子. (2009). 「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス医療者セミナー」の企画・開催に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 6(2), 80-88.
- ・ 石村美由紀, 浅野美智留, 佐藤香代. (2009). 不妊女性における苦悩とその克服—女性の語りから考察する—. 母性衛生, 49(4), 592-601.
- ・ 佐藤香代. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」とケアリング—実践智としてのわざ—. 日本看護科学学会誌, 29(2), 64-66.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果—体験録の分析から—. 福岡県立大学看護学部紀要, 7(2), 63-71.

## ②その他の業績

### ＜学会講演＞

佐藤香代. (2008.12). ケアリングリレー講演「身体感覚活性化マザークラス」とケアリングー実践智としてのわざー. 第28回日本看護科学学会学術会議, 福岡.

### ＜学会報告＞

- ・ 三根有紀子, 山本武志, 佐藤香代. 「産科, NICU 看護職員の「母乳育児を成功させるための10カ条」に対する認識とケアの実際」. 第48回日本母性衛生学会, 茨城, 2007年10月.
- ・ 古田祐子, 石村美由紀, 佐藤香代. 「学士課程での助産実習における健康教育実践力の到達度調査」. 第48回日本母性衛生学会, 茨城, 2007年10月.
- ・ 浅野美智留, 寺田恵子, 三根有紀子, 佐藤香代, 石橋美幸. 「母親の語りに基づくBSケアの効果と施設導入の意義の考察」. 第48回日本母性衛生学会, 茨城, 2007年10月.
- ・ 浅野美智留, 寺田恵子, 佐藤香代, 三根有紀子, 石橋美幸. 「BSケア(児の母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア)個人研修の効果と課題」. 第22回日本助産学会, 神戸, 2008年3月.
- ・ 佐藤香代, 井上真紀, 垣内千明, 押川真由, 吉田静, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変容過程—家族関係の変化—. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 森純子, 石村美由紀. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化—胎児との対話と子守唄の関係性—. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀. 妊婦の力を引き出すわざー身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響—. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 森純子. 「第3回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 古田祐子, 石村美由紀, 佐藤香代. 助産学生の健康教育実践力向上のための教育的試みと評価. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. 助産学生が習得困難な分娩介助技術の考察. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代. T市の妊娠期から産後の女性の喫煙行動と関連要因に関する研究. 第49回日本母性衛生学会, 千葉, 2008年11月.
- ・ 鳥越郁代, 吉田静, 佐藤香代. 帝王切開分娩を経験した女性の出産選択の支援に対する意識調査—シンポジウム参加者を対象とした自記式調査から—. 第23回日本助産学会学術集会, 東京, 2009年3月.
- ・ 佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス」参加体験が、その後の母子に健康に及ぼす影響—食体験を中心にして—. 第35回日本看護研究学会学術集会, 神奈川, 2009年8月.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 石村美由紀, 鳥越郁代, 山本有紀子. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した母子の栄養学的調査. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川, 2009年9月.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代. 「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川, 2009年9月.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. リカレント教育における「相互作用」の効果—「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーの調査から—. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川, 2009年9月.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. 医療者がマザークラスを体験する効果—「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーにおける体験録から—. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川, 2009年9月.

- ・ 吉田静, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊娠前女性の内面的変容. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 山本有紀子, 佐藤香代, 秋原美華, 白川嘉継. 母児分離状態にある母親が医療者に求める母乳育児支援内容に関する一考察. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 吉窪雪乃, 佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 松岡百子. 大学生が過去に受けた学校性教育の現状. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 松岡百子, 佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 吉窪雪乃. 学校性教育がその後の生き方に及ぼす影響～大学生のアンケート調査から～. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 岡川みはる, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀. 死産で子どもを亡くした家族に対するケア～助産師・看護師に対する現状調査～. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. 子どもを喪失した父親の体験. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, フリースタイル分娩介助を行う助産学生の技術習得過程. 第50回日本母性衛生学会, 神奈川. 2009年9月.
- ・ 佐藤繭子, 佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気づき～アロマセラピーを通して～. 第24回日本助産学会学術集会, 茨城. 2010年3月.
- ・ 佐藤香代, 森純子, 山本有紀子. 「身体感覚活性化マザークラス」体験が女性の生き方に与える影響. 第24回日本助産学会学術集会, 茨城. 2010年3月.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 古田祐子. 学士課程における助産実習の評価と課題. 第24回日本助産学会学術集会, 茨城. 2010年3月.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. 子どもを喪失した父親への支援. 第24回日本助産学会学術集会, 茨城. 2010年3月.

#### 〈座談会・シンポジウム〉

- ・ 佐藤香代, 廣瀬健, 信友浩一, 大牟田智子, 町谷リエ. 食卓の向こう側シンポジウム in 福岡, 脱・お産難民 みんなで幸せなお産をしよう, シンポジスト. 西日本新聞社主催, 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター/九州大学大学院医療システム学教室共催, 福岡, 2007年5月.
- ・ 佐藤香代, 信友浩一, 大牟田智子, 町谷リエ. 食卓の向こう側お産セミナーワークショップーほっこりお産トークー. 西日本新聞社, 福岡, 2007年7月.
- ・ 佐藤香代, 信友浩一, 大牟田智子, 町谷リエ. 食卓の向こう側お産セミナーワークショップーお産トークー. 西日本新聞社, 福岡, 2007年8月.
- ・ 佐藤香代. 第33回全国助産師教育協議会研修会, 総合司会, 福岡, 2008年2月.
- ・ 佐藤香代. 第28回日本看護科学学会学術集会 ラウンドテーブル, 看護教育, 座長, 2008年12月.
- ・ 佐藤香代. 女性のからだは賢い 自分の身体とコミュニケーションをとろう! アヴァンティ, 福岡. 2009年2月.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀. 第一回 母と子の絆, 女性のからだを感じるセミナー, 福岡. 2009年4月.
- ・ 佐藤香代, 吉田静, 森純子, 石村美由紀, 佐藤繭子, 鳥越郁代. 第1回健康大使セミナー, 田川. 2009年8月.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀. 第二回 こんなに賢い私のからだーいのちを紡ぐ食: からだが答を知っている!, 女性のからだを感じるセミナー, 福岡. 2009年10月.
- ・ 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代. 助産師による女性の心とからだの相談室, いのちの教育・気功体験. 新生活産業見本市, 福岡. 2009年10月.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀. 第二回 母から子へ “いのち” をつなぐ～食～, 女性のからだを感じるセミナー, 福岡. 2009年10月.
- ・ 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 森純子, 佐藤繭子, 石村美由紀, 鳥越郁代. 「身体感覚活性

化マザークラス」の考え方とその実践～産み育てる力を育むケア～第5回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス医療者向けセミナー．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡．2010年3月．

＜出版物＞

- ・ 佐藤香代．(2007)．からだにおこることにはすべて意味がある．アバンティ，8，21．
- ・ 佐藤香代．(2008)．附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶 地域の健康づくりの一翼を担います！，福岡県立大学同窓会会報，第18号，2．
- ・ 佐藤香代．(2008)．附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶 地域の皆さまと共に歩みます．福岡県立大学附属研究所通信．
- ・ 佐藤香代．(2009)．女性のからだは賢い 自分の身体とコミュニケーションをとろう！アヴァンティ福岡，16(2)，43．
- ・ 佐藤香代．(2009)．ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶 夢を形に・・・飛翔するヘルスプロモーションの活動，福岡県立大学附属研究所通信2．
- ・ 佐藤香代．(2009)．ごあいさつ，福岡県立大学看護学部同窓会．
- ・ 佐藤香代．(2009)．ヘルスプロモーション実践研究センター長挨拶 夢を形に・・・飛翔するヘルスプロモーションの活動，福岡県立大学附属研究所通信2．
- ・ 佐藤香代．(2009)．学部長就任のご挨拶，看護学部学系制紹介，福岡県立大学広報No.7．
- ・ 佐藤香代．(2009)．就任のご挨拶，福岡県立大学と共に歩む会会報，7月．
- ・ 佐藤香代．(2009)．今求められているヘルスプロモーションの活動，福岡県立大学広報No.6．
- ・ 佐藤香代．(2009)．学部長就任のご挨拶，看護学部学系制紹介，福岡県立大学広報No.7．
- ・ 佐藤香代．(2009)．秋興祭によせて，福岡県立大学第18回秋興祭．
- ・ 佐藤香代．(2010)．働く女性のためのクリニック．病院ガイド，あなたがママになるときのために知っておこう妊娠・出産．アヴァンティ福岡，20-23，

＜新聞記事＞

- ・ 「世にも珍しいマザークラス in 福岡」，ふれあい，エフコープ生活協同組合機関誌，29，2008年8月
- ・ 世にも珍しいマザークラス，讀賣新聞，2008年9月
- ・ 産む力を育もう，西日本新聞，2009年1月
- ・ 世にも珍しいマザークラス，朝日新聞，2009年2月
- ・ 産むこと、生まれること、育てることを感じる。「世にも珍しいマザークラス」，アヴァンティ福岡，44，2009年2月
- ・ 産む力を育もう，西日本新聞，2009年1月
- ・ 世にも珍しいマザークラス，朝日新聞，2009年2月
- ・ 産むこと、生まれること、育てることを感じる。「世にも珍しいマザークラス」，アヴァンティ福岡，44，2009年2月
- ・ リラックスして出産を，西日本新聞，2009年9月
- ・ マザークラス：出産・育児に生かして 県立大、今月から/ 福岡，2009年10月
- ・ 女性のからだを感じるセミナー 第2回テーマ 母から子へ“いのち”をつなぐ～食～．朝日新聞，2009年10月母から子へ“いのち”をつなぐ～食～．リビング福岡，2009年10月

③過去の主要業績

- ・ 佐藤香代．性ってなにに，西日本新聞社，福岡，1992年．
- ・ 佐藤香代．日本助産婦史研究，東銀座出版社，東京，1997年．
- ・ 佐藤香代，浅野美智留，松本昌子．大学生の性の実態とこれからの性教育－助産の視点から－．母性衛生，43(1)28-35，2002年
- ・ 佐藤香代，高橋真理．マザークラスにおける妊婦の身体感覚活性化の効果測定－これからのよりよい家族支援に向けて－，家族看護学研究，10(2)，2-9，2004年
- ・ 佐藤香代．新しいKnow-Howを学ぶこれからの出産準備教室 妊婦に寄り添う「参加型」クラ



スのすすめかた, 世にも珍しいマザークラス. ペリネイタルケア増刊号, 219 - 230, 2005 年.

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）, 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の「産み育てる力」形成過程の分析, 500 万円, 平成 19 年度～平成 22 年度, 共同研究, (研究代表者: 佐藤香代)

### 5. 所属学会

日本助産学会 評議員, 日本母性衛生学会, 日本看護研究学会, 日本看護科学学会 第 28 回日本看護科学学会学術集会企画委員, 日本家族看護学会, 日本母乳哺育学会, 日本公衆衛生学会, 日本母乳の会, 日本ラクテーション・コンサルタント協会

### 6. 担当授業科目

〈学 部〉

女性看護論Ⅰ・2 単位・2 年・後期, 女性看護論Ⅱ・1 単位・3 年・通年, 女性看護実習・2 単位・3 年・通年, 基礎助産学・2 単位・4 年・前期, 助産診断・技術学・4 単位・4 年・前期, 助産実習・3 単位・4 年・前期, 総合実習・3 単位・4 年・前期, 専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

看護研究法・2 単位・修士 1 年・前期, 助産学特論・2 単位・修士 1 年・前期, 助産学演習・2 単位・修士 1 年・後期, 臨床看護学特別研究・8 単位・修士 2 年・通年

### 7. 社会貢献活動

- ・田川地域推進協議会委員
- ・福智町地域再生計画推進本部会議委員
- ・田川市立病院経営形態検討委員
- ・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス：福岡市, 田川市
- ・フムフム (Fukuoka Midwives Female & Male=FM<sup>2</sup>) ネットワーク代表

### 8. 学外講義・講演

- ・佐藤香代 (2009.4) .こんなにすてきな女性のからだーいのちを紡ぐ仕組みとは一女性のからだを感じるセミナー,福岡.
- ・佐藤香代. (2009 .7). 教育方法・教育評価. 平成 21 年度助産師実習指導者研修, 社団法人福岡県看護協会, 福岡.
- ・佐藤香代. (2009.7) . 性教育 絆: 人はなぜ性を選択したのか?. 希望ヶ丘高等学校,福岡.
- ・佐藤香代. (2009. 10). こんなに賢い私のからだーいのちを紡ぐ食:からだが答を知っている!
- ・女性のからだを感じるセミナー, 福岡.
- ・佐藤香代. (2009. 10). 性とともに生きる. ヒューマンタイム, 福岡市立板付中学校, 福岡.
- ・佐藤香代. (2009. 11). 子どもに性について聞かれたら? ～命の大切さを伝えよう～グリーンコープ生協ふくおか, 福岡.
- ・佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静. (2009,10). 世にも珍しいマザークラス - クラス 6 同窓会 産んだわたしのからだで生まれた赤ちゃんー[何でもトーク]語り合おう、私のお産・私の育児. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・佐藤香代, 吉田静, 安河内静子. (2009.10). 世にも珍しいマザークラス - クラス 1 息を感じる 触って感じる,知り合う、触れ合う、語り合う～自己紹介・ブリージング・ハグを通して～. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 石村美由紀,吉田静. (2009.11). お弁当の日,田川.

- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 石村美由紀. (2009, 11). 世にも珍しいマザークラス in たがわ - クラス 2 食で感じるわたしのからだ, おむすびころりん, 腑に落ちる～からだのほしがる食事って…～. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・ 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 吉田静, 石村美由紀. (2009, 11). 世にも珍しいマザークラス in たがわ - クラス 3 アロマで感じる私のからだ～においと触れるで快を感じる. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・ 佐藤香代, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静. (2009, 12). 世にも珍しいマザークラス in たがわ - クラス 4 からだの知恵で産み育てる[お産体験]. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 吉田静. (2009, 12). 世にも珍しいマザークラス in たがわ - クラス 5 音に響くからだでわたしを知る からだの内(なか)で感じるわたし自身のバースプラン～湧き上がる感覚、わたしの中から～. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 田川.
- ・ 佐藤香代, 石村美由紀, 森純子, 安河内静子, 吉田静. (2009, 12). 世にも珍しいマザークラス - クラス 6 同窓会 産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃん～[何でもトーク]語り合おう、私のお産・私の育児～. ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・ 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 石村美由紀, 森純子. (2010, 2). 世にも珍しいマザークラス - クラス 1 息を感じる 触って感じる [呼吸・出会いゲーム]知り合う、触れ合う、語り合う～自己紹介・ブリージング・ハグを通して～. ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010, 2). 世にも珍しいマザークラス in 福岡 - クラス 2 食で感じるわたしのからだ [クイズ・食の話]赤ちゃんも喜ぶ～からだのほしがる食事って～. 野菜のエネルギーを引き出す簡単レシピ. ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・ 佐藤香代, 鳥越郁代, 吉田静, 安河内静子, 森純子, 石村美由紀. (2010, 3) 世にも珍しいマザークラス - クラス 3 アロマで感じるわたしのからだ -. においと触れるで快を感じる. ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・ 佐藤香代, 石村美由紀, 安河内静子, 森純子, 吉田静. (2010, 3) 世にも珍しいマザークラス - クラス 4 からだの知恵で産み・育てる [お産体験]からだの声に導かれ、迎えるお産と母乳～. ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・ 佐藤香代, 森純子, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静. (2010, 3) 世にも珍しいマザークラス - クラス 5 音に響くからだでわたしを知る -. ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡.
- ・ 佐藤香代. 妊婦の心とからだを拓くマザークラス: ホリスティックケアモデル. 第5回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス医療者向けセミナー. 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業, 福岡. 2010年3月.
- ・ 佐藤香代. 人生の新しい季節 更年期～からだの声を聴く新しい生き方～. 労働安全衛生遠賀川地区連絡協議会第4回研修会, 福岡. 2010年3月.

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター事業
  - ①「身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関する研究」プロジェクト研究(研究代表者)
  - ② 思春期問題行動に対する地域における行動連携システム構築に関する研究 プロジェクト研究(研究分担者)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	中野 榮子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

現在、看護援助の方法論に関する研究、および学生の看護技術習得のプロセスに関する研究を主な研究分野としている。具体的には、看護技術の科学性に関する研究、看護実践方法論に関する研究、成人看護実習に関する研究などである。

看護学は実践の科学であり、人間に直接働きかける実践である。看護は看護技術を用いて実践されるが、看護技術は多様な対象に個別に働きかける為にエビデンスの追求は困難である。しかし、対象に確かな看護技術を提供するにはエビデンスの追求は不可欠であり、これから看護師として育つ学生も科学的実践ができるように技術修得することが必要であるので、これらの課題を追求していきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 中野榮子、津田智子、永嶋由理子、淵野由夏、加藤法子、山名栄子、杉野浩幸、(2008)、洗髪技術のエビデンスに関する研究～予備洗いの有無による清浄度と快適性の検討～、福岡県立大学看護学研究紀要第6巻第1号
- ・ 加藤法子、淵野由夏、永嶋由理子、津田智子、山名栄子、中野榮子：基礎看護実習Ⅰの教育効果の検討：実習前後における学習意欲の変化から、福岡県立大学看護学研究紀要、5(2)、2008.
- ・ 淵野由夏、加藤法子、中野榮子、永嶋由理子、津田智子、山名栄子：基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討、福岡県立大学看護学研究紀要、5(2)、2008.
- ・ 津田智子、中野榮子、永嶋由理子、淵野由夏、加藤法子、山名栄子：「口腔ケアの学内演習における学生の認識の特徴－学生が記述したプロセスレコードの分析を通して－」福岡県立大学看護学研究紀要第5(2)、2008
- ・ 淵野由夏、永嶋由理子、中野榮子、山名栄子、加藤法子、津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前後における看護学生の思考動機の実態、福岡県立大学看護学研究紀要、第4巻2号、82-87.(2007)
- ・ 中野榮子：清潔ケアのエビデンス、p91-103(深井喜代子監修：ケア技術のエビデンス)、へるす出版、(2006)、全511頁
- ・ 中野榮子(単著)、看護実践方法論に関する研究、福岡県立大学看護学部紀要、第3巻2号、52-64(2006)
- ・ 中野榮子：体液バランスを保つケア、279-283、ストーマケア、p306-310、(深井喜代子・田ひとみ編：基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践)、南江堂、2006.
- ・ 中野榮子：肺癌、p54-59、気胸、p74-77、不整脈、p198-203、脳腫瘍、p494-497、アトピー性皮膚炎、p648-651、全身性エリテマトーデス、p666-669、妊娠高血圧症候群、p770-773、(看護過程セミナー)、医学芸術社、2006、全819頁
- ・ 安永薫梨、松枝美智子、安田妙子、中津川順子、村島さい子、中野榮子、安酸史子(2007)。「経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討－実習前後の事例検討会の成果と今後の課題－」、第37回日本看護学会論文集(看護教育)、96-98.
- ・ 安永薫梨、松枝美智子、安田妙子、中津川順子、村島さい子、中野榮子、安酸史子(2007)。「経験型精神看護実習ワークショップによる実習指導への効果と今後の課題～実習施設と大学協働の取り組み～」、福岡県立大学看護学研究紀要、5(1)、19-27.

### ②その他の業績

〈学会発表〉

- ・ 橋本茂子、黒田裕美、政時和美、中野榮子：学生が捉えた周手術期実習における技術習得状況と課題、看護学科学会学会、千葉、2009.12
- ・ 松枝美智子、安永薫梨、安田妙子、北川明、安酸史子、中野榮子。(2008)．精神科超長期入院

患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発. 第 28 回日本看護科学学会. 福岡.

- ・松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 中野榮子, 安酸史子. (2008). 精神障害者の社会復帰促進を目的とした継続教育の現状と課題. 第 18 回日本看護学教育学会. つくば.
- ・安永薫梨, 安田妙子, 松枝美智子, 中野榮子, 安酸史子. (2008). 経験型精神看護実習において, 学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び. 第 39 回日本看護学会【精神看護】. 神戸.
- ・安酸史子, 中野榮子, 松枝美智子, 渡邊智子, 赤木京子, 福田和子, 安永薫梨, 安田妙子 (2008.8) 経験型実習教育における事前学内演習における授業方法, 第18回日本看護学教育学会. つくば. <報告書>

- ・中野榮子, 安酸史子, 佐藤香代, 小松啓子, 津田智子, 岡村真理子, 清水夏子: 看護における東洋医療と西洋医療の融合に関する日韓比較研究, 2009.5
- ・中野榮子, 安酸史子, 佐藤香代, 小松啓子, 津田智子, 岡村真理子, 清水夏子, 小野みほ: 看護における東洋医療と西洋医療の融合に関する日韓比較研究 2009.3
- ・中野榮子, 安酸史子, 佐藤香代, 小松啓子, 津田智子, 岡村真理子, 清水夏子: 看護における東洋医療と西洋医療の融合に関する日韓比較研究・別冊 2009.3
- ・小松啓子, 中野榮子, 安酸史子, 石川フカエ, 尾形由起子, 夏原和美, 渡邊智子, 北川明, 山下清香, 上田毅, 清田勝彦, 小島秀幹, 吉岡和子, 岡村真理子: 赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究, 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター, 2009.3
- ・小松啓子, 岡村真理子, 小島秀幹, 安酸史子, 中野榮子, 上田毅, 吉岡和子, 夏原和美, 石川フカエ, (2008.3), 赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究—住民の健康と生活に関する基本調査—, 福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター

### ③過去のその他の業績

- ・中野榮子 (単著), 看護実践方法論に関する研究, 福岡県立大学看護学部紀要, 第 3 巻 2 号, 52-64 (2006)
- ・中野榮子: 体液バランスを保つケア, 279-283, ストーマケア, p306-310, (深井喜代子・田ひとみ編: 基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践), 南江堂, 2006.
- ・中野榮子: 肺癌, p54-59, 気胸, p74-77, 不整脈, p198-203, 脳腫瘍, p494-497, アトピー性皮膚炎, p648-651, 全身性エリテマトーデス, p666-669, 妊娠高血圧症候群, p770-773, (看護過程セミナー), 医学芸術社, 2006, 全 819 頁

## 5. 所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、がん看護学会、看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、

## 6. 担当授業科目

### <学部>

成人看護論Ⅰ・2単位、2年・前期、成人看護論Ⅱ・2年後期・2単位、成人看護論Ⅲ・2年後期・2単位、看護実践論・2単位・3年生前期、成人看護実習・4単位・3年前期・後期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、2・単位、総合実習・3単位・4年前期、

### <大学院>

看護理論・2 単位・前期、がん看護学実習Ⅰ・2 単位・前期、がん看護学実習Ⅱ・2 単位・前期、がん看護学演習Ⅰ・2 単位・前期、基盤看護学特別研究 8 単位・通年

## 7. 社会貢献活動

福岡県准看護師試験委員

福岡県介護保険広域連合田川支部地域包括支援センター地域ケア推進協議会委員(副会長)

## 8. 学外講義・講演

- ・ 中野榮子：看護教育制度 福岡県看護教員養成講習会 2009.4～5 月
- ・ 中野榮子、津田智子(2009. 7). 子供のケアに生かせる実践的ケアと理論、教員免許状更新講習、福岡県立大学, 田川.
- ・ 中野榮子, 第 2 回福岡県立大学がん看護セミナー司会, 福岡県中小企業センター. (2009. 9.19)
- ・ 中野榮子：看護学概論、八幡中央高等学校出前講義、2009.10.16
- ・ 中野榮子：筑豊地区看護研究学会講評、飯塚市、2009.12.19

## 9. 附属研究所の活動等

〈がんプロ〉

- ・ 中野榮子, 橋本茂子, 黒田裕美, 山名栄子, 山住康恵. (2009. 4). 第 4 回福岡県立大学がん看護勉強会, 福岡県立大学.
- ・ 中野榮子, 橋本茂子, 黒田裕美, 山名栄子, 山住康恵. (2009. 8). 第 6 回福岡県立大学がん看護勉強会, 福岡県立大学.
- ・ 中野榮子, 村田節子, 橋本茂子, 山名栄子, 山住康恵. (2009. 10). 第 7 回福岡県立大学がん看護勉強会, 福岡県立大学.
- ・ 中野榮子, 橋本茂子, 山名栄子, 山住康恵. (2009. 12). 第 8 回福岡県立大学がん看護勉強会, 福岡県立大学.
- ・ 中野榮子, 橋本茂子, 山名栄子, 山住康恵. (2010. 2). 第 9 回福岡県立大学がん看護勉強会, 福岡県立大学.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	村田 節子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1998年 九州大学医療短期大学部卒後、九州大学で臨床看護師として婦人科および循環器・心臓外科に勤務。その後、九州大学医療技術短期大学部助手、宮崎大学医学部看護学科講師、東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授、関西看護医療大学看護学部准教授を経て、2009年8月より、福岡県立大学看護学部・大学院看護研究科に着任。成人看護学（主に急性期）および大学院看護学研究科・がん看護CNSコース担当。がん患者の排泄とスキンケア、又、ケア技術選択の根拠となる看護アセスメント過程に関心を持ち、看護過程・看護診断が主な研究テーマである。CNSは、より高度な看護アセスメント能力が求められる。CNSの役割である、実践や研究のためにもより高度なアセスメントの実践とケアの開発などを課題としている。

ケアは、単に身体の機能の回復を助けるだけでなく、患者という立場になった人々の生活の再構築を支援していく役割がある。そのためには、国や地域の慣習や伝統を考慮する必要がある。今後は「排泄環境」を通して、アジアの看護についても検討していきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 村田節子「終末期にある患者のストーマケア(担当部分単独執筆)p759-763」、『がん看護11.12、Vol. 14, N07, 特集：がん終末期における創傷・スキントラブルとケア』、南江堂、2009
- ・ 村田節子「看護記録の監査、見落としがちな視点(担当部分単独執筆)p4-9」、『日経研、看護人材教育、Vol. 4、No. 6』2008.

#### <論文>

- ・ 村田節子、灰谷香奈子、高橋朋子、加藤篤、「イエメン共和国の排泄習慣および排泄環境の特徴と現状」、関西看護医療大学紀要、2010、3月掲載予定。

### ②その他最近の業績

#### <調査報告>

- ・ 村田節子 「婦人科がんの化学療法によるスキンダメージとQOLに関する研究」、癌研究奨学金「安田記念財団 癌研究助成成果報告集7」財団法人 安田記念財団発行 2009.
- ・ 村田節子、灰谷香奈子 「トイレで社会が見える(12) 水を巡る旅」、記事「建築コスト情報2009. 1.」財団法人 建築物価調査会発行.

#### <学会発表>

- ・ 本田裕美、長家智子、村田節子 「看護学生の思考の特徴から見た強化すべき教授内容—慢性期の事例より—」、第15回日本看護診断学会学術集会、2009.
- ・ 村田節子、長家智子、本田裕美 「アセスメント過程における思考の変化要因と指導の方向性」、第29回 日本看護科学学会学術集会、2009.
- ・ Setsuko Murata、「A study on skin damage by chemotherapy in gynecologic cancer」、The 1<sup>st</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science、2009.
- ・ 長家智子、本田裕美、村田節子 「看護学生の思考の特徴から見た強化すべき教授内容」、第13回日本看護研究学会 九州・沖縄地方会学術集会、2008.
- ・ 長家智子、村田節子、本田裕美「アセスメント過程に見る看護学生の思考の特徴と教育方法」、第14回日本看護診断学会学術集会、2008.
- ・ 江幡栄、松原康美、高橋純、高木良重、神津三佳、野口まどか、村田節子、増島麻里子、安藤嘉子、水島史乃、石久保雪江、清水けい子、「がん終末期におけるスキンケアの概念化に関する検討(第一報)」、第22回日本がん看護学会学術集会、2008.
- ・ Setsuko Murata 「Consideration about nursing basic education of bed sore care」、The international

council of nursing Conference、2007.

### ③過去の主要業績

- ・ 村田節子 「ターミナル期における自己尊重の障害への介入についてー子宮頸癌Ⅲb 期再発の47 歳の症例を通してー」、日本看護診断学会学会誌 vol 1. No1、p 66-76、1996.
- ・ 村田節子 「ネパールにおける看護教育とケアシステムの現状と課題」、九州大学医療技術短期大学部紀要第 28 号 p 45-62、2001.
- ・ 村田節子、熊谷秋三、平田伸子、平野祐子 「トイレ弱者の立場からみた公的空間の排泄環境整備と基準化に関する研究」、社会福祉事業助成金「第 34 回三菱財団 事業報告書」三菱財団発行、2002.

### 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費補助金(萌芽研究)「卵巣がん患者の化学療法によるコスメティックな変化と QOL に関する研究」、190 万円、平成 18～19 年度、単独研究.
- ・ 安田記念医学財団癌研究奨学金 「婦人科がんの化学療法によるスキندAMAGEと QOL に関する研究」、50 万円、平成 19 年度、単独研究.
- ・ 関西看護医療大学 研究助成 「イエメン共和国マナハ地区周辺における学校トイレの使用方法和衛生概念に関する研究」、30 万円、平成 20 年度、共同研究(研究代表者)

### 5. 所属学会

日本看護診断学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (評議委員)、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本褥瘡学会、日本ネパール協会、国際看護研究会

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護論Ⅱ・2 単位・2 年・後期、成人看護論Ⅲ・2 単位・2 年・後期、成人老年看護実習・4 単位・3 年・通年(就任 8 月から)

〈大学院〉

がん看護学実習Ⅰ・4 単位・2 年・前期(後期:実習の性質により 9 月以降にも実施)、課題研究・4 単位・2 年・前期(後期に就任後も指導)。

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	中條 雅美
----	-------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

現在、がん看護や看護倫理に関する研究を主な研究分野としている。具体的な研究テーマは、①がん患者に対する心理・社会的グループ療法におけるファシリテーターの介入形式や、グループ内におけるがん患者の療養態度の変化を明らかにすること、②一般病院における看護倫理やがん看護の問題点を明らかにし、がん看護教育のあり方を考察すること、である。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 中條雅美「サポートグループ」、139-142、宇佐美しおり・野末聖香編著『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』、日本看護協会出版会、2009年。
- ・ 中條雅美「健康危機状況のアセスメントと看護支援方法」「術後放射線療法後に化学療法を受けている乳がん患者」16-28、45-52、安酸史子・奥祥子編『患者が見える成人看護の実践』メディカ出版、2007年。

#### <論文>

- ・ 中條雅美(2007).乳がん患者が情報を取り入れつつ生活を再構築する過程を促進する構造.福岡県立看護学紀要4(2), 45-53.

### ②その他最近の業績

- ・ 中條雅美、森崎直子、政時和美(2008).成人看護分野におけるコミュニケーションおよび倫理の取り組み、看護教育49(2)、126-132.
- ・ 中條雅美(2008).がん患者と向き合う.看護教育49(4)、352-355.
- ・ 中條雅美(2008).グループ療法について知る、看護教育49(5)、450-453.
- ・ 中條雅美(2008).がん患者に向き合う準備、看護教育49(6)、546-549.
- ・ 中條雅美(2008).ファシリテーター訓練の実際、看護教育49(7)、630-633.
- ・ 中條雅美(2008).グループ療法参加者の変化(1)、看護教育49(9)、880-883.
- ・ 中條雅美(2008).グループ療法参加者の変化(2)、看護教育49(10)、974-977.
- ・ 中條雅美(2008).看護師がファシリテーターを行うには、看護教育49(11)、1064-1067.
- ・ 中條雅美(2008).ファシリテーターナース体験、看護教育49(12)、1156-1159.
- ・ 中條雅美・橋本茂子、山名栄子(2008).乳がん患者の看護、クリニカルスタディ29(10)、1042-1056.
- ・ 中條雅美(2009).ファシリテーターナースの困難場面への対応、看護教育50(1)、84-87.
- ・ 中條雅美(2009).グループメンバーにおけるパートナーシップ、看護教育50(2)、176-179.
- ・ 中條雅美(2009).グループ療法の実施準備、看護教育(3)、268-271.

#### <学会発表>

- ・ 仲野綾、小俣登志江、日高佳澄、養父知美、南記史子、中條雅美「摂食嚥下障害患者への関わり誤嚥性肺炎患者の実態に焦点をあてて」日本摂食・嚥下リハビリテーション学会（東京）、2008年12月。
- ・ 吉田素文、芦澤和人、阿蘇品スミ子、有馬直道、片野光男、門田淳一、河野公俊、下田和哉、田村和夫、中條雅美、馬場秀夫、林真一郎、前原喜彦、村山貞之、山名秀明、高柳涼一「がんプロフェッショナル養成プランについて九州がんプロフェッショナル養成プランの課題と展望:医学教育学の視点から」日本癌治療学会、2008年10月。

#### <ワークショップ>

- ・ Rustonjee, Fujito, Chujo「Hope,Peace,and Harmony with Supportive Expressive Group psychotherapy in terminal Care Patients」, 8th Pacific Rim Regional Congress of International Association for Group Psychotherapy and Group Process/14<sup>th</sup> Conference of International Association of Dynamic Psychotherapy(松江), 2008年10月



### ③過去の主要業績

- ・ 中條雅美. 乳がん患者へのグループ療法の評価 QOL の側面から, 看護研究 39(3), 191-204, 2006.
- ・ 中條雅美. 「がんを知って歩む会広島」参加者の療養態度の変化, 福岡県立大学看護学部紀要 3(2), 15-22, 2006.
- ・ Chujo M, Mikami I, Takashima N, Saeki T, Ohsumi S, Aogi K, Okamura H. A feasibility study of psychosocial group intervention for breast cancer patients with first recurrence, Support Care Cancer13(7), 503-514,2005.

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）、「がん患者に対するグループファシリテーター介入の評価尺度の開発」、350 万円、平成 21 年度～平成 23 年度、共同研究（研究代表者：中條雅美）。

### 5. 所属学会

日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本サイコオンコロジー学会、日本糖尿病看護・教育学会、日本哲学倫理学会、日本医事法学会、緩和ケアを考える会広島

### 6. 担当授業科目

成人看護学Ⅱ・2 年・後期、成人看護学Ⅲ・2 年・後期

### 8. 学外講義・講演

19 年 8 月 「がんサバイバーシップとサポートの実際」（九州がんセンター）  
19 年 9 月 「がん患者の心理・社会的支援」（福岡県がん看護に関わる看護師の育成研修）  
19 年 10 月 「看護倫理」（中国労災病院）  
20 年 1 月 「グループ療法の実際」（心療内科フォーラム）  
20 年 10 月 「がん患者への心理・社会的サポートーグループ療法の実施ー」がん診療連携拠点病院講演会（佐世保市立総合病院）

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	鳥越 郁代
----	-------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学病院で看護師、助産師としての勤務経験を経たあと、助産師教育に携わる。1992年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999年に英国のチームズバリー大学大学院に留学、助産実践修士課程修了（2002年）。2003年本学看護学部に着任。

現在、帝王切開分娩後の女性が、次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。患者との意思決定の共有（shared decision-making）モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し、そのプログラムを用いた介入研究の実施・分析を行っている。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <著書>

- ・ 鳥越郁代「正常な産褥の看護ケア」、村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』2刷、174-188、198-204、ヌーヴェルヒロカワ、2007年
- ・ 鳥越郁代「第2章 助産師が行うケアの概念、3.女性の意思決定を支えるしくみ」、山本あい子編『助産師基礎教育テキスト第1巻』、助産概論(第1版)、42-54、日本看護協会出版会、2009年

### ②その他の業績

#### <報告>

- ・ 鳥越郁代「リエゾン助産師の役割とは？- Elizabeth Garrett Anderson and Obstetrics Hospital (London) での研修を通して-」、『助産雑誌』、第60巻第2号、176-181、2006年
- ・ 鳥越郁代「シンポジウム『帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援』を開催して」、『助産雑誌』、第63巻第1号、54-58、2009年

#### <研究ノート>

- ・ 安河内静子、佐藤香代、吉田静、石村美由紀、森純子、鳥越郁代「医療者が『身体感覚活性化マザークラス』を体験した効果—体験録の分析から—」、『福岡県立大学看護学部紀要』第7巻第2号、63-71、2010年3月31日発刊予定

#### <小冊子作成>

- ・ 鳥越郁代「出産の選択：帝王切開分娩を経験したあなたの出産の選択は？（日本版）」、2008年9月

#### <学会報告>

- ・ 鳥越郁代「帝王切開術後の分娩様式における女性の意思決定に影響を及ぼす要因—文献レビューからの検討—」、日本母性衛生学会、茨城、2007年
- ・ 鳥越郁代「帝王切開分娩後の次子のお産方法選択における支援：決定援助のための小冊子（日本版）作成と内容の評価」、第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 鳥越郁代、古田祐子、石村美由紀、安河内静子、吉田静「助産学生のお産期助産診断過程における現状と課題」、第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 鳥越郁代、吉田静、佐藤香代「帝王切開分娩を経験した女性のお産選択の支援に対する意識調査—シンポジウム参加者を対象とした自記式調査から—」、第23回日本助産学会学術集会、東京、2009年
- ・ 佐藤香代、安河内静子、森純子、吉田静、石村美由紀、鳥越郁代、山本有紀子『身体感覚活性化マザークラス』に参加した母子の栄養学的調査、第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 石村美由紀、佐藤香代、安河内静子、森純子、吉田静、鳥越郁代「リカレント教育における『相互作用』の効果—『身体感覚活性化マザークラス』医療者セミナーの調査から—」、第50回日

本母性衛生学会、神奈川、2009 年

- ・ 安河内静子、佐藤香代、石村美由紀、森純子、吉田静、鳥越郁代「医療者がマザークラスを体験する効果—『身体感覚活性化マザークラス』医療者セミナーにおける体験録から—」、第 50 回日本母性衛生学会、神奈川、2009 年
- ・ 森純子、佐藤香代、安河内静子、石村美由紀、吉田静、鳥越郁代「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析、第 50 回日本母性衛生学会、神奈川、2009 年

### ③過去の主要業績

- ・ 鳥越郁代「第 10 章子どもを産む」、成山文夫、石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』、163-178、北樹出版、2000 年
- ・ 鳥越郁代「第 6 章一対一の助産実践を提供して満足感を得る (Providing one-to-one practice and enjoying it)」翻訳、Lesley Ann Page 原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』、鈴木江三子監修『新助産学』、129-149、メディカ出版、2002 年

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）、「帝王切開術後の日本人女性の出産様式選択：自己決定支援のためのプログラム開発」、300 万円、平成 19 年度～20 年度、研究代表者

### 5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学Ⅰ・2 単位・2 年・後期、女性看護学Ⅱ・2 単位・2 年・前期、通年、女性看護学実習・2 単位・3 年・通年、助産診断・技術学・4 単位・4 年・前期、助産実習・3 単位・4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、国際看護論・2 単位・4 年・前期

〈大学院〉

助産学特論・2 単位・1 年・前期、助産学演習・2 単位・修士 1 年・通年、臨床看護学特別研究・8 単位・修士 2 年・通年

### 8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市健和看護学院講師「母性看護の対象を取り巻く環境」、2009 年 6 月 22 日
- ・ 北九州市健和看護学院講師「母性看護の歴史的変遷」、2009 年 6 月 29 日

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員
- ・ 看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター・研究プロジェクト「身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関する研究」研究実施

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	古田 祐子
----	-------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

助産師の技術、新生児・乳児のスキンケア、助産教育を主な研究分野としている。主に、皮膚トラブルを有する乳児の皮膚洗浄とスキンケアに関する基礎研究に取り組んでいる。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 古田祐子.『基礎学力到達度チェックテスト』.メディカコンクール委員会編集（分担執筆）,メディカ出版,大阪,p17,p69-71,2010 年
- ・ 石村美由紀、古田祐子、佐藤香代.「分娩介助技術の習得過程—本学での分娩介助技術評価調査より—」.福岡県立大学紀要 7（1）,福岡県立大学,p18-28.2009 年.
- ・ 村田千代子、古田祐子.『Baby エステ』、樞歌書房.全 124 頁.2008 年.
- ・ 古田祐子、石村美由紀、佐藤香代.「学士課程における助産実習の技術到達度目標基準—分娩介助技術・健康教育の実習到達度評価記録からの分析—」.福岡県立大学看護学部紀要,4(2)、福岡県立大学,p54-63.2007 年

### ②その他最近の業績

- ・ 石村美由紀、佐藤香代、古田祐子.「学士課程における助産実習の評価と課題」.日本助産学会（茨城）.2010 年 3 月
- ・ 古田祐子.「皮膚の自然治癒力を促進させる沐浴法に関する研究」.奨励交付金研究成果報告書,67 - 68.2009 年 3 月
- ・ 古田祐子.「皮膚トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究— 皮膚洗浄前後の丘疹・炎症症状の皮膚変化—」.奨励交付金研究成果報告書,120- 121.2009 年 3 月.
- ・ 古田祐子、安河内静子、近藤美幸.「皮膚トラブルを有する乳児の皮膚洗浄前後の表皮油分・水分量・pH 値の変化」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 古田祐子、安河内静子、近藤美幸.「皮膚トラブルを有する乳児の皮膚圧迫洗浄法の有用性—写真及び表皮画像による検証—」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 安河内静子、古田祐子、近藤美幸.「乳児の皮膚洗浄法と皮膚トラブルの関連」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 安河内静子、古田祐子、近藤美幸.「皮膚トラブルを有する乳児の表皮水分量・油分量・PH の実態—」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 長絵万里、古田祐子.「院内助産院システム導入前後における院内スタッフの意識変化」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 石村美由紀、古田祐子、佐藤香代.「フリースタイル分娩介助を行う助産学生の技術習得過程」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 鳥越郁代、古田祐子、石村美由紀、安河内静子、吉田静香.「助産学生の分娩期助産診断過程における現状と課題」.日本母性衛生学会,横浜.2009 年 9 月.
- ・ 近藤美幸、古田祐子、田中美智子、江上千代美、安河内静子.「圧迫振動法の検証—皮膚トラブルを抱えた乳児の皮膚組織から—」.日本看護技術学会,北海道.2009 年 9 月
- ・ 近藤美幸、古田祐子、江上千代美、田中美智子.「皮膚トラブルを抱えた乳児の皮膚組織の特徴」.看護研究学会九州支部.宮崎.2009 年 10 月.
- ・ 古田祐子、安河内静子.「S 助産師による皮膚洗浄前後の乳児の皮膚水分量、pH、皮膚温の変化」.第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.
- ・ 近藤美幸、古田祐子.「皮膚圧迫振動洗浄法による乳児の脱落皮膚に関する調査」、第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.
- ・ 古田祐子、石村美由紀、佐藤香代.「助産学生の健康教育実践力向上のための教育的試みと評価」、第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月.

- ・ 石村美由紀、古田祐子、佐藤香代「助産学生が習得困難な分娩介助技術の考察」、第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月。
- ・ 金子あゆみ、古田祐子「開業助産師による着帯指導の今日的意義」第 49 回日本母性衛生学会、千葉、2008 年 11 月。
- ・ 古田祐子、安河内静子「皮膚圧迫振動を取り入れた沐浴法の皮膚トラブルに対する効果」、第 63 回日本助産師学会、東京、2007 年 5 月。
- ・ 古田祐子、安河内静子「S 助産所における乳児の皮膚トラブルに対するケアの実態」、第 48 回日本母性衛生学会、茨城、2007 年 10 月。
- ・ 古田祐子、石村美由紀、佐藤香代「学士課程での助産実習における健康教育実践力の到達度」、第 48 回日本母性衛生学会、茨城、2007 年 11 月。

### ③過去の主要業績

- ・ 古田祐子「正常な産褥」、村本潤子、高橋真理（編著）『ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング』ヌーヴェルヒロカワ、2005 年。
- ・ 古田祐子「分娩介助技術指導において助産師学生に「わかった」と認識させる指導者の言語的教育技法」、『母性衛生』、45（2）、2004 年。

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）、「皮膚トラブルを有する乳児の皮膚バリア機能と皮膚洗浄法に関する研究」、374 万円、平成 20 年度～平成 22 年度、研究代表者 古田祐子

### 4. 受賞

日本助産師会会長賞、2009.5.（社団法人日本助産師会）

### 5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本思春期学会、福岡県母性衛生学会（評議員）、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護論Ⅰ・2 単位・2 年・後期、女性看護論Ⅱ・1 単位・3 年・通年、女性看護実習・2 単位・3 年・通年、助産診断・技術学・4 単位・4 年・前期、地域母子保健学・1 単位・4 年・前期、助産管理・1 単位・4 年・後期、助産実習・3 単位・4 年・通年、総合実習・3 単位・4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

助産学特論・2 単位・1 年・前期、助産学特論演習・2 単位・1 年・後期、臨床看護学特別研究・8 単位・1、2 年・通年。

### 7. 社会貢献活動

福岡県母性衛生学会評議員 社団法人福岡県助産師会監事 田川市男女共同参画社会審議会委員

### 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県看護実習指導者講習会、「助産師養成課程」講師、2009.7
- ・ 教員免許更新講習会「産む・産める“からだ”づくり」講師、2009.8
- ・ 糖尿病看護認定看護師教育「ライフステージに応じた生活調整と援助」2009.9
- ・ 助産実習指導者講習会、「助産実習指導の実際」講師、2009.8～9
- ・ 性教育、「いのちを未来につなぐために—性感染症予防とエイズ—」志免東中学校、2009.12
- ・ 性教育、「いのちを未来につなぐために—二次性徴と性感染症—」宇美南中学校、2010.2。

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	松枝 美智子
----	-------------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師としての臨床経験は久留米大学病院での 11 年間である。その間、精神科病棟、脳外科・形成外科病棟、放射線科・内分泌内科病棟に勤務した。その後、久留米大学医学部看護学科の成人看護学(老年・精神看護学を含む)の助手を経て、平成 15 年度に兵庫県立看護大学看護学研究科修士課程を修了した。修士論文のテーマは、「精神科超長期入院患者の社会復帰への援助とその成功要因：看護師が語った日本版治療共同体の実践の分析から」である。この研究で、精神科に 10 年以上入院している患者の社会復帰が成功する要因は、病院全体で社会復帰援助を推進するという文脈の中で、看護師の患者像や看護観が変化し、援助に動機づけられることであることが見出された。

平成 16 年度には福岡県立大学看護学部に着任し、精神看護学を担当している。平成 19 年度からは大学院看護学研究科において精神看護学を担当し、平成 21 年度に臨床看護学領域精神看護学分野では初めての修了生を 2 名輩出した。平成 22 年度からは臨床看護学領域精神看護学分野の他の教員と、大学院看護学研究科専門看護師コースに、精神看護専門看護師コースを開設(平成 23 年度課程認定申請予定)する。そのための準備として、平成 21 年度は平成 22 年度から開講する「精神看護直接ケア実習」の実習施設で、週 1 回、2 名の複雑で解決困難な問題をもつ患者の直接ケアの研修を行っている。当面の目標は、大学院看護学研究科専門看護師コース増設ワーキンググループの一員として、既存のコースの教育内容の一層の充実と、新たな分野の専門看護師コースを開設することである。

研究は、修士論文で明らかになったことをもとにして、精神科超長期入院患者の社会復帰援助を促進するための「精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発」と、「モジュール型精神障害者社会復帰援助研修プログラムの作成」を行っている。今後は作成した尺度と研修プログラムを用いて、精神障害者の社会復帰援助に携わる看護職者の社会復帰援助のレディネスや保健・医療・福祉チームの社会復帰援助レディネスに応じた研修を行いたいと考えている。

また、平成 16 年度から平成 21 年度までは、安酸史子先生の提唱する経験型実習教育を精神看護実習で展開するためのチームティーチング体制の構築に関する研究を、精神看護実習の実習施設、安酸史子先生をはじめとする精神看護実習に携わる教員の御協力を得て、精神看護学分野の全教員と一緒にやってきた。今後は、経験型精神看護実習教育の前提としての学内での講義において、精神に障害をもつ人を知らない学生ができるだけその人のイメージを膨らませることができるよう、視聴覚教材の開発研究を行いたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 松枝美智子,安永薫梨,安田妙子,大見由紀子.(2008).精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因.福岡県立大学看護学研究紀要,5(2),66-79.
- ・ 松枝美智子,上村美智留,安田妙子,福田和美.(2007).看護臨床実習における精神障害者の個人情報自己コントロールプロセス支援の実態.第37回日本看護学会論文集:看護教育,日本看護協会出版会,108-110.
- ・ 安永薫梨,松枝美智子,安田妙子,中津川順子,村島さい子,中野榮子,安酸史子.(2007).経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討:実習前後に行った事例検討会の成果について.第37回日本看護学会論文集:看護教育,日本看護協会出版会,96-98.

### ②その他最近の業績

- ・ Gsupple 編集委員会(編), 安酸史子(編), 奥祥子(編著), 政時和美, 森崎直子, 中條雅美, 田淵康子, 熊谷有紀, 大見由紀子, 赤木京子, 津田智子, 福田和美, 渡邊智子, 山下清香, 山名栄子, 加藤法子, 尾形由紀子, 渕野由夏, 松枝美智子. (2007). 患者がみえる成人看護の実践.

東京：メディカ出版。

### ③過去の主要業績

- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. (2006). 精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討ー実習前後の事例検討会の成果と今後の課題ー. 第 37 回日本看護学会論文集(看護教育), 96-98.
- ・ 松枝美智子. (2005). 精神科超長期入院患者の社会復帰が成功するシステム上の要因 日本版治療共同体の実践の分析から. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2), 80-90.
- ・ 安田妙子, 安永薫梨, 大見由紀子, Adler-Collins JK, 松枝美智子. (2005). 経験型精神看護実習において精神看護領域外の指導教員が直面する困難とその対策. 看護教育, 46(11), 1035-1039.
- ・ 松枝美智子.(2003).精神科超長期入院患者の社会復帰援助が成功する要因：日本版治療共同体における看護師の変化.日本精神保健看護学会誌

### 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費、萌芽、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研修プログラムの開発」、330 万円、平成 19 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

### 5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本集団精神療法学会、日本老年看護学会

### 6. 担当授業科目

精神保健・2 単位・1 年・後期、精神看護論Ⅰ・1 単位・2 年・前期、精神看護学特論・2 単位・1 年・前期、精神看護学演習・2 単位・1 年・後期、臨床看護学特別研究 8 単位・1-2 年・通年

### 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県立大学看護実践研究センターの糖尿病看護認定看護師教育課程で「対人関係論」の一部を担当。
- ・ 平成 21 年度は、田川市の「障害認定区分審査会」の委員として活動。
- ・ 平成 21 年度は、日本看護協会福岡県支部の福岡県看護学会研究発表支援員として活動。

### 8. 学外講義・講演

- ・ 松枝美智子,安永薫梨,坂田志保路,梶原由紀子.(2009.10).情報開示における看護記録Ⅱ：裁判事例に学ぶ.福岡県立精神医療センター太宰府病院院内研修.太宰府市.
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,坂田志保路,梶原由紀子.(2010.2).職場におけるストレスとメンタルヘルス：ストレスと上手に付き合うために.日本精神科看護技術協会第 4 回福岡県支部研修会,北九州市.

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員。
- ・ 平成 20 年度-平成 21 年度はヘルスプロモーション実践研究センター運営部会の一員として活動した。
- ・ 平成 21 年度は、ヘルスプロモーション実践研究センター事業の一環として、次の事業を行った。

松枝美智子,安永薫梨,坂田志保路,梶原由紀子,中野榮子,安酸史子.(2009,9).第 6 回経験型精神看護実習教育ワークショップ：オレム・アンダーウツのセルフケアモデルを用いた事例検討会.福岡県立大学,田川市.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	宮城 由美子
----	-------------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として小児病棟での臨床経験を経て、看護教育、保育士養成に携わり、2006年より本学に着任。現在行っている研究は、子どもの日常的な疾患（common disease）の看護である。そのため外来における看護が中心であり、外来ケアモデルに関する研究を行っている。現在小児医療において、特に小児救急問題などは保護者の家庭看護力の低下が指摘されている。そのため日常的な疾患における家庭療養や、アレルギー疾患を有している子どもの日常生活管理を有効に行うことができる育児支援活動を行っている。また私の行っている研究活動は、子どもの健康支援であり、医療職だけでなく、保育の現場、そして家庭、地域との協働で行うことに重点をおいている。そのため、「子どもの健康見守り隊」として幼児・保育者・保護者を対象にした健康教育を展開している。これらの実践により幼児期における自己の健康を維持増進するための方法及び有効性について研究している。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

#### <論文>

- ・ 山本八千代、宮城由美子、岡部貴裕、岩崎七々枝「アトピー性皮膚炎患児の学校生活に関する調査」、小児保健研究66(4)、2007（平成19）年
- ・ 宮城由美子、稲富紀代、山本八千代：「身体の洗浄方法を変え皮膚改善がみられた子どものスキンケア現状－皮膚トラブルを心配してアレルギー外来受診した子ども－」、第38回日本看護学会論文集－小児看護2007－2008（平成19）年2月
- ・ 宮城由美子、岡部貴裕、岩崎七々枝：「外来における経口食物負荷試験の看護」、小児保健研究67（2）2008（平成19）
- ・ 泉澤真紀、山本八千代、宮城由美子、岸本信子：「思春期性との月経痛と月経に関する知識の実態と教育的課題」母性衛生 Vol49（2）2008（平成20）年
- ・ 横尾美千代・中込 治・宮城由美子：「ロタウイルス下痢症の疾病負担；3歳までの入院リスクの推定」平成17～19年度科学研究費補助金 基盤（C）研究成果報告書、2008（平成20）年
- ・ 細井勇、古橋啓介、秦和彦、宮城由美子、吉川未桜、林ムツミ：「福岡市における子育て意識調査－子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ」福岡県立大学附属研究所生涯福祉センター研究報告叢書 vol34 2008（平成20）年
- ・ 宮城由美子、太田恵子、中山慶子、吉川未桜：「健康保育に対する保護者のニーズ」保育と保健 Vol15(1) 2009（平成21）年
- ・ 横尾美智代、宮城由美子、中込治：「ロタウイルス胃腸炎による入院のリスクとロタウイルスワクチンに対する小児科医および保護者の意識調査」臨床とウイルス、37(3)、211-223、2009年

### ②その他の業績

#### <シンポジウム>

- ・ 細井勇、古橋啓介、宮城由美子：日韓子育て支援シンポジウム 「子どもの健康と子育て支援」2009(平成21)年3月7日

#### <学会発表>

- ・ 太田恵子、宮城由美子：「子どもたちの「なぜ？どうして？」に答えるには－保育園における健康増進を支援する教材の試作－」日本保育学会第60回大会、2007年5月、埼玉県。
- ・ 伊藤千春、岩崎奈々枝、宮城由美子：「外来経口負荷試験におけるクリニカルパスの実践」第26回西日本アレルギー看護研究会、2007年8月、福岡市。
- ・ 岡部貴裕、平瀬正輝、川原玲子、宮城由美子：「外来での管理栄養士による食物アレルギー栄養指導の現状」第35回西日本小児アレルギー研究会、2007年8月、福岡市



- ・ 稲富紀代、宮城由美子：「身体の洗浄方法を変え皮膚改善がみられた子どものスキンケア現状」第38回日本看護学会(小児看護)．2007年9月 茨城県
- ・ 宮城由美子、太田恵子、横尾美智代：「保育園における健康教育への保護者の期待」第12回日本保育園保健学会．2007年11月 北九州市
- ・ 横尾美智代、宮城由美子、中込とよ子、中込 治：「小児科医および3歳児保護者のロタウイルスワクチンに対する意識、北九州市における質問紙調査」日本ワクチン学会 2007年12月、横浜市
- ・ 秋鹿都子、山本八千代、宮城由美子、竹谷健：「食物アレルギー患児の母親の病の受容プロセス」中国地区小児保健学会、2008(平成20)年、島根
- ・ 宮城由美子：「日・韓子育て支援シンポジウム 子どもの健康と子育て支援」2009年3月、福岡市
- ・ 宮城由美子、高橋みどり、稲富紀代他：「外来における食物負荷試験により食物除去が解除になった子どもと家族の特徴」第26回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会．2009年5月、福岡市
- ・ 宮城由美子、山本八千代：「下痢症状を有する子どもの家族による療養行動と看護に関する調査」第29回日本看護科学学会．2009年、千葉
- ・ 岡部貴裕、宮城由美子：「開業外来での食物経口負荷試験の適応および安全性-約3000例の検討」第10回食も通アレルギー研究会、2010年2月、東京

### 3. 外部研究資金

- ・ 平成19-21年度科学研究費補助金（基盤研究C） 日本学術振興会
- ・ 「感染性胃腸炎における外来ケアモデルに関する研究」（1320千円）、研究代表者
- ・ 平成19-21年度科学研究費補助金（萌芽研究） 日本学術振興会
- ・ 「小規模医療機関における看護者の虐待被害者ケア能力の向上に向けた教育に関する研究」（1500千円）、研究分担者

### 5. 所属学会

日本看護協会、日本小児看護学会、小児保健研究会、日本看護研究学会、日本家族看護学会、日本保育園保健協議会、全国保育園保健師看護師連絡会、日本保育学会、日本医療保育学会、日本子ども学会 会員

### 6. 担当授業科目

「小児看護論Ⅰ」2単位・2年・前期、「小児看護論Ⅱ」1単位・3年・通年、「小児看護実習」2単位・3年・通年、「総合実習」3単位・4年・前期、「専門看護学ゼミ」2単位・4年・前期、「小児看護実習Ⅰ」1単位・2年・後期

### 7. 社会貢献活動

北九州市児童福祉施設等第三者評価委員

### 8. 学外講義・講演

- ・ 宮城由美子(2009.1)．冬場のかぜ対策 これでもいいのでしょうか？井堀保育園
- ・ 宮城由美子(2009.10)．学童期の子どもの病気と看護、北九州市立赤坂小学校
- ・ 宮城由美子(2009.10)．子どもの世界-遊びを通して看護しよう-！、山口県立下関南高等学校

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 宮城由美子、吉川未桜、橘則子、柏原やすみ(2009.11)、これで安心 パパママは名医だぞ！ 熱が出

た！ヘルスプロモーション実践センター公開講座

- ・ 宮城由美子、橘則子(2009.8). これで安心 パパ、ママは名医だぞ！ 夏場に多い子どもの病気、専城乳児保育園
- ・ 宮城由美子 (2010.1)、これで安心 パパママは名医だぞ！ 熱が出た！、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子、橘則子(2010.1). 保育看護学習会「ワークショップこんなときどうする？」北方保育園
- ・ 宮城由美子、橘則子(2010.2). 保育看護学習会「ワークショップこんなときどうする？」三萩野保育園
- ・ 宮城由美子(2009.12). 保育看護学習会「講義 アレルギーのおはなし」、おぐまの保育園
- ・ 宮城由美子、橘則子(2009.7). 保育看護学習会「ワークショップこんなときどうする？」北方保育園
- ・ 宮城由美子、橘則子(2009.6). 保育看護学習会「ワークショップこんなときどうする？」三萩野保育園
- ・ 宮城由美子 (2010. 3)健康保育(年長)「もうすぐ小学生」、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子 (2010. 2)健康保育(年少・年長)「どうして眠るの?」、北方保育園
- ・ 宮城由美子 (2010. 2)健康保育(年長)「どうして眠るの?」、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子 (2009. 12)健康保育(年長)「なぜ対策!」、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子、吉川未桜(2009. 9)健康保育(年長)「からだきれいだよ」、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子 (2009. 8)健康保育(年長)「元気に遊ぶために」、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子 (2009. 6)健康保育(年少・年中・年長)「食べ物の旅」、北方保育園
- ・ 宮城由美子 (2009. 6)健康保育(年少・年中・年長)「食べ物の旅」、北方保育園
- ・ 宮城由美子 (2009. 6)健康保育(年長)「食べ物の旅」、三萩野保育園
- ・ 宮城由美子、吉川未桜(2009. 4)健康保育(年長)「大きくなあれ」、三萩野保育園

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	渡邊 智子
----	-------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

筑豊地区は、老年看護のエッセンスが詰まった魅力的な地域である。人生の先輩である皆さんと学生と出逢い、繋がり、支えられ、自らの生き方や老い方を問うこの頃である。「高齢者の叡智発掘活動」と題して、ヘルスプロモーション活動を継続して4年目になる。継続できたのは、人生の先輩である皆さんと学生のおかげである。皆さんは、学生に「愛」を注ぐ。学生は皆さんの愛を感じ共に楽しみ癒される。「人間力」の賜物ではないだろうか。私は見見るだけでいい。「それでも私の人生にイエス」と言える？今、その力をいただいているように思う。高齢者の持っている力、学生の持っている力を信じ、引き出し、自ら自律できるような看護と看護教育にこだわっている。

主な関心は、老年看護学領域の看護職者の実践知の言語化による看護技術の開発やシステムの構築、看護学教育方法、具体的には、①「生活リズムを整える」②「高齢者のみかたと臨床判断」③「高齢者の喜び：スピリチュアルヘルス」④「老年看護学教育方法」⑤「看護職へのナラティブアプローチ」⑥「高齢者の健康長寿のための活動」⑦「老年看護分野での倫理調整」。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### ＜著書＞

- ・ 渡邊智子. (2007). 安酸史子, 奥祥子編集「患者が見える成人看護の実践」(担当箇所「第2部2章5 中途視覚障害者の障害受容と社会参加への支援」, 126-132. メディカ出版.
- ・ 渡邊智子. (2010). 中西睦子監修, 安酸史子編著「実践成人看護学—慢性期」(担当箇所「第3部V 肝硬変—希望を持って生きるための支援」, 143-154. 建帛社.

#### ＜論文＞

- ・ 茂野香おる, 井上映子, 八島妙子, 渡邊智子, 杉田由加里, 酒井郁子, 吉本照子. (2007). 介護老人保健施設入居者の生活リズム調整に関する看護師のアセスメント視点. 千葉県立衛生短期大学紀要, 25 (2), 61-68.
- ・ M.Yamashita,T.Kubota,E.Fuchita,K.Yokoyama,H.Hayashi,S.Okamoto,E.Sano,A.Matsuo,N.Shimasue,T.Watanabe,R.Kawashima&K.sugimoto.A Nursing tool validated as an effective measure over MMSE and FAB in dementia. International Nursing Review,54(2), 2007.179-182.
- ・ 酒井郁子, 吉本照子, 杉田由加里, 茂野香おる, 井上映子, 八島妙子, 渡邊智子. (2008). 介護老人保健施設入居者への生活リズム調整援助の効果の構造. 千葉看護学会会誌, 14 (2), 54-62.

### ②その他最近の業績

#### ＜調査研究報告書＞

- ・ 共著「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点—実践知に基づく看護学の確立と展開—身体機能調整, 高齢者の生活リズム調整及び構築に関する看護職者の実践知, p 82」, 千葉大学平成18年度21世紀COEプログラム拠点報告書, 2007年3月.

#### ＜学会発表＞

- ・ 遠藤淑美, 坂井さゆり, 酒井郁子, 諏訪さゆり, 荻野悦子, 飯田貴映子, 根本敬子, 岩鶴早苗, 大塚真理子, 丸山優, 人見裕江, 湊田英津子, 松澤有夏, 渡邊智子, 渡辺みどり. (2009, 9). 生活リズム障害ケアプロトコル ver. 1の臨床適用にむけた課題, 日本老年看護学会第14回学術集会, 北海道.
- ・ 荻野悦子, 酒井郁子, 諏訪さゆり, 根本敬子, 飯田貴映子, 岩鶴早苗, 遠藤淑美, 大塚真理子, 丸山優, 坂井さゆり, 人見裕江, 湊田英津子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 渡邊智子. (2009, 9). 生活リズム障害の発生状況と背景要因の分析—生活リズム障害ケアプロトコル ver. 2の開発にむけた調査から—, 日本老年看護学会第14回学術集会, 北海道.
- ・ 飯田貴映子, 酒井郁子, 諏訪さゆり, 荻野悦子, 根本敬子, 岩鶴早苗, 遠藤淑美, 大塚真理子,

丸山優, 坂井さゆり, 人見裕江, 湊田英津子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 渡邊智子. (2009, 9). 長期ケア施設入所者の薬剤使用に関する実態調査とケアプロトコールの必要性の検討, 日本老年看護学会第14回学術集会, 北海道.

- ・ 酒井郁子, 飯田貴映子, 根本敬子, 諏訪さゆり, 遠藤淑美, 坂井さゆり, 人見裕江, 渡辺みどり, 松澤有夏, 岩鶴早苗, 大塚真理子, 丸山優, 荻野悦子, 湊田英津子, 渡邊智子. (2009, 9). 生活リズム障害ケアプロトコール ver. 1 の長期ケア施設入居者への適用, 日本老年看護学会第14回学術集会, 北海道.
- ・ 酒井郁子, 諏訪さゆり, 飯田貴映子, 根本敬子, 岩鶴早苗, 遠藤淑美, 大塚真理子, 丸山優, 坂井さゆり, 荻野悦子, 人見裕江, 湊田英津子, 渡辺みどり, 松澤有夏, 渡邊智子. (2009, 9). 生活リズム障害ケアプロトコールの開発と臨床適用 (厚生労働省補助金研究報告), 日本老年看護学会第14回学術集会, 北海道.
- ・ 諏訪さゆり, 酒井郁子, 根本敬子, 飯田貴映子, 荻野悦子, 岩鶴早苗, 遠藤淑美, 大塚真理子, 丸山優, 坂井さゆり, 人見裕江, 湊田英津子, 松澤有夏, 渡邊智子, 渡辺みどり. (2009, 9). 生活リズム障害ケアプロトコールの導入に向けた職員研修の効果, 日本老年看護学会第14回学術集会, 北海道.

### ③過去の主要業績

- ・ 渡邊美千代, 渡邊智子, 高橋照子. (2004). 【看護研究と現象学的アプローチの動向】看護における現象学の活用とその動向. *看護研究*, 37 巻第5号, p431-p441.
- ・ 八島妙子, 渡邊智子, 木村寿美, 山幡信子. (2004). 高齢者と学生の対話による学習効果. *愛知医科大学看護学部紀要*, 第3巻, p81-p84.
- ・ 渡邊智子, 八島妙子, 茂野香おる, 井上映子, 杉田由加里, 酒井郁子, 吉本照子. (2006). 介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマ-高齢者の生活リズムに調整に関して-, *第36回日本看護学界論文集-看護管理-*, p392-p394.

### 5. 所属学会

日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本老年社会科学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本認知症ケア学会, 日本未病システム学会, 日本看護倫理学会, 日本がん看護学会 各会員

### 6. 担当授業科目

#### 〈学部〉

老年看護論Ⅰ・2単位・2年・前期, 老年看護実習・2単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 総合実習・3単位・4年・前期, 看護研究・2単位(2コマ)・3年・後期

#### 〈大学院〉

老年看護学演習・2単位・修士2年・後期, 臨床看護学特別研究・8単位・修士2年・通年, 課題研究・4単位・修士2年・通年

### 7. 社会貢献活動

高齢者関係地域活動(神興祭獅子楽保存会、七夕会、餅つき、七草粥、茶話会、敬老会文化祭、クリスマス会、炭焼き、お料理教室、健康指導、高齢者宅訪問、高齢者宅夜間訪問など)

### 8. 学外講義・講演

- ・ 九州厚生年金病院「看護部臨床指導者研修会(実習指導・看護倫理)」講師、2009年7月
- ・ 田川市立病院「看護部看護研究講評」講師、2009年10月
- ・ 飯塚市民病院「高齢者をわかるということ」講師、2009年8月
- ・ 社会保険稲築病院「高齢者をわかるということ」講師、2009年12月
- ・ 社会保険田川病院「第1回・2回・7回リンクナース研修会」講師、2009年
- ・ 宮田病院「第1回～3回実習指導研修会」講師、2009年
- ・ 筑豊市民大学「老いと健康」講師、2009年6月

**9. 附属研究所の活動等**

ヘルスプロモーション実践教育センター研究員、社会貢献・ボランティア支援センター幹事

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	石村 美由紀
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

不妊支援、妊婦教育、助産教育に関する研究に取り組んでいる。特に不妊支援に関して、不妊専門相談センターや不妊当事者のエンパワーメントについての研究を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 古田祐子, 石村美由紀, 佐藤香代. (2007). 学士課程における助産実習の技術到達度目標基準—分娩介助技術・健康教育の実習到達評価記録からの分析—. 福岡県立大学看護学部紀要, 3 (2).
- ・ 石村美由紀, 浅野美智留, 佐藤香代. (2009). 不妊女性における苦悩とその克服—女性の語りから考察する—. 母性衛生 49(4), 592 - 601.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 森純子. (2009). 第3回「身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要掲載予定.
- ・ 石村美由紀. (2009). 不妊支援を目的とした「子どもの有無を越えた共感型フォーラム」の試みと意義. こころの健康, 24(2), 68-74.
- ・ 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代. (2009). 分娩介助技術の習得過程—本学での分娩介助技術評価調査より—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 7(1), 18 - 28.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果—体験録の分析から—. 福岡県立大学看護学部紀要 7 (2), 63-71.

### ②その他最近の業績

- ・ 石村美由紀. (2007). 求められる不妊フォーラムの検討—「子どもがいても、いなくても、大切なわたし\*大切なあなた—不妊の視点から女性と社会を考える—」を開催して、日本不妊カウンセリング学会誌, 6 (1), 87.
- ・ 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静. (2007). 不妊セミナー開催、「子どもがいても、いなくても、大切なわたし\*大切なあなた～不妊のこころにふれるセミナー～」, 福岡.
- ・ 佐藤香代, 石村美由紀. (2007). トピックス「フォーラム・子どもがいても、いなくても、大切なわたし\*大切なあなた～不妊の視点から女性と社会を考える～」. 助産雑誌, 61 (1) 78-79.
- ・ 石村美由紀. (2008). 第5回日本生殖看護学会学術集会—シンポジウム「広い視野にもとづく生殖看護の展開に向けて」を終えて. 日本生殖看護学会誌, 5(1) 32.
- ・ 石村美由紀. (2008). 不妊女性に対する支援的アプローチの一考察—不妊フォーラム「子どもがいても、いなくても、大切なわたし\*大切なあなた」の参加者の自由記載から—. 第6回日本生殖看護学会学術集会.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 森純子. (2008). 「第3回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ. 第49回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 佐藤香代, 井上真紀, 垣内千明, 押川真由, 吉田静, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. (2008). 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦の変容過程—家族関係の変化—. 第49回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀. (2008). 妊婦の力を引き出すわが身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響—. 第49回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 森純子, 石村美由紀. (2008). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化—胎児との対話と子守歌の関係性—. 第49回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 古田祐子, 石村美由紀, 佐藤香代. (2008). 助産学生健康教育実践力向上のための教育的試みと評価. 第49回日本母性衛生学会学術集会.

- ・ 石村美由紀、古田祐子、佐藤香代. (2008). 助産学生が習得困難な分娩介助技術の考察. 第 49 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 石村美由紀, 鳥越郁代, 山本有紀子. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した母子の栄養学的調査. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 鳥越郁代, 古田祐子, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静.(2009).助産学生の分娩期助産診断過程における現状と課題. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). リカレント教育における「相互作用」の効果ー「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーの調査からー. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, (2009). フリースタイル分娩介助を行う助産学生の技術習得過程. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 石村美由紀, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). 医療者がマザークラスを体験する効果ー「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーにおける体験録からー. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊娠前女性の内面的変容. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 吉窪雪乃, 佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 松岡百子. (2009). 大学生が過去に受けた学校性教育の現状. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 松岡百子,佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 吉窪雪乃. (2009). 学校性教育がその後の生き方に及ぼす影響ー大学生のアンケート調査からー. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 岡川みはる, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀. (2009). 死産で子どもを亡くした家族に対するケアー助産師・看護師に対する現状調査ー. 第 50 回日本母性衛生学会学術集会.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 古田祐子. (2010). 学士課程における助産実習の評価と課題. 第 24 回日本助産学会学術集会.

### 3. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本不妊カウンセリング学会、日本精神衛生学会ほか

### 4. 担当授業科目（単位）

〈学部〉

女性看護論Ⅰ(2)・2年後期、女性看護論Ⅱ(1)・3年通年、女性看護実習(2)・3年通年、基礎助産学(2)・4年前期、助産診断・技術学(4)・4年前期、助産実習(3)・4年前期、専門看護ゼミ(2)・4年前期、

〈大学院〉

助産学特論(2)助産学演習(2)・1年前期

### 5. 社会貢献活動

福岡県香春町男女共同参画審議会委員

### 6. 学外講義・講演

- ・ 性教育：いのちを未来につなぐためにー性感染症予防とエイズー.志免東中学校. 福岡. 2009.12.17
- ・ 第1回(2009. 4) 第2回(2009年10月)女性のからだを感じるセミナー, 福岡.

### 7. 附属研究所の活動等

身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス(田川、福岡)計12回、医療者向けセミナー、不妊セミナー「子どもがいてもいなくても、大切なわたし\*大切なあなた」

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	榎 直美
----	-------------	----	----	----	------

## 1. 主な研究分野

研究分野は「要介護高齢者の Quality of life（生活の質）の維持・向上と介護予防」をテーマとし、この分野における効果的な看護と介護の協働と連携の方法について探求中です。介護保険制度施行後、要介護高齢者の療養生活の場を地域・在宅へと移行していく流れの中で、いかに看護の専門性を活かして介護と協働していくか重要な要素だと考えています。今後は、要介護者のみならず家族介護者のエンパワメントを促すための介入方法に取り組みたいと考え、要介護高齢者が在宅・地域で安心して自分らしく生活できるような支援づくりを目指します。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### 〈論文〉

- ・ 榎直美・安酸史子・小野美穂・清水夏子「地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討」第40回日本看護学会論文集、2010年。
- ・ 榎直美「デイケア利用者の家族介護者における介護不安に関連する要因」、福岡県立大学看護学紀要、7（1）、2009年。
- ・ 榎直美・尾中愛子「生活習慣の確立を促す健康教育の在り方を考える。」、日本健康教育学会、Vol. 16、2008年。
- ・ 榎直美「高齢者介護を保障するための福祉行政の役割」、九州女子大学紀要、第43巻1号、2007年。
- ・ 榎直美「介護保険制度における市町村の公的責任―介護サービスの質を保障する視点から―」北九州市立大学大学院紀要、第20号、2007年。

### ②その他最近の業績

#### 〈調査研究報告書〉

- ・ 福田和美、渡邊智子、瓜生忍、赤木京子、榎直美「介護老人保健施設における救急ケアの実態」平成19年度看護研究助成事業、財団法人木村看護教育振興財団、看護研究集録、16、2009年。
- ・ 榎直美、安酸史子、小野美穂、清水夏子「主体的健康づくりを促すための看護介入方法に関する研究―筑豊市民大学看護ゼミ生における健康的活動意向の充足へのアプローチ―」、福岡県立大学附属研究所2007年度事業報告書、2009年。
- ・ 福田和美、安酸史子、山幡信子、渡邊智子、榎直美、赤木京子「住民参加型看護ゼミ『ヘルシーエイジング』参加における地域住民の健康意識の変容とプログラムの検討」福岡県立大学附属研究所2007年度事業報告書、2008年。
- ・ 安次富郁哉、榎直美「訪問看護師の業務分析」私立大学教育研究高度推進特別補助金研究成果報告書、2007年。

#### 〈学会報告〉

- ・ 榎直美、安酸史子、小野美穂、清水夏子「地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討」第40回日本看護学会学術集会・地域看護、長野、2009年11月。
- ・ 榎直美、石川フカエ「家族介護者への心身の健康支援に関する研究―デイケアを利用する家族介護者への効果的介入方法の検討―」、第18回日本健康教育学会学術集会、東京、2009年6月。
- ・ 石川フカエ、榎直美「中山間地域における高齢者の健康支援に関する研究」18回日本健康教育学会学術集会、東京、2009年6月。
- ・ 榎直美、丸山泰子「デイケア利用の高齢者とその家族への在宅支援に関する研究（第2報）―家族介護者のQOLを高める介入方法の検討―」、第13回日本在宅ケア学会、大阪、2009年3月。
- ・ 丸山泰子、榎直美「デイケア利用の高齢者とその家族への在宅支援に関する研究（第1報）―



- 高齢者とその家族が抱える不安要因の分析―」、第13回日本在宅ケア学、大阪、2009年3月。
- ・ 榎直美「グループホームにおける認知症高齢者への転倒リスクマネジメント」、第7回日本ケアマネジメント学会、熊本、2008年7月。
- ・ 榎直美、尾中愛子「生活習慣の確立を促す健康教育の在り方を考える」、第17回日本健康教育学会、東京、2008年6月。
- ・ 榎直美、寺西洋子「訪問介護員の心身健康度に及ぼす要因に関する研究」、第12回日本在宅ケア学会、東京、2008年3月。
- ・ 寺西洋子、榎直美「高齢者ケアにおける室の向上を目指したマンパワーの養成」、第12回日本在宅ケア学会、東京、2008年3月。
- ・ 榎直美、安次富郁哉「訪問看護の専門性を活かした地域在宅ケアの展開」、第11回日本在宅ケア学会、埼玉、2007年3月。

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金(萌芽研究)日本学術振興会  
「小規模医療機関における看護者の虐待被害者ケア能力の向上に向けた教育に関する研究」平成19年～平成21年、研究分担者。

### 4. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本健康教育学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本ケアマネジメント学会

### 5. 担当授業科目

〈学部〉

老年看護論Ⅰ・2単位・2年・前期，成人・老年看護実習6単位（うち2単位）・3年・通年，看護専門ゼミ・2単位・4年・前期，総合実習・3単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年次後期，老年看護学特論・2単位・1年・前期，老年看護学演習・2単位・1年・後期

〈大学院〉

老年看護学特論・前期・2単位，老年看護学演習・後期・2単位

### 6. 社会貢献活動

- ・ NPO法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員
- ・ NPO法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・ NPO法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジング」に参画させていただき、実践活動を行っている。

### 7. 学外講義・講演

- ・ 榎直美。(2009.8) 高齢者虐待の防止・高齢者の養護者に関する法律について。直方市中央公民館，直方。
- ・ 榎直美。(2009.6) いきいき健康講座・健やかに老いるとは。NPO法人生涯現役支援センター，行橋。
- ・ 榎直美。(2009.8) ストレスマネジメントと上手な付き合い方。NPO法人生涯現役支援センター，行橋。
- ・ 榎直美。(2009.11) 介護保険の上手な活用法。NPO法人生涯現役支援センター，行橋。
- ・ 榎直美。(2009.11) 在宅看護論見学実習のまとめ。麻生医療看護専門学校，飯塚。

### 8. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	安永 薫梨
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2004 年福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。2004 年より本学に着任。

現在、精神科病棟における患者から看護師への暴力を主な研究分野としている。具体的には、「精神疾患を持つ患者が看護師への暴力を思い止まった体験と看護のあり方」をテーマとして、患者と看護師を対象に面接調査を行っている。患者が看護師への暴力を思い止まった体験は、看護師への暴力を寸前で我慢できたという成功体験でもあるので、地域へ退院していく自信につながると考える。また、看護師にとっても、その場面を振り返ることで、これが精神看護だと気づくものもあると思われる。精神看護は目に見えないと言われるが、言葉として精神看護を表現し、技として蓄積し、医療チームで共有できるものとしていきたい。

教育に関しては、今年度より、精神看護専門看護師コースが開設する。複雑で解決困難な精神の健康を持つ人およびその家族・集団への卓越した看護実践とそれに必要な組織変革ができる人を育成できるよう、自分自身の能力向上に努めていきたい。

## 2. 研究業績

### ①論文

- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. (2007). 「経験型精神看護実習におけるチームティーチング体制の検討—実習前後の事例検討会の成果と今後の課題—」, 第 37 回日本看護学会論文集【看護教育】, 96-98.
- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. (2007). 経験型精神看護実習ワークショップによる実習指導への効果と今後の課題～実習施設と大学協働の取り組み～. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(1), 19-27.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 大見由紀子, Adler Collins Je-kan. (2008). 精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 66-78.
- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 中野榮子, 安酸史子, 安田妙子. (2009). 経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び. 第 39 回日本看護学会論文集【精神看護】, 47-49.
- ・ 安永薫梨. (2010). 精神科病院における患者から看護師への暴力の実態と看護の在り方～看護師に暴力を振るった患者を対象とした質問紙調査より～, 福岡県立大学看護学研究紀要, 7(2), 72-81.

### ②その他の業績

- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 安田妙子, 中津川順子, 村島さい子, 中野榮子, 安酸史子. 第 3 回経験型精神看護実習教育ワークショップの開催とその評価. 第 17 回日本看護学教育学会, 福岡, 2007 年 8 月.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 中野榮子, 安酸史子. 精神障害者の社会復帰促進を目的とした継続教育の現状と課題. 第 18 回日本看護学教育学会. つくば, 2008 年 8 月.
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 安田妙子, 北川明, 安酸史子, 中野榮子. 精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発. 第 28 回日本看護科学学会. 福岡, 2008 年 12 月.
- ・ 安永薫梨. (2008). 看護師に暴力を振るった精神疾患を持つ患者の体験と看護支援のあり方. 第 18 回日本精神保健看護学会. 東京, 2008 年 6 月.
- ・ 安永薫梨, 安田妙子, 松枝美智子, 中野榮子, 安酸史子. (2008). 経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び. 第 39 回日本看護学会【精神看護】. 神戸, 2008 年 8 月.
- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 中野榮子, 安酸史子, 安田妙子. (2009). 経験型精神看護実習において、学生が臨床指導者や教員の患者への対応をロールモデルとした場面とその学び. 平成 19-20 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 81-82.

### ③過去の主要業績

安永薫梨. (2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, *日本精神保健看護学会誌*, 15(1), 96-103.

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省、科学研究費補助金(若手研究 B)、「精神疾患を持つ患者が看護師への暴力を思い止まった体験と看護の実際」、250 万円、平成 20 年度～平成 21 年度.
- ・ 文部科学省、科学研究費補助金(萌芽研究)、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研究プログラムの開発」、平成 19 年度～平成 21 年度、共同研究(研究代表者：松枝美智子)。
- ・ 文部科学省、「科学研究費補助金(基盤研究 B)、「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」、平成 21～24 年、共同研究(研究代表者：安酸史子)

### 5. 所属学会

日本精神科看護技術協会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護協会、日本看護学教育学会、福岡県精神保健福祉協会

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

精神保健・2 単位・1 年・後期、精神看護論 I・2 単位・2 年・前期、総合実習・3 単位・4 年・前期、専門看護ゼミ・2 単位・4 年・前期.

〈大学院〉

精神看護学特論・2 単位・修士 1 年・前期、精神看護学演習・2 単位・修士 1 年・後期.

### 7. 社会貢献活動

- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 梶原由紀子, 坂田志保路. (2009.8). 教員免許状更新講習：生命の不思議とメンタルヘルス；心の傷の癒し方 Part1. 福岡県立大学, 田川.
- ・ 安永薫梨, 松枝美智子, 梶原由紀子, 坂田志保路. (2009.8). 教員免許状更新講習：生命の不思議とメンタルヘルス；心の傷の癒し方 Part2. 福岡県立大学, 田川.
- ・ 福岡県立大学看護実践研究センターの糖尿病看護認定看護師教育課程で「対人関係論」の一部を担当。

### 8. 学外講義・講演

- ・ 安永薫梨. (2009. 4). 研究とは. 福岡県立精神医療センター太宰府病院院内研修, 太宰府.
- ・ 安永薫梨. (2009. 4). 研究計画書の書き方・文献検索の仕方. 福岡県立精神医療センター太宰府病院院内研修, 太宰府.
- ・ 安永薫梨. (2009. 7). 論文構成の仕方. 福岡県立精神医療センター太宰府病院院内研修, 太宰府.
- ・ 安永薫梨. (2009. 8). うつ病との上手なつきあい方. 筑豊市民大学.
- ・ 安永薫梨. (2009. 9). 講評の仕方. 福岡県立精神医療センター太宰府病院院内研修, 太宰府.

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 松枝美智子, 安永薫梨, 坂田志保路, 梶原由紀子. (2009, 9). セルフケア看護モデルを活用した第 6 回経験型精神看護実習教育ワークショップ, 田川.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	江上 史子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

精神科看護の場における認知症高齢者の看護や、家族支援、リハビリテーション看護に関心があります。精神科における認知症ケアについては、これから取り組んでいきたい課題の一つです。認知症高齢者と家族の支援に関する研究では、相談活動を通して、対象が築いてきた人生や価値観に寄り添う関わりの重要性を実感しています。

老いや病に向き合うことは、本人にも援助者にも哀しみや苦しみを伴うことがあります。しかし同時に、人生の先輩としての豊かな人間性に触れ、教えられることや励まされることも多く、多様なライフスタイルのある現代の高齢社会において、人生の最後の時期である老年期を、その人らしい生活、尊厳ある人生を送るための支援に携わりたいと思っています。現場のお年寄りやご家族、スタッフの方から学び、悩み、楽しみ、成長していきたいです。

## 2. 研究業績

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 「行動心理学的症候の顕著な認知症高齢者に対する精神科看護師のアプローチ—認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて—」、2007年11月、日本老年看護学会第12回学術集会

### ③過去の主要業績

- 平林美保、江上史子、梅垣順子、松岡千代、水谷信子、高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性-「高齢者もの忘れ看護相談」を通して-、兵庫県立看護大学 附置研究所推進センター研究報告集 Vol.1、p39-45、2003年3月
- 南裕子（主任研究者）、水谷信子（分担研究者）、松岡千代、平林美保、江上史子、梅垣順子（研究協力者）、「高齢者もの忘れ看護相談」の効果-継続的利用により介護家族に生じた変化について-平成17年3月厚生労働科学研究研究費補助金 医療技術評価総合研究事業、平成16年度総括・分担研究報告書 p31-51、2005年3月
- 江上史子、精神病院に勤務する看護師の認知症高齢者の持つ力へのアプローチ-認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて-、兵庫県立大学大学院 修士論文、2007年3月

## 5. 所属学会

日本老年看護学会、日本災害看護学会、日本認知症ケア学会

## 6. 担当授業科目

老年看護実習・2単位・3年・通年

## 7. 社会貢献活動

- 老人クラブ・花満会で、学生とともにボランティア活動
- 高齢者関係地域活動（文化祭）、上伊田西地区、田川、2009年10月
- 高齢者関係地域活動（餅つき）、松原地区、田川、2009年12月
- 高齢者健康教室、上伊田東地区、田川、2009年12月

## 8. 学外講義・講演

- 三野原病院実習指導者研修会、共同、篠栗、2009年10月28日、29日
- 筑豊市民大学、共同、「救命救急法」、2009年11月
- 筑豊市民大学、共同、「認知症について」、2009年12月

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	安河内 静子
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 主な研究分野

現在、妊産婦の禁煙プログラムの開発に取り組んでいる。また女性がエンパワーメントしていく過程を支援する身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの開催やリカレント教育、乳児の皮膚と洗浄法に関する調査を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 安河内静子, 佐藤香代. (2008). 田川市における妊娠期から産後の女性の喫煙行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 6 (1), 55-63.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 森純子. (2009). 「身体感覚活性化（世にも珍しいマザークラス）医療者セミナー」の企画・開催に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 6 (2), 80-88.
- ・ 佐藤香代, 津田智子, 山下清香, 松枝美智子, 小路ますみ, 渡邊智子, 石川フカエ, 宮城由美子, 安河内静子, 田淵康子, 森崎直子. (2009). 看護学生の実習到達度の評価と今後の課題ー第1回合同調整会議における調査からー, 福岡県立大学看護学部紀要, 6 (1), 39-46.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2009). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果ー体験録の分析からー. 福岡県立大学看護学部紀要 7 (2), 63-71.

### ②その他最近の業績

- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2007). 皮膚圧迫振動を取り入れた沐浴法の皮膚トラブルに対する効果, 第63回日本助産師学会. 東京.
- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2007). S助産所における乳児の皮膚トラブルに対するケアの実態, 第48回日本母性衛生学会. 茨城.
- ・ 安河内静子. (2007). 喫煙歴のある妊婦の妊娠期から産後の喫煙行動の実態に関する研究. 第48回日本母性衛生学会, 茨城.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代. (2008). T市の妊娠期から産後の女性の喫煙行動と関連要因に関する研究ー母性意識と育児ストレスからの考察, 第49回日本母性衛生学会, 千葉.
- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2008). S助産所による皮膚洗浄法前後の乳児の皮膚水分量・PH・皮膚温の変化, 第49回日本母性衛生学会, 千葉.
- ・ 佐藤香代, 井上真紀, 押川真由, 吉田静, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. (2008). 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦の変容過程ー家族関係の変化ー第49回日本母性衛生学会, 千葉.
- ・ 安河内静子. (2008). T市における妊娠期から産後の母親の喫煙行動ー近隣5市町村との比較からみた地域特性ー第3回日本禁煙科学会, 東京.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 石村美由紀, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). 医療者がマザークラスを体験する効果ー「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける体験録からー, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 近藤美幸. (2009). 皮膚トラブルを有する乳児の表皮水分量・油分量・pHの実態, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 近藤美幸. (2009). 乳児の皮膚洗浄法と皮膚トラブルの関連, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 古田祐子, 安河内静子, 近藤美幸. (2009). 皮膚トラブルを有する乳児の皮膚洗浄前後の表皮油分・水分量・pH値の変化, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 古田祐子, 近藤美幸, 安河内静子. 皮膚トラブルを有する乳児の皮膚圧迫洗浄法の有用性ー写真及び表皮画像による検証ー, 第50回日本母性衛生学会, 横浜.

- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 石村美由紀, 鳥越郁代, 山本有紀子. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した母子の栄養学的調査, (2009). 第 50 回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). リカレント教育における「相互作用」の効果ー「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーの調査からー, 第 50 回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析, 第 50 回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊娠前女性の内面的変容, 第 50 回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 鳥越郁代, 古田祐子, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静. (2009). 助産師学生の分娩期助産診断過程における現状と課題. 第 50 回日本母性衛生学会, 横浜.
- ・ 近藤美幸, 田中美智子, 江上千代美, 古田祐子, 安河内静子. (2009). 圧迫振動法の検証~皮膚トラブルを抱えた乳児の皮膚組織から, 第 8 回日本看護技術学会, 旭川.

### ③過去の主要業績

- ・ 安河内静子, 佐藤香代. (2006). 妊娠期から産後の女性の喫煙行動に影響を及ぼす要因に関する研究-産後 4 ヶ月の調査から-母性衛生, 47 (2), 372-379.
- ・ 安河内静子, 樋口善之, 石村美由紀, 三根有紀子, 浅野美智留, 鳥越郁代, 古田祐子, 松浦賢長. (2005). 田川市郡の学校における性教育の実態調査-小・中・高校へのアンケート調査から-. 福岡県立大学看護学部紀要, 2 (2), 68-78.

### 5. 所属学会

日本母性衛生学会／日本助産学会／日本看護科学学会／日本禁煙科学会／日本家族看護学会／日本思春期学会

### 6. 担当授業科目

女性看護論Ⅰ・2単位・2年・後期, 女性看護論Ⅱ・1単位・3年・通年, 女性看護実習・2単位・3年・通年, 助産診断・技術学・4単位・4年・前期, 地域母子保健学・1単位・4年・前期, 助産実習・3単位・4年・前期, 地域母子保健学・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期

### 7. 社会貢献活動

身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス : 福岡市, 田川

### 8. 学外講義・講演

- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀. 女性のからだを感じるセミナー第 1 回 (2009.4), 第 2 回 (2009. 10), 福岡.
- ・ 安河内静子. (2009. 7). いのちの教育「からだの話、なぜ」, 飯塚市立庄内小学校 3 年児童 84 名及び保護者 40 名, 飯塚市.
- ・ 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静, 森純子. (2009. 8) 健康大使セミナー, 世にも珍しいマザークラス大同窓会, 田川.
- ・ 佐藤香代, 吉田静, 佐藤繭子, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. 安河内静子. (2009. 10) くらし応援サービス体験フェア, 新生活産業見本市出展, 福岡.
- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2010. 2). 性教育「いのちを未来へつなげるために~性感染症と 2 次性徴~」宇美南中学校 2 年生, 3 年生, 宇美町.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 吉田静, 森純子, 鳥越郁代. (2010. 3). 第 5 回医療者向けセミナー, 福岡.

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉川 未桜
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

主に看護職による子育て支援に関する研究を行っている。

近年、子育て支援は、様々な分野からアプローチされているが、子育て支援の中でも、子どもと家族の健康・保健分野については、看護職がイニシアチブをとって中心的な役割を担うことが重要であると考ええる。しかし現在、子育て支援における看護職の役割は、よりよい支援に向けての模索状態にある。

まずは、子育てを取り巻く環境や家族の現象を明らかにしていきたい。そして、今の子育ての現状や養育者の方々のニーズから、今後、地域子育て支援の現場における看護職の役割や専門性、望ましい役割モデルを探究していきたい。それによって、子どもと家族がいつの時も心身共に健康に過ごし、健やかな成長発達へと結びつくよう実践に活かせる研究をしたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 宮城由美子・太田恵子・中山慶子・吉川未桜、「保育園における健康保育に対する保護者のニーズ」、保育と保健 15 巻 1 号、pp43-49、2009 年。

### ②その他最近の業績

＜調査研究報告＞

- 細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ、「福岡市における子育て意識調査 - 子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ - (担当箇所『Ⅲ-2 乳幼児と家族の心身の健康を支える地域子育て支援』)」、福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書 34、pp37-46、2008 年。
- 細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ、「福岡市における子育て意識調査 - 子育て意識と子育て支援に関する実態とニーズ - (担当箇所『Ⅲ-4 自由記述の内容』)」、福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書 34、pp53-69、2008 年。

＜学会報告＞

- 吉川未桜・藤原浩美、「子育て支援センターにおいて看護職に求められているもの」、第 56 回小児保健学会、大阪、2009 年。

＜シンポジウム＞

- 細井勇・古橋啓介・秦和彦・宮城由美子・吉川未桜・林ムツミ・友枝三栄子・黄星賀・徐慧全・南美慶・宋映沃、日韓子育て支援シンポジウム「福岡と大邱（韓国）の子育ての実態調査から見えてくる新たな子育て支援」、2009 年。

＜ワークショップ＞

- 澁谷貴子・吉川未桜、岡垣っ子育て支援事業 母乳子育てを支える大切な食事、プラーナマンマ、福岡、2008 年。

## 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（若手研究B）、「地域子育て支援センターにおける看護ケア提供モデルに関する研究」、170 万円、平成 20 年度～平成 22 年度、研究代表者

## 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本看護研究学会、発達心理学会、日本小児保健学会  
九州小児看護教育研究会、保育園保健学会、日本公衆衛生学会

## 6. 担当授業科目

小児看護論Ⅰ・2単位・2年・前期、小児看護実習Ⅰ・1単位・2年・後期、小児看護実習・2単位・3年・通年、小児看護論Ⅱ・1単位・3年・前期、総合実習（小児）・3単位・4年・前期

## 7. 社会貢献活動

田川市子育て支援センター 双子・三つ子のおしゃべり会開催ボランティア

## 8. 学外講義・講演

- ・ 宮城由美子、吉川未桜、健康保育(年長)「大きくなあれ」、三萩野保育園、2009年4月25日
- ・ 吉川未桜、福岡県立青豊高等学校出前講義「看護師として働くこと～病院で懸命に生きる子ども達と共に～」講師、2009年8月20日
- ・ 宮城由美子、吉川未桜、健康保育「からだきれいだよ」、三萩野保育園、2009年8月24日
- ・ 吉川未桜、健康保育(年中)「かぜ対策!」、三萩野保育園、2009年12月14日
- ・ 吉川未桜、健康保育(年中)「どうしてねむるのかな?」、三萩野保育園、2010年2月8日
- ・ 吉川未桜、健康保育(年中)「どうしてねむるのかな?」、北方保育園、2010年2月13日
- ・ 宮城由美子、吉川未桜、健康保育(年少)「どうしてねむるのかな?」、北方保育園、2010年2月13日
- ・ 吉川未桜、第2回不登校・ひきこもり支援フォーラム第1セッション座長、2010年3月8日

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員
- ・ 不登校・ひきこもりサポートセンターキャンパススクールナース
- ・ 研究奨励交付金プロジェクト研究「子育て意識と子育て支援についてのニーズ調査―日韓比較研究」共同研究者



所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田 恭子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

近年の筑豊地区の高齢化は、社会的環境の変化とも相まって深刻な課題です。開始から 10 年ほど経過した高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みは早急に取り組むべき課題だと考えます。同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要だと考えます。

そこで、在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、筑豊地区における在宅療養中の高齢者やその家族が質の高い生活を維持できるような看護実践を検討したいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ 吉田恭子. (2009). 在宅看護論実習中の学生の学びと看護師国家試験出題基準との関係—訪問看護ステーション実習中の学生カンファレンスより—, 九州社会福祉研究, 第 34 号, 15 - 28
- ・ 吉田恭子. (2008). 訪問看護ステーションにおける在宅看護論実習の実態と課題—訪問看護師からみた実習指導上の諸課題を中心に—, 九州社会福祉研究, 第 33 号, 77 - 90

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 単独. 「在宅看護論における学生の意識」, 第 21 回日本看護福祉学会全国学術大会, 2008 年 7 月.
- ・ 共同. 「在宅看護論実習での学生の行動特性からみた臨地実習の課題」, 2008 年 8 月, 第 39 回日本看護学会—看護教育—, 2008 年 8 月.
- ・ 共同. 「通信過程の学生が新聞記事から捉えた在宅看護」, 第 22 回日本看護福祉学会全国学術大会, 2009 年 6 月.
- ・ 共同. 「看護師 2 年課程通信制で学ぶ准看護師の入学半年後の看護実践における行動変容」, 第 40 回日本看護学会—看護教育—, 2009 年 8 月.

## 5. 所属学会

日本看護福祉学会, 日本認知症ケア学会

## 6. 担当授業科目

老年看護論Ⅰ・2 単位・2 年・前期, 老年看護実習・2 単位・3 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期, 総合実習・3 単位・4 年・前期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 老人クラブ, 花満会にて学生とともにボランティア活動
- ・ 田川市社会福祉協議会にて学生・市民とともにボランティア活動
- ・ 上伊田西地区, 共同「高齢者関係地域活動」, 2009 年 10 月
- ・ 松原地区, 共同「高齢者関係地域活動」, 2009 年 12 月
- ・ 上伊田東地区, 共同「高齢者健康教室」, 2009 年 12 月

## 8. 学外講義・講演

- ・ 麻生看護医療専門学校, 「在宅看護論における紙上事例への取り組み」, 2009 年 4 月 3～4 日.
- ・ 麻生看護医療専門学校, 「NIE の視点から見える在宅看護とは」, 2009 年 10 月 23 日、11 月 21 日.
- ・ 麻生看護医療専門学校, 「在宅看護論見学実習のまとめ」, 2009 年 10 月 24 日.
- ・ 田川市社会福祉協議会, いきいき福祉大学講師, 2010 年 2 月 24 日.
- ・ 筑豊市民大学, 共同「老いと健康」, 2009 年 6 月.
- ・ 筑豊市民大学, 共同「ヘルスプロモーションについて」, 2009 年 7 月.
- ・ 宮田病院, 共同「第 1 回～第 3 回宮田病院実習指導研修会」, 2009 年 8 月 24 日, 8 月 28 日.
- ・ 三野原病院, 共同「第 1 回～第 2 回三野原病院実習指導者研修会」, 2009 年 10 月 28 ～29 日.
- ・ 筑豊市民大学, 共同「救命救急法」, 2009 年 10 月.
- ・ 筑豊市民大学, 共同「認知症について」, 2009 年 7 月.

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田 静
----	-------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1998 年から 7 年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005 年から 1 年間本学に臨時職員として勤務後、2007 年、本学に助手として着任。2009 年 3 月、福岡県立大学大学院修士課程修了。2009 年 4 月、助教となる。

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と医療者の支援を主な研究分野としている。

特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにしていきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果・体験録の分析からー. 福岡県立大学看護学部紀要, 7 (2), 63-71.
- ・ 吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4 版 全 68 頁.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 森純子. (2008). 「身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 6 (2), 85-93.

### ②その他最近の業績

- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2010). 子どもを喪失した父親への支援. 第 24 回日本助産学会学術集会, 茨城.
- ・ 吉田静. (2009). 大切な子どもを失った夫婦のグリーフを考える集い (男女で担うお互いの悲しみとケア). 第 3 回東アジアグリーフケアセミナー, 福岡.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 岡川みはる, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀. (2009). 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊娠前女性の内面的変容. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 石村美由紀, 鳥越郁代, 山本由紀子. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した母子の栄養学的調査. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 安河内静子, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). 「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 石村美由紀, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). 医療者がマザークラスを体験する効果ー「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける体験録からー. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 鳥越郁代, 古田祐子, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静. (2009). 助産師学生の分娩期助産診断過程における現状と課題ー情報収集から助産診断名に至る過程の分析からー. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 吉窪雪乃, 佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 松岡百子. (2009). 大学生が過去に受けた学校性教育の現状. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.
- ・ 松岡百子, 佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 吉窪雪乃. (2009). 学校性教育がその後の生き方に及ぼす影響ー大学生のアンケート調査からー. 第 50 回母性衛生学術集会, 神奈川.

- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 森純子, 吉田静, 鳥越郁代. (2009). リカレント教育における「相互作用」の効果ー「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーの調査からー. 第 50 回母性衛生学会学術集会, 神奈川.
- ・ 鳥越郁代, 吉田静, 佐藤香代. (2009). 帝王切開分娩を経験した女性の出産選択の支援に対する意識調査ーシンポジウム参加者を対象とした自記式調査結果からー. 第 23 回日本助産学会学術集会, 東京.
- ・ 金子あやみ, 古田祐子, 吉田静. (2008). 開業助産師による着帯指導の今日的意義. 第 49 回母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・ 佐藤香代, 井上真紀, 垣内千明, 押川真由, 吉田静, 安河内静子, 石村美由紀, 森純子. (2008). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変容過程. 家族関係の変化ー. 第 49 回母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 森純子, 石村美由紀. (2008). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の変化ー胎児との対話と子守歌の関係性ー. 第 49 回母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀. (2008). 妊婦の力を引き出すわざー身体感覚活性化マザークラスにおけるドゥーラが妊婦に与える影響ー. 第 49 回母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 森純子. (2008). 「第 3 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」の満足度と開催ニーズ. 第 49 回母性衛生学会学術集会, 千葉.

### 3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金 (若手研究 B), 「子どもを喪失した父親の悲嘆過程の様相に関する研究」, 210 万円, 平成 20 年度～平成 22 年度.

### 5. 所属学会

日本助産学会／日本母性衛生学会／日本 SIDS 学会／日本家族看護学会

### 6. 担当授業科目

<学部>

女性看護論Ⅱ・1 単位・3 年・通年, 女性看護実習・2 単位・3 年・通年, 助産実習・3 単位・4 年・前期

### 7. 社会貢献活動

- ・ SIDS オープンフォーラム IN 九州(2009.6.21)
- ・ 第 1 回健康大使セミナー (2009.8.24)
- ・ くらし応援サービス体験フェア新生活産業見本市ー (2009.10.11)
- ・ 第 1 回看護職のための子ども虐待予防セミナー (北九州ブロック, 2009.10.18)
- ・ 第 5 回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス in たがわ (2009.10～12)
- ・ 第 3 回東アジアグリーンケアセミナー (2009.12.12～12.13)
- ・ 第 14 回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2010.2～3)
- ・ 第 2, 3 回看護職のための子ども虐待予防セミナー (北九州ブロック, 2010.1.30)
- ・ 第 2 回ペリネイタルロス看護者研修会 (2010.1.31)
- ・ 身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー (2010.3.6)

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	梶原 由紀子
----	-------------	----	----	----	--------

### 1. 教員紹介・主な研究分野

現在、「軽度発達障害児をもつ両親への子育ての思いと家族支援のあり方」を主な研究分野としている。軽度発達障害児の看護ケアを行う際に考慮しなければならないことは、本人への支援はもとより、両親やきょうだいを含めた家族全体への支援を行うことである。発達障害をもつ子どもに接することが多くある母親へのアプローチに関しては様々な取り組みが行われていたが、父親へのアプローチに対する研究はほとんどなかった。発達障害のある子どもの看護ケアを行う際に考慮しなければならないことは、本人への支援はもとより、両親やきょうだいを含めた家族全体への支援を行うことである。その為にも父親が抱える生活上のストレスと求める看護を明らかにし、両親それぞれがもつ思いを明らかにし家族支援のあり方を検討することを目的としている。

軽度発達障害児の中には、心身症や学校不適応、社会不適応などの二次的障害を引き起こしている人がおり、その結果医療機関を受診していることも少なくないとする。また、子どもが発達障害特性をもつことが虐待を招く要因として予想以上に大きいという示唆が、ここ数年の実証的な研究によって明らかにされてきている。子どもへの二次的な障害や虐待を防ぐためにも、軽度発達障害児の傍にいる保護者が協力し合いサポートしあうことは大切であり、本研究はその対策にも繋がると考える。

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（萌芽研究）、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研修プログラムの開発」、平成20年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：松枝美智子）。
- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究B）、経験型実習教育プログラムの有効性に関する研究、平成21年度、共同研究（研究代表者：安酸史子）。

### 5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本精神科看護技術協会、日本看護協会、学校保健学会、九州学校保健学会、福岡県精神保健福祉協会。

### 6. 担当授業科目（補助）

教養演習・1単位・1年・前期、精神保健・2単位・1年・後期、精神看護論Ⅰ・2単位・2年・前期、精神看護論Ⅱ・2単位・後期、在宅看護学実習・2単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期。

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,梶原由紀子,坂田志保路,安酸史子,永嶋由理子,中野榮子,北川明.(2009.9.14). 第6回経験型精神看護実習教育ワークショップ:オレム、アンダーウッドのセルフケアモデルを用いた事例検討会 福岡県立大学看護学部臨床看護学系精神看護学領域,田川.
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,梶原由紀子,坂田志保路.(2009.8.22).2009 教員免許状更新講習：生命の不思議とメンタルヘルス；心の傷の癒し方 Part1.福岡県立大学,田川.
- ・ 安永薫梨,松枝美智子,梶原由紀子,坂田志保路.(2009.8.22).2009 教員免許状更新講習：生命の不思議とメンタルヘルス；心の傷の癒し方 Part2.福岡県立大学,田川

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	坂田 志保路
----	-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私は以前より「自殺と自殺予防に関する研究」に取り組んでいます。昨今では、診療報酬の改定などに伴い、精神疾患を抱えつつ地域で不自由な生活を余儀なくされる方々が増え、歯止めのかからない自殺者数についても、さらに悪化するのではないかと危惧されます。そこで、現在は、特に「自殺問題を抱えている患者さんやご家族の方々が、病院内だけではなく退院後の地域生活においても、安心して少しでも自分らしく生活していくことができるような、継続的かつ実践的、具体的な看護ケアを通じた自殺予防」について探究しているところです。

自殺問題やこの問題の解決に向けた取り組みに関心のある方々など、いろいろな人々と交流し、意見交換をはかっていきたいと思っていますので、お気軽にご一報いただければ嬉しいです。

主な研究分野

- ・ 自殺企図を繰り返すうつ病をもつ人に対する病棟・外来での予防的看護介入の検討
- ・ 老人の自殺や自殺予防に関する研究

## 2. 研究業績

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 2007年6月第33回日本看護研究学会学術集会にて「老人の自殺や自殺予防に関する文献レビュー」を報告した。
- ・ 2009年6月日本精神保健看護学会第19回学術集会にて、「自殺企図を繰り返す患者に対する病棟・外来での看護ケアに関する文献レビュー」を発表した。

## 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（萌芽研究）、「モジュール型精神障害者社会復帰促進研修プログラムの開発」、平成20年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：松枝美智子）
- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「経験型実習教育の研修プログラム開発」、平成20年度～平成21年度、共同研究（研究代表者：安酸史子）
- ・ 文部科学省、科学研究補助金（基盤研究）、「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」、平成21年度～平成24年度、共同研究（研究代表者：安酸史子）

## 5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本精神看護技術協会、日本赤十字看護学会、日本看護協会、自殺予防学会：各会員

## 6. 担当授業科目（補助）

精神保健・2単位・1年・後期、精神看護論Ⅰ・2単位・2年・前期、精神看護論Ⅱ・2単位・2年・後期、成人・老年看護実習・2単位（老年）通年、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 安永薫梨、松枝美智子、坂田志保路、梶原由紀子、宇佐美しおり、安酸史子（2009.9）. 第6回平成21年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅠ、田川.
- ・ 安永薫梨、松枝美智子、坂田志保路、梶原由紀子、安酸史子（2010.2）. 第3回平成21年度経験型精神看護実習教育ワークショップⅡ、田川.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	佐藤 繭子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟で勤務、助産師として8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任、現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究に取り組んでおり、母親が正しい知識を持って、安心して楽しく母乳育児ができるよう、実践に生かせる研究をしたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 佐藤繭子、佐藤香代. 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気づき～アロマセラピーを通して～. 第24回日本助産学会. 茨城. 2010年3月.

## 5. 所属学会

日本助産学会、日本ラクテーションコンサルタント協会 IBCLC 会員 プロモーション委員

## 6. 担当授業科目（補助）

女性看護論Ⅱ・1単位・3年・通年、女性看護実習・2単位・3年・通年、助産実習・3単位・4年・前期、小児看護実習・2単位・3年・通年、小児看護実習Ⅰ・1単位・2年・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 第1回健康大使セミナー（2009.8.24）
- ・ 新生活産業見本市（2009.10.11）
- ・ 第14回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2010.2～3）
- ・ 第5回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2010.3.6）
- ・ 助産師を中心とした自主グループ「フムフムネットワーク」の機関誌編集委員
- ・ 子育てサークル「手作りママの会 in 福岡」主催

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	橋本 茂子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2004年久留米大学大学院医学研究科修士課程終了。看護師の臨床経験年別にみた実践能力の相違の研究を行った。看護基礎教育課程と卒後教育課程の連動の必要性、卒業後教育プログラムの工夫などが課題となった。現在、看護実践能力のなかのコミュニケーションの研究と、教材研究として学生の学びについて、演習・実習指導の効果・工夫などの研究を進めている。臨床研究としては、C型肝炎患者の看護について、治療を克服していく過程への研究を行いたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の論文・著書

- ・ 添田百合子, 橋本茂子, 木村和江, 吉永喜美代. (2008)「C型肝炎患者の看護」, ナーシング・トウディ, 23(18), 23-29.
- ・ 中條雅美, 橋本茂子, 山名栄子. (2008)「乳がん患者の看護」, クリニカルスタディ, 20 (11), 58-72.
- ・ 木部 泉, 橋本茂子, 上田雪子, 中 淑子. 看護学生の発達課題を踏まえた効果的な看護過程教育の検討, 純真短期大学紀要, 第49号, 93-106, 2008.
- ・ 森永徹, 森永佳江, 亀山広喜, 橋本茂子. 小児臓器移植に関する一考察. 純真短期大学紀要, 第48号, 165-179, 2008.

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 橋本茂子, 黒田裕美, 政時和美, 中野榮子. 学生が捉えた周手術期における看護の視点. (2009) 第29回日本看護科学学会学術集会, 千葉
- ・ 政時和美, 黒田裕美, 橋本茂子. 実習施設における病棟閉鎖を実習中に経験した学生への影響 (2009). 第29回日本看護科学学会学術集会, 千葉
- ・ 橋本茂子, 上田雪子, 木部 泉. 看護学生のコミュニケーションと透過性調整力との関連 (2008). 千葉看護学会 第14回学術集会, 千葉.
- ・ 上田雪子, 橋本茂子, 木部 泉. 看護学生の職業的アイデンティティに関する研究. (2008) 千葉看護学会 第14回学術集会, 千葉.

## 5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 千葉看護学会, 日本医学看護学教育学会

## 6. 担当授業科目 (補助)

成人看護論Ⅱ・2単位・2年・後期、成人看護論Ⅲ・2単位・2年・後期、看護実践論・1単位・3年・前期、成人・老年看護実習・6単位・3年・通年、総合実習・3単位・4年・前期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県立大学 がん看護勉強会企画・運営 (2009. 4. 21) 田川
- ・ 福岡県立大学 がん看護勉強会企画・運営 (2009. 6. 9) 田川
- ・ 福岡県立大学 がん看護勉強会企画・運営 (2009. 8. 18) 田川
- ・ 福岡県立大学 がん看護勉強会企画・運営 (2009. 10. 20) 田川
- ・ 福岡県立大学 がん看護勉強会企画・運営 (2009. 12. 15) 田川
- ・ 福岡県立大学 がん看護勉強会企画・運営 (2010. 2. 16) 田川

## 8. 学外講演

中野榮子, 山名栄子, 山住康恵, 橋本茂子 第2回福岡県立大学がん看護セミナー企画 (2009. 9. 19) 福岡

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員



所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	森 純子
----	-------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1994 年九州大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻修了。1994 年九州中央病院, 1996 年佐賀県立病院好生館へ助産師として就職。2003 年厚生労働省看護研修研究センターにて研修。2004 年佐賀県立総合看護学院専任教員として就任。2007 年より本大学看護学部女性看護学講座助手として就任し,現在に至る。

看護学部女性看護学講座助手として就任し3 年目である。大学では女性看護学や助産学を学ぶ学生たちの教育に携わり,講義,演習,実習などで学生と共に看護・助産を学んでいる。また田川市と福岡市で年 2 回開催される身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスや身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス医療者向けセミナーの企画・運営を担当している。

現在,開業助産師の助産のわざの伝承と助産ケアの質の向上を図るために,開業助産師の会陰裂傷予防ケアについて研究している。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

〈論文〉

- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代: 医療者がマザークラスを体験する効果 —「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」における体験録から—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 査読あり, 2010 年 3 月

### ②その他の業績

〈学会報告〉

- ・ 佐藤香代, 森純子, 山本有紀子: 「身体感覚活性化マザークラス」体験が女性の生き方に与える影響, 第 24 回日本助産学会学術集会発表, 2010.
- ・ 森純子: 開業助産師による会陰裂傷予防ケア, 福岡県立大学大学院 看護学研究科
- ・ 臨床看護学領域 助産学分野 修士論文発表 2010.
- ・ 森純子, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静: 「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析: 母性衛生, Vol. 50 No.3 2009 掲載. 第 50 回日本母性衛生学会発表.
- ・ 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 吉田静, 森純子: 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した母子の栄養学的調査: 母性衛生, Vol.50 No.3 2009 掲載. 第 50 回日本母性衛生学会発表.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 吉田静, 森純子: リカレント教育における「相互作用」の効果—「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーの調査から—: 母性衛生, Vol. 50 No.3 2009 掲載. 第 50 回日本母性衛生学会発表.
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 石村美由紀, 吉田静, 森純子: 医療者がマザークラスを体験する効果—「身体感覚活性化マザークラス」医療者セミナーの体験録から—: 母性衛生, Vol. 50 No.3 2009 掲載. 第 50 回日本母性衛生学会発表.
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 森純子: 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊娠前女性の内面的変容: 母性衛生, Vol. 50 No.3 2009 掲載. 第 50 回日本母性衛生学会発表.

## 3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C), 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性の「産み育てる力」形成過程の分析, 500 万円, 平成 19 年度～平成 22 年度, 共同研究(研究分担者), 研究代表者: 佐藤香代

#### 4. 所属学会

日本助産学会,日本母性衛生学会,佐賀県母性衛生学会

#### 5. 担当授業科目

女性看護論Ⅱ・1単位・3年通年, 女性看護実習・2単位・3年通年, 助産実習・3単位・4年・前期

#### 6. 社会貢献活動

- ・ 第1回健康大使セミナー アロママッサージ担当(2009年8月)
- ・ 新生活産業見本市、会場ブース担当(2009年10月)
- ・ 第13回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスin福岡 同窓会ドゥーラ担当(2009年12月)
- ・ 第14回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスin福岡 運営 レッスン1:息を感じる 触って感じる(2010年2月16日)
- ・ 第14回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスin福岡 運営 レッスン2:食で感じるわたしのからだ(2010年2月23日)
- ・ 第14回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスin福岡 運営 レッスン3:アロマで感じる私のからだ においとふれるで快を感じる(2010年3月4日)
- ・ 第14回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスin福岡 運営 レッスン4:からだの知恵で産み・育てる(2010年3月11日)
- ・ 第14回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスin福岡 企画・運営 レッスン5:音に響くからだでわたしを知る(2010年3月25日)
- ・ 「第5回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」企画・運営・総司会担当(2010年3月)
- ・ 女性・助産師を中心とした自主グループ「フムフムネットワーク」(代表 佐藤香代)の季刊誌(年4回発刊)の編集委員

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	山住 康恵
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

### ①新人看護師に必要なサポートシステムに関する研究

厚生労働省をはじめ、看護協会や病院の様々な工夫や努力にもかかわらず、新卒看護師の離職率は依然減少をしていません。そこで、入職後3ヶ月目の新卒看護師の離職願望の実態調査を行い、ストレス対処能力、ストレス、職場サポートと離職願望との関連を明らかにし、新卒看護師が必要としている職場サポートシステムについて検討を行いました。

### ②術中看護における器械出し看護師の思考と行動分析

近年、医療技術の進歩や術式の拡大により、手術件数は増加傾向にあります。手術室看護師は、予断が許されない手術展開での瞬時の判断力や対応力、解剖や疾患など多岐にわたる知識に裏づけられた熟練の介助技術が、求められています。これまでの手術室看護師教育では、ベテラン看護師の介助技術や瞬時の判断を新人看護師に言語化して指導することが困難でした。そこで、ベテラン看護師の介助技術や瞬時の判断、安全に配慮した介助時動作について、総合的かつ科学的に分析し、新人看護師の技術向上のための教育資源として役立てたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ 山住 康恵：「滅菌条件の再考察」，第23回日本環境感染学会．2008年2月
- ・ 山住康恵，於久比呂美，小野寺洋子，清水夏子，脇崎裕子，中野真理子，石飛マリコ，野口玉枝，福本優子，宮崎亜友美，山口のり子，山下浩典，小西 恵美子：「医療実践における『和』」，日本看護倫理学会第2回年次大会．2009年6月
- ・ 福本優子，石飛マリコ，於久比呂美，小野寺洋子，清水夏子，中野真理子，野口玉枝，宮崎亜友美，山口のり子，山下浩典，山住康恵，脇崎裕子，小西恵美子．「職場環境における『同』」，日本看護倫理学会第2回年次大会．2009年6月

## 3. 外部研究資金

笹川科学研究助成、「新卒看護師に必要なサポートシステムに関する研究 ―入職後3ヶ月目の新卒看護師のストレスとストレスコーピングの実態調査から―」、32万円、平成21年度、単独研究

## 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護倫理学会、日本環境感染学会

## 6. 担当授業科目（補助）

〈学部〉

成人看護論Ⅰ（補助）・2単位・2年・前期、成人看護論Ⅱ・Ⅲ（補助）・2単位・2年・後期、成人・老年看護実習（補助）・6単位・3年・通年、看護実践論1単位・3年・前期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 国境なき医師団の活動を支援しています。
- ・ プランジヤパンの活動を支援しています。

## 8. 学外講義・講演

（株）赤ちゃん本舗主催 マタニティースクールの講師を行っています。

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター主催 公開講座（2009年11月3日）

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	山名 栄子
----	-------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2006 年、本学看護学部助手に着任。

現在、腎不全看護を主な研究分野としている。具体的には、①透析患者の自己管理を促す動機づけ支援と行動変容プロセスを可視化する教材開発研究、②透析自己管理教育の高度専門看護実践アルゴリズムに関する研究を主な研究テーマとしている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 山名栄子「6 章－1 内分泌環境調節機能障害のある人に対する看護 甲状腺機能亢進症で甲状腺全摘術を受ける患者」、林正健二・山内豊明・明石恵子監修『ペーパーペイシェントから学ぶ機能障害別看護ベーシックトレーニング』、メディカ出版、2008 年。
- ・ 山名栄子「2 章－1 慢性期にある患者や疾病予防のアセスメントと看護支援 腎疾患患者のセルフコントロールへの援助」、安酸史子・奥祥子編集『G SUPPLE 患者がみえる成人看護の実践』、メディカ出版、2007 年。

#### <論文>

- ・ Eiko Yamana. The relationship of clinical laboratory parameters and patient attributes to the quality of life of patients on hemodialysis. *Japan Journal of Nursing Science*, 6 (1) 、2009.
- ・ 山名栄子、飯盛美由紀. 職場における看護師間のアサーティブ学習会とその効果. 福岡県立大学看護学研究紀要、第 6 巻 1 号、2008 年。
- ・ 佐名木宏美、岡美智代、山名栄子、李孟蓉、柿本なおみ、後藤真希、高橋純子. EASE プログラムに関する文献研究－介入効果と EASE プログラムを実践する看護者に必要な要素の検討. 日本腎不全看護学会誌、10 巻 2 号、2008 年。
- ・ 渕野由夏、永嶋由理子、中野榮子、山名栄子、加藤法子、津田智子. 基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要、第 4 巻 2 号、2007 年。
- ・ 綿貫恵美子、杉本佳子、菊池千鶴子、山名栄子、岩崎和代、岡美智代. 都内在住の血液透析患者における経済状況の実態. 第 9 巻第 1 号、北里看護学誌、2007 年。

#### <総説>

- ・ 中條雅美、橋本茂子、山名栄子 (2008) . ナーシングプロセス 乳がん患者の看護. *クリニカルスタディ*, 29 (11) 、58-722.
- ・ 後藤真希、岡美智代、山名栄子、佐川美枝子、鈴木直美(2007). 透析療法における家族ケア 自己管理が必要な人とその家族への援助：第 5 回精神障害を発症した患者家族への援助を通して水分管理不良の患者に行動変容プログラムを活用し、セルフマネジメントが向上した事例. 月刊家族ケア. 5(4)、16-19.
- ・ 鈴木直美、岡美智代、山名栄子、佐川美枝子、後藤真希(2007). 第 4 回行動変容プログラムの活用により患者と家族の双方にセルフマネジメントの向上が見られた事例. 透析療法における家族ケア セルフマネジメントが必要な人とその家族への援助. 月刊家族ケア. 5(2)、16-20.
- ・ 山名栄子、岡美智代(2007). Q5 高齢透析者、糖尿病性透析者の社会復帰の困難な点と支援すべき点にはどのようなことがありますか？透析看護 Q&A 透析ケア-1. 透析ケア全般. 中外製薬配布資料、医薬ジャーナル社。
- ・ 山名栄子、岡美智代(2007). Q6KD-QOL™や SF-36R は透析患者のケアにどのように利用できますか？透析看護 Q&A 透析ケア-1. 透析ケア全般. 中外製薬配布資料、医薬ジャーナル社。

## ②その他最近の業績

### 〈報告書〉

- ・ 山名栄子「研究奨励金（個人研究）報告書 透析自己管理教育の高度専門看護実践アルゴリズムに関する研究」、福岡県立大学平成 19-20 年度研究奨励交付金研究成果報告書」、公立大学法人福岡県立大学発行、2009 年 3 月。
- ・ 岡美智代、神谷千鶴、山名栄子、佐川美枝子「疾病の自己管理教育プログラム 透析管理教育プログラム」、厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業 「保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合的質管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究」平成 18 年度総括研究報告書、主任研究者水流聡子発行、2007 年 4 月。

### 〈学会報告〉

- ・ 山名栄子、岡美智代、佐川美枝子「透析自己管理教育の高度専門看護実践アルゴリズムに関する研究」、第 35 回日本看護研究学会学術集会（横浜）、2009 年 8 月。
- ・ 山名栄子、綿貫恵美子、岡美智代、岩崎和代「都市部透析患者の食事管理に関するアドヒアランスの実態」、第 53 回日本透析医学会学術集会（兵庫）、2008 年 6 月。
- ・ 山名栄子、綿貫恵美子、岡美智代、岩崎和代「診療報酬改定前における都市部透析患者の活力に関する実態」、第 27 回日本看護科学学会学術集会（東京）、2007 年 12 月。

## ③過去の主要業績

岡美智代、神谷千鶴、佐川美枝子、山名栄子、疾病の自己管理支援プログラム 透析自己管理教育プログラムのアルゴリズム、高度専門看護実践の可視化とアルゴリズムの抽出、38 巻 7 号、看護研究、2005 年。

## 3. 外部研究資金

日本学術振興会、科学研究費補助金（基盤研究 C）、「透析患者の自己管理を促す動機づけ支援と行動変容プロセスの可視化に関するツール開発」、169 万、平成 21 年度、代表

## 5. 所属学会

日本透析医学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本腎不全看護学会、日本看護学会、北日本看護学会 各会員

## 6. 担当授業科目（補助）

### 〈学部〉

成人看護論Ⅰ・2 単位・2 年・前期、成人看護論Ⅱ・2 単位・2 年・後期、成人看護論Ⅲ・2 年・後期、看護実践論・1 単位・3 年・前期、成人・老年看護実習・6 単位・3 年・通年、総合実習・3 単位・4 年・前期

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	尾形 由起子
----	---------------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2004 年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了。保健師として福岡県庁に勤務後、2004 年、本学に着任。

現在、少子高齢化の進展において、高齢者の地域における療養をささえる地域看護活動の検証を主な研究分野としている。具体的には、①介護予防サービスの質の評価方法②保健師による介護予防のケアシステム構築の検証③ケアの必要な人々を支えあう地域づくりに対する行政の役割を主な研究テーマとしている。

近年、わが国の進展化する少子高齢化における地域で、独居でねたきりになっても安心して、住み慣れた地域で暮らし続けることができるためのシステムを看護職や福祉職の方々と一緒に検証し、実践的な研究をふまえ、地域での健康課題の解決方法を明らかにしていきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 尾形由起子「第3部第2章3 慢性期にある患者や疾患予防のアセスメントと看護援助：生活習慣により糖尿病を発症した患者の事例」、安酸史子・奥祥子編著『患者がみえる成人看護の実践』、メディカ出版、2007年3月。
- ・ 尾形由起子，山下清香，松浦堅長児童生徒と保護者の薬物認識状況と薬物防止教育のあり方福岡県立大学看護学部紀要 5(1),2008
- ・ 尾形由起子，山下清香，福岡県地域看護実習連絡協議会，地域実習に関する意見交換会—大学と現場が実習のあり方をともに考える保健師ジャーナル. 64(5),2008
- ・ 尾形由起子，井上千津子・澤田信子・白澤政和・本間昭編著「介護を必要とする人々への理解」および「介護課題解決のための方法論」第2章～第3章. ミネルヴァ書房、『介護課程』2009
- ・ 尾形由起子 介護予防事業参加高齢者の自己効力感評価指標との関連性について. 福岡県立大学看護学部紀要第6巻第1号. 2009

### ②その他最近の業績

- ・ 尾形由起子，岡田麻里（2007）地域虚弱高齢者に対する 介護予防における 保健師の支援技術の検討第27回日本看護科学学会総会，東京
- ・ 山下清香・尾形由起子・名原寿子・兼武加恵子・松尾和枝・長弘千恵・今村桃子・九州ブロック他，Thoughts on the Integrated Four-Year Curriculum at Nursing Universities in Japan, The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 2007
- ・ 尾形由起子，野口久美子，荒木小百合，戎井まりこ，内田圭，野中多恵子，野口藍子，野見山美和，山下 清香. 地域完結型特定健診・特定保健指導の構築にむけての保健指導方法の検討. 第67回日本公衆衛生学会
- ・ 野口藍子，荒巻 初子，鎌田 久美子，篠原 由紀子，尾形由起子. 福岡県における訪問看護推進支援モデル事業の事例分析から見た今後の課題. 第67回日本公衆衛生学会
- ・ 野口藍子，尾形由起子，山下清香，村嶋幸代，田口敦子，鎌田久美子，森松薫 他. 福岡県における在宅療養者を支える社会資源の分布・機能の比較検討. 第68回日本公衆衛生学会
- ・ 尾形由起子（2009年6月）福岡県実習指導者講習会講師「保健師教育課程」. 社団法人福岡県看護協会
- ・ 尾形由起子（2009年11月）全国保健師教育機関協議会研修会座長「保健師教育拡充の方向性」

### ③過去の主要業績

- ・ 尾形由起子，介護予防事業参加高齢者の自己効力感評価指標との関連性について福岡県立大学看護学部紀要第6巻第1号，2009年
- ・ 尾形由起子，「介護を必要とする人々への理解」および「介護課題解決のための方法論」第2章～第3章. ミネルヴァ書房、井上千津子・澤田信子・白澤政和・本間昭編著『介護課程』2009

## 5. 所属学会

日本看護科学学会，日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本糖尿病教育・看護学会，日本学校保健学会

## 6. 担当授業科目

〈学部〉

地域看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、地域看護論Ⅱ・3年および4年編入生・1単位・通年、健康教育論・2単位・3年および3年編入生・前期、地域看護論実習Ⅰ・1単位・1年生・前期、地域看護実習Ⅱ・2単位・3年生通年、地域看護実習Ⅲ・4年生・後期

〈大学院〉

地域看護学特別研究・2単位・修士1年・前期，地域看護学特別演習・2単位・修士1年・後期，

## 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会保健師職能委員副委員長．社団法人福岡県看護協会
- ・ 福岡県地域在宅推進協議会委員．福岡県 他4か所（遠賀・宗像，南筑後，嘉穂，京築）保健福祉環境事務所における地域在宅推進協議会委員
- ・ 田川市福祉部所管計画評価委員会．田川市．
- ・ 人権と福祉のまちづくり策定委員会アドバイザー．福智町
- ・ 全国保健師教育機関協議会理事
- ・ グループホーム外部評価審査員

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	松浦 賢長
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に 10 年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成 15 年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系教授。また，本学の附属図書館長を平成 20 年度から 21 年度まで兼務。現在は，本学の 4 つのセンターを有する附属研究所長を命じられている（平成 22 年度より）。

母子保健学：学会レベルでは，日本小児保健学会が 10 年に一度行う幼児健康度調査（平成 22 年）の委員を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子 21）については，第 1 回中間評価時（2005 年）、第 2 回中間評価時（2009 年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画した。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の場から得られる情報の利活用システムの新規開発についても，グランドデザインから関わっている。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長，福岡市の次世代育成支援対策推進協議会委員も拝命した。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の設立代表理事として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子 21 の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の政策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発した。さらに，平成 20 年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行している。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査を担当した。

※平成 23 年度には，第 30 回日本思春期学会学術集会を主催することが決定された。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催している。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

＜著書＞

- ・ 門田光司，松浦賢長，西原尚之，岩橋宗哉，杉野浩幸，四戸智昭，吉岡和子，樋口善之，原田直樹，長谷川智子，渡辺龍彦，宮川治美，柴田洋子．（2009.9）．（門田光司，松浦賢長編著）子どもの社会的自律を目指す 不登校・ひきこもりサポートマニュアル（初版）．東京：少年写真新聞社．
- ・ 松浦賢長，望月吉勝，千葉百子，荻田香苗，篠原厚子，鷹箸右子，渡部幹夫，山内泰子，川上



憲人, 柏木聖代, 田宮菜奈子, 川名はつ子, 児玉聡, 小林康毅. (2008.10). (千葉百子, 松浦賢長, 小林康毅編) コンパクト公衆衛生学 (第 4 版). 東京: 朝倉書店. 1 章「人口問題と出生・死亡」, 8 章「母子保健」, 10 章「学校保健」執筆.

- ・ 松浦賢長, 小澤道子, 福島富士子, 鳥居央子, 雨宮美帆, 宮沢純子, 小野美代子, 野地有子, 別所遊子, 津島ひろ江, 錦戸典子. (2008.12). (金川克子編) 地域看護活動論① (第 2 版). 東京: メジカルフレンド社. 1 章「母子保健活動論 (pp.2-28)」執筆.
- ・ 松浦賢長 (共著). (2007). 医師・看護職のための乳幼児保健活動マニュアル. [担当箇所: 第 III 章 7-3. 養護教諭 (165-169 頁)] 文光堂 (東京), 2007.9.

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム (教育 GP)」, 不登校・ひきこもりへの援助力養成教育: 1,280 万円, (推進責任者: 松浦賢長). 申請書作成メンバー.
- ・ 文部科学省「戦略的大学連携推進事業」看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想: 8,750 万円, (取組代表者: 名和田新). 申請書作成メンバー.
- ・ 厚生労働省「厚生労働科学研究費補助金」, 平成 21 年度こども家庭総合研究事業「健やか親子 21 を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究」班: 200 万円, (主任研究者: 山梨大学教授 山縣然太郎). 分担研究者.

### 5. 所属学会

日本思春期学会 (理事), 日本公衆衛生学会, 日本小児保健学会, 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本保健福祉学会, 日本学校保健学会, 大阪母性衛生学会, 九州思春期研究会 (設立代表理事)

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

疫学・保健統計学, ヘルスプロモーション論, 学校保健, 性を考える, 専門看護ゼミ, 卒業研究

〈大学院〉

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

### 7. 社会貢献活動

- ・ 財団法人性の健康医学財団・幹事
- ・ 福岡県乳幼児健診マニュアル開発委員会・委員長
- ・ 福岡市次世代育成支援対策推進協議会・委員
- ・ 田川市次世代育成支援対策後期行動計画策定委員会・委員長

### 8. 学外講義・講演

- ・ 松浦賢長.(2009,10).性教育の現状と課題.平成 21 年度 福岡県教育委員会 教職経験 5 年経過 養護教諭研修 校外研修会, 福岡市.
- ・ 松浦賢長.(2010,02). 思春期の子どもたちに必要な力とは.平成 21 年度 北九州市門司区主催 第 2 回子育て支援学習会, 北九州市.

### 9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター幹事: 本年度は文部科学省大型事業費を獲得することにより、サポートセンター内にフリースクールを開設した。学生が子どもに個別対応する「キャンパス・キッズ」プログラムとの両輪体制を築いた。

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	石川 フカエ
----	---------------------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2000 年九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻教育学コース修士課程修了

1974 年～福岡市立の小学校、養護学校（現特別支援教育学校）にて養護教諭・保健主事で勤務し子どもの健康課題をメインテーマに研究・実践活動を行ってきた。修士論文のテーマ「養護教諭の子どもに対する支援的関係の研究」を行い、養護教諭職の歴史から観た＜子ども観＞に迫った。2004 年 4 月本学に養護教諭一種課程の専任准教授として着任。養護教諭の教育においては、①養護教諭としての子ども観の確立②看護学を基盤とした子どもの健康課題に向き合える力量形成③コミュニケーションスキルの育成等に力点を置いている。

主な研究分野は、①学校の保健室は子どもにとって「サンクチュアリ」で居心地の良い場所となっていなければならないと同時に命の大切さを中心にした健康教育の推進も急務である。このような課題を受けて教育過程や養成機関に大きな違いがある「養護教諭」へのリカレント教育を行い、福岡県の学校に勤務する養護教諭の力量形成を図る。

子ども自身へ向けても「いじめとどう向き合うか」あるいは「いじめ問題を模索する」研究を進めていき、養護教諭の役割、子どもを取り巻く大人の役割などを提言していく。

②日本初の学校看護婦「広瀬ます」の研究を続け、養護教諭職の歴史的変遷と子どもへの側面的支援の在り方ライフワークとして継続としていく。平成 21 年度は九州大学の社会人研究奨励費を受けテーマ「広瀬ます」が学校保健に及ぼした影響ー日本初の公費負担による学看護婦の養護活動を通してーの研究を行った。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著作>

- ・ 第 1 版：『初心者のためのフィジカルアセスメントー救急保健管理と保健指導ー』。荒木田美香子・池添志乃・石原昌江・津島ひろ江・石川フカエ：東山書房。2008 年
- ・ 第 2 版：『初心者のためのフィジカルアセスメントー救急保健管理と保健指導ー』。荒木田美香子・池添志乃・石原昌江・津島ひろ江・石川フカエ：東山書房。2009 年
- ・ 第 1 版：『養護活動の展開』荒木田美香子・池添志乃・池永理恵子・石川フカエ・近藤福美・岡本陽子・郷木義子・齋藤未紀・津島ひろ江・藤本比登美：ふくろう出版。2009 年

<論文>

- ・ 石川フカエ・「廣瀬ます」に関する考察ー日本初の公費負担による学校看護婦の養護活動を通してー、『福岡県立大学看護学部紀要』第 7 巻 2 号（掲載決定）2009 年
- ・ 佐藤香代・津田智子・宮城由美子・山下清香・松枝美智子・小路ますみ・渡邊智子・田渕康子・石川フカエ・安河内静子・森崎直子：「看護学生の実習到達度の評価と今後の課題」ー第 1 回合同実習調整会議における調査からー。福岡県立大学看護学部研究紀要 第 6 巻 1 号。2008 年

### ②その他最近の業績

<調査研究報告書>

小松啓子・石川フカエ・上田毅・岡村真理子・清田勝彦・小島秀幹・中野榮子・夏原和美・安酸史子・吉岡和子・「赤村住民のメタボリックシンドローム予防対策に関する総合的研究」研究報告書。福岡県立大学付属研究所生涯福祉センター発行。2009 年

<学会発表>

- ・ 石川フカエ：「喘息・肥満・不登校を併せ持つ子どもへの支援」 13 大都市学校保健協議会 札幌市 2006 年 6 月
- ・ 石川フカエ：「学級崩壊を通過した子ども」の考察第 14 回日本健康相談学会。日本栄養大学。2007 年 2 月

- ・ 石川フカエ：「学級以外の居場所として保健室を選んだ子ども」の考察 2008年2月 第15日本健康相談学会 千葉大学
- ・ 石川フカエ：「子どもにとって保健室はどのような場所であり養護教諭はどのように映っていたか」－大学生への調査から今回はネガティブな部分に焦点をあて－：第15回日本養護教諭教育学会，札幌北洋大学，2007年11月
- ・ 石川フカエ：「大学生の振り返りから見た保健室観・養護教諭観」，第16回日本養護教諭教育学会，岡山大学，2008年11月
- ・ 石川フカエ・楳直美：「中山間地域における健康支援に関する研究」：第18回日本健康教育学会，東京大学，2009年7月
- ・ 石川フカエ：「広瀬ますの学校教育に与えた影響」第17回日本養護教諭教育学会，弘前大学，2009年11月

### ③過去の主要業績

- ・ 1985年3月 福岡市教育センター公募 教育論文 奨励賞 テーマ「人の魂に揺さぶりをかけ得る性教育具体的方策」
- ・ 1997年3月 福岡市教育センター公募 教育論文 奨励賞 テーマ「豊かにたくましく生き抜く子どもの育成－地域に開かれた保健室経営を通して－」
- ・ 2002年3月 福岡市教育センター公募 教育論文 奨励賞 テーマ「学級崩壊を通過した子どもの考察」
- ・ 2004年 福岡市教育センター公募 教育論文 奨励賞 テーマ「病弱養護学校における日々の健康教育と子どもへの支援の在り方－喘息・肥満と不登校を併せ持つ子どもへの支援を通して－」

### 3. 外部研究資金

- ・ 委託者：文部科学省 研究種別：研究開発 研究課題：「教員免許状更新講習プログラムモデルの開発」交付金：3,000,000円 研究期間：2008年4月～2009年3月
- ・ 資金：九州大学社会人研究奨励費：研究課題「広瀬ますの学校教育に与えた影響」，研究期間，2009年6月～2010年5月，研究助成費150,000円

### 5. 所属学会

日本健康相談活動学会、日本地域看護学会、九州学校保健学会日本公衆衛生学会、日本養護教諭教育学会、日本健康教育学会日本学校保健学会

### 6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、養護概説・2単位・2年・後期、総合演習・2単位・2年・後期、養護実習事前事後指導・1単位・4年前期、養護実習・1単位・4年・前期、総合実習・3単位・4年前期、専門看護ゼミ・2単位・4年前期、卒業研究・2単位・4年後期

### 7. 社会貢献活動

- ・ 「教員免許更新講習の開設・開設日9日間・受講生708人・アンケート結果は良好」
- ・ 平成21年度 福岡市思春期関連協議会 8月・3月開催 福岡市こども総合センター
- ・ 福岡県養護教諭研究会顧問

### 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡市こども未来局主催 留守家庭子ども会 指導員研修会講師 7月 福岡市役所
- ・ 私学協会筑豊地区生徒指導研修会「いじめ対策」 講師 8月 福岡市役所
- ・ 福岡市こども未来局主催 留守家庭子ども会指導員研修会 講師 9月 福岡市役所
- ・ 福岡市こども未来局主催 留守家庭子ども会指導員研修会 講師 11月 福岡市役所
- ・ 九州女子短期大学 養護課程の専攻科「養護実践特論」の前期講義

### 9. 附属研究所の活動等

公開シンポジウム「いじめ問題、今、私にできること」2009年12月

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	夏原 和美
----	---------------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

高校卒業時の進路は美術大学でその後デザイン会社で勤務していたが、インドへ行ったことがきっかけとなり、再び大学で学ぶことにした。2002年東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻博士課程修了。同専攻の人類生態学教室の助手として勤務後、2005年に本学に着任した。

専門は人類生態学である。人類生態学は、人間が環境へ適応する際の多様性・変動性を観察によって明らかにし、多様性の各側面の相互関係性を解明することをめざしている。さまざまなテーマを扱う人類生態学の中で、私は特に、近代化によって変化していく食にまつわる環境と、その変化が人間の健康にどのような影響を与えるかに焦点をあてて研究している。主な調査地域はアジア・オセアニアであり、現在はパプアニューギニアとラオスを中心に研究を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- Natsuhara K, Murayama N, Sasaki S, Kosaka Y. Nutrition and health. An illustrated eco-history of the Mekong river basin edited by Akimichi T. Bangkok, White Lotus. 2009 年
- Murayama N, Natsuhara K, Sasaki S, Kosaka Y. Changes in food and nutrition. An illustrated eco-history of the Mekong river basin edited by Akimichi T. Bangkok, White Lotus. 2009 年
- Furusawa, T., Naka, I., Yamauchi, T., Natsuhara, K., Kimura, R., Nakazawa, M., Ishida, T., Inaoka, T., Matsumura, Y., Ataka, Y., Nishida, N., Tsuchiya, N., Ohtsuka, R., and Ohashi, J. (2009) The Q223R polymorphism in LEPR is associated with obesity in Pacific Islanders. *Human Genetics*, in press.
- 夏原和美、佐々木敏. 第2章 食と栄養転換 論集 モンスーンアジアの生態史—地域と地球をつなぐ—第3巻 くらしと身体の生態史. 弘文堂. 2008 年
- 夏原和美、村山伸子、佐々木敏、小坂康之. 第2部食と健康-2 食と栄養・健康 栄養・健康. 図録メコンの世界—歴史と生態—. 秋道智彌 編. 弘文堂. 2007 年
- 村山伸子、夏原和美、佐々木敏、小坂康之. 第2部食と健康-1 食文化 食環境. 図録メコンの世界—歴史と生態—. 秋道智彌 編. 弘文堂. 2007 年
- Ohashi J, Naka I, Kimura R, Natsuhara K, Yamauchi T, Furusawa T, Nakazawa M, Ataka Y, Patarapotikul J, Nuchnoi P, Tokunaga K, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ohtsuka R. FTO polymorphisms in Oceanic populations. *Journal of Human Genetics*. Volume 52, Number 12. pp1031-1035. 2007 年
- The Lao food book for dietary assessment. Edited by The Lao food book project. Eco-History project Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Japan Niigata University of Health and Welfare, Japan. 2007 年
- 夏原和美. 栄養・食生活＜食事記録調査＞. 東アジア地域の都市化が子どもの健康に及ぼす効果に関する生理人類学的研究 平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書. pp115-137. 2007 年
- 夏原和美. 生活習慣と形態測定値からみた都市の子どもの健康 Child health in an urbanized city from the perspective of lifestyle and anthropometry. 東アジア地域の都市化が子どもの健康に及ぼす効果に関する生理人類学的研究 平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書. pp252-255. 2007 年
- 夏原和美. パプアニューギニア調査地の紹介 4. アサロ地域. ENVRERA パプアニューギニア調査グループ. 環境省 地球環境研究総合推進費プロジェクト「アジア地域における経済発展による環境負荷評価及びその低減を実現する政策研究」ワーキングペーパー NO. 4, P16～P23 2007 年

## ②その他最近の業績

- Natsuhara K., Murayama N, Sasaki S, Nonaka K, Kosaka Y, Phonglusa K, Sithideth D, Luangpraxay C, Vongraseuth N, Mounchalack B, Thongmalayvong B, Phronmala S, Mounsoulisack S, Kounnavong S. Nutritional status of reproductive age women living in three areas of Lao P.D.R. The third National Health Research Forum Laos, Champasak, LAO PDR. 2009 年 10 月
- Murayama N., Natsuhara K., Sasaki S., Kosaka Y., , Phonglusa K., Sithideth D., Luangpraxay C. , Kounnavong S. Nutrition Ecological Study to Improve Maternal and Child Health in Lao PDR. The National Health Research Forum to support the Health Research System Strengthening in Lao PDR. Vientiane, LAO PDR. 2007 年 9 月

## ③過去の主要業績

Natsuhara K., Inaoka T., Umezaki M., Yamauchi T., Hongo T., Nagano M. and Ohtsuka R. Cardiovascular Risk Factors of Migrants in Port Moresby from the Highlands and Island Villages, Papua New Guinea. *American Journal of Human Biology*.12, P.655～P.664 2000 年

## 3. 外部研究資金

研究種目名：トヨタ財団 2008 年研究助成金、研究課題名：ラオスから発信する自然資源食料利用とその未来可能性 ―昆虫に注目した栄養摂取と環境多元性の持続的利用―、研究代表者：立教大学 野中健一

## 5. 所属学会

オセアニア学会、生態人類学会、民族衛生学会、日本衛生学会

## 6. 担当授業科目

人類生態学・2 単位・2 年・前期、看護研究・2 単位・3 年・後期、環境問題と健康問題・2 単位・3, 4 年・前期、国際看護論・2 単位・4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期、日本事情 B・2 単位・留学生・前期、食育学特論・2 単位・大学院 1 年・前期、食育学演習・2 単位・大学院 1 年・後期、ヘルスプロモーション看護学特別研究・通年・8 単位

## 7. 社会貢献活動

福岡県国際交流センター主催「教室から世界をのぞこう」プログラム日本人講師

## 8. 学外講義・講演

- 夏原和美. 教師としての子ども観～アジア・オセアニア地域の子どもの暮らし I・II. 2009 教員免許更新講習, 田川 2009 年 7 月
- 夏原和美. 食卓が変わる、環境が変わる. 福岡県地方自治研究集会, 博多. 2009 年 12 月

## 9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学付属研究所兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	Je-Kan Adler-Collins
----	---------------------	----	-----	----	----------------------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

英国看護師・救急救命士、教育学博士。日本で初めて大学での看護教育にヒーリングカリキュラムを本学看護学部を導入した。また、ヘルスプロモーション実践研究センターにおいて地域住民を対象にしたヒーリング教育を行い、トレーニングを受けたコミュニティセラピストによる地域住民対象にエンドオブライフケアを行う癒しの空間を運営している。研究分野は、教育学。研究テーマは、教育、カリキュラムデザイン、ファカルティディベロップメント、補完・代替療法。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ADLER-COLLINS, J. (2007) How do I know what I know? And do I have the courage to put my knowing into practice? A discourse with the mirror of self. *Education-line, British academic Database University of Leeds*. Document number: 167603:A4:28pages.
- Adler-Collins JK. (2008a) “Open Dialogue”. *Journal of Research Intelligence, British Educational Research association, London*.104:p17-18.
- Adler-Collins JK. (2008b) What is research evidence and what does it look like in today’s university classroom? *British Educational Research Association Annual Conference, Institute of Education, University of Edinburgh, 3-6 September 2008. Education-line, British academic Database University of Leeds*. A4 In press.
- Adler-Collins, J. (2009a) A narrative of my ontological transformation as I develop, pilot, and evaluated a curriculum for the healing and reflective nurse in a Japanese faculty of nursing. *Educational Journal of Living Theories*, 2,1-31.
- Adler-Collins, J. (2009b) Complementary and Alternative therapies in mental health care and treatment: Magic, Myth or Fact? In: Cooper, D, editor. *Care in Mental Health Substance Use. Oxford, Radcliffe Publishing*. In press.

### ②その他最近の業績

- (2007, 単独) Different cultures, different paradigms: Revisiting the question of how lasting is our educational influence for good as our educational ideas spread their influence outside the context of our own culture? 13th Annual Qualitative Health Research Conference. Seoul, Korea, College of Nursing Science, Ewha Womens University, Korea.
- (2007, 単独) How do I know what I know? And do I have the courage to put my knowing into practice? A discourse with the mirror of self. British Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of London, 5-8 September, U.K..
- (2007, 単独) What is the process of critical enquiry and that of becoming critical as a practitioner? ICN International Conference: Nurses at the Forefront: Dealing with the Unexpected. Yokohama, Japan.
- (2008, 単独) What is research evidence and what does it look like in today’s university classroom? British Educational Research Association Annual Conference (英国教育研究学会 2008 年研究大会), Institute of Education, University of Edinburgh, U.K.
- (2008, 単独) A Buddhist approach to mental health and well being. Master class, Bournemouth University, presented under Great Britain Sasakawa Foundation, Dorchester, U.K.

### ＜招聘講演＞

- (2007, 12) Acting White in nurse education, policy and practices: choices facing Asia in the cultural harmonizing of care. The First Asian International Conference on Humanized Health Care. Thailand.
- (2008, 3) Stories as evidence. in the Second International Symposium of Narrative studies, Okayama, Japan.
- (2008, 9) New forms of data representation: E-journals a way forward in presenting qualitative accounts. Poster presentation. BERA Special Interest Group, Practitioner Research Symposium. British

Educational Research Association Annual Conference. Institute of Education, University of Edinburgh, U.K.

- (2008, 9) Ouch! That hurt : A narrative of becoming mindful in cross-cultural nurse education. 7th Qualitative Research Conference, Bournemouth University, Bournemouth, U.K.
- (2008, 9) Mediations in mental health. Holistic inventions in a therapeutic setting. Master class, Bournemouth University, presented under Great Britain Sasakawa Foundation, Dorchester, U.K.
- (2008, 9) Holistic health practices & Health Promotion in the community: empower community workers in healing therapies. Master class, Bournemouth University, presented under Great Britain Sasakawa Foundation, Dorchester, U.K.
- (2008, 9). Health promotion across cultural boundaries. International Nursing Student forum conference. Faculty of Nursing, Khon Kaen University, Thailand.
- (2008,12) Healing and empowerment in education, nursing and community practice. 第28回日本看護科学学会学術集会、福岡市.
- (2009,1) ケアと癒し. 第1回日本統合医療学会阪奈支部大会、大阪市.
- (2009,3) Mind the Future, Te Ao Maramatanga, New Zealand College of Mental Health, The 2nd Biennial International Conference of New Zealand Mental health Nurses. 1-3 April 2009., Wellington. New Zealand.
- (2009,4). Health promotion across cultural boundaries: Integrated research method in End of life care. . International Nursing conference. コンケン大学看護学部, タイ.
- (2009,7) Integrated Nursing, Education and Healing: a way forward. 日本ホリスティックナーシング研究会. 大阪.
- (2009,7) Understanding educational spaces for learning and healing in the classroom. 日本統合医療学会阪奈支部研究会, 大阪.
- (2009,9) Humanized Health Care: Conflicts of power. コンケン大学看護学部, タイ.
- (2009,10) The Second Asian International Conference on Humanized Health Care. 南寧大学看護学部, 中国.
- (2009,10) Standards in Nursing education for Complementary, Alternative Medicine. 日本ホリスティックナーシング研究会, 群馬.

## 5. 所属学会

日本ホリスティックナーシング研究会 教育理事, 日本看護科学学会, 英国教育研究学会

## 6. 担当授業科目

〈学部〉

ヒーリングセラピー・1単位・2年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、ヒーリング論・2単位・1年・後期

〈大学院〉

精神看護学特論・1単位・修士1年・前期、精神看護学演習・2単位・修士1年・後期

## 7. 社会貢献活動

エンドオブライフケアにおけるボランティアナーシング活動、仏教ホスピス、タイ.

## 8. 学外講義・講演

- (2009,7) プラクティカルアロマセラピー ワークショップ. 株式会社アヴァンティ北九州支社主催. 北九州市.
- (2009,10/11/12;2010,1) ベビーマッサージ. 財団法人 熊本市国際交流振興事業団主催, 熊本市.

## 9. 附属研究所の活動等

- 附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター専任教員。
- 東京ヒーリング講習会：月1回の土日、1年コース/田川ヒーリング講習会（毎週水曜日）/各種ヒーリングのワークショップ：(2009,11)フラワーエッセンス, (2010,1)プラクティカルアロマセラピー/癒しの空間（毎週木曜日）

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	小森 直美
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

平成 22 年福岡大学大学院人文科学研究科教育・臨床心理専攻博士課程後期単位取得後退学。  
平成 18 年本学に着任。

現在、地域で療養する人の生活の質を確保しながら、安心・安全な在宅支援を行うことを目的とした研究を行っている。主な研究は、①新入職訪問看護師の育成支援教育研究や、訪問看護ステーションネットワーク構築に関する研究、②療養者の日常生活支援研究である。また、高齢者世帯における介護支援や、重症心身障害児介護の実態調査など、家族支援を目的とする研究も行っている。これらの研究を通して、自宅で暮らしたいと願う療養者を、最後まで支えられる在宅看護ケアの充実に携わっていきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最の著書・論文

〈論文〉

- ・ 小森直美, 小路ますみ, 藤岡あゆみ. (2007). 本学在宅看護実習における対象事例ならびに学生の技術体験に関する実態調査. 福岡県立大学看護学部紀要, 5 号 1 巻, P34-P42.
- ・ 小森直美. (2007). 浴の現象学的研究 (1). 福岡大学大学院論集, 39 巻 2 号, P 1-P14.
- ・ 小路ますみ, 小森直美, 笹尾松美. (2007). 在宅看護実習における学びの構造. 福岡県立大学看護学部紀要, 4 巻 1 号, P10-P18.
- ・ 小路ますみ, 小森直美, 鮎川春美, 馬場文季, 伊藤智美, 若松倫子, 山下真弓, 中園明美, 梅崎八代子, 溝口毅稔, 甲斐祥一. (2007). ALS 人工呼吸器装着者とその家族のための連携施策. 保健師ジャーナル, 医学書院, 63 巻 5 号, P452-P455.
- ・ 小路ますみ, 小森直美. (2007). 訪問看護師の看護技術. 看護学生, メディカ出版, 55 巻 5 号, P40-P41.
- ・ 小森直美, 藤岡あゆみ, 小路ますみ. (2008). 看護学生の感動体験の考察と, その思考過程の検討ー在宅看護実習後のレポートからー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 6 (1), 47-54.
- ・ 小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ, 宮田喜代志, 川浪康男, 中山みどり, 北山后子. (2008). 看護職・他部門間のコミュニケーション・リスクの構造. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5 (2), 61-65.
- ・ 朝部明美, 木村由美, 松田有紀, 小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ. (2008). 在宅重症心身障害児支援に必要な職種間の統合ケアマネジメント. 第25回筑豊地区看護研究発表会集録集, 第25回, 20-24.
- ・ 山口由加里, 縄田真理, 森下美穂, 熊井章乃, 上野マツ枝, 溜渕裕美, 西裕美, 小森直美, 小路ますみ, 藤岡あゆみ. (2008). 術後せん妄の発生予防介入ケアの考察ー患者指導実施の前後比較検討からー. 福岡県看護学会集録集, 第8回, 193-196.
- ・ 小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ. (2009). 医療依存度の高い在宅重症心身障害児の支援に関する研究ー保健師・訪問看護師の支援活動の転機から捉えた母親の障害受容過程ー. 第39回日本看護学会論文集地域看護, 149-150.
- ・ 小森直美. (2009). 看護における「浴」の研究 (1). 福岡大学大学院論集, 41 巻 1 号, 1-14.
- ・ 小森直美. (2009). 看護における「浴」の研究 (2). 福岡大学大学院論集, 41 巻 1 号, 15-19.

### ②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ 小森直美, 小路ますみ, 笹尾松美. (2007). 在宅看護実習における学びの構造. 第11回日本在宅ケア学会, 埼玉.
- ・ 原口有紀, 小路ますみ, 小森直美. (2007). 通所リハビリテーションにおける介護職員の事故報告書の分析. 第38回日本看護学会, 和歌山.



- ・ 朝部明美, 木村由美, 小森直美, 藤岡あゆみ, 小路ますみ. (2007). 訪問看護における在宅療養者・家族への看護の要因—利用者・家族の満足度アンケートの分析結果から—. 第24回筑豊地区看護研究発表会, 飯塚.
- ・ 小森直美. (2008). 高齢者の「運動器の機能向上」に関する諸問題—介護認定審査員のグループ・フォーカス・インタビューより—. 第12回日本在宅ケア学会学術集会, 東京.
- ・ 小森直美. (2008). 訪問看護ステーションにおける新入職看護師の育成支援に関する諸問題, 第34回日本看護研究学会学術集会, 兵庫.
- ・ 豊福麻紀, 矢川京子, 三村京子, 高橋幸子, 西裕美, 小森直美, 藤岡あゆみ, 小路ますみ. (2008). 病棟看護師の訪問看護留学における在宅看護の学び, 第39回日本看護学会学術集会看護教育, 岐阜.
- ・ 小森直美, 小路ますみ, 藤岡あゆみ. (2008). 在宅看護実習における経験型実習指導の問題点と解決策の検討. 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡.
- ・ 山口由加里, 縄田真理, 森下美穂, 熊井章乃, 上野マツ枝, 溜渕裕美, 西裕美, 小森直美, 小路ますみ, 藤岡あゆみ. (2008). 術後せん妄の発生予防介入ケアの考察—患者指導実施の前後比較検討から—. 第8回福岡県看護学会, 福岡.
- ・ 小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ, (2008). 医療依存度の高い, 在宅重症心身障害児の支援に関する研究—保健師・訪問看護師の支援活動の転機から捉えた母親の障害受容過程—, 第39回日本看護学会地域看護, 静岡.
- ・ 宮城陽輔, 小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ. (2008). 統合失調症患者の気分変動を起こす要因, 第39回日本看護学会学術集会精神看護, 兵庫.
- ・ 新開博, 小路ますみ, 小森直美. (2008). 介護度が高い独居高齢者の生活を支える要因—独居療養者の訪問事例から—. 第39回日本看護学会学術集会地域看護, 静岡.
- ・ 井上麻衣子, 小路ますみ, 小森直美, 藤岡あゆみ. (2008). 高齢者に対する介護予防事業の効果的運営に関する考察—老人会と密着したデイサービス事業を通して—第39回日本看護学会学術集会地域看護, 静岡.
- ・ 真子めぐみ, 小路ますみ, 小森直美. (2008). 訪問看護師が療養者と信頼関係を築くための留意点. 第39回日本看護学会学術集会地域看護, 静岡.
- ・ 清水麻央, 小路ますみ, 小森直美. (2008). 高齢者を在宅で看取る家族の心理的過程—事例考察から—, 第39回日本看護学会学術集会地域看護, 静岡.
- ・ 小森直美. (2009). 訪問看護ステーション管理者からみる新入職訪問看護師の育成支援実態と課題. 第35回日本看護研究学会学術集会, 横浜.
- ・ 三村由江, 矢川京子, 豊福麻紀, 西裕美, 小森直美. (2009). 第9回福岡県看護学会, 福岡.

### ③過去の主要業績

小森直美, 園田めぐみ, 安河内清子「ラジオ体操カードの仕組みを利用したオリジナルのリハビリカードを作成して」メディカ出版, 整形外科看護 9巻11号, 平成16年, P.40—P.44

### 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C), 「訪問看護ステーションにおける新入職看護師の育成支援ツール開発に関する研究」、290万円、平成20年度～平成22年度、共同研究(研究代表者: 小森直美)

### 5. 所属学会

日本看護科学学会員、日本看護研究学会員、日本在宅ケア学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護協会会員

### 6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、在宅看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、在宅看護論Ⅱ・1単位・3年・通年、在宅看護実習・2単位・3年・通年、総合実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

在宅看護学特論・2単位・修士・1年・前期、在宅看護学演習・2単位・修士・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県福岡市介護認定審査会・審査委員
- ・ 芦屋町立中央病院における看護研究指導講師

8. 学外講義・講演

筑豊ブロック看護生涯教育研修会「在宅看護の展望」講師、平成22年2月13日

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 文科省大学連携事業「ケアリング・アイランド九州沖縄構想」戦略連携室

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	山下 清香
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

行政の保健師の活動を主な研究のテーマとし、現在は、保健師の生活習慣病予防活動を中心に研究している。また、住民参加やエンパワーメント、地域ケアシステム、保健師の教育についても関心を持っている。行政で働く保健師との関わりを大切にしながら、地域における住民の生活と、行政で働く保健師の視点や判断、援助内容などの実態を明らかにしたい。そこから実践に役立つ保健師の活動方法や活動技術について考え、保健師の専門性を探求していきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

- ・ 山下清香、第3部第1章セルフマネジメントを促すためのアセスメントと看護支援方法、安酸史子・奥祥子編著、患者が見える成人看護の実践、メディカ出版、134-142、2007年
- ・ 尾形由起子、山下清香、松浦賢長、児童生徒と保護者の薬物認識状況と薬物乱用防止教育のあり方、福岡県立大学看護学部紀要（2008）第5巻第1号
- ・ 尾形由起子、鎌田久美子、野口久美子、山下清香、地域看護実習に関する意見交換会—大学と現場が実習のあり方をともに考える—、保健師ジャーナル（2008）、Vol.64（5）
- ・ 山下清香、全国保健師教育機関協議会九州ブロック（2007）、平成18年度保健師教育検討委員会報告書「保健師教育の現状と課題」
- ・ 山下清香、尾形由起子、野見山美和、野口藍子（2008）、（平成18～19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究報告書「生活習慣病対策における市町村支援活動モデルの開発—保健師エンパワーメントモデル—」
- ・ 尾形由起子、山下清香、野見山美和、野口藍子、水巻町保健師（2008）、「平成19年度地域の老健ヘルス等との連携のためのモデル事業報告書」、福岡県保険者協議会
- ・ 尾島俊之、東美鈴、齋藤明子、坂上久子、佐々木峰子、中板育美、西内千代子、三好ゆかり、山下清香、日本看護協会（2008）、平成19年度先駆的保健活動交流推進事業「生活習慣病予防活動支援モデル事業報告書」、日本看護協会事業開発部
- ・ 鳩野洋子、尾形由起子、山下清香、佐藤富子他9名、厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）分担研究報告「市町村における特定保健指導の質の管理ガイドラインの開発」（2009）。

### ②その他最近の業績

- ・ Yamashita K、Imamura T、Kanetake K、Kusaka M、Matsuo K、Nagahiro C、Nahara H、Ogata Y、Oki T、Takaki M、Takekuma C、Tanaka M、Toyoshima Y、Uezono S.（2007）、Nursing Teachers' Thoughts on the Integrated Four-Year Curriculum at Nursing Universities in Japan . The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing. Korea
- ・ 西谷美鈴、大久保幸子、山下清香、尾形由起子（2007）、「軽度発達遅延が発見された母子が継続支援につながるまでの関り」、2007年度福岡県公衆衛生学会、福岡市
- ・ 尾形由起子、山下清香、野口藍子、野見山美和、野中多恵子、戎井まりこ、荒木小百合、内田圭、野口久美子（2007）、地域完結型特定健診・特定保健指導の構築にむけての保健指導方法の検討、日本公衆衛生学会、福岡市
- ・ 野中多恵子、野口久美子、荒木小百合、戎井まりこ、内田圭、野口藍子、山下清香、尾形由起子（2008）、生活習慣病予防ケアシステム構築における行政統括保健師の活動視点、日本公衆衛生学会、福岡市

### ③過去の主要業績

- ・ 修士論文「経過観察児の母親のエンパワーメントに関する研究—乳幼児健診のフォロー事業の

参加者を通して一」(2005 年)

- ・ 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「総合的な地域保健サービスの提供体制に関する研究」研究報告書「広域的障害児(者)ケアシステムの構築について」(2005 年)．熊谷仁人，井伊久美子，古庄しおり，坂東一仁，村上政江，西垣悦代，荻野明美，田中明美，森本幸子，維田宏美，二位ゆかり，佐藤八千代，山下清香
- ・ 「平成 17 年度地域保健総合推進事業：市町村保健活動体制強化に関する検討会」報告書(2006 年)．有原一江，安齋由貴子，伊井久美子，右京信治，尾崎米厚，山下清香他 6 名．

### 3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 C)、「地域虚弱高齢者の介護予防的コミュニティ構築に関する研究」，平成 19 年度～平成 20 年度，共同研究

### 5. 所属学会

日本地域看護学会,日本公衆衛生学会,日本看護科学学会,日本看護研究学会,日本糖尿病教育・看護科学学会

### 6. 担当授業科目

地域看護論Ⅰ(2 単位, 2 年後期)，地域看護論Ⅱ(1 単位,3 年通年)，地域看護実習Ⅱ(2 単位, 3 年通年)，健康教育論(2 単位, 3 年前期)，総合実習(3 単位, 4 年前期)専門看護ゼミ(2 単位: 4 年前期)，地域看護実習Ⅲ(3 単位, 4 年後期)卒業研究(2 単位: 4 年後期)地域看護特論(2 単位, 修士1年, 前期)，地域看護特論演習(2 単位, 修士1年, 後期)

### 7. 社会貢献活動

- ・ 日本看護協会「特定保健指導コンサルテーションモデル事業検討委員会」委員
- ・ 築上町「食育推進計画策定協議会」委員
- ・ 福岡県田川保健所「感染症の審査に関する協議会」委員
- ・ 田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員

### 8. 学外講義・講演

- ・ 京築ブロック地域保健師研究協議会講師「公衆衛生とこれからの保健師活動について考えよう」2009 年 4 月
- ・ 福岡県立東鷹高等学校出前講義「大学で看護を学ぶこと」2009 年 6 月．
- ・ 教員免許更新講習講師「ヘルスプロモーションと地域看護」2009 年 8 月
- ・ 福岡県立大学看護実践教育センター糖尿病認定看護師教育課程講師「指導計画案の作成」2009 年 8 月
- ・ 朝倉市健康づくり推進研修会講師「地域の健康づくりを考えましょう」2009 年 8 月

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 源流塾「オタワ憲章からみたヘルスプロモーション」企画実施(2009 年 12 月:福岡県立大学)，講師：福岡県立大学看護学部教授松浦賢長先生
- ・ 源流塾「地域活動の活性化とヘルスプロモーション-住民主体のメタボリックシンドローム予防活動-」企画実施(2009 年 12 月福岡県立大学)，講師：福岡女学院看護大学教授松尾和枝先生

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	山崎 律子
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2009年、本学に着任。在宅看護領域の研究では、在宅ケアシステムを構築することを主題とした研究を行っている。主には、家族の介護負担に関する研究や在宅看護に関わる看護職の質および量の確保に関する研究を行っている。今後は、病気になっても自宅で過ごしたいと願う人々が安心して健康的な生活が送れるよう、退院前および退院直後の療養者、家族の状況を明らかにする研究を行っていく。並行して、現在行っている在宅および地域看護の発展に寄与したナイチンゲールに関する研究を継続して行う。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 山崎律子. (2007). 看護職の形成—ナイチンゲールの看護観に基づいて. 聖マリア学院大学紀要, 21, 17-23.
- ・ 豊島泰子, 山崎律子, 鷺尾昌一. (2008). 在宅看護論実習における感染予防教育の実践. 聖マリア学院大学紀要, 22, 49-56.
- ・ 豊島泰子, 鷺尾昌一, 山崎律子, 今村桃子. (2009). 在宅看護における学生の感染予防に対する知識. 聖マリア学院大学紀要 23, 49-56.
- ・ 山崎律子, 今村桃子, 中柳美恵子. (2009). 地域看護学における健康教育の演習方法の検討-学生の学びの分析より-. 日本看護学教育学会誌, 19(2), 33-39.

### ②その他最近の業績

<学会報告>

- ・ 山崎律子. (2007). ナイチンゲールの看護における「三つの関心」の変遷. 第21回日本看護歴史学会, 京都.
- ・ Yasuko Toyoshima, Ritsuko Yamasaki, Mieko Nakayanagi, Masakazu Washio (2007). An education effect on the knowledge of Japanese nursing students about infection control during home nursing practicum. The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, Korea.
- ・ 豊島泰子, 鷺尾昌一, 山崎律子, 今村桃子. (2007). 感染予防に対する看護学生の知識の調査. 第27回日本看護科学学会, 東京.
- ・ 山崎律子, 今村桃子, 中柳美恵子. (2008). 地域看護学における健康教育の演習方法の検討—学生の学びの分析より—. 第28回日本看護学教育学会, 茨城.
- ・ 山崎律子. (2008). ナイチンゲールにおける「関心」の意味. 日本看護科学学会, 福岡.
- ・ 豊島泰子, 鷺尾昌一, 山崎律子, 今村桃子. (2008). 在宅看護実習における感染予防教育前後の学生の知識と意識. 第28回日本看護科学学会, 福岡.
- ・ 上坂良子, 山崎律子. (2009). 「大日本看護婦教会」について R.B.トイスラーとの接点とその後. 日本看護歴史学会, 東京.

### ③過去の主要業績

- ・ 山崎律子, 鷺尾昌一, 荒井由美子, 井手三郎. (2005). 大都市における訪問看護サービス利用者の公的サービスの利用と介護者の負担感(抑うつ状態)-福岡市の訪問看護ステーションの調査より—. 臨床と研究, 81(1), 115-119.
- ・ 山崎律子, 豊島泰子, 今村桃子. (2006). 在宅支援の看護に関する現任教育の効果. 聖マリア学院紀要, 20, 55-59.
- ・ 山崎律子. (2007). ナイチンゲールの看護婦訓練に関する一考察. 福岡大学大学院修士論文.

**5. 所属学会**

日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本看護歴史学会、日本疫学会、日本看護管理学会、KOMI 理論学会、日本看護協会、日本訪問看護振興財団、各会員

**6. 担当授業科目**

在宅看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、在宅看護論Ⅱ・1単位・3年・通年

**9. 附属研究所の活動等**

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	手島 聖子
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2000 年から乳幼児健康診査を通した養育者の育児ストレスと育児支援システムについて研究を進めています。本研究は、乳幼児虐待問題という最も先鋭化されたかたちで現れている子育ての危機の内実とその援助のあり方を、乳幼児健康診査を手がかりにしながら理論面と実践面での両面からのアプローチを目指したものです。具体的には、養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、心理的・社会的に困難な状況におかれている養育者の育児不安や育児ストレスを早期に把握するための調査を実施しています。作成した尺度の有用性や育児不安の縦断的变化についての検討、養育者へのインタビューなどから、母子保健システムに虐待の視点を取り入れた多層的な育児支援システムのあり方について考察しています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 手島聖子. (2007). 乳幼児健康診査を通した育児ストレス調査：育児ストレス尺度の信頼性と交差妥当性の検討. 家庭教育研究所紀要, 29, 77-83.
- ・ 安田貴恵子, 御子柴裕子, 小林理恵子, 酒井久美子, 嶋澤順子, 和光由起, 手島聖子. (2008). 山間地域の診療所における看護師の役割：一診療所の外来受診者と看護師に対する調査から. 長野県看護大学紀要, 10, 89-100.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Yasuda, K., Mikoshiba, Y., Kobayashi, E., Wako, Y., Teshima, S., Sakai, K., Kitahara, K. (2007). A SURVEY OF OUTPATIENTS FOR EVALUATING NURSING PRACTICES IN A RURAL CLINIC. ICN CONFERENCE 2007(CD-ROM 版), 演題番号 138 (於横浜).

### ③過去の主要業績

- ・ 手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について. (財) 安田生命社会事業団 2001 年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・ 手島聖子. (2003). 乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・ 手島聖子, 原口雅浩. (2004). 育児不安の構造. 久留米大学心理学研究, 3, 83-88.

## 5. 所属学会

日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本地域看護学会, 日本心理学会, 日本発達心理学会

## 6. 担当授業科目 (補助)

地域看護論Ⅰ・2単位・2年・後期, 養護概説・2単位・2年・後期, 総合演習・2単位・2年・後期

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	檜橋 明子
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2001 年 3 月、兵庫県立看護大学卒業。保健師として福岡県京築保健所(現京築保健福祉環境事務所)に勤務。他大学での助手を経て 2009 年本学に着任した。

主な研究分野は、保健師活動・保健師教育・災害看護活動である。「誰もが、安心して暮らせるための地域づくり」をキーワードに、保健師としてどのように活動していけばよいか、地域で災害時の備えをどのように行うことで安心して暮らせる地域づくりができるか、また、そういった活動ができる保健師になるための教育はどうすればよいかということを考えていきたい。

## 2. 研究業績

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 田中知己、中谷裕美、富井智重、駒田知子、間村優子、谷林真寿美、堂田正美、保杉弘美、広畑元美、牛尾裕子、岩佐真也、檜橋明子。(2007). 資源の乏しい地域での療育体制整備における保健所保健師及び市保健師の役割. 平成 17・18 年度兵庫県立大学看護学部共同研究発表会.
- ・ 伊東愛、牛尾裕子、岩佐真也、檜橋明子、井伊久美子。(2007). 地域看護実践能力育成に向けた教員と現地指導保健師との共同による実習指導方法の開発(第 1 報)～実習の共同企画における要件～. 第 10 回日本地域看護学会.
- ・ 岩佐真也、牛尾裕子、伊東愛、檜橋明子、井伊久美子。(2007). 地域看護実践能力育成に向けた教員と現地指導保健師との共同による実習指導方法の開発(第 2 報)～実習後のアンケート結果から～. 第 10 回日本地域看護学会.
- ・ 檜橋明子、牛尾裕子、岩佐真也、伊東愛、井伊久美子。(2007). 地域看護実習における大学と現地保健師との共同～実習終了後の会議を通して～. 第 66 回日本公衆衛生学会.
- ・ 牛尾裕子、岩佐真也、伊東愛、檜橋明子、井伊久美子。(2007). 地域看護実践能力育成に向けた教員と現地指導保健師との共同による実習指導方法の開発～実習を受け入れた施設側の現状・課題と教員の実習指導役割に対する評価～. 平成 19 年度兵庫県立大学研究発表会.
- ・ 牛尾裕子、渡邊智恵、田村須賀子、伊東愛、檜橋明子、岩佐真也、井伊久美子。(2008). 自然災害時の被災地看護専門職支援における課題. 第 11 回日本地域看護学会
- ・ 岩佐真也、牛尾裕子、松田宣子、岩本里織、柏葉三千子、菅野夏子、富永真己、大井美紀、伊東愛、檜橋 明子。(2008). 県内保健所、保健センターにおける地域看護実習指導の現状と保健師の認識(第 1 報). 第 67 回日本公衆衛生学会.
- ・ 檜橋明子、牛尾裕子、松田宣子、岩本里織、柏葉三千子、菅野夏子、富永真己、大井美紀、伊東愛、岩佐真也。(2008). 県内保健所、保健センターにおける地域看護実習指導の現状と保健師の認識(第 2 報). 第 67 回日本公衆衛生学会.
- ・ 牛尾裕子、伊東愛、檜橋明子、岩佐真也、松田宣子、藤原恵美子。(2008). 大学間共同・大学自治体間共同による地域看護実習指導者研修の試み～学士過程保健師教育における臨地実習指導体制づくりモデルの作成～. 平成 20 年度兵庫県立大学研究発表会.
- ・ 牛尾裕子、安藤継子、檜橋明子。(2009). 学士看護基礎教育卒業時に求める実践能力に関する行政保健師の認識についての一分析. 第 68 回日本公衆衛生学会.

〈報告書〉

- ・ 田中知己、中谷裕美、富井智重、駒田知子、間村優子、谷林真寿美、堂田正美、保杉弘美、広畑元美、牛尾裕子、岩佐真也、檜橋明子。(2007). 資源の乏しい地域での療育体制整備における保健所保健師及び市保健師の役割. 平成 17・18 年度兵庫県立大学看護学部共同研究報告書, 57～77.
- ・ 伊東愛、檜橋明子。(2009). 本学教員における災害看護支援活動の調整～新潟中越沖地震 (2007



年7月16日)への本学教員の派遣調整活動.兵庫県立大学大学院看護学研究科 21世紀COEプログラム ユビキタス社会における災害看護拠点の形成 看護専門家支援ネットワークプロジェクト活動 (平成15～19年度)27-30.

### ③過去の主要業績

〈学会発表〉

- ・ 大塚純子、檜橋明子. (2004). 特定疾患患者へのアンケート. 第63回日本公衆衛生学会.
- ・ 牛尾裕子、長通貴子、小川和江、伊東愛、岩佐真也、檜橋明子、井伊久美子、白石都、坪井志保美. (2006). 大規模台風災害発生時の市町保健師の対応. 第65回日本公衆衛生学会.

### 5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本災害看護学会

### 6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

看護への招待・1単位・1年・前期、地域看護論Ⅰ・2単位・2年・後期、養護概説・2単位・2年・後期、地域看護論Ⅱ・1単位・3年・前期、健康教育論・2単位・3年・前期、地域看護実習Ⅱ・2単位・3年・通年、地域看護実習Ⅲ・3単位・編入4年・後期

### 7. 社会貢献活動

- ・ 日本災害看護学会 ネットワーク活動・調査調整部 メンバー
- ・ 日本ALS協会 福岡県支部 運営委員

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	野口 藍子
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

現在「在宅ケアシステム構築に向けた保健師の果たす役割」について研究している。

近年、わが国では高齢化社会の対策として、平均在院日数の短縮等を通じた医療費の適正化、療養病床の再編成をすすめていることから、より一層の在宅医療・介護提供体制の量的・質的充実が求められる。特に在宅医療を推進していく中で、がん患者は医療依存度が高く病状の急変・長期化が考えられるため、24 時間ケアシステムを構築していくことが必要である。また、在宅で最期を希望する対象が自宅で安心して過ごせるよう、在宅医療を整備することは患者・家族の QOL 向上のためにも重要であるため「在宅ケアシステム構築」に向けた医療者の役割、課題を明らかにしていきたい。

## 2. 研究業績

### <学会報告>

- ・ 野口藍子、尾形由起子、山下清香、鎌田久美子、森松薫、篠原由紀子：福岡県における在宅療養者を支える社会資源の分布・機能の比較検討，第 68 回公衆衛生学会発表（奈良），平成 21 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，56(10)，p604）。
- ・ 野口藍子、荒巻初子、鎌田久美子、篠原由紀子、尾形由起子：福岡県における訪問看護推進支援モデル事業の事例分析から見た今後の課題，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p377）。
- ・ 戎井まりこ、荒木小百合、内田圭、野口久美子、尾形由起子、山下清香、野口藍子、野見山美和、野中多恵子：福岡県保険者協議会の生活習慣病予防モデル事業を実施して，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）。
- ・ 尾形由起子、野口久美子、荒木小百合、戎井まりこ、内田圭、野中多恵子、野口藍子、野見山美和、山下清香：地域完結型特定健診・特定保健指導の構築にむけての保健指導方法の検討，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）。
- ・ 内田圭、荒木小百合、戎井まりこ、野口久美子、尾形由起子、山下清香、野口藍子、野見山美和、野中多恵子：特定健診・特定保健指導の受診率及び保険指導受診率アップの取り組み，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）。
- ・ 野中多恵子、野口久美子、荒木小百合、戎井まりこ、内田圭、野口藍子、山下清香、尾形由起子：生活習慣病予防ケアシステム構築における行動統括保健師の活動視点について，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p344）。
- ・ 篠原由紀子、荒巻初子、尾形由起子、野口藍子、鎌田久美子：訪問看護の機能拡充による在宅医療推進の可能性～24 時間体制維持に必要な因子の考察～，第 67 回公衆衛生学会発表（福岡市），平成 20 年 10 月，抄録（日本公衆衛生雑誌，55(10)，p377）。

## 4. 受賞

第 68 回公衆衛生学会 学会賞受賞

## 5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護協会会員

## 6. 担当授業科目（補助）

### <学部>

基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期，地域看護論Ⅰ・2 単位・2 年・後期，健康教育論 2 単位・3 年・前期，地域看護論・1 単位・3 年通年，地域看護実習Ⅱ・2 単位・3 年通年，地域看護実習Ⅲ・3 単位・編入 4 年・後期

## 8. 学外講義・講演

荏田小学校・出前講義「禁煙教育」講師、2009 年 3 月 9 日

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	野見山 美和
----	---------------------	----	----	----	--------

## 1. 主な研究分野

私は、親の子どもに与える影響について興味を抱いていました。そこで現在は「子どもの生活習慣および肥満傾向と保護者の影響」をテーマに研究をしています。具体的には、親の生活習慣や親が子に食事を与える行為に着目し、それが子どもの生活習慣や食習慣、布いては子どもの肥満傾向へどのような影響があるのかを調査し、それをもとに親子での取り組みのあり方を検討することを目的としています。

## 2. 研究業績

### ①著書・論文

〈報告書〉

- ・ 戎井まりこ, 荒木小百合, 内田圭, 野口久美子, 尾形由起子, 山下清香, 野口藍子,
- ・ 野見山美和, 野中多恵子. (2008). 福岡県保険者協議会の生活習慣病予防モデル事業を実施して. 第67回日本公衆衛生学会 (福岡市). 平成20年11月6日
- ・ 戎井まりこ, 荒木小百合, 内田圭, 野口久美子, 尾形由起子, 山下清香, 野口藍子,
- ・ 野見山美和, 野中多恵子. (2008). 地域完結型特定健診・特定保健指導の構築に向けての保健指導方法の検討. 第67回日本公衆衛生学会 (福岡市). 平成20年11月6日
- ・ 戎井まりこ, 荒木小百合, 内田圭, 野口久美子, 尾形由起子, 山下清香, 野口藍子,
- ・ 野見山美和, 野中多恵子. (2008). 特定健診・特定保健指導の受診率及び保健指導受診率アップの取り組み. 第67回日本公衆衛生学会 (福岡市). 平成20年11月6日
- ・ 戎井まりこ, 荒木小百合, 内田圭, 野口久美子, 尾形由起子, 山下清香, 野口藍子,
- ・ 野見山美和, 野中多恵子. (2008). 生活習慣病予防ケアシステム構築における行政統括保健師の活動視点について. 第67回日本公衆衛生学会 (福岡市). 平成20年11月6日

### ②その他の業績

## 5. 所属学会

日本公衆衛生学会

## 6. 担当授業科目 (補助)

基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年前期, 総合演習・2単位・2年後期, 健康教育論・2単位・3年前期, 地域看護論Ⅰ・2単位・2年後期, 地域看護論Ⅱ・1単位・3年と編入4年通年, 地域看護実習Ⅱ・2単位・3年通年, 地域看護実習Ⅲ・3単位・編入4年後期, 教養演習・1単位・1年前期, 用語概説・2単位・2年後期, 総合演習・2単位・2年後期

## 7. 社会貢献活動

田川市鎮西地区育成会活動英彦山キャンプ救護班

田川市鎮西小学校6年生薬物予防教室、学生ボランティアアドバイザー、2010年2月22日

田川市鎮西小学校5年生禁煙教室、学生ボランティアアドバイザー、2010年2月23日

## 8. 学外講義・講演 (補助)

平成21年度教員免許状更新予備講習 (準備・講習補助)

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	樋口 善之
----	---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2003 年 4 月、本学看護学部地域看護学講座助手に着任。2009 年 4 月より同学部ヘルスプロモーション看護学系助手。現在、健やか親子 21 の推進に関する研究、特に第 2 回中間評価にむけた思春期領域の指標に関する調査・研究をおこなっている。また、産業保健人間工学に関する研究をしている。具体的には、腰痛症の重症度評価に関する研究、介護労働現場の快適な作業環境づくりに関する研究などを行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 山岡清美, 池田愛美, 神寶尋子, 田辺美由紀, 田堀有希, 野間裕子, 伊藤多恵子, 増本綾子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「マタニティマークが妊娠初期の妊婦に与える安心度に関する研究」『大阪母性衛生学会雑誌』43 (1), 2007 年
- 稲富菜月, 井村梓, 前洋子, 谷口恵梨, 辻絵美, 野間裕子, 伊藤多恵子, 増本綾子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「妊娠線の受容と配偶者からの精神的支援への評価に関する研究」『大阪母性衛生学会雑誌』43(1), 2007 年
- 松浦甘奈, 山下真理子, 村田佐登美, 樋口善之, 松浦賢長「継続受け持ち制と助産師指名制度に関する研究」『大阪母性衛生学会雑誌』43(1), 2007 年
- 富樫沙緒里, 掛谷由美, 濱中絵梨香, 横田真代, 野間裕子, 伊藤多恵子, 増本綾子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「閉経後世代における月経の受容」『大阪母性衛生学会雑誌』43(1), 2007 年
- Mazloun A, Kumashiro M, Izumi H, Higuchi Y. 「Quantitative overload: a source of stress in data-entry VDT work induced by time pressure and work difficulty」『Industrial Health』46(3), 2008 年
- Konishi K, Kumashiro M, Izumi H, Higuchi Y. 「Effects of the menstrual cycle on working memory: comparison of postmenstrual and premenstrual phases.」『Industrial Health』46(3), 2008 年
- 松浦甘奈, 座光寺美鈴, 村田佐登美, 樋口善之, 松浦賢長「母体搬送となった妊婦のパートナーの精神健康度に影響する因子」『大阪母性衛生学会雑誌』44 (1), 2008 年
- 伊東真理子, 北居由佳理, 霜村明子, 甚野花奈, 角谷美智子, 長田加洋子, 野間裕子, 小川知, 増本綾子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「妊産婦用食事バランスガイドの認知度・活用度と妊娠中の体重増加の関連性」『大阪母性衛生学会雑誌』44 (1), 2008 年
- 曾根祐子, 太田有紀, 瀬口のぶえ, 中村敦子, 三木弘美, 増本綾子, 小川知, 野間裕子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「産後の禁煙継続と最喫煙に関与する因子」『大阪母性衛生学会雑誌』44 (1), 2008 年
- 津川美樹, 安藤英美, 木下真美, 木戸奈穂巳, 朴明美, 小川知, 野間裕子, 増本綾子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長, 内田克彦, 黒木透, 平野剛「お産満足度に影響する「助産師の指導・対応」に関する研究」『大阪母性衛生学会雑誌』44 (1), 2008 年
- 倉田真由美, 宮田久枝, 樋口善之, 松浦賢長「高校生・大学生におけるダイエットと自己肯定感との関連に関する研究」『母性衛生』49 (4), 2009 年
- 渡辺めぐみ, 樋口善之, 松浦賢長「母子分離状態における母親の搾乳回数・搾乳量と産後 1 ヶ月の時の栄養法との関連」『母性衛生』50 (1), 2009 年
- 寺西愛美, 飯田景子, 奥山敬子, 新谷夏紀, 田中好子, 内藤綾香, 小川知, 野間裕子, 増本綾子, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「赤ちゃんポストに対する考え方と育児経験との関連性」『大阪母性衛生学会雑誌』45 (1), 2009 年
- 西藤茜, 生田貴恵, 河内茉莉, 三谷由佳, 山住千尋, 増本綾子, 野間裕子, 小川知, 倉本孝子, 樋口善之, 松浦賢長「月経に対する「慣れ」・相談相手の有無と心理・社会的因子との関連」『大阪母性衛生学会雑誌』45 (1), 2009 年
- 出原麻悠, 小澤彩香, 勝間洋江, 小林茜, 鈴木幸, 野間裕子, 小川知, 増本綾子, 倉本孝子, 内田美智子, 岩田美紀, 増永啓子, 河野洋子, 川崎純子, 高島ゆかり, 市川香織, 樋口善之,

松浦賢長「飛び込み出産産婦のケアに対する助産師の認識」『大阪母性衛生学会雑誌』45  
(1), 2009 年

- Konishi Kiyomi, Kumasiro Masaharu, Izumi Hiroyuki, Higuchi Yoshiyuki, Awa Yayoi 「Effects of the Menstrual Cycle on Language and Visual Working Memory: A Pilot Study」『Industrial Health』47(5), 2009 年

## ②その他最近の業績

- Yoshiyuki Higuchi, Hiroyuki Izumi, Hidenori Togami, Masahiro Hashimoto, Akinori Sato, Hiroyuki Komad, Masaharu Kumashiro 「Method of Quantitative analysis of Occupational low back pain in manufacturing」, The Eighth Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics(Bangkok, Thailand), 2007 年 10 月.
- 樋口善之, 仁木雪子, 笠井直美, 丸岡里香, 加藤千恵子, 小林八重子, 佛圓和子, 光本朱實, 濱龍彦, 米光真由美, 内田美智子, 渡辺多恵子, 鈴木茜, 山田七重, 松浦賢長, 山縣然太郎, 「健やか親子 21<思春期の保健対策の強化と健康教育の推進>における指標の見直しに関する研究」『厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 健やか親子 21 を推進するための母子保健事業の里活用および思春期やせ消防士のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究』2008 年
- 樋口善之, 松浦賢長, 山縣然太郎「健やか親子 21<思春期の保健対策の強化と健康教育の推進>における新たな指標のベースライン値に関する研究」『厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業) 健やか親子 21 を推進するための母子保健事業の里活用および思春期やせ消防士のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究』2008 年

## ③過去の主要業績

樋口善之, 松浦賢長「自己肯定感の構成概念及び自己肯定感尺度の作成に関する研究」『母性衛生』43(4), 2002 年

樋口善之, 松浦賢長「新たに作成した自己肯定感尺度の妥当性と信頼性に関する研究」『母性衛生』43(4), 2002 年

## 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金(若手 B)、「快適な介護労働環境の構築に関する研究」、1,560,000 円(平成 21 年度)、平成 21~22 年度。

## 5. 所属学会

日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会(幹事)

## 6. 担当授業科目(補助)

情報処理演習(補助)・2 単位・1 年・前期、疫学・保健統計学(補助)・2 単位・2 年・前期、ヘルスプロモーション論(補助)・2 単位・2 年・後期

## 8. 学外講義・講演

筑豊市民大学「パソコンゼミ」世話役、2009 年度

## 9. 附属研究所の活動等

平成 21 年度「大学教育充実の為に戦略的大学連携支援プログラム」“看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想”ワーキングメンバー、平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム」“不登校・ひきこもりへの援助力養成教育”ワーキングメンバー

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	渡辺 美加
----	---------------------	----	----	----	-------

#### 1. 教員紹介・主な研究分野

2000 年看護学校卒業、10 年間臨床で勤務する。2009 年、本学に着任する。

現在、訪問看護ステーション間および病院等医師間連携モデル構想について研究をおこなっている。本研究は、訪問看護ステーションの課題ベースの構想であり、この構想が進むことによって、訪問看護ネットワークという療養者が疾患をもちながらも暮らしやすい地域づくりに発展することを目的としたものである。

#### 6. 担当授業科目（補助）

在宅看護論Ⅰ・2 単位・2 年・後期、在宅看護論Ⅱ・1 単位・3 年・通年 在宅看護実習・2 単位・3 年・通年、総合実習・3 単位・4 年・前期

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	大学院／看護学研究科臨床看護学領域	職名	特任教授	氏名	石橋 朝紀子
----	-------------------	----	------	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1988 年ロレット・ハイツ大学看護学部終了、1992 年ワシントン州立大学大学院看護学修士課程修了。小児看護学の助教授として大分県立科学看護大学、沖縄県立看護大学に勤務後、2007 年本学に着任。2 年間勤務し 2009 年特任教授に着任。

思春期にある小児がん患者と、小児がん患者の resilience（弾力性）を高める支援を目的に研究を行っている。小児がん患者は 70%以上の長期生存が可能になった。米国が発表した小児がん経験者のための看護研究と臨床看護を高める将来への構想の中に、(1)継続したケアを行うための根拠に基づいたガイドラインの作成、(2)ケアの基準化とモデル化がある。小児がんの子どもが自分を高め前向きに生きていく過程のモデルや弾力性モデルはすでに発表されている。日本では、小児がん経験者の晩期障害や病名未告知による心理社会的な問題が指摘され、長期的フォローアップの必要性が言われ始めた。現在、思春期にある小児がん患者の弾力性を高める支援のため、米国の上記のモデルを検証し、日本でのケアの基準化とモデル化、それに基づく支援のガイドラインを構築する研究を進めている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈著書〉

- 山崎喜比古、戸ヶ里泰典、坂野純子編著、小林美智子、蝦名玲子、石橋朝紀子、河合薫、津野陽子、本江朝美、横山由香里、『ストレス対処能力 SOC』、有信堂、東京、2008 年。

〈論文〉

- A. Ishibashi, R. Ueda, Y. Kawano, H. Nakayama, A. Matsuzaki, T. Matsumura. 『How to improve resilience in adolescents with cancer in Japan』. Journal of Pediatric Oncology Nursing, 27(2), 73-93, 2010.

### ②その他最近の業績

〈学会発表〉

- M.Uchida, Y.Kajiyama, Y.Owaki, Y.Ohara, S.Takeuchi, F.Shirai, J.Ogawa, M.Maru, M. Mori, J.Nonaka, M.Matsuoka, A.Ishibashi, A.Tomioka, F.Ishikawa, Y.Komai, M.Adachi, M.Sato. 『DEVELOPMENT OF NURSING CARE GUIDELINES FOR CHILDREN WITH CANCER AND THEIR FAMILIES』. SIOP 2008 40th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Berlin Germany, 2008 年。20 年石橋朝紀子『基調講演：小児がんの子どもと弾力性』第 14 回九州山口日本小児血液・腫瘍研究会, 福岡. 2008 年

### ③過去の主要業績

- A. Ishibashi. 『Four concepts that distinguish Pediatric oncology care in Japan、from that in the United States: Telling the diagnosis, length of hospitalization, home care, and support systems』. Journal of Pediatric Oncology Nursing, 13(4): 226-231, 1996 年
- A. Ishibashi. 『The needs of children and adolescents with cancer for information and social support』. Cancer Nursing, 24(1): 61-67, 2001 年
- A. Ishibashi, R. Ueda. 『Resilience in adolescents with cancer』. The Japanese Society of Health and Human Ecology, 69(6):220-232, 2003 年
- A. Ishibashi. Resilience and protective processes in adolescents with cancer in Japan. 36<sup>th</sup> The International Society of Pediatric Oncology (Oslo, Norway), 2004 年
- A. Ishibashi. 『Resilience in newly diagnosed and relapsed adolescents with cancer』, 37<sup>th</sup> The

International Society of Pediatric Oncology, (Vancouver, Canada), 2005 年.

- A. Ishibashi, R. Ueda. Self-esteem and social support in adolescents with cancer. 38<sup>th</sup> International Society of Pediatric Oncology, 2006 年

### 3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）、『小児がんの子どもの将来にむけての弾力性とその支援：小児がん長期生存者を中心に』、2338 千円、平成 19 年度～平成 21 年度、共同研究（研究代表者：石橋朝紀子）

### 5. 所属学会

Association of Pediatric Oncology Nursing 学会、日本小児保健学会、民族衛生学会、International Society of Pediatric Oncology 学会、日本看護科学学会、学校保健研究学会、小児看護学会、日本小児がん看護学会（役員）

### 6. 担当授業科目

小児看護学特論 2 単位・大学院 1 年・前期。

### 7. 社会貢献活動

- 財団法人がんの子供を守る会会員
- リンクス（聖路加国際病院 がんの子どもをもつ親の会）会員
- 東京大学健康社会学客員研究員
- Journal of Advance Nursing 査読委員
- 日本小児がん看護 幹事

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員



所属	ケアリング・アイランド九州沖縄構想戦略連携室	職名	特任准教授	氏名	巖 紅
----	------------------------	----	-------	----	-----

## 1. 教員紹介・主な研究分野

福岡大学大学院体育学研究科体育学修士。同大学大学院医学部感染生物研究科博士課程修了、博士 (Ph.D)。現在、平成 21 年度大学充実のための戦略的大学連携支援プログラム「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」プロジェクトの特任准教授として在職している。

生活習慣病の予防法として、運動処方や中高齢者の健康増進、患者のリハビリ運動処方等関係する研究を一貫して行ってきた。その中、特に運動習慣を持っている中高齢者を対象として、日常生活の中で適度な運動が免疫担当細胞に与える影響について研究してきた。現在は各種のプロジェクト研究において、地域住民の意識調査など「調査研究報告書」、のデータ分析、内容まとめ、執筆等を中心に行っている。

今後は更に、グローバル化社会の中で、国際的な視野を持ちながら教育研究に従事するとともに、中国との大学間交流の役割を積極的に行っていききたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

〈著書・論文〉

- ・ 巖紅 (2009 年) . 外国人研修・技能実習制度に関する中間報告第二章 A市トマト栽培農家での「中国人研修生」の実例. リベラシオン No.135 pp33-40.
- ・ 黒岩中、巖紅 (2010 年) 健康づくりトレーニングハンドブック. 進藤宗洋・田中宏暁・田中守 (編). 運動と免疫.pp87-97.朝倉書店.

〈報告書〉

- ・ 安藤龍生、巖紅 (2007 年) . 大刀洗町人権・同和問題町民意識調査報告書. 大刀洗町.
- ・ 安藤龍生、堀内忠、巖紅 (2008 年) . 福智町町民意識調査報告書. 福智町役場.
- ・ 堀内忠、巖紅、西原茂徳 (2008 年) . 遠賀町町民意識調査報告書. 遠賀町.
- ・ 森山沾一、安藤龍生、巖紅、他 (2009 年) . 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書. 福岡県立大学 (内閣府・経済産業省採択プロジェクト) .
- ・ 堀内忠、巖紅、西原茂徳 (2009 年) . 古賀市民意識調査報告書. 古賀市.
- ・ 森山沾一、巖紅、他 (2010 年) . 世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書 (継続) . 福岡県立大学 (内閣府・経済産業省採択プロジェクト) .
- ・ 村山浩一郎、本郷秀和、巖紅 (2010 年) . 川崎町「安宅の滝」と健康に関する住民意識調査報告書.
- ・ 名和田新、安酸史子、大池美也子、北原悦子、正野逸子、室屋和子、松浦賢長、巖紅、北川明、小森直美、樋口善之、他 (2010 年) . 看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想プロジェクト中間報告書. (平成21年度 大学充実のための戦略的大学連携支援プログラム)

### ③過去の主要業績

- ・ Hong YAN, Ataru KUROIWA, and Ariaki NAGAYAMA (2001 年) . Effect of moderate exercise on immune senescence in man. Eur J Appl Physiol(2001)86 pp105-111.
- ・ Siwo LIOU, Ataru KUROIWA , Hong YAN , Ariaki NAGAYAMA (2004 年) . Effect of a traditional Japanese herbal medicine, hochu-ekki-to (Bu Zhong-Yi-Qi-Tang), on immunity of the elderly persons. Int. Immunopharmacol. (2004) Vol.4.pp317-324.
- ・ Ataru KUROIWA , Hong YAN , Ariaki NAGAYAMA (2004 年) . Age-related dissociation of oxidative metabolisms from phagocytosis and up-regulation of CD11b/CD18. 福岡大学医学紀要 30 (1) pp29-35

**5. 所属学会**

日本体力医学会会員、日本健康支援学会会員

**6. 担当授業科目**

健康科学実習Ⅰ・ⅡⅡ（2単位）

**7. 社会貢献活動**

- ・ 中国広西省広西大学、広西工学院、桂林電子工業学院、桂林工学院と学術交流のコーディネーター
- ・ 中国広西工学院 講演・学術交流
- ・ 中国桂林旅行専門学校 講演・学術交流
- ・ 中国広西師範大学 講演・学術交流
- ・ 中国天津大学理工学院と福岡県水巻町国際交流のコーディネーター
- ・ 第28回日本看護科学学会学術集会 特別講演「中医学と西洋医学が調和した看護学への挑戦」同時通訳
- ・ 中国北京中医薬大学看護学院と福岡県立大学看護学部 学術交流のコーディネーター
- ・ 中国北京中医薬大学看護学院教員による集中講義の同時通訳
- ・ 日本九州中国人学者・技術者連合会理事

**8. 学外講義・講演**

- ・ 厳紅（2007年）JA 宗像農協全職員 演題「健康な身体をつくる」
- ・ 厳紅（2007年）田川地区同和啓発センター市郡町村職員研修、演題「多文化にふれて」
- ・ 厳紅（2008年）福岡県香春町役場職員研修 演題「人権と多文化」
- ・ 厳紅（2008年）九州電力株式会社総合研究所職員研修、演題「人権と異文化」
- ・ 厳紅（2009年）福岡県中小企業経営者協会（田川支部）、演題「多文化にふれて一私の水泳選手人生」
- ・ 厳紅（2009年）田川市立病院 演題「運動は本当に健康にいいの？」
- ・ 厳紅（2009年）田川市立病院主催の市民講座 演題「糖尿病の運動は足から」

**9. 附属研究所の活動等**

文科省大学連携事業「ケアリング・アイランド九州沖縄構想」戦略連携室

2009（平成 21）年度福岡県立大学  
教育・研究・社会貢献活動一覧

2010（平成 22）年 10 月 15 日発行

編集：福岡県立大学 自己点検評価部会

発行：公立大学法人福岡県立大学

〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395

Tel 0947-42-2118 Fax 0947-42-6171

URL <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

印刷：よしみ工産株式会社

Tel 093-882-1661 Fax 093-881-8467

URL <http://www.e-yoshimi.jp/>



FUKUOKA PREFECTURAL UNIVERSITY

2009(平成21)年度

福岡県立大学

学生による授業評価報告書

福岡県立大学 F D 部会

## 刊行にあたって

福岡県立大学学長 名和田 新

1998年当時の文部省の諮問を受けた大学審議会は、大学の教職員の質の向上を目指して「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法について組織的な研究・研修の実施に努めるものとする」と言う Faculty Development(FD)を提言し、大学が FD 活動を組織的、体系的に取り組む事をすすめました。

福岡県立大学は、2006年(平成18年)4月に公立大学法人として「第2の開学」をスタートしました。保健、医療、福祉の分野で中核的な役割を果たし得る人材の育成を教育目標に掲げ、中期目標・中期計画の中で、全学をあげて両学部が一緒になって FD 活動を強化しました。具体的には、従来からあった FD 委員会を FD 部会に改編し、全教員が参加できるワークショップ型のユニークですばらしい FD セミナーを頻回に開催し、FD 活動を充実させ、授業改善への活発な議論がなされました。

その中で学生による授業アンケートを重視し、法人化された2006年度から2008年度まで同じ質問項目で全授業に学生アンケートを行い、法人化3年間の授業改善の成果を検証しました。2008年度の授業評価報告書で総括されているように、学生の授業への積極性や満足度が以前より上昇していると言う結果が出ています。

2009年度は、更に学生授業アンケートを充実させるため、学生座談会を行い、学生から出された意見を参考にして、調査項目を大幅に変更しました。

2009年度の授業評価報告書を熟読され、教員の皆様の授業の改善に役立てていただきたいと思います。

全教員が参加できる FD 活動と学生授業アンケートを充実させ、教育の改善を行い、学生の勉強に対する積極的な取り組みと満足度を高めていきたいと思います。

末筆になりましたが、本報告書の執筆・編集に携わっていただいた FD 部会のみなさん、授業中の貴重な時間を割いて本調査に協力していただいた常勤・非常勤の先生方、そして何よりも学生諸君に対して、深く御礼申し上げます。

2010年(平成22年)3月

# 目 次

## 刊行にあたって

### I 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### II 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

調査対象科目・学生  
調査時期  
調査手続  
質問項目  
分析手続

### III 単純集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1. この授業はシラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった
2. シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた
3. 教員の話し方は聞き取りやすかった
4. 教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった
5. 授業のすすめかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった
6. 板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った
7. 教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった
8. 教員の指導やアドバイスの内容は役立った
9. 授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った
10. この授業は、質問や意見を述べやすかった
11. 教員は学生の質問や意見に対応していた
12. この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた
13. この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた
14. 教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた
15. この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた
16. この授業は、総合的に満足できるものであった
17. 私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した
18. 私はこの授業の学習目標をわかったうえで授業を受けた
19. 私はこの授業に熱心に取り組んだ
20. 私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった
21. 私はこの授業中、他人の居眠り、私語、メールなどが気になった
22. 私は授業時間外に、この授業に関する学習や練習に取り組んだ
23. 私はこの授業の学習の到達目標を達成できた
24. 私はこの実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった

### IV 属性別集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1. この授業はシラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった
2. シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた
3. 教員の話し方は聞き取りやすかった
4. 教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった
5. 授業のすすめかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった
6. 板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った
7. 教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった

8. 教員の指導やアドバイスの内容は役立った
9. 授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った
10. この授業は、質問や意見を述べやすかった
11. 教員は学生の質問や意見に対応していた
12. この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた
13. この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた
14. 教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた
15. この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた
16. この授業は、総合的に満足できるものであった
17. 私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した
18. 私はこの授業の学習目標をわかったうえで授業を受けた
19. 私はこの授業に熱心に取り組んだ
20. 私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった
21. 私はこの授業中、他人の居眠り、私語、メールなどが気になった
22. 私は授業時間外に、この授業に関する学習や練習に取り組んだ
23. 私はこの授業の学習の到達目標を達成できた
24. 私はこの実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった

<b>V 考察</b>	<b>43</b>
全体	
学科間の比較	
学年間の比較	
男女間の比較	



## I 調査の目的

この報告書は、2009 年度に福岡県立大学で開講された授業について学生による授業アンケートの報告書である。全学の授業評価を明らかにするとともに、教員の授業改善に役立てることを目的とする。

## II 調査の方法

### 1. 調査対象科目・学生

2009 年度に人間社会学部と看護学部において開講された 529 科目のうち、回収された授業科目は、476 科目（のべ 17,615 名）であった。学部における回収された授業科目の 1 科目あたりの人数の平均と標準偏差は  $37.0 \pm 31.5$  人で、最小値 1 人、最大値 231 人であった。

### 2. 調査時期

前期科目は 2009 年 7 月、後期科目は 2010 年 1 月に実施。また一部の科目（集中講義など）については、講義が終了次第実施した。

### 3. 調査手続

調査はマークシートによるアンケート形式で、原則として各学期の 14 回目の授業中の約 10 分間を使って行われた。授業担当教員が大学事務局で調査票の入った封筒を受け取り、同封のマニュアル（資料 1・資料 2）にしたがって、授業科目コードを板書きし、調査票を配布。回収担当の学生を 1～2 名指名し、回収用の封筒に封入を依頼した。学生の記入中、教員は教室の外に出るなどして、学生から一定の距離を取るようにつとめた。回収後、教員は担当学生から封入された回収調査票を受け取り、事務局の回収箱に入れた。このようにして、学生の記入内容が当事者の教員に漏れる不安を取り除いて調査を実施した。

調査内容：2009 年度調査にあたっては、学生座談会などにおいて学生から出された意見を参考にしながら、調査項目の変更を行った。主な変更点は以下の 3 点である。

①選択肢を「どちらでもない」という授業改善には活かしにくい答えが出やすい 5 件法から、「どちらでもない」を除いた 4 件法にした。

②実技、実習、演習等の授業に当てはまる質問項目を加えた。

③自由記述欄は「必ず書いてください」とし、数値では表しにくい授業改善へ役立つ意見を積極的に収集するようにした。

調査票は、右にあるように質問項目とマーク欄を 1 ページに納めたマークシートである。質問項目は、「受講科目（科目コード）」、「所属」、「学年」、「性別」で学生の属性をたずね、回答の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わ

### 授業アンケート

福岡県立大学

061998

この調査は、福岡県立大学での授業に関して、学生のみなさんの希望や意見をくみ取り、授業改善を図ることを目的として行います。この目的以外に本調査票を利用することはありません。また成績評価にもいっさい影響はありません。ご協力をお願いします。

科目名	科目コード
■記入上の注意 （所属や科目コードなどを入力して、横にマークしてください。マークしなかつた場合は、誤った方を丸に囲んでください。正しい方 ●、正しい方 ✓、誤った方 ✕）	■学 年 1 年 2 年 3 年 4 年 5 年 6 年
■所 属 ・看護学部 看護学科 ・人間社会学部 公共社会学科 ・人間社会学部 社会学科	■性 別 男性 女性

#### この授業について意見を聴かせてください。

この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった	A-1	1	2	3	4	5
2 シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた	A-2	1	2	3	4	5
3 教員の話し方は聞き取りやすかった	A-3	1	2	3	4	5
4 教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった	A-4	1	2	3	4	5
5 授業のすすみかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった	A-5	1	2	3	4	5
6 板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った	A-6	1	2	3	4	5
7 教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった	A-7	1	2	3	4	5
8 教員の指導やアドバイスの内容は役立った	A-8	1	2	3	4	5
9 授業中に十分な課題やグループ学習は授業の理解に役立った	A-9	1	2	3	4	5
10 この授業は、質問や意見を述べやすい雰囲気だった	A-10	1	2	3	4	5
11 教員は学生の質問や意見に対応していた	A-11	1	2	3	4	5
12 この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた	A-12	1	2	3	4	5
13 この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた	A-13	1	2	3	4	5
14 教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた	A-14	1	2	3	4	5
15 この授業を受けて前よりも知識やスキルが身についた	A-15	1	2	3	4	5
16 この授業は、総合的に満足できるものであった	A-16	1	2	3	4	5

#### あなたの授業への取り組みについて聴かせてください。

あなたの授業への取り組みについて聴かせてください。	1	2	3	4	5	
17 私は授業を受けるにあたって、シラバスや授業科目概要を参照した	A-17	1	2	3	4	5
18 私はこの授業の学習目標をわかって授業を受けた	A-18	1	2	3	4	5
19 私はこの授業に熱心に取り組んだ	A-19	1	2	3	4	5
20 私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった	A-20	1	2	3	4	5
21 私はこの授業中、他人の邪魔り、私語、メールなどに気がなつた	A-21	1	2	3	4	5
22 私は授業時間外に、この授業に関する学習や練習に取り組んだ	A-22	1	2	3	4	5
23 私はこの授業の学習の到達目標を達成できた	A-23	1	2	3	4	5
24 私はこの実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった	A-24	1	2	3	4	5

#### 下の記述欄には、あなたの意見を必ず書いてください。

この授業について、良いと思う点や改善したら良いと思う点などを自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

ない」の4件法に加えて「回答できない・あてはまらない」を設けた。最後に授業に対する意見として「良いと思う点や改善したら良いとおもう点」などを自由記述で必ず書いてもらうようにした。質問項目の詳細は以下の通りである。

#### 4. 質問項目

「この授業について意見を聴かせてください」

1. この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった
2. シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた
3. 教員の話し方は聞き取りやすかった
4. 教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった
5. 授業のすすめかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった。
6. 板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った
7. 教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった (実技、実習・演習項目)
8. 教員の指導やアドバイスの内容は役立った (実技、実習・演習項目)
9. 授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った
10. この授業は、質問や意見を述べやすかった
11. 教員は学生の質問や意見に対応していた
12. この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた
13. この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた
14. 教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた
15. この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた
16. この授業は、総合的に満足できるものであった

「あなたの授業への取り組みについて聴かせてください」

17. 私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した
18. 私はこの授業の学習目標をわかったうえで授業を受けた
19. 私はこの授業に熱心に取り組んだ
20. 私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった
21. 私はこの授業中、他人の居眠り、私語、メールなどが気になった
22. 私は授業時間外に、この授業に関する学習や練習に取り組んだ
23. 私はこの授業の学習の到達目標を達成できた
24. 私はこの実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった (実習・演習項目)

自由記述

- ・下の記述欄には、あなたの意見を必ず書いてください
- ・この授業について、良いと思う点や、改善したら良いと思う点などを自由に記述してください。

#### 5. 分析手続

各質問項目に対する4段階評価を「そう思わない」の1点から、「そう思う」の4点まで点数化し、学年、学科、性別、年代によってどのように異なるかを求めた。なお、今回の評価のように数万人規模のデータでは、わずか1%以下のパーセンテージの違いであっても有意差が出てしまうため、統計的な分析結果については含めないことにした。

## 所属

	度数	%	有効%	累積%
看護学科	5734	33.0	33.0	33.0
社会福祉学科	3910	22.5	22.5	55.5
公共社会学科	1396	8.0	8.0	63.5
人間形成学科	4496	25.9	25.9	89.4
社会学科	1843	10.6	10.6	100.0
合計	17379	99.9	100.0	
研究生・聴講生・科目等履修生	11	0.1		
総計	17390	100.0		

## 学年

	度数	%	有効%	累積%
1 年	7145	41.0	41.1	41.1
2 年	5530	31.7	31.8	72.8
3 年	3684	21.1	21.2	94.0
4 年	1044	6.0	6.0	100.0
合計	17403	99.9	100.0	
その他(学部)	22	0.1		
総計	17425	100.0		

## 性別

	度数	%	有効%	累積%
男性	2074	12.5	12.5	12.5
女性	14458	87.5	87.5	100.0
合計	16532	100.0	100.0	

### Ⅲ 単純集計結果

#### 1. この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	5779	32.8	39.4	39.4
どちらかといえばそう思う	7796	44.3	53.2	92.6
どちらかといえばそう思わない	859	4.9	5.9	98.5
そう思わない	227	1.3	1.5	100.0
合計	14661	83.3	100.0	
回答できないあてはまらない	2944	16.7		
総計	17605	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 77.1%であり、概ねシラバス等にそった授業が行われていることがうかがえる。ただし、この質問については、「回答できないあてはまらない」が 16.7%あり、簡単には評価できないと考えている学生が少なくないことがわかる。

#### 2. シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6841	38.9	42.9	42.9
どちらかといえばそう思う	7612	43.3	47.7	90.6
どちらかといえばそう思わない	1218	6.9	7.6	98.2
そう思わない	288	1.6	1.8	100.0
合計	15959	90.7	100.0	
回答できないあてはまらない	1636	9.3		
総計	17595	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 82.2%であり、成績評価方法は概ねシラバス等を通じて学生に明示されているものと考えられる。ただし、この質問についても、「回答できないあてはまらない」という回答が 9.3%と、やや多くなっている。

#### 3. 教員の話し方は聞き取りやすかった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	7670	43.6	43.8	43.8
どちらかといえばそう思う	7412	42.1	42.3	86.1
どちらかといえばそう思わない	1891	10.7	10.8	96.9
そう思わない	540	3.1	3.1	100.0
合計	17513	99.5	100.0	
回答できないあてはまらない	81	0.5		
総計	17594	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 85.7%であり、学生が聞き取りやすいと感じる授業が大部分であることがうかがえる。ただし、聞き取りにくかったという回答も、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせて 13.8%あることに注意が必要である。

#### 4. 教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6903	39.2	39.4	39.4
どちらかといえばそう思う	7473	42.5	42.7	82.1
どちらかといえばそう思わない	2410	13.7	13.8	95.9
そう思わない	726	4.1	4.1	100.0
合計	17512	99.5	100.0	
回答できないあてはまらない	82	0.5		
総計	17594	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 81.7%であり、教員の指示や説明をわかりやすいと評価する回答が大多数を占めている。ただし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると 17.8%あり、まだ改善の余地があることがわかる。

#### 5. 授業のすすめかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6720	38.2	38.6	38.6
どちらかといえばそう思う	8183	46.5	47.0	85.5
どちらかといえばそう思わない	2045	11.6	11.7	97.2
そう思わない	481	2.7	2.8	100.0
合計	17429	99.1	100.0	
回答できないあてはまらない	152	0.9		
総計	17581	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 84.7%であり、授業が適切な早さですすすめられたと評価する回答が大多数を占めている。ただし、適切な早さではなかったという回答も 14.3%あり、この点についても改善の余地があることがわかる。

#### 6. 板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	7291	41.5	42.4	42.4
どちらかといえばそう思う	8010	45.6	46.6	89.0
どちらかといえばそう思わない	1527	8.7	8.9	97.9
そう思わない	358	2.0	2.1	100.0
合計	17186	97.8	100.0	
回答できないあてはまらない	390	2.2		
総計	17576	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 87.1%であり、授業で示されたものが学習に役立ったと評価する回答が 9 割近くに達している。否定的な評価をする回答も 1 割ほどあるものの、概ね授業の教材は学習に役立っているものと考えられる。

## 7. 教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった（実技・実習・演習項目）

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	4261	25.2	35.8	35.8
どちらかといえばそう思う	5848	34.5	49.1	85.0
どちらかといえばそう思わない	1446	8.5	12.2	97.1
そう思わない	344	2.0	2.9	100.0
合計	11899	70.3	100.0	
回答できないあてはまらない	5039	29.7		
総計	16938	100.0		

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて1割ほどであるのに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて約6割であり、教員の指導やアドバイスのタイミングは概ねよかったものと思われるが、「回答できないあてはまらない」という回答が約3割あることに注意が必要である。学生にとっては回答しにくい質問だったのかもしれない。

## 8. 教員の指導やアドバイスの内容は役立った（実技・実習・演習項目）

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	4735	28.0	39.9	39.9
どちらかといえばそう思う	5655	33.4	47.7	87.6
どちらかといえばそう思わない	1170	6.9	9.9	97.5
そう思わない	299	1.8	2.5	100.0
合計	11859	70.1	100.0	
回答できないあてはまらない	5068	29.9		
総計	16927	100.0		

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて8.7%であるのに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて61.4%であり、教員の指導やアドバイスは多くの学生にとって役立つものであったと考えられるが、7と同様、「回答できないあてはまらない」という回答が約3割あることに注意が必要である。

## 9. 授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	5454	31.1	39.2	39.2
どちらかといえばそう思う	6717	38.3	48.3	87.6
どちらかといえばそう思わない	1386	7.9	10.0	97.5
そう思わない	341	1.9	2.5	100.0
合計	13898	79.3	100.0	
回答できないあてはまらない	3628	20.7		
総計	17526	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて約7割であり、授業中に行う課題やグループ学習は多くの学生の授業の理解に役立っていることがわかる。ただし、この質問についても、「回答できないあてはまらない」という回答が約2割あり、回答が難しいと感じた学生が多いようである。

#### 10. この授業は、質問や意見を述べやすかった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	5178	29.5	30.4	30.4
どちらかといえばそう思う	7369	41.9	43.3	73.7
どちらかといえばそう思わない	3460	19.7	20.3	94.1
そう思わない	1007	5.7	5.9	100.0
合計	17014	96.8	100.0	
回答できないあてはまらない	560	3.2		
総計	17574	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて 71.4%であり、質問や意見を述べやすいと感じている学生が多いことがわかるが、一方で「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」も合わせて 25.4%あり、否定的な評価をする回答がかなり目立つ項目である。

#### 11. 教員は学生の質問や意見に対応していた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6806	38.7	40.4	40.4
どちらかといえばそう思う	7601	43.2	45.2	85.6
どちらかといえばそう思わない	1943	11.1	11.5	97.2
そう思わない	476	2.7	2.8	100.0
合計	16826	95.7	100.0	
回答できないあてはまらない	755	4.3		
総計	17581	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 81.9%であり、全体としては教員が学生の質問や意見にきちんと対応していることがうかがえる。ただし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」も合わせて 13.8%あることに目を向けておく必要がある。

#### 12. この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	9259	52.7	53.8	53.8
どちらかといえばそう思う	6389	36.4	37.1	90.9
どちらかといえばそう思わない	1133	6.4	6.6	97.5
そう思わない	428	2.4	2.5	100.0
合計	17209	97.9	100.0	
回答できないあてはまらない	364	2.1		
総計	17573	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると約 9 割であり、ほとんどの授業が予定された時間内で行われているものと考えられる。

13. この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	5006	28.5	29.1	29.1
どちらかといえばそう思う	8348	47.5	48.5	77.5
どちらかといえばそう思わない	3120	17.8	18.1	95.7
そう思わない	749	4.3	4.3	100.0
合計	17223	98.1	100.0	
回答できないあてはまらない	338	1.9		
総計	17561	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 76%であり、全体としては肯定的な評価が多いが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」も合わせて 2 割を超えており、否定的評価がやや多くなっている。

14. 教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	4842	27.5	29.2	29.2
どちらかといえばそう思う	7693	43.8	46.4	75.6
どちらかといえばそう思わない	3181	18.1	19.2	94.8
そう思わない	860	4.9	5.2	100.0
合計	16576	94.3	100.0	
回答できないあてはまらない	1000	5.7		
総計	17576	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 71.3%であり、全体としては肯定的な評価が多いが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」も合わせて 2 割を超えており、否定的評価がやや多くなっている。

15. この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	7560	43.0	43.2	43.2
どちらかといえばそう思う	8244	46.9	47.1	90.4
どちらかといえばそう思わない	1348	7.7	7.7	98.1
そう思わない	336	1.9	1.9	100.0
合計	17488	99.5	100.0	
回答できないあてはまらない	82	0.5		
総計	17570	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると約 9 割であり、ほとんどの学生が、授業を受けて知識やスキルが増えたと感じている。



16. この授業は、総合的に満足できるものであった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6996	39.8	40.0	40.0
どちらかといえばそう思う	8152	46.4	46.6	86.6
どちらかといえばそう思わない	1849	10.5	10.6	97.1
そう思わない	499	2.8	2.9	100.0
合計	17496	99.6	100.0	
回答できないあてはまらない	69	0.4		
総計	17565	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 86.2%であり、学生の総合的な満足度は全体として高いといえる。ただし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答も合わせて 13.3%あり、まだ改善の余地がある。

17. 私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	3325	18.9	20.9	20.9
どちらかといえばそう思う	6501	37.0	40.8	61.7
どちらかといえばそう思わない	3578	20.3	22.5	84.2
そう思わない	2511	14.3	15.8	100.0
合計	15915	90.5	100.0	
回答できないあてはまらない	1675	9.5		
総計	17590	100.0		

「そう思う」は 18.9%であり、「どちらかといえばそう思う」(37%) を合わせても、肯定的な回答は 55.9%にとどまっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると 34.6%であり、シラバス等の活用が十分になされていないことがうかがえる。

18. 私はこの授業の学習目標をわかった上で授業を受けた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	3836	21.8	22.7	22.7
どちらかといえばそう思う	8531	48.5	50.5	73.3
どちらかといえばそう思わない	3383	19.2	20.0	93.3
そう思わない	1132	6.4	6.7	100.0
合計	16882	96.0	100.0	
回答できないあてはまらない	703	4.0		
総計	17585	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると約 7 割であり、学習目標をわかった上で授業を受けている学生が多いことがわかるが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」も合わせて 25.6%あり、学生の学習目標の理解は十分ではないこともわかる。

## 19. 私はこの授業に熱心に取り組んだ

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6180	35.2	35.3	35.3
どちらかといえばそう思う	8812	50.1	50.3	85.6
どちらかといえばそう思わない	2146	12.2	12.3	97.9
そう思わない	376	2.1	2.1	100.0
合計	17514	99.6	100.0	
回答できないあてはまらない	64	0.4		
総計	17578	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 85.3%であり、全体としてほとんどの学生が熱心に授業に取り組んでいることがわかるが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答も合わせて 14.3%みられた。

## 20. 私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	6719	38.3	38.5	38.5
どちらかといえばそう思う	7369	42.0	42.2	80.8
どちらかといえばそう思わない	2556	14.6	14.7	95.4
そう思わない	800	4.6	4.6	100.0
合計	17444	99.3	100.0	
回答できないあてはまらない	116	0.7		
総計	17560	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると約 8 割であるが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答も合わせて 2 割ほどみられ、授業に集中していない学生も少なくないことがわかる。

## 21. 私はこの授業中、他人の居眠り、私語、メールなどが気になった

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	865	4.9	5.1	5.1
どちらかといえばそう思う	2663	15.2	15.6	20.6
どちらかといえばそう思わない	4770	27.2	27.9	48.5
そう思わない	8816	50.2	51.5	100.0
合計	17114	97.5	100.0	
回答できないあてはまらない	437	2.5		
総計	17551	100.0		

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答が合わせて 77.4%と多数を占めるものの、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答も合わせて 2 割に達しており、他人の居眠り、私語、メールなどが気になっている学生が少なくない。他の学生の迷惑になる行為をやめさせていくことが必要である。

## 22. 私は授業時間外に、この授業に関する学習や練習に取り組んだ

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	3931	22.3	23.0	23.0
どちらかといえばそう思う	7162	40.7	42.0	65.0
どちらかといえばそう思わない	3908	22.2	22.9	87.9
そう思わない	2058	11.7	12.1	100.0
合計	17059	96.8	100.0	
回答できないあてはまらない	451	2.6		
総計	17510	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、授業時間外にも当該授業に関する学習や練習に取り組んでいるという回答は6割を超えている。しかし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が合わせて33.9%あり、授業時間外での学習や練習は必ずしも十分とは言えないようである。

## 23. 私はこの授業の学習の到達目標を達成できた

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	3048	17.4	18.3	18.3
どちらかといえばそう思う	9604	54.7	57.8	76.1
どちらかといえばそう思わない	3351	19.1	20.2	96.3
そう思わない	616	3.5	3.7	100.0
合計	16619	94.6	100.0	
回答できないあてはまらない	948	5.4		
総計	17567	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると72.1%であるが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答も合わせて22.6%と2割を超えており、授業の到達目標を達成できていないと感じている学生も少なくないことがわかる。

## 24. 私は、この実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった（実習・演習項目）

	度数	%	有効%	累積%
そう思う	3454	20.4	28.1	28.1
どちらかといえばそう思う	6794	40.1	55.2	83.3
どちらかといえばそう思わない	1629	9.6	13.2	96.6
そう思わない	421	2.5	3.4	100.0
合計	12298	72.6	100.0	
回答できないあてはまらない	4653	27.4		
総計	16951	100.0		

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて約6割であり、実習・演習を通して、知識と実践の関連を理解できたと感じている学生が多いことがわかる。しかし、回答者の27.4%が「回答できないあてはまらない」を選択しており、回答が難しいと感じた学生も多いようである。

#### IV 属性別集計

この章では、授業評価を行った学生の所属・学年・性別を属性として、各質問項目の属性別クロス集計結果について検討する。クロス表は学科別、学年別、男女別の各設問に対する回答分布の表である。各表は $\chi^2$ 検定（有意水準0.1%未満）を行ったが、データ数が全数で数万の規模となるため、ほとんどの表で有意差が出てしまい、比較が困難になる。このため、行または列のパーセントで比較し、5%以上の差がある場合に注目して記述を行った。

##### 1. この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった

所属		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2103	3090	297	68	174	5732
	%	36.7	53.9	5.2	1.2	3.0	100.0
社会福祉学科	度数	1173	1693	177	50	815	3908
	%	30.0	43.3	4.5	1.3	20.9	100.0
公共社会学科	度数	473	755	126	18	24	1396
	%	33.9	54.1	9.0	1.3	1.7	100.0
人間形成学科	度数	1457	1519	189	48	1280	4493
	%	32.4	33.8	4.2	1.1	28.5	100.0
社会学科	度数	472	649	60	35	626	1842
	%	25.6	35.2	3.3	1.9	34.0	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	5	6	0	0	0	11
	%	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	度数	5683	7712	849	219	2919	17382
	%	32.7	44.4	4.9	1.3	16.8	100.0

全体的には「どちらかといえばそう思う」44.4%、「どちらかといえばそう思う」32.7%の順となっている。看護学科と人間形成学科を比較した場合、「どちらかといえばそう思う」について20%以上の差が見られている。「そう思わない」は、1.3%であり、「どちらかといえばそう思わない」4.9%と合計しても6.2%に留まっている。

「この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった」に関して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者が看護学科では90.6%であったのに対し、社会福祉学科では60.8%であった。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2787	3673	305	65	311	7141
	%	39.0	51.4	4.3	0.9	4.4	100.0
2年	度数	1374	1950	241	87	1877	5529
	%	24.9	35.3	4.4	1.6	33.9	100.0
3年	度数	1100	1665	259	59	599	3682
	%	29.9	45.2	7.0	1.6	16.3	100.0
4年	度数	434	416	45	12	136	1043
	%	41.6	39.9	4.3	1.2	13.0	100.0
その他	度数	18	3	0	1	0	22
	%	81.8	13.6	0.0	4.5	0.0	100.0
合計	度数	5713	7707	850	224	2923	17417
	%	32.8	44.2	4.9	1.3	16.8	100.0

学年別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」44.2%が最も多く、次いで「そう思う」32.8%の順である。詳細に見ると、1年次から3年次では「どちらかといえばそう思う」が最も多いが、4年次では「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を若干上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	736	910	147	30	249	2072
	%	35.5	43.9	7.1	1.4	12.0	100.0
女性	度数	4594	6414	656	181	2607	14452
	%	31.8	44.4	4.5	1.3	18.0	100.0
合計	度数	5330	7324	803	211	2856	16524
	%	32.3	44.3	4.9	1.3	17.3	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」44.3%が最も多く、次いで「そう思う」32.3%の順になっている。「そう思う」について着目すると、男性35.5%、女性31.8%となっており、わずかながら差が見られる。

## 2. シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2325	2891	353	82	77	5728
	%	40.6	50.5	6.2	1.4	1.3	100.0
社会福祉学科	度数	1484	1674	286	73	390	3907
	%	38.0	42.8	7.3	1.9	10.0	100.0
公共社会学科	度数	461	737	161	20	17	1396
	%	33.0	52.8	11.5	1.4	1.2	100.0
人間形成学科	度数	1799	1598	285	72	735	4489
	%	40.1	35.6	6.3	1.6	16.4	100.0
社会学科	度数	667	621	118	38	398	1842
	%	36.2	33.7	6.4	2.1	21.6	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	8	2	0	0	1	11
	%	72.7	18.2	0.0	0.0	9.1	100.0
合計	度数	6744	7523	1203	285	1618	17373
	%	38.8	43.3	6.9	1.6	9.3	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」43.3%、「そう思う」38.8%の順となっている。ただ、人間形成学科と社会学科では「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を若干上回っている。また、看護学科と公共社会学科においては「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の差が大きい。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2952	3515	396	63	211	7137
	%	41.4	49.3	5.5	0.9	3.0	100.0
2年	度数	1935	2067	419	123	979	5523
	%	35.0	37.4	7.6	2.2	17.7	100.0
3年	度数	1342	1579	336	89	336	3682
	%	36.4	42.9	9.1	2.4	9.1	100.0
4年	度数	520	371	49	10	93	1043
	%	49.9	35.6	4.7	1.0	8.9	100.0
その他	度数	18	2	1	0	1	22
	%	81.8	9.1	4.5	0.0	4.5	100.0
合計	度数	6767	7534	1201	285	1620	17407
	%	38.9	43.3	6.9	1.6	9.3	100.0

学年別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」43.3%が最も多く、次いで「そう思う」38.9%の順である。詳細を見ると、1年次から3年次では「どちらかといえばそう思う」が最も多いものの、4年次では「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」と比べて15%近く高くなっている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	828	886	214	32	112	2072
	%	40.0	42.8	10.3	1.5	5.4	100.0
女性	度数	5506	6297	930	232	1479	14444
	%	38.1	43.6	6.4	1.6	10.2	100.0
合計	度数	6334	7183	1144	264	1591	16516
	%	38.4	43.5	6.9	1.6	9.6	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」43.5%が最も多く、次いで「そう思う」38.4%の順になっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の差が女性では5%の差が見られる。

### 3. 教員の話し方は聞き取りやすかった

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2498	2528	529	156	16	5727
	%	43.6	44.1	9.2	2.7	0.3	100.0
社会福祉学科	度数	1729	1627	411	121	18	3906
	%	44.3	41.7	10.5	3.1	0.5	100.0
公共社会学科	度数	490	642	227	34	3	1396
	%	35.1	46.0	16.3	2.4	0.2	100.0
人間形成学科	度数	2078	1793	447	134	39	4491
	%	46.3	39.9	10.0	3.0	0.9	100.0
社会学科	度数	764	734	253	85	3	1839
	%	41.5	39.9	13.8	4.6	0.2	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	6	3	1	1	0	11
	%	54.5	27.3	9.1	9.1	0.0	100.0
合計	度数	7565	7327	1868	531	79	17370
	%	43.6	42.2	10.8	3.1	0.5	100.0

「授業中の教員の話し方の聞き取りやすさ」について、全体的には「そう思う」43.6%が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」42.2%の順となっている。

これを学科別にみると、看護学科と公共社会学科では「どちらかといえばそう思う」が、社会福祉学科、人間形成学科、社会学科では「そう思う」が高い割合を占めている。また、公共社会学科では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の差が10%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	3024	3131	781	187	17	7140
	%	42.4	43.9	10.9	2.6	0.2	100.0
2年	度数	2262	2400	656	188	16	5522
	%	41.0	43.5	11.9	3.4	0.3	100.0
3年	度数	1679	1467	376	141	17	3680
	%	45.6	39.9	10.2	3.8	0.5	100.0
4年	度数	603	340	52	15	31	1041
	%	57.9	32.7	5.0	1.4	3.0	100.0
その他	度数	18	3	0	1	0	22
	%	81.8	13.6	0.0	4.5	0.0	100.0
合計	度数	7586	7341	1865	532	81	17405
	%	43.6	42.2	10.7	3.1	0.5	100.0

学年別に見た場合、3年次および4年次では「どちらかといえばそう思う」よりも「そう思う」が上回っている。特に4年次においては、両者の差が20%以上である。また、「どちらかといえばそう思わない」については、4年次で5.0%に留まっているものの、1年次から3年次では10%を超えている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	979	832	206	48	8	2073
	%	47.2	40.1	9.9	2.3	0.4	100.0
女性	度数	6089	6241	1587	454	68	14439
	%	42.2	43.2	11.0	3.1	0.5	100.0
合計	度数	7068	7073	1793	502	76	16512
	%	42.8	42.8	10.9	3.0	0.5	100.0

性別で見た場合、全体的に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の両者が同じ割合となっている。ただ、男性では「そう思う」の割合が「どちらかといえばそう思う」を7%上回っているのに対し、女性では若干ながら「どちらかといえばそう思う」が「そう思う」を上回っている。

#### 4. 教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった

所属		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2225	2587	706	199	12	5729
	%	38.8	45.2	12.3	3.5	0.2	100.0
社会福祉学科	度数	1589	1662	473	163	20	3907
	%	40.7	42.5	12.1	4.2	0.5	100.0
公共社会学科	度数	473	615	257	46	4	1395
	%	33.9	44.1	18.4	3.3	0.3	100.0
人間形成学科	度数	1830	1796	636	190	37	4489
	%	40.8	40.0	14.2	4.2	0.8	100.0
社会学科	度数	686	727	306	116	5	1840
	%	37.3	39.5	16.6	6.3	0.3	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	6	4	1	0	0	11
	%	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6809	7391	2379	714	78	17371
	%	39.2	42.5	13.7	4.1	0.4	100.0

全体的には「どちらかといえばそう思う」42.6%が最も多く、次いで「そう思う」39.2%、「どちらかといえばそう思わない」13.7%の順になっている。

これを学科別にみた場合、人間形成学科を除いていずれの学科とも同じような傾向がみられている。人間形成学科ではわずかながら「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2893	3068	933	225	19	7138
	%	40.5	43.0	13.1	3.2	0.3	100.0
2年	度数	2025	2420	860	206	16	5527
	%	36.6	43.8	15.6	3.7	0.3	100.0
3年	度数	1360	1534	514	254	16	3678
	%	37.0	41.7	14.0	6.9	0.4	100.0
4年	度数	531	378	73	29	30	1041
	%	51.0	36.3	7.0	2.8	2.9	100.0
その他	度数	18	3	1	0	0	22
	%	81.8	13.6	4.5	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6827	7403	2381	714	81	17406
	%	39.2	42.5	13.7	4.1	0.5	100.0

学年別にみた「教員の指示説明のわかりやすさ」の状況については、全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高いといえる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、15%近く「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	883	849	260	70	10	2072
	%	42.6	41.0	12.5	3.4	0.5	100.0
女性	度数	5507	6235	2032	604	64	14442
	%	38.1	43.2	14.1	4.2	0.4	100.0
合計	度数	6390	7084	2292	674	74	16514
	%	38.7	42.9	13.9	4.1	0.4	100.0



性別で見た場合、全体的に「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、次いで「どちらかといえ  
ばそう思う」が続いている。詳細に見ると、男性では「そう思う」の割合が「どちらかといえ  
ばそう思う」を若干上回っているのに対し、女性では「どちらかといえ  
ばそう思う」が「そう思う」を5%以上上回っている。

#### 5. 授業のすすめかたは、授業の内容を理解するのに適切な速さだった

所属		そう思う	どちらかとい え ばそう思う	どちらかといえ ば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2007	2847	654	159	58	5725
	%	35.1	49.7	11.4	2.8	1.0	100.0
社会福祉学科	度数	1553	1833	407	91	22	3906
	%	39.8	46.9	10.4	2.3	0.6	100.0
公共社会学科	度数	449	705	196	41	2	1393
	%	32.2	50.6	14.1	2.9	0.1	100.0
人間形成学科	度数	1914	1900	512	109	52	4487
	%	42.7	42.3	11.4	2.4	1.2	100.0
社会学科	度数	701	801	246	72	15	1835
	%	38.2	43.7	13.4	3.9	0.8	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	3	6	2	0	0	11
	%	27.3	54.5	18.2	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6627	8092	2017	472	149	17357
	%	38.2	46.6	11.6	2.7	0.9	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえ  
ばそう思う」46.6%、「そう思う」38.2%の順  
となっている。看護学科、社会福祉学科、公共社会学科では「どちらかといえ  
ばそう思う」と「そう  
思う」の差が7%以上と大きく開いている。人間形成学科では「そう思う」が「どちらかといえ  
ばそう  
思う」を若干上回っている。

学年		そう思う	どちらかといえ ば そう思う	どちらかといえ ば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2838	3345	741	178	28	7130
	%	39.8	46.9	10.4	2.5	0.4	100.0
2年	度数	2042	2606	691	152	28	5519
	%	37.0	47.2	12.5	2.8	0.5	100.0
3年	度数	1259	1744	512	129	36	3680
	%	34.2	47.4	13.9	3.5	1.0	100.0
4年	度数	491	400	76	15	59	1041
	%	47.2	38.4	7.3	1.4	5.7	100.0
その他	度数	16	5	0	1	0	22
	%	72.7	22.7	0.0	4.5	0.0	100.0
合計	度数	6646	8100	2020	475	151	17392
	%	38.2	46.6	11.6	2.7	0.9	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえ  
ばそう思う」の割合が高いといえる。2、3年次では「そう  
思う」と比べて10%以上の差が見られる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、10%近く「そ  
う思う」が「どちらかといえ  
ばそう  
思う」を上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	872	891	233	60	12	2068
	%	42.2	43.1	11.3	2.9	0.6	100.0
女性	度数	5385	6829	1700	392	126	14432
	%	37.3	47.3	11.8	2.7	0.9	100.0
合計	度数	6257	7720	1933	452	138	16500
	%	37.9	46.8	11.7	2.7	0.8	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」46.8%が最も多く、次いで「そう思う」37.9%の順になっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」については、女性では10%の差が見られる。

#### 6. 板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2238	2845	439	92	113	5727
	%	39.1	49.7	7.7	1.6	2.0	100.0
社会福祉学科	度数	1687	1742	316	96	63	3904
	%	43.2	44.6	8.1	2.5	1.6	100.0
公共社会学科	度数	456	695	193	27	21	1392
	%	32.8	49.9	13.9	1.9	1.5	100.0
人間形成学科	度数	2033	1862	356	79	151	4481
	%	45.4	41.6	7.9	1.8	3.4	100.0
社会学科	度数	760	786	198	55	38	1837
	%	41.4	42.8	10.8	3.0	2.1	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	7	4	0	0	0	11
	%	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	度数	7181	7934	1502	349	386	17352
	%	41.4	45.7	8.7	2.0	2.2	100.0

学科別にみた場合、人間形成学科を除いていずれの学科においても「どちらかといえばそう思う」が最も多く、次いで「そう思う」の順である。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の差について見ると、看護学科や公共社会学科では10%以上あり、また「そう思う」についてのみ見てみると、看護学科と人間形成学科では5%以上の差がある。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2903	3389	591	109	143	7135
	%	40.7	47.5	8.3	1.5	2.0	100.0
2年	度数	2351	2497	474	115	78	5515
	%	42.6	45.3	8.6	2.1	1.4	100.0
3年	度数	1395	1676	383	119	104	3677
	%	37.9	45.6	10.4	3.2	2.8	100.0
4年	度数	538	357	70	12	61	1038
	%	51.8	34.4	6.7	1.2	5.9	100.0
その他	度数	18	2	1	1	0	22
	%	81.8	9.1	4.5	4.5	0.0	100.0
合計	度数	7205	7921	1519	356	386	17387
	%	41.4	45.6	8.7	2.0	2.2	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高いといえる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、15%以上「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	880	917	194	47	30	2068
	%	42.6	44.3	9.4	2.3	1.5	100.0
女性	度数	5877	6677	1259	286	327	14426
	%	40.7	46.3	8.7	2.0	2.3	100.0
合計	度数	6757	7594	1453	333	357	16494
	%	41.0	46.0	8.8	2.0	2.2	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」46.0%が最も多く、次いで「そう思う」41.0%の順になっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を比べると、女性では5%以上の差が見られる。

7. 教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった (実技、実習・演習項目)

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1721	2521	549	103	674	5568
	%	30.9	45.3	9.9	1.8	12.1	100.0
社会福祉学科	度数	847	1279	303	83	1317	3829
	%	22.1	33.4	7.9	2.2	34.4	100.0
公共社会学科	度数	220	424	144	19	553	1360
	%	16.2	31.2	10.6	1.4	40.7	100.0
人間形成学科	度数	973	1001	254	68	1868	4164
	%	23.4	24.0	6.1	1.6	44.9	100.0
社会学科	度数	420	546	175	62	585	1788
	%	23.5	30.5	9.8	3.5	32.7	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	6	2	0	0	3	11
	%	54.5	18.2	0.0	0.0	27.3	100.0
合計	度数	4187	5773	1425	335	5000	16720
	%	25.0	34.5	8.5	2.0	29.9	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」34.5%、「回答できない、あてはまらない」29.9%の順となっている。看護学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、社会福祉学科・公共社会学科・人間形成学科・社会学科では「回答できない、あてはまらない」「どちらかといえばそう思う」が上位を占めており、学科の授業形態の特色が反映された回答になったのではないと思われる。

学年		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1675	2424	489	83	2210	6881
	%	24.3	35.2	7.1	1.2	32.1	100.0
2年	度数	1158	1668	418	107	2018	5369
	%	21.6	31.1	7.8	2.0	37.6	100.0
3年	度数	984	1338	427	129	636	3514
	%	28.0	38.1	12.2	3.7	18.1	100.0
4年	度数	366	344	94	17	151	972
	%	37.7	35.4	9.7	1.7	15.5	100.0
その他	度数	16	2	1	1	1	21
	%	76.2	9.5	4.8	4.8	4.8	100.0
合計	度数	4199	5776	1429	337	5016	16757
	%	25.1	34.5	8.5	2.0	29.9	100.0

学年別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」34.5%が最も多く、次いで「回答できない、あてはまらない」29.9%の順である。詳細に見ると、1年次は「どちらかといえばそう思う」「回答できない、あてはまらない」、2年次は「回答できない、あてはまらない」「どちらかといえばそう思う」、3年次は「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、4年次では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が上位を占めており、学年により多少傾向が異なっている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	544	672	175	28	492	1911
	%	28.5	35.2	9.2	1.5	25.7	100.0
女性	度数	3293	4823	1163	283	4423	13985
	%	23.5	34.5	8.3	2.0	31.6	100.0
合計	度数	3837	5495	1338	311	4915	15896
	%	24.1	34.6	8.4	2.0	30.9	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」34.6%が最も多く、次いで「回答できない、あてはまらない」30.9%の順になっている。「回答できない、あてはまらない」について着目すると、男性25.7%、女性31.6%となっており、5%以上の差がある。

## 8. 教員の指導やアドバイスの内容は役立った (実技、実習・演習項目)

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1948	2430	427	82	676	5563
	%	35.0	43.7	7.7	1.5	12.2	100.0
社会福祉学科	度数	940	1223	253	76	1335	3827
	%	24.6	32.0	6.6	2.0	34.9	100.0
公共社会学科	度数	240	429	113	20	558	1360
	%	17.6	31.5	8.3	1.5	41.0	100.0
人間形成学科	度数	1079	964	198	57	1862	4160
	%	25.9	23.2	4.8	1.4	44.8	100.0
社会学科	度数	445	535	159	55	594	1788
	%	24.9	29.9	8.9	3.1	33.2	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	6	2	0	0	3	11
	%	54.5	18.2	0.0	0.0	27.3	100.0
合計	度数	4658	5583	1150	290	5028	16709
	%	27.9	33.4	6.9	1.7	30.1	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」33.4%、「回答できない、あてはまらない」30.1%の順となっている。看護学科では「どちらかといえばそう思う」、社会福祉学科・公共社会学科・人間形成学科・社会学科では「回答できない、あてはまらない」が上位を占めている。

学年		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1835	2359	393	78	2213	6878
	%	26.7	34.3	5.7	1.1	32.2	100.0
2年	度数	1269	1622	344	91	2039	5365
	%	23.7	30.2	6.4	1.7	38.0	100.0
3年	度数	1133	1280	350	111	635	3509
	%	32.3	36.5	10.0	3.2	18.1	100.0
4年	度数	408	325	72	14	154	973
	%	41.9	33.4	7.4	1.4	15.8	100.0
その他	度数	15	4	1	0	1	21
	%	71.4	19.0	4.8	0.0	4.8	100.0
合計	度数	4660	5590	1160	294	5042	16746
	%	27.8	33.4	6.9	1.8	30.1	100.0

学年別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」33.4%が最も多く、次いで「回答できない、あてはまらない」30.1%の順である。詳細に見ると、1年次は「どちらかといえばそう思う」「回答できない、あてはまらない」、2年次は「回答できない、あてはまらない」「どちらかといえばそう思う」、3年次は「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、4年次では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が上位を占めており、学年により多少傾向が異なっている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	587	656	149	25	495	1912
	%	30.7	34.3	7.8	1.3	25.9	100.0
女性	度数	3657	4663	958	247	4449	13974
	%	26.2	33.4	6.9	1.8	31.8	100.0
合計	度数	4244	5319	1107	272	4944	15886
	%	26.7	33.5	7.0	1.7	31.1	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」33.5%が最も多く、次いで「回答できない、あてはまらない」31.1%の順になっている。「回答できない、あてはまらない」について着目すると、男性25.9%、女性31.8%となっており、5%以上の差がある。

#### 9. 授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えさ思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1954	2755	447	85	462	5703
	%	34.3	48.3	7.8	1.5	8.1	100.0
社会福祉学科	度数	1058	1378	296	78	1082	3892
	%	27.2	35.4	7.6	2.0	27.8	100.0
公共社会学科	度数	301	557	187	48	294	1387
	%	21.7	40.2	13.5	3.5	21.2	100.0
人間形成学科	度数	1530	1329	263	57	1296	4475
	%	34.2	29.7	5.9	1.3	29.0	100.0
社会学科	度数	522	618	168	69	457	1834
	%	28.5	33.7	9.2	3.8	24.9	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	5	4	0	0	2	11
	%	45.5	36.4	0.0	0.0	18.2	100.0
合計	度数	5370	6641	1361	337	3593	17302
	%	31.0	38.4	7.9	1.9	20.8	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」38.4%、「そう思う」31.0%の順となっている。「どちらかといえばそう思う」について看護学科と人間形成学科を比較した場合、15%以上の差が見られる。また、「そう思う」については看護学科と公共社会学科の比較において、10%以上の差が見られる。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2100	2748	523	118	1605	7094
	%	29.6	38.7	7.4	1.7	22.6	100.0
2年	度数	1573	2019	407	119	1395	5513
	%	28.5	36.6	7.4	2.2	25.3	100.0
3年	度数	1213	1500	368	90	499	3670
	%	33.1	40.9	10.0	2.5	13.6	100.0
4年	度数	481	359	76	10	113	1039
	%	46.3	34.6	7.3	1.0	10.9	100.0
その他	度数	15	5	0	1	1	22
	%	68.2	22.7	0.0	4.5	4.5	100.0
合計	度数	5382	6631	1374	338	3613	17338
	%	31.0	38.2	7.9	1.9	20.8	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高いといえる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、10%以上「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	714	822	222	59	251	2068
	%	34.5	39.7	10.7	2.9	12.1	100.0
女性	度数	4290	5473	1081	261	3280	14385
	%	29.8	38.0	7.5	1.8	22.8	100.0
合計	度数	5004	6295	1303	320	3531	16453
	%	30.4	38.3	7.9	1.9	21.5	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」38.3%が最も多く、次いで「そう思う」30.4%の順になっている。「そう思う」について着目すると、男性34.5%、女性29.8%となっており、5%以上の差がある。

#### 10. この授業は、質問や意見を述べやすかった

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1842	2663	895	200	125	5725
	%	32.2	46.5	15.6	3.5	2.2	100.0
社会福祉学科	度数	967	1643	831	283	176	3900
	%	24.8	42.1	21.3	7.3	4.5	100.0
公共社会学科	度数	295	622	353	96	25	1391
	%	21.2	44.7	25.4	6.9	1.8	100.0
人間形成学科	度数	1447	1687	928	281	143	4486
	%	32.3	37.6	20.7	6.3	3.2	100.0
社会学科	度数	538	672	411	136	81	1838
	%	29.3	36.6	22.4	7.4	4.4	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	4	4	1	1	1	11
	%	36.4	36.4	9.1	9.1	9.1	100.0
合計	度数	5093	7291	3419	997	551	17351
	%	29.4	42.0	19.7	5.7	3.2	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」42.0%、「そう思う」29.4%の順となっている。「どちらかといえばそう思う」では看護学科と社会学科の差が、「そう思う」については看護学科と公共社会学科の差が、それぞれ10%近く見られる。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2011	3006	1452	451	206	7126
	%	28.2	42.2	20.4	6.3	2.9	100.0
2年	度数	1549	2357	1089	311	215	5521
	%	28.1	42.7	19.7	5.6	3.9	100.0
3年	度数	1105	1550	737	206	78	3676
	%	30.1	42.2	20.0	5.6	2.1	100.0
4年	度数	419	378	156	30	57	1040
	%	40.3	36.3	15.0	2.9	5.5	100.0
その他	度数	15	5	1	1	0	22
	%	68.2	22.7	4.5	4.5	0.0	100.0
合計	度数	5099	7296	3435	999	556	17385
	%	29.3	42.0	19.8	5.7	3.2	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高い。しかし、他の学年に比べて4年次においては、若干ではあるが「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	725	853	343	113	34	2068
	%	35.1	41.2	16.6	5.5	1.6	100.0
女性	度数	4024	6097	2952	846	506	14425
	%	27.9	42.3	20.5	5.9	3.5	100.0
合計	度数	4749	6950	3295	959	540	16493
	%	28.8	42.1	20.0	5.8	3.3	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」42.1%が最も多く、次いで「そう思う」28.8%の順になっている。「そう思う」について着目すると、男性35.1%、女性27.9%となっており、5%以上の差がある。



# 11. 教員は学生の質問や意見に対応していた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2353	2708	464	96	105	5726
	%	41.1	47.3	8.1	1.7	1.8	100.0
社会福祉学科	度数	1419	1674	459	126	222	3900
	%	36.4	42.9	11.8	3.2	5.7	100.0
公共社会学科	度数	433	677	208	47	28	1393
	%	31.1	48.6	14.9	3.4	2.0	100.0
人間形成学科	度数	1801	1760	549	128	251	4489
	%	40.1	39.2	12.2	2.9	5.6	100.0
社会学科	度数	694	698	241	68	138	1839
	%	37.7	38.0	13.1	3.7	7.5	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	5	4	1	0	1	11
	%	45.5	36.4	9.1	0.0	9.1	100.0
合計	度数	6705	7521	1922	465	745	17358
	%	38.6	43.3	11.1	2.7	4.3	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」43.3%、「そう思う」38.6%の順となっている。「どちらかといえばそう思う」では公共社会学科と社会学科の差が10%以上開いている。またいずれの学科も「どちらかといえばそう思う」が「そう思う」を上回っているのに対し、人間形成学科では両者が逆転している。

学年		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2711	3267	725	182	240	7125
	%	38.0	45.9	10.2	2.6	3.4	100.0
2年	度数	2001	2345	664	150	363	5523
	%	36.2	42.5	12.0	2.7	6.6	100.0
3年	度数	1423	1564	475	117	102	3681
	%	38.7	42.5	12.9	3.2	2.8	100.0
4年	度数	560	349	66	21	45	1041
	%	53.8	33.5	6.3	2.0	4.3	100.0
その他	度数	18	2	0	1	1	22
	%	81.8	9.1	0.0	4.5	4.5	100.0
合計	度数	6713	7527	1930	471	751	17392
	%	38.6	43.3	11.1	2.7	4.3	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高いといえる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を20%以上上回っている。

性別		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	867	878	218	56	51	2070
	%	41.9	42.4	10.5	2.7	2.5	100.0
女性	度数	5362	6344	1648	392	685	14431
	%	37.2	44.0	11.4	2.7	4.7	100.0
合計	度数	6229	7222	1866	448	736	16501
	%	37.7	43.8	11.3	2.7	4.5	100.0

性別で見た場合、男女ともに「どちらかといえばそう思う」（男性：42.4%、女性：44.0%）が最も多く、次いで「そう思う」（男性 41.9%、女性 37.2%）の順であり、全体的にもそれほど大きな差は現れていない。

## 12. この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2645	2514	388	148	30	5725
	%	46.2	43.9	6.8	2.6	0.5	100.0
社会福祉学科	度数	2327	1267	185	63	55	3897
	%	59.7	32.5	4.7	1.6	1.4	100.0
公共社会学科	度数	599	586	127	24	57	1393
	%	43.0	42.1	9.1	1.7	4.1	100.0
人間形成学科	度数	2616	1304	271	130	167	4488
	%	58.3	29.1	6.0	2.9	3.7	100.0
社会学科	度数	959	636	144	57	40	1836
	%	52.2	34.6	7.8	3.1	2.2	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	5	4	1	1	0	11
	%	45.5	36.4	9.1	9.1	0.0	100.0
合計	度数	9151	6311	1116	423	349	17350
	%	52.7	36.4	6.4	2.4	2.0	100.0

全体的に見ると、「そう思う」が半分以上の割合を占めている。学科間の比較で見てみると、社会福祉学科の 59.7%に対し公共社会学科が 43.0%というように 15%以上の差異があった。

学年		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	3676	2739	420	124	169	7128
	%	51.6	38.4	5.9	1.7	2.4	100.0
2年	度数	3044	1962	369	129	17	5521
	%	55.1	35.5	6.7	2.3	0.3	100.0
3年	度数	1812	1321	267	142	131	3673
	%	49.3	36.0	7.3	3.9	3.6	100.0
4年	度数	614	301	62	24	39	1040
	%	59.0	28.9	6.0	2.3	3.8	100.0
その他	度数	15	4	2	1	0	22
	%	68.2	18.2	9.1	4.5	0.0	100.0
合計	度数	9161	6327	1120	420	356	17384
	%	52.7	36.4	6.4	2.4	2.0	100.0

いずれの学年においても、「そう思う」の割合が「どちらかといえばそう思う」と比較して 10%以上高い。特に 4 年次においては 20%以上高い結果となっており、あらわれている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	1074	727	168	46	52	2067
	%	52.0	35.2	8.1	2.2	2.5	100.0
女性	度数	7598	5332	887	311	297	14425
	%	52.7	37.0	6.1	2.2	2.1	100.0
合計	度数	8672	6059	1055	357	349	16492
	%	52.6	36.7	6.4	2.2	2.1	100.0

男女ともに「とてもそう思う」の割合が50%以上と高かった。また、性別による顕著な差は認められなかった。

### 13. この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1676	2932	833	215	69	5725
	%	29.3	51.2	14.6	3.8	1.2	100.0
社会福祉学科	度数	1032	1885	696	176	108	3897
	%	26.5	48.4	17.9	4.5	2.8	100.0
公共社会学科	度数	296	704	322	58	10	1390
	%	21.3	50.6	23.2	4.2	0.7	100.0
人間形成学科	度数	1445	1921	852	167	98	4483
	%	32.2	42.9	19.0	3.7	2.2	100.0
社会学科	度数	475	810	378	123	45	1831
	%	25.9	44.2	20.6	6.7	2.5	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	3	5	2	0	1	11
	%	27.3	45.5	18.2	0.0	9.1	100.0
合計	度数	4927	8257	3083	739	331	17337
	%	28.4	47.6	17.8	4.3	1.9	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」47.6%、「そう思う」28.4%の順となっている。「どちらかといえばそう思う」では看護学科と人間形成学科の差が、「そう思う」については人間形成学科と公共社会学科の差が、それぞれ10%近く見られる。

学年		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2094	3477	1195	273	87	7126
	%	29.4	48.8	16.8	3.8	1.2	100.0
2年	度数	1478	2578	1050	262	146	5514
	%	26.8	46.8	19.0	4.8	2.6	100.0
3年	度数	974	1762	697	180	56	3669
	%	26.5	48.0	19.0	4.9	1.5	100.0
4年	度数	389	429	149	29	45	1041
	%	37.4	41.2	14.3	2.8	4.3	100.0
その他	度数	15	4	1	1	1	22
	%	68.2	18.2	4.5	4.5	4.5	100.0
合計	度数	4950	8250	3092	745	335	17372
	%	28.5	47.5	17.8	4.3	1.9	100.0

「そう思う」について3年次で26.5%、4年次では37.4%、また「どちらかといえばそう思う」については4年次で41.2%、1年次で48.8%というように7%以上の差がみられた。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	652	932	345	96	40	2065
	%	31.6	45.1	16.7	4.6	1.9	100.0
女性	度数	4009	6892	2626	612	276	14415
	%	27.8	47.8	18.2	4.2	1.9	100.0
合計	度数	4661	7824	2971	708	316	16480
	%	28.3	47.5	18.0	4.3	1.9	100.0

男女ともに「どちらかといえばそう思う」の割合が大きかった。また、性別による顕著な差は認められなかった。

#### 14. 教員は授業時間外の学習に役立つ資料や課題、練習方法を示していた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1711	2891	809	170	142	5723
	%	29.9	50.5	14.1	3.0	2.5	100.0
社会福祉学科	度数	956	1745	733	230	238	3902
	%	24.5	44.7	18.8	5.9	6.1	100.0
公共社会学科	度数	281	652	316	95	49	1393
	%	20.2	46.8	22.7	6.8	3.5	100.0
人間形成学科	度数	1361	1667	875	216	368	4487
	%	30.3	37.2	19.5	4.8	8.2	100.0
社会学科	度数	439	654	413	137	193	1836
	%	23.9	35.6	22.5	7.5	10.5	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	7	3	0	0	1	11
	%	63.6	27.3	0.0	0.0	9.1	100.0
合計	度数	4755	7612	3146	848	991	17352
	%	27.4	43.9	18.1	4.9	5.7	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」43.9%、「そう思う」27.4%の順となっている。「どちらかといえばそう思う」では看護学科と社会学科の差が15%近く、「そう思う」については人間形成学科と公共社会学科の差が10%近く開いている。

学年		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1930	3366	1232	340	264	7132
	%	27.1	47.2	17.3	4.8	3.7	100.0
2年	度数	1363	2301	1084	291	477	5516
	%	24.7	41.7	19.7	5.3	8.6	100.0
3年	度数	1034	1545	708	198	189	3674
	%	28.1	42.1	19.3	5.4	5.1	100.0
4年	度数	427	398	131	24	63	1043
	%	40.9	38.2	12.6	2.3	6.0	100.0
その他	度数	16	4	0	1	1	22
	%	72.7	18.2	0.0	4.5	4.5	100.0
合計	度数	4770	7614	3155	854	994	17387
	%	27.4	43.8	18.1	4.9	5.7	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高いといえる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を若干ではあるが上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	633	899	368	91	79	2070
	%	30.6	43.4	17.8	4.4	3.8	100.0
女性	度数	3790	6371	2661	723	881	14426
	%	26.3	44.2	18.4	5.0	6.1	100.0
合計	度数	4423	7270	3029	814	960	16496
	%	26.8	44.1	18.4	4.9	5.8	100.0

男女ともに「どちらかといえばそう思う」の割合が大きかった。また、性別による顕著な差は認められなかった。

#### 15. この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えさ思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2498	2739	386	80	21	5724
	%	43.6	47.9	6.7	1.4	0.4	100.0
社会福祉学科	度数	1703	1853	249	77	20	3902
	%	43.6	47.5	6.4	2.0	0.5	100.0
公共社会学科	度数	454	730	165	37	4	1390
	%	32.7	52.5	11.9	2.7	0.3	100.0
人間形成学科	度数	2116	1961	319	63	27	4486
	%	47.2	43.7	7.1	1.4	0.6	100.0
社会学科	度数	680	870	206	72	7	1835
	%	37.1	47.4	11.2	3.9	0.4	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	8	3	0	0	0	11
	%	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	度数	7459	8156	1325	329	79	17348
	%	43.0	47.0	7.6	1.9	0.5	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」47.0%、「そう思う」43.0%の順となっている。「どちらかといえばそう思う」では公共社会学科と人間形成学科の差が、「そう思う」については人間形成学科と公共社会学科の差がそれぞれ10%近く開いている。

学年		そう思う	どちらかとい えさ思える	どちらかとい えさ思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	3080	3424	491	108	26	7129
	%	43.2	48.0	6.9	1.5	0.4	100.0
2年	度数	2224	2700	457	110	25	5516
	%	40.3	48.9	8.3	2.0	0.5	100.0
3年	度数	1519	1704	331	102	17	3673
	%	41.4	46.4	9.0	2.8	0.5	100.0
4年	度数	626	339	49	13	14	1041
	%	60.1	32.6	4.7	1.2	1.3	100.0
その他	度数	14	5	2	1	0	22
	%	63.6	22.7	9.1	4.5	0.0	100.0
合計	度数	7463	8172	1330	334	82	17381
	%	42.9	47.0	7.7	1.9	0.5	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高いといえる。しかし、他の学年に比べて4年次においては、「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を30%近くも上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	912	924	178	42	10	2066
	%	44.1	44.7	8.6	2.0	0.5	100.0
女性	度数	6055	6914	1106	276	72	14423
	%	42.0	47.9	7.7	1.9	0.5	100.0
合計	度数	6967	7838	1284	318	82	16489
	%	42.3	47.5	7.8	1.9	0.5	100.0

男女ともに「どちらかといえばそう思う」の割合が大きかった。また、性別による顕著な差は認められなかった。

#### 16. この授業は、総合的に満足できるものであった

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えさ思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2262	2760	543	137	19	5721
	%	39.5	48.2	9.5	2.4	0.3	100.0
社会福祉学科	度数	1578	1856	347	111	11	3903
	%	40.4	47.6	8.9	2.8	0.3	100.0
公共社会学科	度数	439	692	207	44	6	1388
	%	31.6	49.9	14.9	3.2	0.4	100.0
人間形成学科	度数	1941	1899	505	115	23	4483
	%	43.3	42.4	11.3	2.6	0.5	100.0
社会学科	度数	679	846	221	85	7	1838
	%	36.9	46.0	12.0	4.6	0.4	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	6	4	1	0	0	11
	%	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6905	8057	1824	492	66	17344
	%	39.8	46.5	10.5	2.8	0.4	100.0

全体的には「どちらかといえばそう思う」46.5%、「そう思う」39.8%となっている。学科別にみると、公共社会学科と人間形成学科の差は「どちらかといえばそう思う」では7%以上あり、「そう思う」の差が10%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2852	3402	684	162	23	7123
	%	40.0	47.8	9.6	2.3	0.3	100.0
2年	度数	2080	2675	597	149	18	5519
	%	37.7	48.5	10.8	2.7	0.3	100.0
3年	度数	1377	1631	486	165	12	3671
	%	37.5	44.4	13.2	4.5	0.3	100.0
4年	度数	585	367	57	17	15	1041
	%	56.2	35.3	5.5	1.6	1.4	100.0
その他	度数	16	2	4	0	0	22
	%	72.7	9.1	18.2	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6910	8077	1828	493	68	17376
	%	39.8	46.5	10.5	2.8	0.4	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」の割合が高い。しかし、他の学年に比べて4年次においては、「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を20%以上上回っている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	883	909	213	55	5	2065
	%	42.8	44.0	10.3	2.7	0.2	100.0
女性	度数	5578	6832	1533	415	60	14418
	%	38.7	47.4	10.6	2.9	0.4	100.0
合計	度数	6461	7741	1746	470	65	16483
	%	39.2	47.0	10.6	2.9	0.4	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」47.0%が最も多く、次いで「そう思う」39.2%の順になっている。「そう思う」は男性の割合が、「どちらかといえばそう思う」では女性の割合がそれぞれ若干ではあるが高くなっている。

#### 17. 私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した

所属		そう思う	どちらかとい えはそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1199	2626	1218	540	145	5728
	%	20.9	45.8	21.3	9.4	2.5	100.0
社会福祉学科	度数	601	1383	793	658	472	3907
	%	15.4	35.4	20.3	16.8	12.1	100.0
公共社会学科	度数	247	592	406	126	20	1391
	%	17.8	42.6	29.2	9.1	1.4	100.0
人間形成学科	度数	905	1280	870	785	651	4491
	%	20.2	28.5	19.4	17.5	14.5	100.0
社会学科	度数	308	542	252	376	363	1841
	%	16.7	29.4	13.7	20.4	19.7	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	8	3	0	0	0	11
	%	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	度数	3268	6426	3539	2485	1651	17369
	%	18.8	37.0	20.4	14.3	9.5	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」37.0%、「どちらかといえばそう思わない」20.4%の順となっている。詳細を見ると、人間形成学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」が多く、社会学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思わない」の順になっている。「そう思う」では看護学科と社会福祉学科の差が5%以上、「どちらかといえばそう思う」については看護学科と人間形成学科の差が15%以上、「どちらかといえばそう思わない」では公共社会学科と社会学科の差が15%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1508	2974	1720	821	115	7138
	%	21.1	41.7	24.1	11.5	1.6	100.0
2年	度数	952	1765	874	857	1075	5523
	%	17.2	32.0	15.8	15.5	19.5	100.0
3年	度数	617	1344	712	643	362	3678
	%	16.8	36.5	19.4	17.5	9.8	100.0
4年	度数	211	349	221	152	108	1041
	%	20.3	33.5	21.2	14.6	10.4	100.0
その他	度数	11	7	3	1	0	22
	%	50.0	31.8	13.6	4.5	0.0	100.0
合計	度数	3299	6439	3530	2474	1660	17402
	%	19.0	37.0	20.3	14.2	9.5	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。ただ、2年次においては、「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	429	712	500	277	154	2072
	%	20.7	34.4	24.1	13.4	7.4	100.0
女性	度数	2712	5413	2819	2046	1449	14439
	%	18.8	37.5	19.5	14.2	10.0	100.0
合計	度数	3141	6125	3319	2323	1603	16511
	%	19.0	37.1	20.1	14.1	9.7	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」37.1%が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」20.1%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は女性の割合が、「どちらかといえばそう思わない」では男性の割合が高くなっている。



18. 私はこの授業の学習目標をわかったうえで授業を受けた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1400	3179	946	156	44	5725
	%	24.5	55.5	16.5	2.7	0.8	100.0
社会福祉学科	度数	739	1839	782	376	170	3906
	%	18.9	47.1	20.0	9.6	4.4	100.0
公共社会学科	度数	244	732	337	70	9	1392
	%	17.5	52.6	24.2	5.0	0.6	100.0
人間形成学科	度数	1033	1921	903	319	313	4489
	%	23.0	42.8	20.1	7.1	7.0	100.0
社会学科	度数	352	761	370	201	157	1841
	%	19.1	41.3	20.1	10.9	8.5	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	3	7	1	0	0	11
	%	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0	100.0
合計	度数	3771	8439	3339	1122	693	17364
	%	21.7	48.6	19.2	6.5	4.0	100.0

学科別にみた場合、まず全体的には「どちらかといえばそう思う」48.6%、「そう思う」21.7%の順となっている。ただ、社会福祉学科・公共社会学科・社会学科では「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。「そう思う」では看護学科と公共社会学科の差が7%、「どちらかといえばそう思う」については看護学科と社会学科の差が10%以上、「どちらかといえばそう思わない」では公共社会学科と看護学科の差が7%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1564	3562	1512	428	70	7136
	%	21.9	49.9	21.2	6.0	1.0	100.0
2年	度数	1055	2548	1047	424	448	5522
	%	19.1	46.1	19.0	7.7	8.1	100.0
3年	度数	813	1882	610	234	137	3676
	%	22.1	51.2	16.6	6.4	3.7	100.0
4年	度数	339	443	178	37	44	1041
	%	32.6	42.6	17.1	3.6	4.2	100.0
その他	度数	10	9	3	0	0	22
	%	45.5	40.9	13.6	0.0	0.0	100.0
合計	度数	3781	8444	3350	1123	699	17397
	%	21.7	48.5	19.3	6.5	4.0	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。「どちらかといえばそう思う」については3年次と4年次の差が10%近く、「そう思う」では4年次と2年次の差が10%以上開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	523	935	436	111	65	2070
	%	25.3	45.2	21.1	5.4	3.1	100.0
女性	度数	3011	7044	2791	970	619	14435
	%	20.9	48.8	19.3	6.7	4.3	100.0
合計	度数	3534	7979	3227	1081	684	16505
	%	21.4	48.3	19.6	6.5	4.1	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」48.3%が最も多く、次いで「そう思う」21.4%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は女性の割合が、「そう思う」では男性の割合が高くなっている。

#### 19. 私はこの授業に熱心に取り組んだ

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2262	2921	477	60	6	5726
	%	39.5	51.0	8.3	1.0	0.1	100.0
社会福祉学科	度数	1235	1991	559	102	14	3901
	%	31.7	51.0	14.3	2.6	0.4	100.0
公共社会学科	度数	344	752	262	30	4	1392
	%	24.7	54.0	18.8	2.2	0.3	100.0
人間形成学科	度数	1768	2121	494	87	20	4490
	%	39.4	47.2	11.0	1.9	0.4	100.0
社会学科	度数	486	918	323	92	18	1837
	%	26.5	50.0	17.6	5.0	1.0	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	5	4	2	0	0	11
	%	45.5	36.4	18.2	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6100	8707	2117	371	62	17357
	%	35.1	50.2	12.2	2.1	0.4	100.0

学科別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」50.2%、「そう思う」35.1%の順となっている。「そう思う」では看護学科と公共社会学科の差が15%近く、「どちらかといえばそう思う」については公共社会学科と人間形成学科の差が7%近く開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2471	3673	856	121	11	7132
	%	34.6	51.5	12.0	1.7	0.2	100.0
2年	度数	1749	2795	781	159	36	5520
	%	31.7	50.6	14.1	2.9	0.7	100.0
3年	度数	1361	1819	411	85	2	3678
	%	37.0	49.5	11.2	2.3	0.1	100.0
4年	度数	494	446	75	7	15	1037
	%	47.6	43.0	7.2	0.7	1.4	100.0
その他	度数	13	4	5	0	0	22
	%	59.1	18.2	22.7	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6088	8737	2128	372	64	17389
	%	35.0	50.2	12.2	2.1	0.4	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。ただ、4年次では5%近く「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。「どちらかといえばそう思う」については1年次と4年次の差が8%以上、「そう思う」では4年次と2年次の差が15%以上開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	714	992	305	41	17	2069
	%	34.5	47.9	14.7	2.0	0.8	100.0
女性	度数	4924	7390	1753	317	44	14428
	%	34.1	51.2	12.1	2.2	0.3	100.0
合計	度数	5638	8382	2058	358	61	16497
	%	34.2	50.8	12.5	2.2	0.4	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」50.8%が最も多く、次いで「そう思う」34.2%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は女性の割合が、「そう思う」では男性の割合が若干高くなっている。

## 20. 私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい え ば そう 思 わ ない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	2418	2512	600	155	30	5715
	%	42.3	44.0	10.5	2.7	0.5	100.0
社会福祉学科	度数	1392	1596	644	250	16	3898
	%	35.7	40.9	16.5	6.4	0.4	100.0
公共社会学科	度数	432	694	210	49	8	1393
	%	31.0	49.8	15.1	3.5	0.6	100.0
人間形成学科	度数	1864	1751	663	167	39	4484
	%	41.6	39.0	14.8	3.7	0.9	100.0
社会学科	度数	520	725	407	167	20	1839
	%	28.3	39.4	22.1	9.1	1.1	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	7	4	0	0	0	11
	%	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6633	7282	2524	788	113	17340
	%	38.3	42.0	14.6	4.5	0.7	100.0

学科別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」42.0%、「そう思う」38.3%の順となっている。ただ、人間形成学科では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の順になっている。「そう思う」では看護学科と社会学科の差が15%近く、「どちらかといえばそう思う」については公共社会学科と人間形成学科の差が10%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	2845	3147	901	224	11	7128
	%	39.9	44.1	12.6	3.1	0.2	100.0
2年	度数	1711	2330	1053	355	63	5512
	%	31.0	42.3	19.1	6.4	1.1	100.0
3年	度数	1564	1472	444	174	16	3670
	%	42.6	40.1	12.1	4.7	0.4	100.0
4年	度数	498	345	135	37	24	1039
	%	47.9	33.2	13.0	3.6	2.3	100.0
その他	度数	11	10	1	0	0	22
	%	50.0	45.5	4.5	0.0	0.0	100.0
合計	度数	6629	7304	2534	790	114	17371
	%	38.2	42.0	14.6	4.5	0.7	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。ただ、3年次では若干ながら、4年次では15%近く「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。「どちらかといえばそう思う」については1年次と4年次の差が10%以上、「そう思う」では4年次と2年次の差が15%以上開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	782	839	319	98	27	2065
	%	37.9	40.6	15.4	4.7	1.3	100.0
女性	度数	5385	6178	2129	643	79	14414
	%	37.4	42.9	14.8	4.5	0.5	100.0
合計	度数	6167	7017	2448	741	106	16479
	%	37.4	42.6	14.9	4.5	0.6	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」42.6%が最も多く、次いで「そう思う」37.4%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は女性の割合が、「そう思う」では男性の割合が若干高くなっている。

## 21. 私はこの授業中、他人の居眠り、私語、メールなどが気になった

所属		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	279	1042	1655	2580	156	5712
	%	4.9	18.2	29.0	45.2	2.7	100.0
社会福祉学科	度数	209	614	1040	1934	99	3896
	%	5.4	15.8	26.7	49.6	2.5	100.0
公共社会学科	度数	72	265	434	598	22	1391
	%	5.2	19.1	31.2	43.0	1.6	100.0
人間形成学科	度数	195	472	1116	2597	105	4485
	%	4.3	10.5	24.9	57.9	2.3	100.0
社会学科	度数	85	227	463	1015	45	1835
	%	4.6	12.4	25.2	55.3	2.5	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	1	5	1	3	1	11
	%	9.1	45.5	9.1	27.3	9.1	100.0
合計	度数	841	2625	4709	8727	428	17330
	%	4.9	15.1	27.2	50.4	2.5	100.0

学科別にみた場合、全体的には「そう思わない」50.4%、「どちらかといえばそう思わない」27.2%の順となっている。「そう思わない」では人間形成学科と公共社会学科の差が15%近く、「どちらかといえばそう思わない」については公共社会学科と人間形成学科の差が5%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	435	1193	2125	3220	159	7132
	%	6.1	16.7	29.8	45.1	2.2	100.0
2年	度数	202	868	1506	2804	124	5504
	%	3.7	15.8	27.4	50.9	2.3	100.0
3年	度数	156	459	896	2080	77	3668
	%	4.3	12.5	24.4	56.7	2.1	100.0
4年	度数	51	116	203	602	65	1037
	%	4.9	11.2	19.6	58.1	6.3	100.0
その他	度数	8	6	3	4	1	22
	%	36.4	27.3	13.6	18.2	4.5	100.0
合計	度数	852	2642	4733	8710	426	17363
	%	4.9	15.2	27.3	50.2	2.5	100.0

全体的な傾向として「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。「そう思わない」については4年次と1年次の差が15%近く、「どちらかといえばそう思わない」では1年次と4年次の差が10%以上開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	153	321	608	919	66	2067
	%	7.4	15.5	29.4	44.5	3.2	100.0
女性	度数	643	2202	3960	7268	331	14404
	%	4.5	15.3	27.5	50.5	2.3	100.0
合計	度数	796	2523	4568	8187	397	16471
	%	4.8	15.3	27.7	49.7	2.4	100.0

性別で見た場合、全体的には「そう思わない」49.7%が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」27.7%の順になっている。「そう思わない」は女性の割合が5%以上、「どちらかといえばそう思わない」では男性の割合が若干高くなっている。

## 22. 私は授業時間外に、この授業に関する学習や練習に取り組んだ

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1542	2797	941	353	67	5700
	%	27.1	49.1	16.5	6.2	1.2	100.0
社会福祉学科	度数	718	1593	951	535	91	3888
	%	18.5	41.0	24.5	13.8	2.3	100.0
公共社会学科	度数	211	585	439	135	14	1384
	%	15.2	42.3	31.7	9.8	1.0	100.0
人間形成学科	度数	1057	1494	1106	630	189	4476
	%	23.6	33.4	24.7	14.1	4.2	100.0
社会学科	度数	332	606	421	385	85	1829
	%	18.2	33.1	23.0	21.0	4.6	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	3	6	1	1	0	11
	%	27.3	54.5	9.1	9.1	0.0	100.0
合計	度数	3863	7081	3859	2039	446	17288
	%	22.3	41.0	22.3	11.8	2.6	100.0

学科別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」41.0%、「そう思う」「どちらかといえばそう思わない」22.3%の順となっている。詳細に見ると、看護学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、他の学科では「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。「そう思う」では看護学科と公共社会学科の差が10%以上、「どちらかといえばそう思う」については看護学科と社会学科の差が15%以上、「どちらかといえばそう思わない」は公共社会学科と看護学科の差が15%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1537	3030	1692	752	85	7096
	%	21.7	42.7	23.8	10.6	1.2	100.0
2年	度数	1058	2233	1209	761	237	5498
	%	19.2	40.6	22.0	13.8	4.3	100.0
3年	度数	921	1463	790	405	86	3665
	%	25.1	39.9	21.6	11.1	2.3	100.0
4年	度数	333	352	190	126	39	1040
	%	32.0	33.8	18.3	12.1	3.8	100.0
その他	度数	8	11	1	2	0	22
	%	36.4	50.0	4.5	9.1	0.0	100.0
合計	度数	3857	7089	3882	2046	447	17321
	%	22.3	40.9	22.4	11.8	2.6	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。ただ、3年次と4年次では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。「そう思う」については4年次と2年次の差が10%以上、「どちらかといえばそう思う」は1年次と4年

次の差が 10%近く、「どちらかといえばそう思わない」では1年次と4年次の差が5%以上開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	456	819	530	203	54	2062
	%	22.1	39.7	25.7	9.8	2.6	100.0
女性	度数	3081	5939	3230	1743	375	14368
	%	21.4	41.3	22.5	12.1	2.6	100.0
合計	度数	3537	6758	3760	1946	429	16430
	%	21.5	41.1	22.9	11.8	2.6	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」41.1%が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」22.9%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は女性の割合が、「どちらかといえばそう思わない」では男性の割合がそれぞれ若干高くなっている。

### 23. 私はこの授業の学習の到達目標を達成できた

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1089	3554	876	118	79	5716
	%	19.1	62.2	15.3	2.1	1.4	100.0
社会福祉学科	度数	585	2052	838	183	246	3904
	%	15.0	52.6	21.5	4.7	6.3	100.0
公共社会学科	度数	183	802	333	51	23	1392
	%	13.1	57.6	23.9	3.7	1.7	100.0
人間形成学科	度数	878	2230	826	130	422	4486
	%	19.6	49.7	18.4	2.9	9.4	100.0
社会学科	度数	261	851	426	128	171	1837
	%	14.2	46.3	23.2	7.0	9.3	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	1	8	2	0	0	11
	%	9.1	72.7	18.2	0.0	0.0	100.0
合計	度数	2997	9497	3301	610	941	17346
	%	17.3	54.8	19.0	3.5	5.4	100.0

学科別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」54.8%、「どちらかといえばそう思わない」19.0%の順となっている。詳細に見ると、看護学科と人間形成学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、他の学科では「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。「そう思う」では看護学科と公共社会学科の差が5%以上、「どちらかといえばそう思う」については看護学科と社会学科の差が15%以上、「どちらかといえばそう思わない」は公共社会学科と看護学科の差が8%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1327	3956	1391	206	249	7129
	%	18.6	55.5	19.5	2.9	3.5	100.0
2年	度数	872	2926	1065	224	430	5517
	%	15.8	53.0	19.3	4.1	7.8	100.0
3年	度数	563	2043	713	152	201	3672
	%	15.3	55.6	19.4	4.1	5.5	100.0
4年	度数	236	567	145	31	60	1039
	%	22.7	54.6	14.0	3.0	5.8	100.0
その他	度数	9	7	6	0	0	22
	%	40.9	31.8	27.3	0.0	0.0	100.0
合計	度数	3007	9499	3320	613	940	17379
	%	17.3	54.7	19.1	3.5	5.4	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の順になっている。ただ、4年次では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。「そう思う」については4年次と3年次の差が7%以上、「どちらかといえばそう思わない」では1年次と4年次の差が5%以上開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	414	1038	435	80	102	2069
	%	20.0	50.2	21.0	3.9	4.9	100.0
女性	度数	2428	7910	2764	508	810	14420
	%	16.8	54.9	19.2	3.5	5.6	100.0
合計	度数	2842	8948	3199	588	912	16489
	%	17.2	54.3	19.4	3.6	5.5	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」54.3%が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」19.4%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は女性の割合が、「どちらかといえばそう思わない」では男性の割合がそれぞれ若干高くなっている。



## 24. 私はこの実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった（実習・演習項目）

所属		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
看護学科	度数	1402	2940	555	103	561	5561
	%	25.2	52.9	10.0	1.9	10.1	100.0
社会福祉学科	度数	637	1493	387	113	1195	3825
	%	16.7	39.0	10.1	3.0	31.2	100.0
公共社会学科	度数	168	487	180	36	483	1354
	%	12.4	36.0	13.3	2.7	35.7	100.0
人間形成学科	度数	886	1173	269	65	1801	4194
	%	21.1	28.0	6.4	1.5	42.9	100.0
社会学科	度数	299	615	208	98	569	1789
	%	16.7	34.4	11.6	5.5	31.8	100.0
研究生・聴講生・ 科目等履修生	度数	3	5	0	0	3	11
	%	27.3	45.5	0.0	0.0	27.3	100.0
合計	度数	3395	6713	1599	415	4612	16734
	%	20.3	40.1	9.6	2.5	27.6	100.0

学科別にみた場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」40.1%、「回答できない、あてはまらない」27.6%の順となっている。詳細に見ると、看護学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、人間形成学科では「回答できない、あてはまらない」「どちらかといえばそう思う」、他の学科では「どちらかといえばそう思う」「回答できない、あてはまらない」の順になっている。「そう思う」では看護学科と公共社会学科の差が10%以上、「どちらかといえばそう思う」については看護学科と人間形成学科の差が25%近く、「回答できない、あてはまらない」は人間形成学科と看護学科の差が30%以上開いている。

学年		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
1年	度数	1322	2801	671	135	1978	6907
	%	19.1	40.6	9.7	2.0	28.6	100.0
2年	度数	942	1937	473	154	1860	5366
	%	17.6	36.1	8.8	2.9	34.7	100.0
3年	度数	787	1591	390	105	640	3513
	%	22.4	45.3	11.1	3.0	18.2	100.0
4年	度数	338	376	77	18	154	963
	%	35.1	39.0	8.0	1.9	16.0	100.0
その他	度数	12	7	2	0	1	22
	%	54.5	31.8	9.1	0.0	4.5	100.0
合計	度数	3401	6712	1613	412	4633	16771
	%	20.3	40.0	9.6	2.5	27.6	100.0

全体的な傾向として「どちらかといえばそう思う」「回答できない、あてはまらない」の順になっている。ただ、3年次と4年次では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」の順になっている。「そう思う」については4年次と2年次の差が15%以上、「どちらかといえばそう思う」では3年次と2年次の差が10%近く、「回答できない、あてはまらない」は2年次と4年次の差が20%近く開いている。

性別		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	回答できない あてはまらない	合計
男性	度数	423	778	216	51	455	1923
	%	22.0	40.5	11.2	2.7	23.7	100.0
女性	度数	2719	5517	1322	340	4086	13984
	%	19.4	39.5	9.5	2.4	29.2	100.0
合計	度数	3142	6295	1538	391	4541	15907
	%	19.8	39.6	9.7	2.5	28.5	100.0

性別で見た場合、全体的には「どちらかといえばそう思う」39.6%が最も多く、次いで「回答できない、あてはまらない」28.5%の順になっている。「どちらかといえばそう思う」は男性の割合が、「回答できない、あてはまらない」では5%以上女性の割合が高くなっている。

## V 考 察

今年度は授業評価アンケートの質問項目を大幅に修正したため、前年度との比較は出来ないが、今年度の調査結果と属性別による分析結果を考察した。

### 全体

- ・教員の話し方は聞き取りやすかったか」の質問に、85.7%の学生が「そう思う」と答えており、学生が聞き取りやすいと感じる授業が大部分であることがうかがえる。ただし、聞き取りにくかったという回答も、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせて13.8%あることに注意が必要である。
- ・授業における教員の指示や説明を、わかりやすいと評価する回答が8割以上を占めている。ただし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると17.8%あり、まだ改善の余地があることがわかる。
- ・授業が適切な早さですすめられたと評価する回答が大多数を占めている。ただし、適切な早さではなかったという回答も14.3%あり、この点についても改善の余地があることがわかる。
- ・「板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った」の項目は役立ったとの回答が9割近くに達しており、概ね授業の教材は学習に役立っているものと考えられる。
- ・「教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった（実技・実習・演習項目）」「教員の指導やアドバイスの内容は役立った（実技、実習・演習項目）」の項目では「回答できないあてはまらない」という回答が約3割あることに注意が必要である。学生にとっては回答しにくい質問だった可能性がある。
- ・「この授業は、質問や意見を述べやすかった」の項目は、「そう思わない」学生が25.4%あり、否定的な評価をする回答が他項目より多い。
- ・ほとんどの授業が予定された時間内で行われているものと考えられる。
- ・ほとんどの学生が、授業を受けて知識やスキルが増えたと感じている。
- ・「私は授業を受けるにあたって、シラバス・授業科目概要を活用した」項目に、「そう思う」と答えたのは55.9%にとどまり、「そう思わない」者は34.6%であった。シラバス等の活用が十分にされていないことがうかがえる。
- ・授業時間外にも当該授業に関する学習や練習に取り組んでいるという回答は6割を超えている。しかし、「そう思わない」者も33.9%あり、授業時間外での学習や練習は必ずしも十分とは言えないようである。
- ・「私は、この実習・演習で、講義で学んだ知識と実践の関連がよくわかった（実習・演習項目）」の項目は、回答が難しいと感じた学生も多かった。

### 学科間の比較

- ・「この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった」に関して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者が看護学科では90.6%であったのに対し、社会福祉学科では60.8%であった。
- ・「授業中の教員の話し方の聞き取りやすさ」について、学科別にみると、看護学科と公共社会学科では「どちらかといえばそう思う」が、社会福祉学科、人間形成学科、社会学科では「そう思う」が高い割合を占めている。
- ・「板書、スライド、教科書、資料など、授業で示されたものは学習に役立った」の項目に関しては、「そう思う」の割合が最も少なかったのは公共社会学科であった。
- ・「教員の指導やアドバイスのタイミングはよかった（実技、実習・演習項目）」の項目に関して

は、看護学科では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」、社会福祉学科・公共社会学科・人間形成学科・社会学科では「回答できない、あてはまらない」「どちらかといえばそう思う」が上位を占めており、学科の授業形態の特色が反映された回答になったのではないと思われる。

- ・「授業中に行う課題やグループ学習は授業の理解に役立った」と言う項目に関して、看護学部では「どちらかといえばそう思う」「そう思う」と答えたものが8割を超えた。
- ・この授業は、予定された時間内（開始時刻と終了時刻）で行われていた」に関しては、社会福祉学科の59.7%に対し公共社会学科が43.0%というように15%以上の差異があった。
- ・この授業は、学生の理解度や習熟度を確認しながら行われていた」の項目に関し、人間形成学科が公共社会学科より10%近く多かった。
- ・「私はこの授業に熱心に取り組んだ」の項目において、「そう思う」者は公共社会学科のより看護学部約15%多かった

#### 学年間の比較

- ・「この授業は、シラバス・授業科目概要や、授業でのオリエンテーションと一致する内容だった」の項目に関して、「そう思う」と回答した者が4年生では41.6%と最も多かったのに対し、2年生では24.9%であった
- ・シラバス・授業科目概要や、最初の授業で成績評価方法は明示されていたに関して、「そう思う」と答えたものは4年生が最も多かった。
- ・「教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった」の項目に関して、他の学年に比べて4年次においては、15%近く「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を上回っている。
- ・「この授業を受けて前よりも知識やスキルが増えた」学生は、4年生では6割を超えた。
- ・「私はこの授業の学習目標をわかったうえで授業を受けた」と思っているものは、4年生に多く、2年生に少ない。
- ・「私はこの授業中に、授業に関係のないことはしなかった」者は4年生に多かった。

#### 男女間の比較

- ・「教員の指示や、授業での説明のしかたは分かりやすかった」の項目に関して、男性では「そう思う」の割合が「どちらかといえばそう思う」を若干上回っているのに対し、女性では「どちらかといえばそう思う」が「そう思う」を5%以上上回っている。
- ・ほとんどの項目に関して差はなかった。